

「人間たれ」 岩崎 恭典	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEF1001	前学期	必修

授業のねらい
 本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。

到達目標
 1. 本学の建学の精神を理解する。
 2. 満30周年を迎えた本学の歴史を、平成という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。
 3. 地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 出席することを基本として、時折実施する小テスト（50%）、定期試験（50%）の成績により評価する。
 なお、講義のフィードバックは、「大福帳」を通じて行う。

事前・事後学習
 大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。

入門演習 I 田中・大八木・廣住・前川・吉山	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEF1002	前学期	必修

授業のねらい
 学生生活を進める上で必要な、以下のスチューデントスキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい基礎的な知識・技能など）を学びます。
 1. 授業を受ける上で必要なスキル
 2. 人間関係の基礎を作るスキル
 3. 大学での学修を助けてくれる施設を知ること
 4. 自分が所属する学部のことを知ること

到達目標
 大学生として必要なスチューデントスキルを知り、実践してみること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 定期試験は行ないません。
 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。
 課題は必ず個別指導します。

事前・事後学習
 新聞の第一面を読む（1日20分）
 授業内容の資料を事前に読んでくる（10分）
 ノートと使用したプリントなどを読む（30分）

授業の位置づけ
 「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

授業計画
 第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。
 第1講 ガイダンス 成長スケールの記入
 第2講 大学生活を充実させるボランティア活動
 第3講 地震・風水害に備える、そして、被災地を支援すること
 第4講 本学の建学の精神について
 第5講 暁学園・四日市大学の歴史 昭和時代の暁学園
 第6講 暁学園・四日市大学の歴史 平成時代の四日市大学
 第7講 本学の建学の精神と君たちの将来 人口減少社会
 第8講 本学の建学の精神と君たちの将来 シングularity、Society5.0
 第9講 日本の財政状況と税金、家計、金融知識（財務省津財務事務所）
 第10講 人口減少社会を生きる力
 第11講 SDGsとGAFAs
 第12講 目指すべき職業人とは ジョブキャラバン 大学1年生で何をなすべきか
 第13講 人生の先輩に聴く① 社会人学生OBが語る
 第14講 人生の先輩に聴く② 就職活動を終えて
 第15講 夏休みを前に 産婦人科医は語る
 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
 できるだけレジメと資料を配布する。

担当者から一言
 私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作っていきましょう。

授業の位置づけ
 「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、将来、地域社会やその持続的発展のために貢献できる人材となるために、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得を、主として人生の先輩の話をお聴きすることから身につけることをめざします。

授業計画
 第1講 ガイダンス
 第2講 授業の受け方、ノートの取り方
 第3講 授業を受ける、ノートを取る
 第4講 シラバスを読み、自分の履修登録を点検する
 第5講 4年間の学修計画を考えてみる
 第6講 自分を知るためのプレゼンテーションの準備
 第7講 自分と他者を知るためのプレゼンテーションの実践
 第8講 学修を助けてくれる施設を知る
 第9講 学修を助けてくれる資料を知る
 第10講 皆さんに期待するマナーとルール
 第11講 学部企画①
 第12講 学部企画②
 第13講 学部企画③
 第14講 学部企画④
 第15講 学部企画⑤
 ※講義の順番については、入れ替わる場合があります。

テキスト・教材（参考文献含む）
 担当者が適宜指示する。ノートは必ず用意してください。

担当者から一言
 大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行ないません。毎回必ず出席してください。

入門演習Ⅱ 田中・大八木・廣住・前川・吉山	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEF1003	後学期	必修

授業のねらい
 大学で学んでいくために必要な、以下のスタディースキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい学修技法など）を学びます。
 1. 目標・目的を決め、情報を収集し、調べるスキル
 2. 情報を整理し、資料を読みこなすスキル
 3. 資料を発表し、議論するスキル

到達目標
 大学生としての学修・研究活動へと進むために必要なスタディースキルを獲得し、学修スタイルを確立すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 定期試験は行ないません。
 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。
 課題は必ず個別指導します。

事前・事後学習
 新聞の第一面を読む(1日20分)
 授業内容の資料を事前に読んでくる(10分)
 ノートと使用したプリントなどを読む(30分)

基礎英語Ⅰ フェリパフェハーリ・柴田啓文	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEL1001	前学期	選択必修

授業のねらい
 この授業は皆さんが英語への関心を高め、それぞれの英語力に応じて「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能をスキルアップすることを目的としています。複数のクラスがありますが、クラスは指定されています。それぞれのクラスの授業内容は、各担当者から第1回ガイダンスで説明されます。

到達目標
 英語への関心とモチベーションを高めながら、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能の基本的スキルを養成します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、小テスト等）50%、期末試験50%で総合的に判断します。なお、小テストを実施した場合は添削して翌週返却します。

事前・事後学習
 各授業で取り上げる内容について、わからない単語や文章の意味を事前に調べることに90分、学習した箇所の復習（テキストのおさらい／ノート整理等）に90分を、それぞれかけて準備学習をしてください。

授業の位置づけ
 「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、将来、地域社会やその持続的発展のために貢献できる人材となるために、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得を、主として人生の先輩の話を聴くことから身につけることをめざします。

授業計画
 第1講 ガイダンス
 第2講 テーマを決める
 第3講 調べる①
 第4講 調べる②
 第5講 読む①
 第6講 読む②
 第7講 まとめる①
 第8講 まとめる②
 第9講 まとめる③
 第10講 発表する①
 第11講 発表する②
 第12講 話し合う①
 第13講 話し合う②
 第14講 話し合う③
 第15講 基礎演習について
 ※ 講義の順番については、入れ替わる場合があります。
 第12・13・14講でディスカッションを行います。

テキスト・教材（参考文献含む）
 担当者が適宜指示する。ノートは必ず用意してください。

担当者から一言
 「入門演習Ⅰ」に引き続き、大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行います。毎回必ず出席してください。

授業の位置づけ
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1回 ガイダンス:授業の進め方、評価方法などの説明。
 第2回 クラスごとの内容
 第3回 クラスごとの内容
 第4回 クラスごとの内容
 第5回 クラスごとの内容
 第6回 クラスごとの内容
 第7回 クラスごとの内容
 第8回 クラスごとの内容
 第9回 クラスごとの内容
 第10回 クラスごとの内容
 第11回 クラスごとの内容
 第12回 クラスごとの内容
 第13回 クラスごとの内容
 第14回 クラスごとの内容
 第15回 まとめ
 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
 クラスによって異なります。第1回ガイダンスで指示されたテキストを必ず購入してください。なお、テキストを一定期間内に購入していない場合は、授業に参加しても欠席扱いになる場合があります。

担当者から一言
 英語学習そのものを通してより広い視野から現代社会を見る力を身に付けられるように、また英語を習得することで専攻する領域における幅や深みが増すように、積極的な授業参加を期待します。

基礎英語Ⅱ	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEL1002	後学期	選択必修

授業のねらい
この授業は皆さんが英語への関心を高め、それぞれの英語力に応じて「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能をスキルアップすることを目的としています。複数のクラスがありますが、クラスは指定されています。それぞれのクラスの授業内容は、各担当者から第1回ガイダンスで説明されます。

到達目標
英語への関心とモチベーションを高めながら、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能の基本的スキルを養成します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、小テスト等）50%、期末試験50%で総合的に判断します。なお、小テストを実施した場合は添削して翌週返却します。

事前・事後学習
各授業で取り上げる内容について、わからない単語や文章の意味を事前に調べることに90分、学習した箇所の復習（テキストのおさらい／ノート整理等）に90分を、それぞれかけて準備学習をしてください。

基礎日本語Ⅰ	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEL9001	前学期	選択必修

授業のねらい
言語の四技能－読む、書く、聞く、話す－を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。

到達目標
この授業では大学の授業に必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。（※日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる）

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。

事前・事後学習
N1向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分）
毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分）
事前に授業内容を調べ学習しておくこと（90分）
授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1回 ガイダンス:授業の進め方、評価方法などの説明。
第2回 クラスごとの内容
第3回 クラスごとの内容
第4回 クラスごとの内容
第5回 クラスごとの内容
第6回 クラスごとの内容
第7回 クラスごとの内容
第8回 クラスごとの内容
第9回 クラスごとの内容
第10回 クラスごとの内容
第11回 クラスごとの内容
第12回 クラスごとの内容
第13回 クラスごとの内容
第14回 クラスごとの内容
第15回 まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
クラスによって異なります。第1回ガイダンスで指示されたテキストを必ず購入してください。なお、テキストを一定期間内に購入していない場合は、授業に参加しても欠席扱いになる場合があります。

担当者から一言
英語学習そのものを通してより広い視野から現代社会を見る力を身につけられるように、また英語を習得することで専攻する領域における幅や深みが増すように、積極的な授業参加を期待します。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
レポート作成の基礎① 読解① 語彙①
第2講 レポート作成の基礎② 読解② 語彙②
第3講 レポート作成の基礎③ 読解③ 語彙③
第4講 レポート作成の基礎④ 読解④ 語彙④
第5講 レポート作成の基礎⑤ 読解⑤ 語彙⑤
第6講 レポート作成の応用① 読解⑥ 語彙⑥
第7講 レポート作成の応用② 読解⑦ 語彙⑦
第8講 レポート作成の応用③ 読解⑧ 語彙⑧
第9講 レポート作成の応用④ 読解⑨ 語彙⑨
第10講 レポート作成の応用⑤ 読解⑩ 語彙⑩
第11講 レポート作成の応用⑥ 読解⑪ 語彙⑪
第12講 レポート作成の応用⑦ 読解⑫ 語彙⑫
第13講 レポート作成の応用⑧ 読解⑬ 語彙⑬
第14講 レポート作成の応用⑨ 読解⑭ 語彙⑭
第15講 レポート作成の応用⑩ 読解⑮ 語彙⑮
定期試験
※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。
日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習します。

テキスト・教材（参考文献含む）
『日本語学習者のための読解厳選テーマ10〔中上(中)級〕』凡人社 清水正幸 ほか著
『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 語彙 スピードマスター』リサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言
日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から積極的に日本語を話し、読み、書くことに心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。

基礎日本語Ⅱ 加納・伊藤晴・角田・安田	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEL9002	後学期	選択必修

授業のねらい
言語の四技能－読む、書く、聞く、話す－を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。

到達目標
この授業では大学の授業に必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、積極的に授業に参加するために必要となる日本語力を身につけることを、到達目標とします。(※日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業での積極性やレポート、小テスト(採点、添削後授業時に返却します)50%、期末試験50%。

事前・事後学習
N1向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。(30分)
毎日、継続的に新聞を読むこと。(30分)
事前に授業内容を調べ予習しておくこと(90分)
授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと(90分)

英語コミュニケーションⅠ エリック・ブレイ	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1003	前学期	選択

授業のねらい
このクラスの目標は、英語で日常生活についてコミュニケーションできる基礎能力を得る事にある。授業では主にlisteningとspeaking練習を行う。speaking練習は、1)発音練習と、2)クラスメートとの日常生活についての会話練習から成る。ここで大事なことは、不完全な英語(ブローケンイングリッシュ)で話すことを恥ずかしがらないで、ともかく英語で話そうとする積極的な姿勢である。ほぼ毎回宿題を課す。学期末にはクラスメートに手紙を書いてもらう予定である。

到達目標
このクラスで学んだことは、将来仕事で英語を使う時や、外国の人達と接する時に大いに役立つだろう。日常生活について英語でコミュニケーション出来るようになり、英語圏文化の理解も深まる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%), as well as the quality of their written work (40%) and a Final test (20%). Feedback will be given on a regular basis.

事前・事後学習
Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes)

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
レポート作成の応用① 読解① 語彙①
第2講 レポート作成の応用② 読解② 語彙②
第3講 レポート作成の応用③ 読解③ 語彙③
第4講 レポート作成の応用④ 読解④ 語彙④
第5講 レポート作成の応用⑤ 読解⑤ 語彙⑤
第6講 レポート作成の応用⑥ 読解⑥ 語彙⑥
第7講 レポート作成の応用⑦ 読解⑦ 語彙⑦
第8講 レポート作成の応用⑧ 読解⑧ 語彙⑧
第9講 レポート作成の応用⑨ 読解⑨ 語彙⑨
第10講 レポート作成の応用⑩ 読解⑩ 語彙⑩
第11講 レポート作成の応用⑪ 読解⑪ 語彙⑪
第12講 レポート作成の応用⑫ 読解⑫ 語彙⑫
第13講 レポート作成の応用⑬ 読解⑬ 語彙⑬
第14講 レポート作成の応用⑭ 読解⑭ 語彙⑭
第15講 レポート作成の応用⑮ 読解⑮ 語彙⑮
定期試験
※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材(参考文献含む)
『日本語学習者のための読解厳選テーマ10[中上(中)級]』凡人社 清水正幸 ほか著
『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言
日本語学校やアルバイト先での日本語と大学に必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から積極的に日本語を話し、読み、書くことに心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけてください。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
1 Class Introduction/Guidance
2 Meeting People 1
3 Meeting People 2
4 Talking about Classes 1
5 Talking about Classes 2
6 Talking about Daily Life 1
7 Talking about Daily Life 2
8 Talking about Personality 1
9 Talking about Personality 2
10 Talking about Appearance 1
11 Talking about Appearance 2
12 Talking about Last Weekend 1
13 Talking about Last Weekend 2
14 Talking about Vacation Plans
15 Review and Reflection
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
Textbook: New Time to Communicate
Publisher: Nan'un-do Publishing

担当者から一言
この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

英語コミュニケーションⅠ ゴードン・リース	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1003	前学期	選択

授業のねらい
The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The text that will be utilized provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary. この講座の狙いは学生の英語の基本的な技能であるリスニングとスピーキングを向上させること。コミュニケーションを図るためゲームや、ロールプレー等を中心に使って、授業を進める。

- 到達目標**
1. 英語の聴解力と話す力を高める。
 2. 英語の語彙を増やす。
 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度	15%
単語ブック・小テスト	20%
スピーキングテスト・スキット(4)	40%
定期試験	25%

- 事前・事後学習**
1. 講座が始まる前に基礎英語Ⅰ and Ⅱ のテキストを復習する。
 2. プリントを配布しますので、ファイル(A4)を用意する。
 3. After each class spend 90 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 90 minutes reading ahead in the text and preparing for the following class.

英語コミュニケーションⅡ エリック・ブレイ	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1004	後学期	選択

授業のねらい
このクラスの目標は、英語で日常生活についてコミュニケーションできる基礎能力を得る事にある。授業では主にlisteningとspeaking練習を行う。speaking練習は、1)発音練習と、2)クラスメートとの日常生活についての会話練習から成る。ここで大事なことは、不完全な英語(ブローケンイングリッシュ)で話すことを恥ずかしがらないで、とにかく英語で話そうとする積極的な姿勢である。ほぼ毎回宿題を課す。学期末にはクラスメートに手紙を書いてもらう予定である。

到達目標
このクラスで学んだことは、将来仕事で英語を使う時や、外国の人達と接する時に大いに役立つだろう。日常生活について英語でコミュニケーション出来るようになり、英語圏文化の理解も深まる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%), as well as the quality of their written work (40%) and a final test (20%). Feedback will be given on a regular basis.

事前・事後学習
Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes)

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

- 授業計画**
1. Guidance, Greetings and Introductions
 2. Greetings and Introductions
 3. Greetings and Introductions- Introduction English Speaking Test 1- Round 1
 4. Greetings and Introductions- Introduction English Speaking Test 1- Round 2
 5. Good morning World- A New Host
 6. Good Morning World- A New Host- スキット 1
 7. Self-introduction
 8. Self-introduction
 9. Self-introduction- Speaking Test 2
 10. Countries and Nationalities
 11. Countries and Nationalities
 12. Countries and Nationalities
 13. Activities and Interests- Meet Kim-
 14. Activities and Interests- Meet Kim- スキット 2
 15. Review and test preparation
 16. 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
World Link Combo Split Intro A with Online Workbook- Student Book -Third Edition
Susan Stempleski
Cengage Learning (2015)
2,650 yen

担当者から一言
皆さんと楽しく授業をしたいです。以下のルールを守って下さい。
1. テキストとプリントを整理するためのファイルを授業に持って来ない学生は欠席扱いになる。
2. 英和辞典は必携。
3. 5回以上欠席すると単位がもらえない。
履修者が22名を超えた場合は抽選となります。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

- 授業計画**
- 1 - Class Introduction/Guidance
 - 2 - Talking about the vacation 1
 - 3 - Talking about the vacation 2
 - 4 - Talking about Weekend plans 1
 - 5 - Talking about Weekend plans 2
 - 6 - Talking about Food and Recipes 1
 - 7 - Talking about Food and Recipes 2
 - 8 - Talking about Travel 1
 - 9 - Talking about Travel 2
 - 10 - Talking about Hometowns 1
 - 11 - Talking about Hometowns 2
 - 12 - Talking about Opinions 1
 - 13 - Talking about Opinions 2
 - 14 - Talking about The Future
 - 15 - Review and Reflection
- 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
Textbook: New Time to Communicate
Publisher: Nan'un-do Publishing

担当者から一言
この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

英語コミュニケーションⅡ ゴードン・リース	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1004	後学期	選択

授業のねらい
This course is a continuation of 英語コミュニケーションⅠ. The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The textbook for this course utilizes DVD video. The text follows four young people living in Los Angeles.画面上の人物とのスピーキング練習やスライドショー形式のL.A.案内など、映像教材ならではのアクティビティも充実。メインの会話の他にも、文法、リーディング、ライティングなど、バランスのとれた定評のある構成で英語の基礎を固めます。

- 到達目標**
1. 英語の聴解力と話す力を高める。
 2. 英語の語彙を増やす。
 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度	15%
単語ブック・小テスト	20%
スピーキングテスト・スキット(4)	40%
定期試験	25%

- 事前・事後学習**
1. 講座が始まる前に基礎英語Ⅰ and Ⅱ のテキストを復習する。
 2. プリントを配布しますので、ファイル(A4)を用意する。
 3. After each class spend 90 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 90 minutes reading ahead in the text and preparing for the following class.

中国語Ⅰ / 基礎中国語Ⅰ 加納 光	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1005	前学期	選択

授業のねらい
この授業では、「音声」「語彙」「文法」「表現」の各分野における基礎学習を通して、中国語の基礎的な運用能力を養成します。学期の前半は、主に「音声面」に重点を置き、声調(高低アクセント)と400余りの音節を正しく発音できるようにします。それを踏まえ、学期の後半から中国語の初級レベルの「語彙」「文法」「表現」を学習します。言語事情のほか、中国の社会や文化に関する解説も行い、中国および中国語に対する理解を深めることが、この授業のねらいです。なお、中国語母語話者の受講はできません。

到達目標
この授業では、言語活動の中心をなす「話す」「聴く」「読む」の三要素の反復練習に多くの時間を費やしなが、中国語の基礎をしっかりと身につけていきます。簡単な日常会話を話すことのできる初級レベルの語学力の習得を、この授業の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

①定期試験60% ②小テスト20% ③課題、宿題(評価した後返却します)20%により総合的に評価します。

事前・事後学習
毎回与えられる復習(90分)、予習(90分)のための課題や宿題を欠かさずに行い、中国語の基礎を着実に固めていってください。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

- 授業計画**
1. Guidance/ Talking about the past/ "How was your vacation?"
 2. "How was your vacation?"/ Welcome to L.A. be動詞
 3. "How was your vacation?"/ Speaking Test #1/ I Love Fruit! 可算名詞/不可算名詞
 4. Campus Life 一般動詞(現在時制)
 5. Lunchtime 代名詞
 6. First Date 一般動詞(過去時制)
 7. Where's Linda? 進行形
 8. Andy's News/ will be going to/ スキット
 9. Shopping in Santa Monica 助動詞
 10. Moving Day 前置詞
 11. A Beautiful View 現在完了
 12. Sunday Fun 比較/ スキット
 13. Seeing Stars WH疑問文
 14. Buying Food for a BBQ 動名詞/不定詞
 15. Putting on a New Face 接続詞
 16. 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
We Love L.A!
L.A.イングリッシュ・ライフ
Robert Hickling / 白倉美里 著
Kinseido
2,700 yen

担当者から一言
皆さんと楽しく授業をしたいです。以下のルールを守って下さい。
1. テキストとプリントを整理するためのファイルを授業に持って来ない学生は欠席扱いになる。
2. 英和辞典は必携。
3. 5回以上欠席すると単位がもらえない。
履修者が22名を超えた場合は抽選となります。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

- 授業計画**
- | | |
|------|-------------------------|
| 第1講 | ガイダンス、授業の概要、中国語概要1 |
| 第2講 | 中国語概要2、中国概況1 |
| 第3講 | 声調(4)と単母音(7)の発音、概況2 |
| 第4講 | 複合母音(13)の発音、概況3 |
| 第5講 | 鼻母音(16)の発音、概況4 |
| 第6講 | 子音(21)の発音、概況5 |
| 第7講 | 発音、表記上の規則、概況6 |
| 第8講 | 発音のまとめ、小テスト、概況7 |
| 第9講 | どうぞよろしく(point 1~4)、概況8 |
| 第10講 | お名前は(point 1~4)、概況9 |
| 第11講 | ご出身は(point 1~4)、概況10 |
| 第12講 | 飲み物は(point 1~4)、概況11 |
| 第13講 | おいくつ(point 1~4)、概況12 |
| 第14講 | 和食はいかが?(point 1~4)、概況13 |
| 第15講 | 復習、概況14 |
- 定期試験
- 注 授業内容、進度については、状況に応じて変更することもあります。毎回の発音・表現練習には積極的にチャレンジしてください。

テキスト・教材(参考文献含む)

- 1)教材:相原茂他『日中いぶこみ交差点(エッセンシャル版)』(朝日出版社)2,400円+税
- 2)参考書:『WHY?に答えるはじめての中国語の文法書』(相原茂)
- 3)辞書:『簡約現代中国語辞典』(光生館)

担当者から一言
初めて学ぶ外国語です。旺盛な知的好奇心を持って授業に臨んでください。予習。復習を欠かさないようにしてください。遅刻、授業中の私語、中座、居眠りなどは、原則禁止します。

中国語Ⅰ／基礎中国語Ⅰ 吉山青翔	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1005	前学期	選択

授業のねらい
本講義は中国語をゼロから始める中国語初心者に向け、国連など国際会議で公用語と指定されている中国語の標準語(=普通話)の基本発音・基本文法・基本語彙・基本文型と、中国語日常会話の基本的なスキル、及び中国文化との一体化的な中国語学習を目指します。

到達目標
中国語の門に入り、より中国語を学ぶための基礎を据えることができるでしょうし、そして、国際感覚の養成にも役に立つでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常授業中に行われる書き取りテスト(40点)(採点後返却し、フィードバックします)・会話練習などの出来具合と期末定期試験(60点)の出来具合により総合評価。

事前・事後学習
授業前に90分ほどをかけて予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。そうしなければ、授業についていきません。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 中国語発音1、自己紹介
第3講 中国語発音2、あいさつの表現1
第4講 中国語発音復習、中国語による漢詩鑑賞
第5講 中国語人称代名詞、中国語の語順、会話「私は日本人です」
第6講 中国語「Yes/No式疑問文、「要」の用法1・2、会話「コーヒーがいかがですか」
第7講 中国語「有」の用法、会話「ウーロン茶がありますか」
第8講 中国語「指示代名詞」用法1、「Wh」式疑問文、「在」用法1、会話「タクシー乗り場はどこですか」
第9講 中国語「去」の用法、会話「北京ホテルまでお願い致します」
第10講 中国語動詞過去形、数詞・通貨の表現、会話「いくらですか」
第11講 中国語指示代名詞2、選択式疑問文、会話「千と申します」
第12講 中国語可能表現1「可以」、会話「両替をお願い致します」
第13講 「誰」の敬称表現、「在」の用法2、会話「もしもし、どなたですか」
第14講 中国語指示代名詞3、「的」の用法、会話「こちらは妻です」
第15講 総括

テキスト・教材(参考文献含む)
王青翔(=吉山青翔)・栄隈真人司共著『徹底復習式 きょう忘れてもあした覚える 実用中国語』(東洋書店、2013年)
本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。

担当者から一言
本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。

中国語Ⅱ／基礎中国語Ⅱ 加納 光	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1006	後学期	選択

授業のねらい
この授業は中国語Ⅰを継続するものです。中国語Ⅰと同様、「書く」「聞く」「話す」の反復練習を通して、中国語の基礎学力の習得を目指します。また、引き続き、中国語初級文法の学習を進め、中国語の基礎固めをしていきます。
コミュニケーション能力の向上を目指し、初級語彙および初級文法を取り入れた会話練習に多く時間を割く予定です。中国語に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力に磨きをかけることを、この授業のねらいとします。なお、中国語母語話者の受講はできません。

到達目標
中国語の初級レベルの内容を理解し、それを書いたり、話したりすることができるようになることが、この授業の達成目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
学期末試験60%、小テスト20%、課題、宿題(採点後返却します)20%をもとにして、総合的に評価します。

事前・事後学習
授業の予習、復習、課題、宿題は必ず行ってください(予習90分+復習90分)。
加えて日頃から、中国語を聴いたり、話したりするように心がけてください(毎日30分以上)。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
「中国語Ⅰ」からの継続
第1講:ガイダンス、授業の概要、家庭訪問(1)
第2講:家庭訪問(2)、買い物(1)
第3講:買い物(2)、道案内(1)
第4講:道案内(2)、中秋節(1)
第5講:中秋節(2)、食事の前は(1)
第6講:食事の前は(2)、第1～5講の復習(1)
第7講:第1～5講の復習(2)
第8講:手作り料理(1)
第9講:手作り料理(2)、カニの季節(1)
第10講:カニの季節(2)、スキー場で(1)
第11講:スキー場で(2)、おみやげ(1)
第12講:おみやげ(2)、空港まで(1)
第13講:空港まで(2)、第6～12講の復習(1)
第14講:第6～12講の復習(2)
第15講:総復習とまとめ
定期試験
注 授業内容、進度はクラスの状況に応じて、変更する場合があります。毎回実施する、発音、会話練習には積極的にチャレンジしてください。

テキスト・教材(参考文献含む)
1)教材:『日中いぶこみ交差点 エッセンス版』(朝日出版社、相原茂他)
2)副教材:『中国語の文法書』(同学社)
3)辞書:『中国語辞典』(光生館)
4)参考書:『中国語ははじめの一步』(ちくま新書)

担当者から一言
予習、復習を欠かさないようにして積極的に講義に臨んでください。常に旺盛な勉学意欲を忘れずに、中国、中国語に対する興味、関心を持ち続けていってください。なお、授業中の私語、中座は原則禁止します。

中国語Ⅱ／基礎中国語Ⅱ 吉山青翔	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1006	後学期	選択

授業のねらい
本講義は中国語の入門編ではなく、すでに中国語の入門程度の知識を修得した学習者に向け、前学期で開講した「中国語Ⅰ」に続き、基礎中国語の学習を展開します。

到達目標
前学期の「中国語Ⅰ」と合わせて履修すれば、中国語をより学ぶための文法的な基礎と中国語会話の基本的なスキルを身につけることができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常授業中に行われる書き取りテスト(40)(採点後返却し、フィードバックします。)・会話練習などの出来具合と期末定期試験(60点)の出来具合により総合評価。

事前・事後学習
授業前に90分ほどをかけて予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。そうしなければ、授業についていけません。

ポルトガル語Ⅰ フェリペ・フェハーリ	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1007	前学期	選択

授業のねらい
日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係(日本-ブラジルの交流関係)の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地(約150万の日系ブラジル人がいます)です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。

到達目標
ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。
ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度や小テスト:50%
定期試験:50%

事前・事後学習
毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う(毎週約60分)。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 中国語のあいさつ表現2、会話「ちょっとお出かけします」
第3講 中国語「在」の用法3、「要」の用法3、会話「タクシーを拾う」
第4講 中国語指示代名詞3、反復疑問文、会話「この近くにトイレがありますか」
第5講 中国語「断る」表現、会話「だめです」
第6講 中国語疑問副詞1、会話「王府井へはどう行けばいいですか」
第7講 中国語数量詞1、疑問詞「幾」の用法、会話「餃子がどのように売っていますか」
第8講 中国語数量詞2、会話「値引きしますか」
第9講 中国語疑問詞3、「太」の用法、会話「もう少し安くしてください」
第10講 中国語数量詞3、会話「何になさいますか」
第11講 中国語の年月日・曜日の表現、会話「私はちょっと用事があります」
第12講 中国語辞書の使い方
第13講 中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」1:ユーモア「おばあちゃんの補聴器」
第14講 中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」2:漫画「試験」、「外食しましょう」
第15講 総括

テキスト・教材(参考文献含む)
王青翔(=吉山青翔)・栄隈真人司共著『徹底復習式 きょう忘れてもあした覚える 実用中国語』(東洋書店、2013年)

担当者から一言
本講義では平常授業中にはほぼ毎回書き取りテストを行い、会話など暗記課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 アルファベットと発音
第3講 挨拶と自己紹介
第4講 名詞の性と数
第5講 冠詞と数字
第6講 ser動詞(1)
第7講 ser動詞(2)
第8講 所有表現(1)
第9講 所有表現(2)
第10講 所有表現(3)
第11講 gostar動詞
第12講 規則動詞(1)
第13講 規則動詞(2)
第14講 規則動詞(3)
第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
Vamos falar português! Edição Revisada『ブラジルポルトガル語を話そう!改訂版』
重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari(朝日出版社)
(2,300円+税)ISBN 978-4-255-55505-8

担当者から一言
ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう!

ポルトガル語Ⅱ フェリペ・フェハーリ	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1008	後学期	選択

授業のねらい

本授業は前学期の「ポルトガル語Ⅰ」の続きです。日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したため、日伯関係(日本-ブラジル間の交流関係)の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地(約150万の日系ブラジル人がいます)です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。

到達目標

ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。

ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度や小テスト:50%
定期試験:50%

事前・事後学習

毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う(毎週約60分)。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- 第1講 前期の総合復習
 - 第2講 前置詞
 - 第3講 不規則動詞:ir
 - 第4講 不規則動詞:terとfazer
 - 第5講 不規則動詞:poder
 - 第6講 不規則動詞:querer
 - 第7講 estar動詞
 - 第8講 ser動詞とestar動詞の違い
 - 第9講 現在分詞と現在進行形
 - 第10講 規則動詞の過去形(1)
 - 第11講 規則動詞の過去形(2)
 - 第12講 規則動詞の過去形(3)
 - 第13講 様々な表現(1)
 - 第14講 様々な表現(2)
 - 第15講 まとめ
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

Vamos falar português! Edição Revisada 『ブラジルポルトガル語を話そう!改訂版』
重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari(朝日出版社)
(2,300円+税)ISBN 978-4-255-55505-8

担当者から一言

ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう!

海外語学研修a(英語) / 海外語学研修	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1009	前学期	選択

授業のねらい

夏期や春期休業を利用してフィリピン・セブ島の、大学や語学学校に短期留学することで英語を学び、ホームステイや寮生活を通して現地の社会や文化に直接触れることを目的としています。なお、参加応募状況や現地の社会情勢等によってはやむを得ず変更や中止になる場合もあります。

また1年生も参加可能ですが、単位が認定されるのは2年生以上に限られます。

到達目標

1. 外国語によるコミュニケーション能力を高めます。
2. 外国の文化に直接触れます。
3. 異文化への理解を深めます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

国内での事前研修、現地での語学授業担当者の評価やコメント、引率教員の報告、帰国後のレポート提出等により総合的に評価します。なお、評価は「認定」となります。

事前・事後学習

現地に行く前のすべての事前研修に必ず出席し、研修で学んだことの復習を欠かさず、なおかつ渡航先の地理や文化、社会等の全般についての事前学習に十分な時間をかけてください。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- 海外語学研修参加の流れ
- ①説明会の開催(夏期研修は4月、春期研修は9月)
 - ②参加希望者の面接(研修参加の目的などの確認)
 - ③正式申し込み(航空券等の手配)
 - ④渡航前の事前研修(語学、外国でのマナーなどの学習)
 - ⑤現地学校での語学研修(社会見学を含む)
 - ⑥帰国後のレポート提出
 - ⑦単位認定

テキスト・教材(参考文献含む)

渡航先の大学、もしくは語学学校配布のものを使用します。

担当者から一言

長期短期にかかわらず、留学は現地へ渡航する前にすでに始まり、帰国後も終わりません。健康、マナー、危機の大事な「三つの管理」を遵守し、現地で得た知識や経験を帰国後の生活や人生に活かしていくことが大切です。

海外語学研修b (中国語) / 海外語学研修 加納 光	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1010	前学期	選 択

授業のねらい
夏期あるいは春期休業中に、中国語を学ぶこととその地域社会や文化に直接触れることが、研修の目的であり、ねらいでもあります。ホームステイあるいは学生寮に宿泊し、約2～4週間（研修先により異なります）の月～金曜日の半日あるいは1日、語学の授業を受けます。コースによっては、語学研修終了後に、地域を観光する場合があります。中国語研修は、中国です。なお、状況によりプランが変更されたり、中止されることもあります。

到達目標
1. 外国語のコミュニケーション能力を高める。
2. 外国の文化に直接触れる。
3. 異文化への理解を深める。

ことを、到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
国内での事前研修、現地での語学授業担当者の評価やコメント、引率教員の報告、帰国後のレポート提出などにより評価します。なお、認定科目のため評価は「認定」となります。

事前・事後学習
研修先の地理や歴史、文化について、事前によく調べておいて下さい(180分)。

日本語中級 I / 日本事情 I 加納・伊藤晴・角田・安田	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL9003	前学期	選 択

授業のねらい
言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、与えられたテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、それをもとに議論をしたり、発表したりすることのできる日本語能力の養成をそのねらいとします。

到達目標
この授業では、日本社会に対する理解を深めるとともに、与えられたさまざまなテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、その結果をもとにして議論をしたり、自分の考えを発表したりする日本語コミュニケーション能力の習得を到達目標とします。
(*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業での積極性や発表、議論、小テスト(採点后返却します)50%、期末試験50%。

事前・事後学習
授業で扱うテーマについて、事前に新聞やニュースなどで関連記事を読んだり、学内外の日本人や留学生と話し合うなどして、授業に臨む十分な準備をおこなっておくこと(90分)。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとまとめておくこと(90分)。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
海外語学研修参加の流れ(開催時期によって異なります)
①ガイダンスへの参加(3月下旬以降調査、4月下旬説明会)
②参加の正式申し込み(航空券などの手配)
③面接(研修参加の目的等の確認)
④事前研修(語学、外国でのマナーなどの学習)
⑤現地学校での語学研修(現地で観光を含む場合あり)
⑥帰国後、レポートなどの提出
⑦単位認定

テキスト・教材 (参考文献含む)
事前授業およびに研修先でのテキストなどについては別途指示します。

担当者から一言
本学教員が全行程を引率する予定です。英語研修、中国語研修とも、全学部合同で実施します。疑問があれば、教学課あるいは専任語学教員に質問してください。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 合同ガイダンス(クラス分け日本語テストも含む)
第2講 日本を知る 議論、発表① 語彙学習①
第3講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習②
第4講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③
第5講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④
第6講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤
第7講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥
第8講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦
第9講 日本を知る 議論、発表⑧ 語彙学習⑧
第10講 日本を知る 議論、発表⑨ 語彙学習⑨
第11講 日本を知る 議論、発表⑩ 語彙学習⑩
第12講 日本を知る 議論、発表⑪ 語彙学習⑪
第13講 日本を知る 議論、発表⑫ 語彙学習⑫
第14講 日本を知る 議論、発表⑬ 語彙学習⑬
第15講 日本を知る 議論、発表⑭ 語彙学習⑭ まとめ
定期試験
*授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材 (参考文献含む)
『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著
その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言
コミュニケーション能力の向上を目指して積極的に発言してください。また、他人の意見をしっかりと聞く姿勢も忘れないようにしてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

日本語中級Ⅱ／日本事情Ⅱ 加納・伊藤晴・角田・安田	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL9004	後学期	選択

授業のねらい
 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、与えられたテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、それをもとに議論をしたり、発表したりすることができる日本語能力の養成が、授業のねらいです。

到達目標
 この授業では、日本社会に対する理解を深めるとともに、与えられたさまざまなテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、その結果をもとに議論をしたり、自分の考えを発表したりすることのできる日本語のコミュニケーション能力の習得が到達目標です。
 (*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業での積極性や発表、議論、小テスト(採点后返却します)50%、期末試験50%。

事前・事後学習
 授業で扱うテーマについて、事前に新聞やニュースなどで関連記事を読んだり、学内外の日本人や留学生と話し合うなどして、授業に臨む十分な準備をおこなっておくこと(90分)。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとまとめておくこと(90分)。

日本語上級Ⅰ／日本語文章表現Ⅰ 加納・伊藤晴・角田・安田	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	GEL9005	前学期	選択

授業のねらい
 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。

到達目標
 この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読み、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。
 (*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業での積極性や発表、議論、小テスト(採点后返却します)50%、期末試験50%。

事前・事後学習
 授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨むにあたり十分な準備をおこなうこと(90分)。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと(90分)。

授業の位置づけ
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 合同ガイダンス(クラス分け日本語テストも含む)
 第2講 日本を知る 議論、発表① 語彙学習①
 第3講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習②
 第4講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③
 第5講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④
 第6講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤
 第7講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥
 第8講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦
 第9講 日本を知る 議論、発表⑧ 語彙学習⑧
 第10講 日本を知る 議論、発表⑨ 語彙学習⑨
 第11講 日本を知る 議論、発表⑩ 語彙学習⑩
 第12講 日本を知る 議論、発表⑪ 語彙学習⑪
 第13講 日本を知る 議論、発表⑫ 語彙学習⑫
 第14講 日本を知る 議論、発表⑬ 語彙学習⑬
 第15講 日本を知る 議論、発表⑭ 語彙学習⑭ まとめ
 定期試験
 *授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材(参考文献含む)
 『日本語能力試験問題集 N1(N2)読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1(N2)語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著
 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言
 コミュニケーション能力の向上を目指し、積極的に発言してください。また、他人の意見をしっかりと聞くことも忘れないようにしてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

授業の位置づけ
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 合同ガイダンス(クラス分けアンケートも含む)
 第2講 文章読解① 語彙学習①
 第3講 文章読解② 語彙学習②
 第4講 文章読解③ 語彙学習③
 第5講 文章読解④ 語彙学習④
 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤
 第7講 文章読解⑥ 語彙学習⑥
 第8講 文章読解⑦ 語彙学習⑦
 第9講 文章読解⑧ 語彙学習⑧
 第10講 文章読解⑨ 語彙学習⑨
 第11講 文章読解⑩ 語彙学習⑩
 第12講 文章読解⑪ 語彙学習⑪
 第13講 文章読解⑫ 語彙学習⑫
 第14講 文章読解⑬ 語彙学習⑬
 第15講 文章読解⑭ 語彙学習⑭ まとめ
 定期試験
 *授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材(参考文献含む)
 『日本語能力試験問題集 N1(N2)読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1(N2)読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著
 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言
 日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことが心げること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

日本語上級Ⅱ／日本語文章表現Ⅱ	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	GEL9006	後学期	選 択

授業のねらい
 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。

到達目標
 この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読んで、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。
 (*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業での積極性や発表、議論、小テスト(採点后返却します)50%、期末試験50%。

事前・事後学習
 授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨むにあたり十分な準備をおこなうこと(90分)。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと(90分)。

コンピューターリテラシー	科目 ナンバリング	1年次	4単位
	GEL1001	前学期	必修

授業のねらい
 コンピュータの実習を中心とした授業です。コンピュータの「読み書き能力」の習熟に重点を置きます。
 具体的には、仕事をする上でよく使われているワープロと表計算ソフトを中心に実習します。授業は、キーボードのタイピング練習から入り、それから実際にデータを入力して加工する実習を主体に行います。教員が質問に答えて個別指導を行う形で実習は進みます。毎回実習の提出物がありますから、それで習熟度がチェックされます。

到達目標
 ワープロソフトWord2016と表計算ソフトExcel2016の基本的な機能に習熟し、ビジネス文書の作成ができるようになること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 毎回の演習の提出物4点とタイピングテスト(0.1×タイピングテストの点数)とExcelの小テスト(20点)の合計で評価します。適宜、提出物に対してコメントを付けてフィードバックします。

事前・事後学習
 授業を履修するための予備知識は要求しません。習うより慣れろという内容なので授業に毎回出席して実習に励んでください。また、タイピングの練習方法を指導するので毎日続けて20分間ほど練習してください。さらに授業で行った実習を忘れないように毎日20分ほど復習して下さい。

授業の位置づけ
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 合同ガイダンス(クラス分けアンケートも含む)
 第2講 文章読解① 語彙学習①
 第3講 文章読解② 語彙学習②
 第4講 文章読解③ 語彙学習③
 第5講 文章読解④ 語彙学習④
 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤
 第7講 文章読解⑥ 語彙学習⑥
 第8講 文章読解⑦ 語彙学習⑦
 第9講 文章読解⑧ 語彙学習⑧
 第10講 文章読解⑨ 語彙学習⑨
 第11講 文章読解⑩ 語彙学習⑩
 第12講 文章読解⑪ 語彙学習⑪
 第13講 文章読解⑫ 語彙学習⑫
 第14講 文章読解⑬ 語彙学習⑬
 第15講 文章読解⑭ 語彙学習⑭ まとめ
 定期試験
 *授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材(参考文献含む)
 『日本語能力試験問題集 N1(N2)読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1(N2)読彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著
 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言
 日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことが心がけること。
 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

授業の位置づけ
 「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 ガイダンスとタイピングテストによるクラス分け
 第2講 キーボード入力練習(タッチタイピング)
 第3講 Word①:文字の入力
 第4講 Word②:文書の作成
 第5講 Word③:編集・表の作成・画像の挿入
 第6講 Word④:まとめの演習
 第7講 メール:携帯メールとの連携・エチケット
 第8講 PowerPoint:簡単な利用法
 第9講 Excel①:データの入力、タイピングテスト
 第10講 Excel②:ワークシートの編集
 第11講 Excel③:グラフの作成
 第12講 Excel④:グラフの編集と表計算
 第13講 Excel⑤:基本的な関数と条件関数
 第14講 Excel⑥:データベース機能
 第15講 Excelの小テスト
 他の授業との連携の都合により内容が前後することがあります。

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキスト(必須)「30時間でマスターWord&Excel 2016」実教出版 950円
 教科書が無いと実習が出来ません。

担当者から一言
 コンピュータ教室での実習を中心とした科目です。毎回の授業は前回までの授業の積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。また、提出物が多いので、時間内に全ては完成しない場合があります。残った課題も必ず完成させて提出してください。

情報倫理 片山・池田・田中伊・千葉	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEI1002	後学期	必修

授業のねらい
インターネットとネット上の各種サービスの発展により、世界中の人々が直接に繋がる新しい社会が形成されつつある。またデジタル技術の進展により、高品位の著作物を皆で共有し楽しめるようになった。ネット上に出来たこの新しい社会は人間社会を根本から変えようとしているが、人が集まれば多くの問題も生じる。この講義では、コンピュータやインターネットなどの利用に際して、他人の権利を侵害したり自分の権利を侵されたりすることがないように必要な知識を身につけることを目的とする。

到達目標
①情報セキュリティについて説明できる。
②個人情報について説明できる。
③著作権について説明できる。
④暗号技術について説明できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
ノートやレポート(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)
ノート、レポート、小テストは採点后、以降の講義で返却します。

事前・事後学習
講義前には、講義内容をシラバスで確認し、教科書の該当部分を読んで来ること(30分)。
講義後には、講義内容を復習し、問題などをやり直すこと(60分)。

情報科学 千葉 賢	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEI1003	前学期	選択

授業のねらい
コンピュータの歴史は浅く、電子計算機が開発されたのは約70年前、最初のパソコンが発売されたのは約45年前である。それ以降の情報技術の発展は驚異的で、現在はパソコンやスマホを通じて自分から世界に情報を発信できる世の中となった。さらに最近では、AI技術の普及も目覚ましく、情報技術が人間社会の在り方や運命を変えようとしている。本講義では、現代社会で必要とされるコンピュータに関する知識を概説する。予備知識は必要ない。本大学で行われる情報系授業の基礎となる内容を教えるので、できるだけ早期に受講することを薦める。

到達目標
①デジタルの特質を知る、②コンピュータの内部構造の概要を知る、③コンピュータの動作原理の概念を知る、④コンピュータの歴史を知る、⑤情報分野の用語や単位を知る、⑥情報分野の資格取得に備えた知識を得る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義毎のレポート(40%)と期末試験(60%)。毎週小レポートを課すので少し大変だが、その積み重ねで知識がつく。期末試験もレポートに出題した内容から出題する。レポートに予習復習で得た知識を書くと良い。積極的にレポートに取り組んだ者は加点する。レポートは採点して返却する。

事前・事後学習
全く新しい話題の準備学習は難しいので、連続する話題(例えば「情報と情報量」)の1回目を聴講したら、それを復習(90分)するとともに、ネット等で関連知識を得る(90分)ようにすると良い。そのような準備学習をすることで、理解度は格段に高まる。

授業の位置づけ
「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、情報倫理とは、最近の話題(掲示板、2ch、ブログ、SNS、ケータイ)
第2講 情報セキュリティ(1)
第3講 情報セキュリティ(2)
第4講 コンピュータウイルス(1)
第5講 小テスト、コンピュータウイルス(2)
第6講 個人情報とプライバシー(1)
第7講 個人情報とプライバシー(2)
第8講 知的財産保護(1)
第9講 知的財産保護(2)
第10講 小テスト、知的財産保護(3)
第11講 知的財産保護(4)
第12講 暗号技術(1)
第13講 暗号技術(2)
第14講 小テスト、暗号技術(3)
第15講 まとめ
定期試験
※授業全体を通してディスカッションを行います。

テキスト・教材(参考文献含む)
「四日市大学生のための情報倫理」四日市大学情報系教員グループ著 400円

担当者から一言
情報倫理は、情報化社会・ネット社会を生きていく上で必須の知識です。やや硬い内容ですが楽しみながら受講できるよう身近な話題を多く扱います。
ノートを定期的に確認し創意工夫と学ぶ姿勢の表れたものに高い点数を与えます。ノートの書き方は指導します。?

授業の位置づけ
「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、情報と情報量
第2講 情報と情報量
第3講 デジタルとアナログ
第4講 デジタルとアナログ
第5講 コンピュータの歴史
第6講 コンピュータの歴史
第7講 コンピュータの内部装置
第8講 コンピュータの内部装置
第9講 コンピュータ内部の数値の表現方法
第10講 コンピュータ内部の数値の表現方法
第11講 コンピュータ内部の文字の表現方法
第12講 コンピュータ内部の文字の表現方法
第13講 コンピュータとCPUの動作原理
第14講 コンピュータとCPUの動作原理
第15講 論理回路

テキスト・教材(参考文献含む)
使用しない。資料を配布する。

担当者から一言
ケータイもスマホもコンピュータです。情報社会の一員として生きてゆく皆さんにとって、コンピュータの使い方を覚えるだけで十分でしょうか。コンピュータという機械に「使われない」ためには、そのしくみを知り、使いこなすことが大切です。

情報と職業 井岡幹博	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEI1004	前学期	選択

授業のねらい
本講義では、事例を通して情報システムと社会とのかかわり方を学び、情報システム関連の職業に関する職業観を持つことを目的とします。そのために、コンピュータやネットワークが社会インフラやビジネスの場面で、どのように活用されているかを学びます。情報システムの発達により、社会の仕組みや仕事の仕方が変わる中で、人間社会とコンピュータ、ネットワークとの望ましい関係も考えていきたいと思えます。

到達目標
ITパスポート試験のストラテジ系およびマネジメント系の問題を解けるレベルを目指す。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
レポート50%、定期試験50% レポート課題に問題があればフィードバックします。

事前・事後学習
情報技術およびその利用に関する新聞記事の熟読(予習90分)。各回で課されるレポート課題を作成すること(復習90分)。

事前・事後学習
情報技術およびその利用に関する新聞記事の熟読(予習90分)。各回で課されるレポート課題を作成すること(復習90分)。

アプリケーション演習I/アプリケーション演習b 池田幹男・本部賢一	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEI1005	後学期	選択

授業のねらい
Microsoft Excelは実社会では、表やグラフ作成だけでなく、簡単な文書作成にも使われていて、必須のアプリケーション・ソフトウェアとなっています。したがって、社会で活躍するためには、Excelを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Excelの資格試験(Microsoft Office Specialist)を受験するための演習を行います。

到達目標
MOS Excel 2016の資格試験の準備が整うようにします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の課題(40%)、模擬試験演習(60%)で評価します。定期テストは実施しません。適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。

事前・事後学習
テキストの練習問題と模擬練習問題の予習と復習を繰り返し実施してください。(週180分)可能ならば、個人のPCにテキスト付属の模擬テストプログラムをインストールして模擬テストを実施してください。

事前・事後学習
テキストの練習問題と模擬練習問題の予習と復習を繰り返し実施してください。(週180分)可能ならば、個人のPCにテキスト付属の模擬テストプログラムをインストールして模擬テストを実施してください。

授業の位置づけ
「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講:ガイダンス、デジタル社会とビジネス
第2講:ネットワークとデジタルシステム
第3講:デジタル社会と製造(1)SCMなど
第4講:デジタル社会と製造(2)EMSなど
第5講:デジタル社会と製造(3)CADとデータベース
第6講:デジタル社会と環境(1)LCA、有害物質規制など
第7講:デジタル社会と環境(2)エネルギー問題
第8講:知的財産権とビジネス(1)産業財産権と著作権
第9講:知的財産権とビジネス(2)ソフトウェア特許
第10講:電子商取引のモデル(1)ブラウザ戦争、アマゾンのビジネスモデル、楽天のビジネスモデル
第11講:電子商取引のモデル(2)アップルのビジネスモデル、グーグルのビジネスモデル
第12講:情報化社会のセキュリティ(1)マルウェアとは、遠隔操作事件
第13講:情報化社会のセキュリティ(2)セキュリティ対策
第14講:POSシステムとICタグ
第15講:省エネと情報
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
プリント配布

担当者から一言
急速に進む情報化は、ビジネス環境はもちろん、私たちの生活自体も大きく変え、大きな影響を与えています。ニュース番組などで具体的な例を見ながら、情報システム進化の方向やその影響を一緒に考えましょう。

授業の位置づけ
「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、クラス分け
第2講 ワークシートやブックの作成と管理(1)
第3講 ワークシートやブックの作成と管理(2)
第4講 ワークシートやブックの作成と管理(3)
第5講 セルやセル範囲の作成(1)
第6講 セルやセル範囲の作成(2)
第7講 テーブルの作成
第8講 数式や関数の適用(1)
第9講 数式や関数の適用(2)
第10講 グラフやオブジェクトの作成
第11講 模擬試験演習(1)
第12講 模擬試験演習(2)
第13講 模擬試験演習(3)
第14講 模擬試験演習(4)
第15講 模擬試験演習(5)

テキスト・教材(参考文献含む)
佐藤 薫「MOS攻略問題集Excel 2016」日経BP社 ¥1944
テキストは必須です。特に実際にMOSを受験する人は、テキスト付属の模擬テストプログラムが必要になります。

担当者から一言
積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。

アプリケーション演習Ⅰ/アプリケーション演習a	科目 ナンバリング	2年次	2単位
本部 賢一・池田幹男	GEE1006	前学期	選択

授業のねらい

Wordは、卒業後の実社会（プレゼンや書類などのコミュニケーション中心）では必須の道具です。Wordは2016になり、実社会で必ず使う機能も増え、それらを理解し、使用できるようになることがねらいです。

到達目標

Word 2016の便利な新機能を実際を使って、実社会での使い方を身につけることを到達目標とします。さらに、講義を終えれば、MOS Word 2016の資格取得試験の準備が整うようにします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義は演習形式で行います。授業への参加態度30%、演習の課題の提出30%と模擬試験問題の成績40%で評価します。

事前・事後学習

大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- 第1講 ガイダンス・クラス分け
- 第2講 文書の作成
- 第3講 文書の管理
- 第4講 文字・段落の書式設定
- 第5講 セクションの書式設定
- 第6講 表やリストの作成と変更
- 第7講 引用文献
- 第8講 図表の管理
- 第9講 文書パーツ
- 第10講 SmartArt
- 第11講 画像の挿入
- 第12講 MOS word 2016模擬試験問題1
- 第13講 MOS word 2016模擬試験問題2
- 第14講 MOS word 2016模擬試験問題3
- 第15講 MOS word 2016模擬試験問題4

テキスト・教材（参考文献含む）

MOS攻略問題集 Microsoft Word 2016 佐藤薫（著） 日経BP社1,800円＋税

担当者から一言

人数制限があり、また、初回の授業でクラス分けを行いますので、初回は必ず出席してください。

四日市学	科目 ナンバリング	1年次	2単位
鬼頭・岡・永井・李	GEC1001	前学期	選択

授業のねらい

この講義は、四日市市を対象として、地域の社会、歴史、文化、自然、産業、環境などの現状を学び、この地域の将来の発展方向を考えることをねらいとしています。四日市を深く知ることを通し、地域社会の抱える課題を見つけ、それを市民・企業・行政などがどのように解決するのか、学んでいきます。また、四日市の伝統・文化・芸術について触れ、多面的に四日市について考える機会とします。

到達目標

講義は8回にわたる様々なテーマの座学、2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、この地域の様子や現在の課題を積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになることです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価は、1～8週目に課す簡単なりアクションペーパー各200字程度(40%)、2回のフィールドワークに関するレポート(30%)、学期末試験(30%)で総合評価します。提出物は返却しませんが、内容について取りまとめ、最終の振り返りでフィードバックします。

事前・事後学習

次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。

授業の位置づけ

「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画

- 第1講(4/10) ガイダンス+フィールドワークの説明(鬼頭)
- 第2講(4/17) 「地域と宗教的文化・伝統」(李:ゲスト講師 北島義信)
- 第3講(4/24) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭:ゲスト講師 四日市公害と環境未来館副館長)
- 第4講(5/1) 「四日市の産業」(岡)
- 第5講(5/8) 「ふるさと・四日市の文学者たち」(永井)
- 第6講(5/15) 「四日市の抱える今日の問題～人権問題～」(李)
- 第7講(5/22) 「四日市の歴史」(永井:ゲスト講師 四日市市博物館学芸員)
- 第8講(5/29) 「四日市市の発信～シティプロモーション戦略～」(鬼頭:ゲスト講師 四日市市観光・シティプロモーション課職員)
- 第9～11講 フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」
* 6/28(日)または7/4(土)に実施する予定。
- 第12～14講 フィールドワーク②「四日市で学ぶ」
* 各自でテーマを決めてフィールドワーク調査
- 15週目(7/17) 振り返りとフィールドワーク課題の提出(鬼頭)

テキスト・教材（参考文献含む）

とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。

担当者から一言

四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでほしい。

地域社会の歴史 岡 佑哉	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEC1002	後学期	選 択

授業のねらい
本講義は、地域における歴史の展開を知ることで、歴史が政治の中心地のみでは語りきれないものであると理解することを目的とする。歴史は単なる「暗記科目」ではなく、事実に基づき思考する学問である。本講義を通して、地域社会の視点から日本全体の問題を考察するという姿勢を養う。題材として、2016年のサミット開催地三重県の「伊勢神宮」の近現代史をとり上げる。

到達目標
①地域社会の歴史に対する知識を身につける。②知識を活用し論理立てて記述をする力を身につける。③地域社会から日本全体の問題を考える姿勢を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
筆記試験を行う。授業への出席が前提であり無断欠席はしないこと。毎回の取り組みで平常点もあり。毎回の取り組みについては講義の終わりに内容についての感想・質問を書いたペーパーを提出。次の回の講義で、質問への回答や事実関係の確認を行うことで、学生の理解の向上につなげる。

事前・事後学習
本講義は特に復習に力を入れてほしい。講義のプリントを熟読しつつ、板書内容を整理し次回の講義に備える。大学生として新聞を読むこと。また、伊勢神宮や天皇家に関わる記事がないかも注意するとよい。(90分)

市民教育 松井真理子	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEC1003	前学期	選 択

授業のねらい
近年、「新しい公共」の理念のもと、市民が果たす役割がかつてなく期待されています。また、18歳選挙権の導入に伴い、選挙をはじめとする主権者としてのあり方について、若い世代が学習することはきわめて意義が大きくなっています。この授業では、主権者としての基礎知識、市民の権利と責任、市民の行動の3つの観点から、入門的な主権者教育を行います。三重県における市民としての権利と責任を自覚し、行動することができる人材の養成を目指します。

到達目標
1 政治・行政・司法への市民参加の仕組みを理解する。
2 地域において市民として生活する上での権利と責任を理解し、行動する力を養成する。
3 地域における市民としての活動のあり方について、具体的に理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎講義時のミニレポート 40%
定期試験 60%
毎講義時のミニレポートの質問については、次回の授業で解説する。

事前・事後学習
(授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)
(授業後) 学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画
第1回 ガイダンスー地域社会史の意義ー
第2回 前近代の伊勢神宮①ー古代～中世ー
第3回 前近代の伊勢神宮②ー近世ー
第4回 近代の伊勢神宮を知ることの意味
第5回 明治維新と伊勢神宮
第6回 明治期における宇治山田の変容
第7回 明治期における「神都」としての伊勢の形成
第8回 1929年の式年遷宮ー国家儀礼としてー
第9回 戦前のメディア・教育の中の伊勢神宮
第10回 戦前の伊勢神宮参拝の諸相
第11回 終戦の危機と1953年の式年遷宮
第12回 「脱法人化」と1973年の式年遷宮
第13回 1993年の式年遷宮ー聖地と俗地としての伊勢ー
第14回 伊勢神宮の現在
第15回 講義の総括
定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
テキストはなし。毎回プリントを配布する。
参考文献: ジョン・ブリーン『神都物語 伊勢神宮の近現代史』(吉川弘文館、2015)

担当者から一言
①遅刻厳禁。入室は認めない。プリントも配布しない。
②私語厳禁。
③スマホ・音楽プレーヤー・イヤホンはしまうこと。
④バイトなどと称した無断早退、トイレなどと称した無断退出厳禁。
⑤コメントペーパーの代筆厳禁。発見した段階で受講を認めない。不備(プリント・ウィキペディア・友人の丸写し)も平常点なし。

授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画
講義の中で、学生同士のグループワークを取り入れます。
第1講 ガイダンス・市民/市民教育とは何か
第2講 市民の基礎知識①(日本国憲法)
第3講 市民の基礎知識②(国・三重県の政治・行政のしくみ)
第4講 市民の基礎知識③(税)
第5講 市民の基礎知識④(社会保障)
第6講 市民の基礎知識⑤(労働)
第7講 市民の基礎知識⑥(SDGs)
第8講 市民の行動①(選挙権の行使)
第9講 市民の行動②(身近な議会への参加)
第10講 市民の行動③(身近な行政への参加)
第11講 市民の行動④(裁判員制度)
第12講 市民の行動⑤(NPO/ボランティア)
第13講 市民の行動⑥(消費者)
第14講 市民の行動⑦(情報社会)
第15講 まとめ

テキスト・教材 (参考文献含む)
毎回講義時に資料を配布します。

担当者から一言
社会をよくするのも悪くするのも究極は市民です。社会とつながっている自覚を持ち、行動するようになってもらいたいと思います。

人権論 松井真理子	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEC1004	後学期	選択

授業のねらい
 私たちは生まれながらに、誰にも奪われることのない権利として人権を持っていますが、私たちが住んでいる地域は、人間らしい生活ができていますでしょうか。この授業では、人権を差別の問題だけに狭く捉えず、基本からしっかり学びます。また差別を受けやすい立場にいるマイノリティの人たちが抱えている課題についても、地域の当事者を招いて実践的に学びます。社会構造の根底に人権があることを理解し、誰もが安心して自分らしく暮らせる社会づくりの必要性を理解する、人権感覚に敏感な人づくりを目指します。

- 到達目標**
- 1 人権の概念を正確に理解する。
 - 2 人権を自分事にとらえ、社会構造と人権の関係に敏感になる。
 - 3 マイノリティの人権について、個別の内容を理解する。
 - 4 多様な人々が共生する地域社会づくりと人権との関係について正しく理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 毎講義時のミニレポート 40%
 定期試験 60%
 毎講義時のミニレポートの質問については、次回の授業で解説する。

事前・事後学習
 (授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)
 授業内容について事前に予習しておくこと(60分)
 (授業後) 学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

地域社会と環境 橋本幸彦	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEC1005	前学期	選択

授業のねらい
 現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、ケーススタディとして「四日市公害」と「獣害」を取りあげます。これらの問題の背景や現状、将来について、理解することを目標とします。

到達目標
 四日市で起きている環境問題は全国でも起きています。特に獣害は近年になり深刻になっています。身近な問題としてこれらを理解することを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業に対する積極性(50%)、期末試験(50%)を元に総合的に評価します。毎回、小レポートの提出を課し、授業に対する積極性として評価します。その他、授業中の発言や質問なども評価します。

事前・事後学習
 前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください(毎週60分)。また日頃から新聞やテレビ、インターネットなどで地域社会に関する情報をチェックし、わからない用語を調べ、なぜ関心を持ったか自分の中で整理してください(1日平均20分)。

授業の位置づけ
 「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

- 授業計画**
 講義の中で、学生同士のグループワークを取り入れます。
 第1講 ガイダンス・人権とは何か
 第2講 人権の歴史
 第3講 人権の体系
 第4講 表現の自由
 第5講 刑事手続と人権
 第6講 生存権
 第7講 マイノリティの人権(障害がある人①)
 第8講 マイノリティの人権(障害がある人②)
 第9講 マイノリティの人権(子ども)
 第10講 マイノリティの人権(外国人①)
 第11講 マイノリティの人権(外国人②)
 第12講 マイノリティの人権(被差別部落)
 第13講 暮らしの中の人権
 第14講 平和と人権
 第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
 毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。
 (参考文献)
 四日市市人権センターの人権教育・啓発推進プログラム各種パンフレット

担当者から一言
 わかりやすい映像教材や地域の当事者の話によって理解を深めます。あらゆる社会システムや学術研究の目的は「人権」だと考えています。ぜひ受講してください。

授業の位置づけ
 「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

- 授業計画**
 第1講 ガイダンス
 第2講 地域社会とは
 第3講 地域社会が抱える課題① 過疎化・少子高齢化
 第4講 地域社会が抱える課題② 人間関係の希薄化
 第5講 地域社会とリスク① リスクとは
 第6講 地域社会とリスク② リスクへの対応
 第7講 地域づくり・地域おこし
 第8講 四日市の環境問題① 四日市公害
 第9講 四日市の環境問題② 環境被害地域の再生
 第10講 四日市の環境問題③ 様々な獣害
 第11講 四日市の環境問題④ 農作物被害と対策
 第12講 人身被害
 第13講 獣害の背景
 第14講 自然環境を使った地域おこし
 第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
 自作プリント、および関連資料配布。

担当者から一言
 皆さんの地元はどこですか。その地元でどのように生きてきて、生きていきたいですか? 考えながら授業に臨んでみてください。発言や質問などいつでも受け付けます。積極的な講義への参加を期待します。

地域防災 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEC1006	前学期	選 択

授業のねらい
この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指す。この資格は、就職においても有利になる。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘する。
* 6月の週末3日間(18時間)は、外部からの受講生も参加する「防災士養成講座」に参加することをもって6週分の講義とする。
* 四日市大学の学生は、テキスト・受験料・登録費などの実費15,000円を負担してもらう。

到達目標
この講義を通して、災害時には復旧活動をリードできる人材になるのが目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義で学んだことをまとめる小レポート5回、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果から、総合的に成績をつける。提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正して返却をする。

事前・事後学習
事前にテキストの要点を30分ほどかけて予習する。また、講義を録音して公開するので(全部で10時間ほど)、必ず1回は復習として聴き、理解を深める。また、週末の演習で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験の1週間前に必ず復習をする。

地域連携特別講義 a 小林 慶太郎	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEC1007	前学期	選 択

授業のねらい
食と観光に関して、松阪市においてフィールドワークを交えた体験型実習を行なう。観光地としての魅力発信や観光客向けのインフラ整備といった課題を理解するとともに、地域で培われてきた食文化をどのように継承し発展させていくかの考え方を身につける。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、地域住民や観光客などに対してインタビューを行なうといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。

到達目標
地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
・グループワーク等への取組姿勢 60%
・事後レポート 40%
※一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。
※グループワーク・フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。

事前・事後学習
松阪市の観光業の現状・課題や、松阪市周辺の多様な食文化の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく(36時間)。成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら時間外に準備を行なう(9時間)。

授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画
*第1～9講は、金曜3時間目
1 4/10:ガイダンス:序論・いのちを自分で守る①
2 4/17:いのちを自分で守る②(小レポート①)
3 4/24:地域で活動する①
4 5/1:地域で活動する②(小レポート②)
(5/8はお休みです)
5 5/15:災害発生のしくみを学ぶ(小レポート③)
6 5/22:災害に関わる情報を知る①
7 5/29:災害に関わる情報を知る②(小レポート④)
8 6/5:新たな減災や危機管理(小レポート⑤)
9 6/12:講義のまとめ
*第10～15講は、午前座学、午後アクティブ・ラーニング
10 6/20(土)午前:近年の災害とその仕組み(講師:自衛官ほか)
11 6/20(土)午後:避難所運営訓練(講師:四日市東日本大震災支援の会)
12 6/21(日)午前:地域防災(講師:四日市市危機管理室職員)
13 6/21(日)午後:災害ボラセン運営(講師:四日市市社協職員)
14 6/27(土)午前:自分たちで地域を守る(講師:消防団・自主防災組織など)
15 6/27(土)午後:普通救命講習(講師:四日市市消防本部職員)
★8月22日(土)午後に防災士試験を実施する。

テキスト・教材(参考文献含む)
『防災士教本』日本防災士機構
テキスト代は、実費負担¥15,000に含まれる。

担当者から一言
講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。

授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画
5月中旬 13:00～17:00 @三重大学 4h
13:00～14:00 ガイダンス・現状把握と課題解決の考え方(担当:皇学館大 池山)
14:10～15:10 ご当地グルメを活用した町おこし(担当:小林)
15:20～17:00 グループワーク
6月中旬 13:00～17:00 @MieMu 4h
三重県の基礎情報を学ぶ
13:00～15:30 展示見学・講義(担当:MieMu 太田学芸員)
15:40～17:00 グループワーク
7月中旬 10:00～16:10 @松阪農業公園ベルファーム 5.5h
10:00～12:00 施設見学・体験
12:00～13:00 昼食・移動
13:00～14:00 食を通じた観光開発(担当:鈴鹿大 富本)
14:10～16:10 グループワーク
8月下旬 10:00～16:10 @松阪市内 5.5h
10:00～12:00 観光地としての松阪
12:00～13:00 昼食
13:00～14:30 松阪市における食と観光の取組み
14:40～16:10 グループワーク
9月上旬 13:00～17:00 @三重大学 4h
13:00～16:00 成果発表会
16:00～17:00 講評・まとめ
※実際の授業実施に際しては受入れ先と調整の上、変更の可能性もある。

テキスト・教材(参考文献含む)
なし(必要に応じて資料等を配布する場合があります)。

担当者から一言
県内の複数の高等教育機関との合同の授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負荷も掛かりますし、現地学習などで費用も掛かりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずですので、他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。

経営学	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAS1001	前学期	選択

吉成 亮

授業のねらい
本講義では、経営学の概要を学ぶために、毎回、時事的なテーマのもとに、われわれが身近に関わっている具体的な企業を取り上げ、「企業はいったい何をしているのか?」ということを学習します。

到達目標
本講義を終了した後は、受講者は、企業の具体的な活動に、積極的に興味・関心を抱くようになります。さらに、企業をはじめとする組織を経営する専門知識の基礎を備え、自分で起業するプランを考えることが出来るようになれば、本講義の内容を十分把握していると言えるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
各授業の小テスト90%、まとめテスト10%。以上の割合を基本にしながら総合的に判断します。小テストは各授業で実施し、小テストの評価は次回の授業でフィードバックします。まとめテストとは授業前半のまとめと期末テストとします。

事前・事後学習
講義の前後に授業中で指示された配付資料の予習復習（それぞれ1日30分程度）を行うことが望ましいです。また課題の提出を課すこともあります。

経済学	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAS1002	後学期	選択

鬼頭 浩文

授業のねらい
企業や消費者の行動は、経済を理解する上で最も基本的なテーマになる。この講義では、企業や消費者がどのように行動し、それが経済に対してどのようなインパクトを持つのか考えていく。とくに「競争」については、日ごろ意識することが少ないため、ここで勉強することは社会に出てから大いに役立つと思う。理論的な考察も重要だが、ここでは参加・体験型のアクティブ・ラーニングを中心に展開し、直感的・感覚的に経済を学ぶ。

到達目標
経済学の基本的知識を参加型・双方向型講義を通して直感的に理解することが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
アクティブ・ラーニングにおけるパフォーマンス（20%）、テーマごとに実施する小テスト3回（30%）、学期末試験（50%）により、総合的に評価する。フィードバックは、テストの解説をして自己採点させ、要望のある学生には点数を伝える。

事前・事後学習
この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 企業と経営
第3講 経営学の方法
第4講 企業・会社の概念
第5講 所有・経営・支配と経営目的
第6講 会社機能とコーポレートガバナンス
第7講 日本型企業システム
第8講 前半のまとめ
第9講 経営戦略の体系と理論
第10講 全社戦略
第11講 事業戦略(1)
第12講 事業戦略(2)
第13講 M&Aと買収防衛策
第14講 経営のグローバリゼーション
第15講 まとめ
定期試験

本授業では、各回の授業においてディスカッション、ディベート、グループワークを行います。

テキスト・教材（参考文献含む）
教科書は一般社団法人日本経営協会（監修）「経営学の基本1 経営学の基本（経営学検定試験公式テキスト）」、中央経済社2,808円（税込）。

担当者から一言
国内だけでなく、海外に目を向けて幅広い視野でビジネスを考えることができるようになります。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画
①9/29 ガイダンス:経済学とは(初回経済常識テスト)
②10/6 経済の「今」を知る①
③10/13 経済の「今」を知る②
④10/20 ゲーム:寡占市場の競争「参入自由」説明+練習
⑤10/27 ゲーム:寡占市場の競争「参入自由」+「参入規制」説明+練習
⑥11/10 ゲーム:寡占市場の競争「参入規制」⇒小テスト①

④～⑥は、グループ間で競争をシミュレーションするアクティブ・ラーニングである。
⑦11/17 「税を知る週間」(外部講師:四日市税務署)
⑧11/24 消費者の行動①個別需要曲線の理論
⑨12/1 消費者の行動②復習をして、練習問題を解き、コラムを簡単に説明
⑩12/8 消費者の行動③コラムの復習をして、最後の問題を解かせる⇒小テスト②
⑪12/15 市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給①
⑫12/22 市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給②
⑬1/5 市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給③⇒小テスト③
⑭1/12 競争と独占禁止政策(外部講師:公正取引委員会)
⑮1/19 復習と試験対策

テキスト・教材（参考文献含む）
テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。

担当者から一言
出席して、参加して、理解すること、これらの全てが重要である。小テストによって参加意欲と理解度を判定する。楽しくて、かつ社会に出て役立つ何かを獲得できる講義を目指す。

政治学 小林慶太郎	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAS1003	前学期	選 択

授業のねらい
この授業では主に、政策の決定や政府の役割など、政治の仕組みについて、扱っていきます。
例えば選挙。いったいどのような仕組みで行われているのでしょうか。そして選挙というものは、本当に民主的な仕組みなのでしょうか。そもそも選挙はなぜ必要なのでしょうか。そして政府は、どのような役割を担っているのでしょうか。
できるだけ、その時々の政治ニュースの解説なども行っていくことで、学生諸君に、日本の政治や社会の仕組みに対する関心を高めてもらうことを、この講義のねらいとしています。

到達目標
この授業では、学生諸君が、日本の政治や社会に関する基本的な用語や知識を身につけ、テレビや新聞の政治ニュースをある程度理解できるようになることを、到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30%
・定期試験(自筆ノートのみ持込可):70%
なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

事前・事後学習
日頃からテレビや新聞の政治ニュースに目を通すこと(毎日20分以上)。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと(40分)。

社会学 三田泰雅	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAS1004	前学期	選 択

授業のねらい
この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たち一人ひとりが集まって社会を作っていますが、その社会は一方で、一人ひとりの考え方や行動を縛ってしまう働きを持っています。私たちはどのように社会を創っているのか、そして、私たちはいかにして社会に縛られているのか。こうした疑問を考えてゆく授業です。

到達目標
社会学的なものの見方や考え方を身につける

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
<評価>小レポート30%、中間試験15%、期末試験55%
<課題>毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。
<フィードバック>小レポートは翌週の授業で適宜コメントします。

事前・事後学習
新聞やニュースに目を通す(毎日20分)

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス 政治と政治学
第2講 政治と政策
第3講 政策の決定と民主主義(グループワーク)
第4講 選挙とマニフェスト
第5講 圧力団体と政治的景気循環
第6講 さまざまな選挙制度① 小選挙区制
第7講 さまざまな選挙制度② 大選挙区制
第8講 さまざまな選挙制度③ 比例代表制
第9講 選挙制度改革の動き
第10講 多数決と話し合い(ディベート)
第11講 もしも政府が無かったら(グループワーク)
第12講 市民革命と夜警国家
第13講 市場の失敗と福祉国家
第14講 政府の失敗と行政改革
第15講 政治的対立を超えて
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります)
【参考文献】
浅羽通明「新書で大学の教養科目をモノにする政治学」光文社新書(2011年)
北山俊哉、久米郁男、真淵勝「はじめて出会う政治学[第3版]」有斐閣アルマ(2009年)

担当者から一言
遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 規範と価値
第3講 自我を考える:私(わたし)とは何か
第4講 近代化とスポーツ
第5講 つながりとしての家族
第6講 ジェンダーから社会をみる
第7講 社会階層と格差
第8講 社会における学校と教育
第9講 まとめ①
第10講 都市の社会生活
第11講 村落の社会構造
第12講 現代社会の課題:少子高齢化
第13講 現代社会の課題:社会的排除
第14講 現代社会の課題:個人化とリスク
第15講 まとめ②

テキスト・教材(参考文献含む)
<参考文献>
倉沢進・秋元律郎・岩永雅也、2001、『新訂 社会学入門』放送大学出版社。

担当者から一言
学生諸君の積極的な参加を期待します。

ジェンダー論 松井真理子・高田晴美	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAS1005	後学期	選択

授業のねらい
社会通念や慣習の中でジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていること、ジェンダーが社会構造的な課題であることについて理解を深めるため、ジェンダーの課題はどのように克服されるべきか、その展望についても示していきたいと考えています。授業は2名の教員(松井・高田)で実施します。

到達目標
①ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。
②社会の中にあるジェンダーに気づき、説明できる。
③現代社会でなぜ男女共同参画が重要なのか、説明することができる。
④性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎講義時の小レポート 50%
定期試験 50%
毎講義時の小レポートについては、次回の講義でコメントを返し、さらなる深化をはかります。

事前・事後学習
(授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)
(授業後) 学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

メディアリテラシー 前川督雄・関根辰夫・山本 伸	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAS1006	前学期	選択

授業のねらい
メディアリテラシーとは社会に溢れる様々なメディアを読み解き、それぞれのメディアを介して伝えられる情報の背景や意味を評価できる能力です。この説明だけでは、諸君は理解出来ないかもしれません。何故ならメディアがあまりにも溢れすぎている環境で育ってきたからです。
そこで3名の教員(関根、山本、前川)で構成するこの授業では、まずは「メディアの楽しみ方」を伝授したいと思います。メディアに対する接し方をちょっと変えるだけで、新鮮な発見と感動を体験できるようになるでしょう。

到達目標
各自のメディア環境下で、無意識に当たり前と思っている事柄に対して、なんらかの観察意識や他のコンテンツやテーマと比較する意識を持てるようになってもらうことです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義時に何回か小レポートなどを教室で書いてもらいます。それらの評価の平均点で総合評価します。

事前・事後学習
各自の1日の中で、スマホでネットを見たり新聞やテレビを視聴する時間がどれくらいあるかなど、メディアと接する行動を事前に把握しておいてください(90分)。毎回の講義の後での自分のメディア行動を振り返り、考えを深めてください(90分)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、ネーミング問題(高田)
第2講 〈女らしさ〉のワナ(高田)
第3講 〈男らしさ〉のワナ(高田)
第4講 メディアにおけるジェンダー表現①——アニメ・マンガ編(高田)
第5講 メディアにおけるジェンダー表現②——歌詞編(高田)
第6講 メディアにおけるジェンダー表現③——CM編(高田)
第7講 恋愛にまつわる〈女性学〉〈男性学〉(高田)
第8講 身体にまつわる男女の非対称(高田)
第9講 アンパイドワーク(不払い労働)と女性の貧困(松井)
第10講 超少子化とジェンダー(松井)
第11講 女性への暴力(松井)
第12講 ワーク・ライフ・バランス(松井)
第13講 経済発展とジェンダー(松井)
第14講 政策・方針決定とジェンダー(松井)
第15講 まとめ(松井)

テキスト・教材(参考文献含む)
毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。

担当者から一言
2人の教員がそれぞれの持ち味を生かして分担します。ジェンダーを多角的に学べるチャンスです。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス/各講義内容の説明
第2講 メディアとは(前川)
第3講 デジタルネイティブ ～幼少時からバーチャル世界に慣れ親しむ世代～(前川)
第4講 日本の音楽業界におけるマスメディアとの関わり(関根)
第5講 K-POPとJ-POPの比較による韓国と日本の文化の考察(関根)
第6講 ラジオスターの悲劇 ～なぜラジオは衰退したのか～(山本)
第7講 ラジオスターの歓び ～ラジオの魅力を考える～(山本)
第8講 特別講義(外部講師等)
第9講 メディアエコロジー ～情報環境が心身に及ぼす良い影響と悪い影響～(前川)
第10講 インターネットとマスメディア ～マスメディアの責務～(前川)
第11講 CDというメディアに潜んでいる常識と真実のギャップ(関根)
第12講 スマートフォンと音楽(関根)
第13講 ラジオスターの憂い ～ラジオの現在～(山本)
第14講 ラジオスターの未来 ～ラジオの未来はどうか～(山本)
第15講 まとめ
(内容・順序を変更することがあります)

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストはありません。
講義中に、適宜、各先生方が資料を配布するかもしれません。

担当者から一言
環境情報学部メディア情報分野を専攻する学生は、この科目を受講することが望ましい。

社会福祉概論／社会福祉論 李 修二	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAS1007	前学期	選 択

授業のねらい

社会福祉とは、現代社会を生きる人々にとって無くてはならない事柄の一つと言えます。そうした社会福祉の理念や考え方を学び、さらに社会福祉の歴史、対象、制度について基本的な理解を得ることをねらいとした授業となります。授業の後半では、より具体的に、社会福祉の主要な分野での現状と今後の課題についても掘り下げて学ぶことをねらいとします。

到達目標

社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉についての正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎授業毎のミニツペーパーで50%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の筆記試験で50%評価します。(ミニツペーパーの評価基準はガイダンス時に説明します)

事前・事後学習

毎回の授業の後、すみやかにミニツペーパー(小レポート)を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。また、必ず前回の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。(復習・予習、計60分以上)さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブなどでの社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。(30分以上)

日本国憲法／憲法 中西紀夫	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAS1008	後学期	選 択

授業のねらい

憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC(国家安全保障会議)の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集团的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っております。

到達目標

大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。
受講態度 30% : 授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。
定期試験 70% : 試験は論述形式で、持込可は自筆ノート(コピー不可)です。
なお、授業中に実施した小テストについては、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

事前・事後学習

毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくことよいでしょう。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

1. ガイダンス
2. 社会福祉の理念
3. 社会福祉と社会保障
4. 海外の社会福祉の歴史1 イギリス1
5. 海外の社会福祉の歴史2 イギリス2(+映画教材前半)
6. 海外の社会福祉の歴史3 イギリス3(+映画教材後半)
7. 海外の社会福祉の歴史4 イギリス4
8. 海外の社会福祉の歴史5 アメリカ他
9. 日本の社会福祉の歴史
10. 社会福祉の法体系と制度
11. 社会福祉の行財政
12. 高齢化社会の到来
13. 子育て支援
14. ノーマライゼーション
15. 国際化と多様性支援
16. 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。
参考文献:
広井良典『持続可能な福祉社会』ちくま新書
武川正吾『福祉社会』有斐閣

担当者から一言

社会福祉の考え方や知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。意味や意義を少しでも深く理解するように学んでください。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- 第1講 ガイダンス
 - 第2講 憲法の機能
 - 第3講 天皇と国民の関係
 - 第4講 国民の三大義務
 - 第5講 基本的人権とその種類
 - 第6講 環境権(判例的考察)
 - 第7講 憲法上の権利と義務
 - 第8講 法の下での平等
 - 第9講 絶対平和主義
 - 第10講 国家機密と国民の知る権利
 - 第11講 平等な投票にするための権利義務
 - 第12講 行政救済
 - 第13講 国際私法
 - 第14講 憲法改正問題
 - 第15講 まとめ
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

本年度は下記の著書を印刷して配布します。なお、修正や補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。
参考文献 : 中西紀夫著 『社会環境と法』 嵯峨野書院(2010年11月30日)

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

法学 中西紀夫	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAS1009	前学期	選択

授業のねらい
 法学の発達史を通して、法律と人との関わりについて学びます。すなわち、「法とは何か」という素朴な疑問から講義を始めていく予定です。講義形式は法に慣れ親しんでもらうため、特に六法(憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法)の由来あたりから説明し、これらの法律の概要を歴史的経緯を踏まえて、現代社会の様々な問題と照らし合わせながら講義します。もちろん、骨子や規定の理解のために、一方的な講義形式のみの形にならないように工夫をしていきます。

到達目標
 社会科学系の学部で「法学」が中心的な教養科目に位置付けられているのが多いのは、各方面の指導者養成等のための単位取得要請科目であるというだけでなく、みなさんの将来の生活の糧となる学問であるということではないかと思しますので、その視点に立って講義を進めていきたいと考えています。最終的な到達目標としては、常に法律的な視点に立って物事を見れるようになることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 成績は、次のような評点配分です。
 受講態度 30% : 授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。
 定期試験 70% : 試験は論述形式で、持込可は自筆ノート(コピー不可)です。
 なお、授業中に実施した小テストについては、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

事前・事後学習
 毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくことによいでしょう。

民法入門 小林 聖仁	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAS1010	前学期	選択

授業のねらい
 法の分類には様々な分類方法があるが、民法とよばれる法分野に属する法は、その分量だけでも非常に多い。しかし、今後において他の法律を学んで行くにあたっては、契約・代理・不法行為・相続などの概念の理解が他の法分野の学習の理解に必須であるといえる。もっとも民法は120年ぶりの大改正を迎えた。そこで、1年次に、民法の基礎をしっかりと学んでいただき、そこから法分野を学ぶ基礎とすることを目指したい。

到達目標
 民法条文の主要部分につき基本的な定義(用語の意味)を正確に理解するとともに、就職するのであれば上司に、経営を志すのであれば専門職に対して、法的問題点の状況を適切に報告できることを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 小テスト65%、定期試験35%
 講義の後には随時で小テストを予定している。解答及び解説は次の講義の冒頭にプリントで配布するので、誤答した問題についてはテキストの記述との関連を確認しておくこと。

事前・事後学習
 講義を受ける前に予定されているテーマにつき、テキストを読んでおくこと(60分)。

授業の位置づけ
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 ガイダンス
 第2講 六法の意味、社会規範
 第3講 実定法と自然法、法源
 第4講 制定法の体系、法の形式による分類
 第5講 法の種別(国内法)、国内法と国際法
 第6講 公法と私法、裁判による権利の実現
 第7講 法の適用、法解釈における問題点
 第8講 権利と義務、権利義務の主体と客体
 第9講 罪刑法定主義
 第10講 法と裁判(裁判の仕組み)
 第11講 民事裁判、刑事裁判、行政裁判
 第12講 司法権の独立と公開主義
 第13講 自由心証主義、今日までの裁判の課題
 第14講 裁判員制度とその課題
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 本年度は下記の著書を印刷して配布します。なお、修正や補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。
 参考文献 : 中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院(2010年11月30日)

担当者から一言
 授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることも、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらにも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

授業の位置づけ
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 ガイダンス、講義の概要(はじめに)
 第2講 権利の主体
 第3講 権利の客体
 第4講 契約の成立と有効性
 第5講 代理
 第6講 契約の効力発生時期と時効
 第7講 物権
 第8講 債権総論
 第9講 契約総論
 第10講 債権債務の移転と消滅
 第11講 契約各論
 第12講 契約に基づかない債権
 第13講 債権の履行確保
 第14講 親族
 第15講 相続
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキスト 尾崎 哲夫「はじめの民法(第4版)」自由国民社(2019年) 定価:1,980円(税込)
 教材 条文については鎌田薫 編「デイリー六法2020」(三省堂)を参照する。
 そのほか適宜プリントを配布する。

担当者から一言
 私語は厳禁。テキスト・教材・筆記具等を持参し、授業を受ける体制で参加すること。テレビ・新聞紙上で紹介される法的問題にも注意し、事前知識を得ておくことなよろい。

倫理学 フェリペ・フェハーリ	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAH1001	前学期	選択

授業のねらい
ギリシャ語では、「倫理学」は「エートスに関する諸々の事柄」という意味をもつが、「エートス」とは何であるのか。この語は「いつもの場所」、「慣れた行動の仕方」や「性格」などと様々な異なる意味をもっている。本講義の目的は、「エートス」とは何であるのかを考えながら、この言葉から派生した「倫理学(ethica)」の意味を探ることである。

到達目標
倫理学の立場から、現代社会の問題を議論すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度:30%
ミニレポート:20%
最終レポート:50%

事前・事後学習
毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで(毎週約60分)、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。

哲学 フェリペ・フェハーリ	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAH1002	後学期	選択

授業のねらい
哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学(philosophia)の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。
また、本講義では哲学の立場から現代社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。

到達目標
現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度:30%
ミニレポート:20%
最終レポート:50%

事前・事後学習
毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで(毎週約60分)、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス・「倫理」とは何か
第2講 道徳と倫理
第3講 徳倫理と幸福論
第4講 中世における倫理
第5講 近代における倫理
第6講 宗教と自己犠牲
第7講 応用倫理学
第8講 環境倫理
第9講 生命倫理と動物の権利
第10講 人権
第11講 人工知能とロボット工学三原則
第12講 ジェンダー
第13講 マイノリティーの権利
第14講 現代における倫理的行為
第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
毎回、教員が資料を配布する。

担当者から一言
真剣に倫理学を教える人、学ぶ人、研究する人は必ず倫理的に生活していると思いますか？善と悪、正と邪などは、時代、地域、宗教や文化などの要因によって変化しますが、「絶対的な倫理」と言うものはありますか？上述のような問題を考えながら、一緒に「エートス」の意味、倫理学の意味を探しましょう。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス・「哲学」とは何か
第2講 哲学の三つの伝統
第3講 古代ギリシャにおける哲学
第4講 中世哲学(1)
第5講 中世哲学(2)
第6講 近代哲学(1)
第7講 近代哲学(2)
第8講 現代哲学(1)
第9講 現代哲学(2)
第10講 自然哲学
第11講 論理学
第12講 倫理学
第13講 美学
第14講 認識論
第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
毎回、教員が資料を配布する。

担当者から一言
本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。

文学	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	永井 博 GLAH1003	前学期	選択

授業のねらい
日本語に限らず、ことばについて学ぶということは、それによって生きる人間についての理解を深めるということである。それは単に文法や単語を覚えたりするだけのものではなく、ことばで生きている人間のものの考え方や感じ方を学ぶことである。私たちが日本語を学ぶ時も、日本語で考え、感じ、生きている人たちのものの考え方や感じ方を学ぶのである。このような理解に立って受講者全員で「文章」による「表現」の技術を磨きたい。なお、この永井のクラスは留学生を対象とし、添削指導の都合上、人数制限をすることがある。

到達目標
ことばについてさまざまな視点から理解を深めつつ、文章を書くことで自分の考えや感じ方をいかに人に伝えるか、そのトレーニングをし、文章を書く力をつけることを目標にしたい。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度40%、定期試験40%、提出物20%を目安に総合的に判断する。提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習
予習としては、漢字の小テストに備えてテスト範囲の漢字を練習しておくこと。(90分)
復習としては、教員の添削を経て返却された作文の課題について、訂正された箇所正しい書き方を自分で振り返っておくこと。(90分)
また、文章の書き方についての本はたくさん市販されているので、自分でいくつか読んでみる。

文章表現論(留学生クラス)	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	永井 博 GLAH1004	前学期 後学期	選択

授業のねらい
日本語に限らず、ことばについて学ぶということは、それによって生きる人間についての理解を深めるということである。それは単に文法や単語を覚えたりするだけのものではなく、ことばで生きている人間のものの考え方や感じ方を学ぶことである。私たちが日本語を学ぶ時も、日本語で考え、感じ、生きている人たちのものの考え方や感じ方を学ぶのである。このような理解に立って受講者全員で「文章」による「表現」の技術を磨きたい。なお、この永井のクラスは留学生を対象とし、添削指導の都合上、人数制限をすることがある。

到達目標
ことばについてさまざまな視点から理解を深めつつ、文章を書くことで自分の考えや感じ方をいかに人に伝えるか、そのトレーニングをし、文章を書く力をつけることを目標にしたい。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度40%、定期試験40%、提出物20%を目安に総合的に判断する。提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習
予習としては、漢字の小テストに備えてテスト範囲の漢字を練習しておくこと。(90分)
復習としては、教員の添削を経て返却された作文の課題について、訂正された箇所正しい書き方を自分で振り返っておくこと。(90分)
また、文章の書き方についての本はたくさん市販されているので、自分でいくつか読んでみる。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1回 ガイダンス
第2回 原稿用紙の使い方①
第3回 原稿用紙の使い方②(実習)
第4回 推敲のしかた①
第5回 推敲のしかた②(実習)
第6回 テーマの決め方
第7回 資料の探し方①
第8回 資料の探し方②(実習)
第9回 論理的文章の書き方①
第10回 論理的文章の書き方②(実習)
第11回 文章作成の実際①(実習)
第12回 文章作成の実際②(実習)
第13回 文章作成の実際③(実習)
第14回 文章作成の実際④(実習)
第15回 文章作成の実際⑤(実習)

テキスト・教材(参考文献含む)
プリントなどの資料を配布する。

担当者から一言
ドリルや小テスト、説明文の書き方を練習したものなど、何回か提出物を出してもらうので、積極的に出席すること。教室に来て、自分なりに考え、文章を書く練習をすれば得るものはきっとある。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1回 ガイダンス
第2回 原稿用紙の使い方①
第3回 原稿用紙の使い方②(実習)
第4回 推敲のしかた①
第5回 推敲のしかた②(実習)
第6回 テーマの決め方
第7回 資料の探し方①
第8回 資料の探し方②(実習)
第9回 論理的文章の書き方①
第10回 論理的文章の書き方②(実習)
第11回 文章作成の実際①(実習)
第12回 文章作成の実際②(実習)
第13回 文章作成の実際③(実習)
第14回 文章作成の実際④(実習)
第15回 文章作成の実際⑤(実習)

テキスト・教材(参考文献含む)
プリントなどの資料を配布する。

担当者から一言
ドリルや小テスト、説明文の書き方を練習したものなど、何回か提出物を出してもらうので、積極的に出席すること。教室に来て、自分なりに考え、文章を書く練習をすれば得るものはきっとある。

文章表現論(留学生以外のクラス) 杉谷克芳	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAH1004	前学期 後学期	選 択

授業のねらい
日本語の正しい文章表現力を身につけることは、大学生のみならず、社会人にとっても欠かすことのできない必須項目の一つです。そして、それは、自分自身の大きな財産になります。
日本語という言葉の特徴を客観的に捉え直し、日本語の文章表現力に更なる磨きをかけることを、この授業のねらいとします。
なお、この授業は留学生以外の者を対象とし、添削指導の都合上人数制限をすることがあります。

到達目標
この授業では、大学生に相応しいレベルで自分の考えを論理的に組み立て、それを正しく文章化することができるようになることを、到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度40%、定期試験40%、提出物20%を目安に総合的に判断する。提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習
予習としてテキスト読み次回の学習内容を理解しておくこと(90分)。また、授業後には復習として学習した内容をしっかり確認しておくこと(90分)。

文化論／文化論b 前川督雄	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAH1005	後学期	選 択

授業のねらい
この講義の主題は、人間と文化です。
文化をもち言語を使う動物はたくさんいます。しかし、祝祭や葬礼を行う生き物は人類だけです。音楽は祝祭と密接に結びつき、古来、祝祭のなかで大切な役割を果たしてきました。世界各地の音楽には、民族の太古からの智慧がつまっています。また音楽は娯楽やコミュニケーションの重要な鍵となります。
「文化論(文化論b)」では、音楽と祭りを主な切り口にして文化人類学・民族芸術学の基礎を学びます。

到達目標
人類史の中で自分の立つ位置、現代の世界の中で自分の立つ位置について考えを深める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
次の配分で総合評価します。
受講態度、学習意欲、小レポート等(40%)
定期試験(60%)
小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。

事前・事後学習
毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り(90分)、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい(90分)。

環境情報学部学生は、前後して「生命－情報－環境」(前期開講)とあわせて履修することで、より重層的な理解が得られるでしょう。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講:ガイダンス
第2講:言葉と表現を知ろう、その1(同音異義語、同訓異義語)
第3講: 〃 その2(同音異義語、同訓異義語)
第4講: 〃 その3(四字熟語)
第5講: 〃 その4(慣用表現、ことわざ、故事成語)
第6講: 〃 その5(助詞)
第7講:日本語の作文技術 その1
第8講: 〃 その2
第9講:敬語・敬意表現を使おう、その1(敬語の種類、用法1)
第10講: 〃 その2(敬語の用法2、敬意表現)
第11講:書いてみよう、その1(文の要約)
第12講: 〃 その2(論作文)
第13講: 〃 その3(手紙文、案内文)
第14講:分析と考察をしよう、その1(レポート、論文の書き方)
第15講:まとめ
定期試験
*授業内容と進度は、場合によって変更することがあります。

テキスト・教材(参考文献含む)
①米田明美ほか『大学生のための日本語表現実践ノート(改訂版)』(風間書房、1,000円+税)
②本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)660円
そのほか適宜プリント教材も配付します。

担当者から一言
日本語の表現能力を向上させるための授業です。日本語の表現力を向上させるためには、普段から日本語文を読むこと、考えを文章化すること、さらに、様々な分野の語彙と多様な表現を増やす努力が不可欠です。私語、中座、携帯の使用は原則禁止とします。授業内での意欲的な取り組みを期待しています。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス／人間と動物の違い
第2講 人類はいつどこで生まれたのか
第3講 人類はどのように世界にひろがったのか
第4講 文化をつくる脳の働き
第5講 民族と文化(1) アフリカ
第6講 文化の発展・伝播
第7講 民族と文化(2) ペルシャ
第8講 民族と文化(3) シルクロード
第9講 民族と文化(4) 日本
第10講 文明の生態史観
第11講 文化の衝突
第12講 文化相対主義
第13講 多文化共生と世界遺産
第14講 神と祭り 一神教と多神教
第15講 まとめ
定期試験
(内容・順序を必要に応じて変更することがあります)

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストはありません。
必要に応じて資料を配付します。また、講義中に参考とする音楽・映像の視聴を行います。

担当者から一言
人文系列の枠組みを超えた学際的・総合的な講義内容になります。この講義では知識の獲得よりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。

日本史概論／歴史学	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAH1007	前学期	選択

岡 佑哉

授業のねらい

現代の国際秩序・国家体制・社会状況・価値観などは、すべて歴史的な背景のもとに形成されているが、歴史というと単なる「暗記科目」という印象を持つ人も多いと思われる。しかし、歴史学という学問は、常識にとらわれず通説を疑い、史料という根拠に基づき歴史上の人物・出来事・時代の捉え方を考察するものである。本講義は、日本史(特に近現代史)を中心に教養としての知識のみならず、歴史学という学問の意義を学習する。その際、教科書的な通説とあわせて近年の研究を紹介し、歴史には多様な捉え方が存在することを学ぶ。

到達目標

①教養としての歴史(本講義は日本史中心)の知識を身につける。②知識を活用し論理立てて記述をする力を身につける。③物事を複眼的・客観的に捉える力を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

①筆記試験、②出席が前提で、毎回提出のコメントペーパーなどの授業態度等の平常評価で行う。コメントペーパーは次の回の講義で、質問への回答や事実関係の確認を行うことで、学生の理解の向上につなげる。

事前・事後学習

①本講義は特に復習に力を入れてほしい。講義のプリントを熟読しつつ、板書内容を整理し次回の講義に備える。②歴史は現代の世界・日本の出来事と繋がっている。大学生として新聞を読むこと。(90分)

世界史概論	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAH1008	後学期	選択

李 修二

授業のねらい

近代19世紀以降の世界史は、私たちの現代社会に直接連なる歴史です。今日の政治制度、社会制度、経済体制などの重要で基本的な物事は、ほとんどこの19世紀以降の歴史の中で形成されてきました。そこで、この講義のねらいは、19世紀における幾つかの主要な国々の歴史を、主として経済の動きを中心に比較検討しながら順次学んでいくことです。さらに20世紀に入って、第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる時期における世界史の動向を概観し、20世紀前半の世界史と世界経済の流れを大づかみに理解することです。

到達目標

講義での到達目標は、①欧米を中心とした主要な国々の歴史を経済の動きを中心に比較しながら学ぶことによって、それらの国々の今日の社会・経済的な特徴の歴史的由来を理解すること、②20世紀に入ってからますます緊密になっていく世界各国の歴史を十分に理解することの2つです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎授業毎のミニツペーパーで50%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の筆記試験で50%評価します。(ミニツペーパーの評価基準はガイダンス時に説明。筆記試験時の持ち込みは不可。試験終了後、希望者には解答を公表します。)

事前・事後学習

毎回の授業後、ミニツペーパー(小レポート)を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。また、必ず前回分の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。(復習・予習、計60分以上)さらに、参考文献など授業内容に関連した歴史書を図書館などで毎週読書するようにしてください。(30分以上)

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

第1回 ガイダンス
第2回 日本文化のはじまり—縄文・弥生・古墳時代—
第3回 律令国家から王朝国家へ—飛鳥・奈良・平安時代—
第4回 武家政権の成立と展開—鎌倉・室町・戦国時代—
第5回 江戸幕府の支配体制—江戸時代—
第6回 討幕運動と明治新政府の成立—幕末・維新期—
第7回 国会開設運動と憲法制定—明治時代中期—
第8回 日清戦争と日露戦争—明治時代後期—
第9回 大正デモクラシー—大正時代—
第10回 満洲事変と「国家改造」運動—昭和戦前期—
第11回 日中戦争から日米開戦へ—昭和戦時期(1)—
第12回 アジア・太平洋戦争—昭和戦時期(2)—
第13回 戦後日本と象徴天皇制—昭和戦後期—
第14回 平成日本の政治と社会—現代—
第15回 講義の総括
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。毎回プリントを配布する。

担当者から一言

①遅刻厳禁。入室は認めない。プリントも配布しない。
②私語厳禁。
③スマホ・音楽プレーヤー・イヤホンははしまうこと。
④バイトなどと称した無断早退、トイレなどと称した無断退出厳禁。
⑤コメントペーパーの代筆厳禁。発見した段階で受講を認めない。不備(プリント・ウィキペディア・友人の丸写し)も平常点なし。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

第1講 ガイダンス 世界史概論の視角と課題
第2講 19世紀の世界の中心 ~イギリス(その1)
第3講 19世紀の世界の中心 ~イギリス(その2)
第4講 19世紀ヨーロッパの主要国1 ~フランス
第5講 19世紀ヨーロッパの主要国2 ~ドイツ
第6講 19世紀北アメリカの主要国 ~アメリカ
第7講 19世紀ユーラシアの主要国 ~ロシア
第8講 19世紀東アジアの新興国 ~日本
第9講 19世紀東アジアの王朝 ~中国
第10講 19世紀世界の典型的な従属地域 ~アイルランドとインド
第11講 19世紀世界史概論のまとめと20世紀世界史への展望
第12講 第一次世界大戦後1920年代の国際関係
第13講 1929年世界大恐慌
第14講 両大戦間期1930年代の混迷
第15講 第二次世界大戦期の戦後世界秩序の再建構想
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。
参考文献:
W・H・マクニール『世界史(下)』(中公文庫)
堺 憲一『あなたが歴史と出会うとき』(名古屋大学出版会)

担当者から一言

暗記に偏りがちな高校までの歴史学習とは違い、歴史の因果関係を理解することに歴史を学ぶ醍醐味があります。理解すること、意味を探ることの面白さを味わってください。それと共に、身に付いた世界史の教養そのものが、ちょっとした、人生の自信にもなるはずですよ。

地理学概論 磯野 巧	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAH1009	後学期	選択

授業のねらい
 地理学的な視点から、地球環境と人間活動との相互関係について解説する。その中で、地域を分析する方法(地図の読み方、図・表・写真の解釈など)を習得し、地域という観点から人間をとりまく多様な「環境」について考えることができるようになる。

到達目標
 地理学に関する基礎知識およびその運用能力を身につけ、地球環境と人間活動の相互関係を説明できる「地理学的なモノの見方」を習得すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 試験100% (論述形式)

事前・事後学習
 予習の必要はありません。授業内容の復習を重視して下さい(必要に応じて、毎授業の最後に発展的な学習に必要な参考文献やURLを提示します)

地誌 磯野 巧	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAH1010	後学期	選択

授業のねらい
 多様な地域の関係性や空間的スケールに着目しつつ、日本および世界の地域的特性および地域構造について説明する。その中で、地域概念について理解し、空間的スケールの相違に着目しながら日本および世界の地域的多様性とその諸相に関する知見を深めていく。

到達目標
 ある特定の地域の特性や構造を、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できるようになる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 試験100% (論述形式)

事前・事後学習
 予習の必要はありません。授業内容の復習を重視して下さい(必要に応じて、毎授業の最後に発展的な学習に必要な参考文献やURLを提示します)

授業の位置づけ
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

1. ガイダンス ー地理学とはー
2. 日本の国土・自然・生活①
3. 日本の国土・自然・生活②
4. 人口移動①(少子高齢化問題など)
5. 人口移動②(在留外国人, 移民問題など)
6. 産業と地域①
7. 産業と地域②
8. 農村地域の動態①(ツーリズム)
9. 農村地域の動態②(地域創生など)
10. 都市地域の動態①(都市とは/歴史的町並み)
11. 都市地域の動態②(コンテンツ, 聖地巡礼, 都市とツーリズム)
12. 観光地域の動態①(インバウンド・ツーリズムの基礎)
13. 観光地域の動態②(ナイトタイムエコノミー, 夜のツーリズム)
14. 観光地域の動態③(MICEと地域)
15. 観光地域の動態④(スポーツ・ツーリズム)

定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
 特になし。毎回プリント教材を配布します。地図帳を毎時持参して下さい。

担当者から一言
 地理学は我々の日常生活と密接にかかわり合う学問です。地理学の基礎を学び、身近な地域の性格や課題について考えてみましょう。

授業の位置づけ
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

1. ガイダンス ー地誌学とはー
2. 関東地方の地誌①(自然, 農業, 工業, 郊外化など)
3. 関東地方の地誌②(観光, 開発, 在留外国人, 人口動態など)
4. 近畿地方の地誌①(自然, 農業, 工業, 郊外化など)
5. 近畿地方の地誌②(伝統文化, 観光, 人口動態, 都市圏など)
6. 中部地方の地誌①(自然, 農業, 工業, 歴史, 郊外化など)
7. 中部地方の地誌②(観光, 交通, スポーツ, 山村集落など)
8. 三重県の地誌①(地域区分, 人口動態, 歴史, 工業, 環境など)
9. 三重県の地誌②(観光, 都市圏, 5地域の性格など)
10. 徳島県の地誌①(四国の概観, 人口問題, 交通など)
11. 徳島県の地誌②(徳島県の構造, 観光, 地域創生, ICTなど)
12. オーストラリア地誌①(自然環境, 歴史, 都市構造, 歴史, 移民など)
13. オーストラリア地誌②(ウルル・カタジュタ国立公園の観光と文化)
14. オーストラリア地誌③(地方都市, 貿易, 資源開発など)
15. オーストラリア地誌④(マイノリティ, インナーシティ問題, 多文化共生など)

定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
 特になし。毎回プリント教材を配布します。地図帳を毎時持参して下さい。

担当者から一言
 地誌学は地域の性格を相対的に理解するおらかな学問です。日本だけでなく世界各地の性格や構造、そして地域間の関係性を解明し、世界観を広げていきましょう。

科学的思考論 吉山青翔	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAN1001	後学期	選択

授業のねらい
 今日、国際社会で、日本が果たす役割が大きくなりつつあり、そして、近年、数多くの日本人科学者がノーベル賞を受賞しているに伴い、日本の科学、技術、さらに日本人の科学的な独創力と科学的思考方式はますます注目されています。
 本講義は、江戸時代における日本人の数学の思考様式と特徴、その形成と社会的創造風土の関係、さらに近代日本社会とのつながりを中心として日本人の科学的思考様式をさぐります。

到達目標
 日本人の科学的思考様式および科学上の発見と発明の特徴を歴史的に把握し、日本の科学技術に関する諸社会的問題に関する理解に思想的な基礎を据えることができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 中間テスト(30点)と期末テスト(70点)により総合評価。

事前・事後学習
 授業前に90分ほどをかけて指定された資料とテキストを予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて、配布された資料、自分が取ったノート、テキストを使って復習してください。

科学思想史 吉山青翔	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAN1002	前学期	選択

授業のねらい
 本講義は、近代西欧科学思想史を中心として、古代から近代までの科学史の通史の探求を通じて、自然科学の誕生過程と発展の特徴、科学的な宇宙観、および社会や宗教等との関係を探り、科学の本当の姿に迫ります。

到達目標
 自然科学の全体的な姿を歴史的に把握すること、また、科学技術と人間社会との関係や、近代社会にもたらす諸問題に関する思考、解決に導くための思想的な理論基礎を築くことができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 中間テスト(30点)・期末定期試験(70点)により総合評価。

事前・事後学習
 授業前に1時間半ほどをかけて指定された資料を読み、予習しておき、授業後にも1時間半ほどをかけて配布された資料と自分のとったノートを使って、授業の内容を復習してください。

授業の位置づけ
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 ガイダンス
 第2講 科学、技術、そして社会との基本的な関係
 第3講 日本における伝統科学と近代科学の構図
 第4講 日本の伝統天文学と医学、及びその基礎～中国の伝統天文学と医学
 第5講 日本で伝統科学と朝鮮の伝統科学との関連性
 第6講 日本数学の基礎1:中国の数学記号体系
 第7講 日本数学の基礎2:中国の代数学思想
 第8講 日本数学の基礎3:中国の方程式思想
 第9講 日本数学の伝統:遺題継承と算額奉掲
 第10講 日本の伝統的な数学記号体系:傍書法
 第11講 日本の伝統的な導関数:窮商
 第12講 日本の伝統的な極限法:増約術
 第13講 日本の伝統的な積分法:円理
 第14講 日本伝統科学の衰退と近代西洋科学の受容
 第15講 総括

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキスト
 王青翔(=吉山青翔)著『算木を超えた男～もう一つの近代数学と関孝和』(東洋書店、2004年第2刷発行)
 参考文献
 数内 清著『中国の数学』(岩波文庫)
 小倉金之助著『日本の数学』(岩波文庫)

担当者から一言
 1) 本講義は一般教養科目ですので、公務員試験など資格試験には直接役に立ちません。2) 授業中、パワーポイントなど電子機器を使わず、板書がやや多いので、ノートを取らない者は本講義には不向きです。

科学思想史 吉山青翔	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAN1002	前学期	選択

授業の位置づけ
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 ガイダンス
 第2講 古代オリエント科学の概観
 第3講 古代ギリシア科学の概観
 第4講 アリストテレスの自然学
 第5講 中世の科学と近代大学の誕生
 第6講 近代科学の開始:コペルニクスの地動説の成立
 第7講 地動説をめぐる科学と宗教の闘争:ガリレオ裁判
 第8講 万有引力法則の発見と近代力学の成立
 第9講 理髪師から近代解剖学へ
 第10講 血液循環説の確立と近代医学の成立
 第11講 酸素の発見と近代化学の成立
 第12講 進化論の確立と近代生物学の成立
 第13講 蒸気エネルギーの発見と産業革命、そして、近代環境問題の発生
 第14講 女性の自然科学領域への進出と環境科学の誕生
 第15講 総括

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキスト とくになし。授業の内容に合わせて参考資料を指定・配布します。

担当者から一言
 1) 本講義は一般教養科目ですので、公務員試験などの資格試験に直接役に立ちません。2) 授業中、必要時に資料を配布しますが、パワーポイントなど電子機器を基本的に使わず、板書の量が多くて、ノートを取らない者は本講義に不向きであります。

自然科学概論 田中伊知郎	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAN1003	後学期	選択

授業のねらい
個人を扱うのが文学で、ムラの人々のような集団を議論するのが社会学や文化人類学ですが、さらに大きな集会的な見方をするのが自然科学です。それは人間だけでなく、物質やその関係などの自然現象全体に広がります。そして、経済活動でも同じ動きが見られます。それらはどのように変化するかを説明します。

到達目標
文学のように個人を扱うだけでなく、集団としての見方を獲得します。さらに、たし算や掛け算などと違う自然の変化の仕方を見通す能力を身につけます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義内各単元の終わりに練習問題(実習:実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。実践課題40% 定期試験 60%

事前・事後学習
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

数学概論 小川 東	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAN1004	前学期	選択

授業のねらい
マルコフ連鎖の考え方は金融から遺伝学までのいろいろな場面で応用されています。ここでその入門として例題を中心に基礎的な概念を理解することを目標にします。またそのときに必要となる確率、行列の演算も学びます。

到達目標
(1)確率が使われる場面を知ること
(2)行列の簡単な演算が出来るようになること
(3)マルコフ連鎖について理解すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験により評価します。宿題を出した場合はその結果もプラスします。
3割を超えて欠席した学生には単位を認定しません。

事前・事後学習
講義内容のノートを見返して、不明な点をなどは参考文献で調べたりしてください(90分)。毎回、次回のキーワードを予告するので、下調べをしてください(90分)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス:自然観察の有益性
第2講 自然現象と人間の思いの違い
第3講 事実
第4講 仲間(人間社会)から自然へ
第5講 個別でなく集団で考える:集合(分類からの実習)
第6講 自然数から連続量へ
第7講 指数の導入:細菌の増殖
第8講 桁数と指数(計算実習)
第9講 日常の指数:複利と物価(計算実習)
第10講 借金と情報の非対称性(ローン計算実習)
第11講 客観的な関係である関数:一次関数と予測可能性の実習
第12講 指数関数:立ち上がりの早さ(グラフ作成実習)
第13講 プラトーの概念(グラフ作成実習)
第14講 繰り返すもの(周期)
第15講 関数の予測:差分から微分へ
定期試験 持ち込み不可

テキスト・教材(参考文献含む)
なし

担当者から一言
できるだけ日常的な言葉で説明します。実践課題の結果、理解の浅いところは、講義を修正して再度行い、より深い理解に努力します。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 確率(1)条件付き確率
第3講 確率(2)確率ツリー
第4講 行列の演算(1)加減乗除
第5講 行列の演算(2)逆行列
第6講 マルコフ連鎖
第7講 遷移行列のべき乗
第8講 例題
第9講 正則マルコフ連鎖
第10講 例題
第11講 吸収マルコフ連鎖
第12講 例題
第13講 極限行列
第14講 例題
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
テキスト:ありません。
参考文献:バーネット他・柳沼壽訳『初歩からの数学III 確率とマルコフ連鎖』(丸善出版、2015年)、2,600円。

担当者から一言
今年は簡単なマルコフ連鎖について話をします。確率、行列の計算など必要な事柄も話しますので、特に予備知識はいりません。いろいろな例題を楽しんでもらえたらと思っています。

化学概論／化学Ⅰ 牧田直子	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAN1005	前学期	必修

授業のねらい
基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付けることがねらいである。次に挙げる5項目は、担当教員が違っても共通に学ぶものであり、学ぶ時期や扱うテーマが教員によって異なる。①レポート作成、②プレゼンテーション（質疑応答を含む）、③文献・論文購読、④野外調査、⑤データ処理（表、グラフの作成）。
大八木・牧田が担当するクラスでは、水圏に関する自然分野を生物学と化学の両面から学びながら、上記5つのスキルの修得を目指す。

到達目標
「実験ノートへの記入を習慣化する」
「データ整理の方法を学ぶ（表、グラフの作成）」
「調査地の地図を作る」
「レポートの形式を学び、作成する」
基本的なことですが、重要です。必ず達成して下さい！

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
実験ノート:30%、レポート:50%、課題:20%
実験ノートは毎回、授業後に確認し、書き方の指導をする。
レポートは添削し、返却する。未完成のレポートは受け取らない。

事前・事後学習
(1)実験後は実験ノートに結果をまとめ、レポートを書く(90分)。
(2)課題に取り組む(30分)。

地学概論 森 康 則	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAN1006	前学期	選択

授業のねらい
環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害など実際の地学的事象を通じて学びます。

到達目標
地球の成り立ちやその構造を理解するとともに、それらを構成する岩石の特徴や、地震や火山などの活動に伴う地層の成り立ちなど、あらゆる地学的自然現象を網羅的に理解します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
(1)各回の講義時に回答シートを提出する
5点×15回=75点
遅刻・早退・私語等は減点対象とする
(2)定期試験 25点
計100点

事前・事後学習
講義は主に板書により進めていきます。各回の回答シートや定期試験の内容は、板書内容、あるいはそれに関連する内容を出題しますので、ノートをもとにした復習が重要です。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 ビオトープでのプランクトン採集
第3講 顕微鏡の使い方、ミニレポートの作成
第4講 ドローンをを用いた調査・体験
第5講 水田でのプランクトン採集
第6講 水質分析(1)
第7講 水質分析(2)
第8講 水質分析(3)
第9講 見学
第10講 プランクトンの観察と分類(低倍率中心)
第11講 プランクトンの観察と分類(高倍率中心)
第12講 観察できたプランクトンの確認
第13講 水質分析(4)
第14講 水質分析(5)
第15講 水質分析(6)

フォールドワークや、実験実習、グループワークを含むアクティブラーニング科目である。

テキスト・教材(参考文献含む)
参考資料:
田中正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会(2002年)定価:10,260円(税込)

担当者から一言
必ず実験ノートを用意して下さい。みんなで協力して実験しましょう。
…牧田

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 地球の構造と形状
第3講 三重県の地学
第4講 火成岩-火山岩と深成岩-
第5講 堆積作用と堆積岩
第6講 化石と地質年代1-先カンブリア代から古生代-
第7講 化石と地質年代2-中生代から新生代-
第8講 プレートテクトニクス
第9講 火山
第10講 地震
第11講 自然災害
第12講 地下水
第13講 大気と海洋
第14講 宇宙の中の地球
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
特になし

担当者から一言
高等学校で地学を履修していない学生がほとんどかと思っておりますので、高校地学を履修していないことを前提として講義を進めます。

生物学概論／生物学 田中伊知郎	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAN1007	前学期	選択

授業のねらい
自然科学のうち生物学が扱うことを、はっきりさせて行きます。まず、生物の活動に必要なエネルギーについて、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。

到達目標
人類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養うこと、人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか明らかにすることをこの講義の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義の各単元の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。
実践課題 60% 定期試験 40%

事前・事後学習
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

生物と進化 田中伊知郎	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GLAN1008	後学期	選択

授業のねらい
自然科学のうち生物学が扱う分野の視点をはっきりさせて行きます。まず、生物が、お互いに地球上でどのようなかわり合いを持って生きているのか明らかにしていきます(生態系)。次に、百万年単位の長い時間で見ると、生き物の生き方(姿かたちや行動パターン)は変わっていきます(進化)。特に、人類がどのように変化してきたのか明らかにしていきます。

到達目標
環境問題を考える上で、土台となる知識(生物のエネルギー生産・生態系)を養うこと、人間の生物としての特徴を進化の視点から明らかにすることをこの講義の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義の各単元の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。実践課題60% 定期試験 40%

事前・事後学習
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点や化石や遺跡などの画像を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス・自然に働きかける人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク)
第2講 生物のエネルギー：代謝
第3講 光合成：エネルギーの生産
第4講 呼吸：エネルギーの活用
第5講 生体物質：反応できる窒素
第6講 タンパク質：安定した生体物質
第7講 RNA：即時処理のための核酸(形を理解する実習)
第8講 遺伝的情報：安定した核酸であるDNA
第9講 遺伝子：DNA内の情報システム
第10講 遺伝子発現の情報処理
第11講 生物の環境応答：刺激の受容
第12講 生理的情報：刺激伝達と神経システム
第13講 生理的情報の統合：興奮と抑制
第14講 環境への反応：効果器の代表としての筋肉
第15講 行動：統合された反応
定期試験 持ち込み不可

テキスト・教材(参考文献含む)
なし

担当者から一言
生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われているが誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス・自然環境と人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク)
第2講 生態系：動物と植物の関係
第3講 生態系：草食動物と肉食動物
第4講 生態系：肉食動物と食物連鎖(海中)
第5講 生態系：疎水性物質の生物濃縮
第6講 生態系：環境との相互作用・日本の植生の特徴
第7講 生態系：採集狩猟社会と環境変化
第8講 生態系：農業の特徴
第9講 進化の定義
第10講 進化：化石から見た人類進化・骨の意味するもの(人類の特徴の作図実習)
第11講 進化：化石から見た人類進化・祖先の運動パターン(腕渡りの作図実習)
第12講 進化：直立二足歩行の起源(腕渡り)との関係の作図実習
第13講 進化：分岐年代
第14講 進化：核における情報管理
第15講 進化：ダイナミックな変化の示唆
定期試験 持ち込み不可

テキスト・教材(参考文献含む)
なし

担当者から一言
生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われているが誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。

環境論 吉山青翔	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAN1009	後学期	選 択

授業のねらい
この講義では、環境に関する基本的な概念と含意を明らかにしたうえで、環境問題史・環境運動史・環境思想史の探求を通して、受講者に環境問題の全体像を把握させ、環境問題の解決に対する基本的な思想的基礎を据えさせることを目指します。

到達目標
環境問題の全体像を把握し、自分の環境観の形成を期待することができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
中間テスト(30点)・期末定期試験(70点)により総合評価。毎回授業が終わる前に、授業の内容と質問に関するミニレポートを提出してもらい、次回授業でそれに基づいて再確認とコメントする。

事前・事後学習
授業前に次回の授業内容を確認し、それに関する指定、あるいは配布された資料を使って1時間半ほどをかけて予習しておき、授業後に自分の取ったノートと配布された資料を使って1時間半ほどをかけて復習してください。

心理学 田中伊知郎	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAN1010	後学期	選 択

授業のねらい
情報処理理論と自然科学に基づく認知心理学の視点から、私たちが外界から得る情報の特徴を解説します。この人類に特徴的な過程を明らかにすることと、もう一つ人類が普遍的に行っている「相手に理解してもらえらる情報伝達」とはどういうものかを進化の視点から明らかにすることを講義のねらいとします。

到達目標
生物として、および神経系の情報処理から生じる「表現と伝達における人類の特性」を理解してもらいます。また、単に情報を発信しても相手が理解することは稀です。人類の特性に基づく相手にわかってもらえる情報伝達の実践を到達目標にします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義中の実践課題 30% レポート 40% 定期試験 30%
講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。レポートはコメントをつけて以降の講義で返却します。

事前・事後学習
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを予習として調べてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス:環境論の仕組み及び課題
第2講 「自然」の定義と仕組み
第3講 「環境」の定義と仕組み
第4講 「文化」の定義と仕組み
第5講 「人間」の定義及び「自然」「環境」「文化」との関連性
第6講 環境に関する人類の認識1:ヒポクラテスによる医学上の見解
第7講 環境に関する人類の認識2:C. ダーウィンによる生物学上の見解
第8講 中間テスト
第9講 環境に関する人類の認識3:C. ベルナルによる生理学上の見解
第10講 環境に関する人類の認識4:C. ラツェルによる地理学上の見解
第11講 科学と技術の結合、及び蒸気エネルギーの発見
第12講 蒸気エネルギーの実用化と産業革命、及び近代環境問題の発生
第13講 環境に関してレイチェル・カーソンと「ローマ・クラブ」の警告
第14講 国連「人間環境宣言」と環境保護運動のグローバル化
第15講 総括:環境問題の解決に対する思想的基礎:環境倫理学

テキスト・教材(参考文献含む)
とくになし。随時に授業内容に関する予習などの資料を指定、配布します。

担当者から一言
この講義は板書がやや多いので、ノートを取ることが苦手な者には不向きです。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス・視覚情報:色彩 色の対処理
第2講 視覚情報:色彩 赤と青を同時に使わない(実習)
第3講 視覚情報:色彩 表現(映像・絵画)における補色の利用
第4講 資格情報:色彩 色鉛筆で絵を描きます(実習)
第5講 視覚情報:形 両眼視
第6講 視覚情報:形 アフォーダンス
第7講 視覚情報:アフォーダンス 実習1 ポケの効果
第8講 視覚情報:アフォーダンス 実習2 空気遠近を用いた作画(実習)
第9講 実験心理学からみた学習
第10講 個別学習と社会学習の違い
第11講 社会学習における課題
第12講 心の理論:人類における「教えること」の成立(レポート課題の配布)
第13講 心の理論:理解できるコミュニケーションの基礎となる同情
第14講 実験心理学の技法・統計:因子分析を例にして
第15講 レポート返却(コメント付き)・講評
定期試験 各自のコメントに関連した問題

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。

担当者から一言
教育は一方の情報発信でなく、双方向の情報通信によって達成されます。実践課題をすぐに評価するなど、みなさんの対応から授業の流れを機動的に変えて、よりよい理解を目指します。

キャリア基礎 I	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	岩崎祐・岡良・永井・本部・李・関根・田中伊・牧田・吉山 GECC1001	後学期	必修

授業のねらい
この科目では「キャリア基礎I」と「キャリア基礎II」の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎I」では、とりわけ就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方や地域の産業・経済、労働者の権利や大学生の雇用・求人の情勢などを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。

到達目標
以下の3つが目標です。
① 働く意義について考える。
② 就業環境について理解する。
③ 採用試験の基礎知識を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習
予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ
「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画
第1講 ガイダンス/キャリアをどう考えるか 9/28
第2講 課題と実習(社会人基礎力①) 10/5
第3講 課題と実習(社会人基礎力②) 10/12
第4講 知っておきたい採用試験の基礎① 10/19
第5講 知っておきたい採用試験の基礎② 10/26
第6講 働き方はどうなっているか 11/2
第7講 経営者によるキャリア講演会 11/9
第8講 課題と実習 11/16
第9講 知っておきたい採用試験の基礎③ 11/23
第10講 働く者の権利 11/30
第11講 知っておきたい採用試験の基礎④ 12/7
第12講 知っておきたい採用試験の基礎⑤ 12/14
第13講 大学生の雇用と求人の情勢 12/21
第14講 キャリアサポートセンターについて 1/4
第15講 まとめ 1/18

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言
就職は何より学生自身の問題です。主体的に取り組んでいただきたいと思えます。

キャリア基礎 I (公務員クラス)	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	高田晴美・中西紀夫 GECC1001	後学期	必修

授業のねらい
この科目では「キャリア基礎I」と「キャリア基礎II」の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。
「キャリア基礎I」では、公務員だけでなく一般企業も含めた就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方や地域の産業・経済、労働者の権利や大学生の雇用・求人の情勢などを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。

到達目標
以下の3つが目標です。
① 働く意義について考える。
② 就業環境について理解する。
③ 公務員試験、一般企業の採用試験の基礎知識を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習
予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ
「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画
第1講 ガイダンス/キャリアをどう考えるか
第2講 課題と実習(社会人基礎力①)
第3講 課題と実習(社会人基礎力②)
第4講 知っておきたい採用試験の基礎①
第5講 知っておきたい採用試験の基礎②
第6講 働き方はどうなっているか
第7講 知っておきたい採用試験の基礎③
第8講 公務員の職種について
第9講 知っておきたい採用試験の基礎④
第10講 働く者の権利
第11講 知っておきたい採用試験の基礎⑤
第12講 知っておきたい採用試験の基礎⑥
第13講 大学生の雇用と求人の情勢
第14講 キャリアサポートセンターについて
第15講 知っておきたい採用試験の基礎⑦

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言
公務員志望者のためのクラスです。引き続き、スキル科目「公務員養成ユニット」を全科目、開講年次通りに履修してください。自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいきましょう。

キャリア基礎Ⅱ	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GECC1002	前学期	必修

授業のねらい

この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。

「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生に対してその手法を学びながら自己分析・自己PRを作成します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。

到達目標

以下の4つの到達目標があります。

- ① 自己分析のさまざまな方法を習得し、実際に行ってみること。
- ② 自己PRの方法を学習し、自らの自己PRを考えてみる。
- ③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。
- ④ 採用試験の基礎を習得すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画

第1講	ガイダンス/自己分析のすすめ	4/13
第2講	自己分析実習①適性をみる	4/20
第3講	知っておきたい採用試験の基礎⑥	4/27
第4講	自己分析実習②過去の自分をふりかえる	5/11
第5講	自己分析実習③他者の意見を聞く	5/18
第6講	知っておきたい採用試験の基礎⑦	5/25
第7講	自己分析実習④未来の自分を考える	6/1
第8講	自己分析実習⑤自己PRを考える	6/8
第9講	知っておきたい採用試験の基礎⑧	6/15
第10講	業界・企業研究のすすめ	6/22
第11講	企業研究実習	6/29
第12講	知っておきたい採用試験の基礎⑨	7/6
第13講	履歴書・エントリーシートを書く(実習)①	7/13
第14講	履歴書・エントリーシートを書く(実習)②	7/20
第15講	知っておきたい採用試験の基礎⑩	7/27

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。

キャリア基礎Ⅱ(公務員クラス)	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GECC1002	前学期	必修

授業のねらい

この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。

「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生に対してその手法を学びながら自己分析・自己PRを作成します。あわせて公務員試験に備えた基礎学力の習得(「数的推理」の補足中心)をめざします。

到達目標

以下の4つの到達目標があります。

- ① 自己分析のさまざまな方法を習得し、実際に行ってみること。
- ② 自己PRの方法を学習し、自らの自己PRを考えてみる。
- ③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。
- ④ 採用試験の基礎を習得すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画

第1講	ガイダンス/自己分析のすすめ	4/13
第2講	自己分析実習①適性をみる	4/20
第3講	知っておきたい採用試験の基礎⑧	4/27
第4講	自己分析実習②過去の自分をふりかえる	5/11
第5講	自己分析実習③他者の意見を聞く	5/18
第6講	知っておきたい採用試験の基礎⑨	5/25
第7講	自己分析実習④未来の自分を考える	6/1
第8講	自己分析実習⑤自己PRを考える	6/8
第9講	知っておきたい採用試験の基礎⑩	6/15
第10講	業界・企業研究のすすめ	6/22
第11講	企業研究実習	6/29
第12講	知っておきたい採用試験の基礎⑪	7/6
第13講	履歴書・エントリーシートを書く(実習)①	7/13
第14講	履歴書・エントリーシートを書く(実習)②	7/20
第15講	知っておきたい採用試験の基礎⑫	7/27

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

公務員志望者のためのクラスです。引き続き、スキル科目「公務員養成ユニット」を全科目、開講年次通りに履修してください。自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいきましょう。

キャリア基礎Ⅲ	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	岩崎祐・岡良・永井・本部・関根・田中伊・廣住・牧田・吉山	GECCI003	後学期 選択

授業のねらい
 キャリア基礎Ⅲでは、具体的な就職活動を想定し、企業説明会・エントリー・面接など、ひとつおりの就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。

到達目標
 模擬的な就職活動を行うことによって以下の5つの能力を養うことが目標です。
 ① キャリア基礎Ⅱで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること
 ② 就職活動を行うための経済・社会・企業の情報収集方法を身につけること
 ③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること
 ④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと
 ⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
 課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習
 予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
 復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ
 「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画
 第1講 ガイダンス/グループディスカッション① 9/28
 第2講 グループディスカッション② 10/5
 第3講 グループディスカッション③ 10/12
 第4講 日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか 10/19
 第5講 新聞を読む(日本経済新聞社) 10/26
 第6講 新聞を読む(実習) 11/2
 第7講 ビジネスマナー①(面接) 11/9
 第8講 模擬合同企業説明会 11/16
 第9講 エントリーシートの作成① 11/23
 第10講 模擬面接(実習)① 11/30
 第11講 模擬面接(実習)② 12/7
 第12講 ビジネスマナー②(書類の送付、メール・電話対応)① 12/14
 第13講 プレゼン面接(実習)② 12/21
 第14講 プレゼン面接(実習) 1/4
 第15講 まとめ 1/18

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキストはクラス担当教員から配付します。
 毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言
 3年生では就職ガイダンスがはじまります。ここで勉強したことを生かして、失敗を恐れず行動することが何より重要です。果敢にチャレンジしてください。

キャリア基礎Ⅲ(公務員クラス)	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	高田晴美・中西紀夫	GECCI003	後学期 選択

授業のねらい
 「キャリア基礎Ⅲ」では、具体的な就職活動を想定し、情報収集・エントリー・面接など、ひとつおりの公務員や一般企業の就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。

到達目標
 模擬的な就職活動を行うことによって以下の5つの能力を養うことが目標です。
 ① キャリア基礎Ⅱで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること
 ② 就職活動を行うための経済・社会・企業の情報収集方法を身につけること
 ③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること
 ④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと
 ⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

事前・事後学習

授業の位置づけ
 「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画
 第1講 ガイダンス/グループディスカッション① 9/28
 第2講 グループディスカッション② 10/5
 第3講 グループディスカッション③ 10/12
 第4講 日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか 10/19
 第5講 新聞を読む(日本経済新聞社) 10/26
 第6講 新聞を読む(実習) 11/2
 第7講 ビジネスマナー①(面接) 11/9
 第8講 模擬自治体研究と情報収集 11/16
 第9講 エントリーシートの作成① 11/23
 第10講 模擬面接(実習)① 11/30
 第11講 模擬面接(実習)② 12/7
 第12講 ビジネスマナー②(書類の送付、メール・電話対応)① 12/14
 第13講 プレゼン面接(実習)① 12/21
 第14講 プレゼン面接(実習)② 1/4
 第15講 まとめ 1/18

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキストはクラス担当教員から配付します。
 毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

ボランティア活動 a・b 松井真理子	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GESC1001	前学期	選択

授業のねらい
障害がある人、子どもなどを支援する活動、災害救援活動、環境保全活動など、地域にはさまざまな社会貢献活動が行われています。これらの活動にボランティアとして参加することは、机上の学習では把握できない生きた学びの機会となるとともに、ともに支えあう地域社会づくりに貢献するなど、大きな意義を持っています。四日市大学では、多くのが学生の参加促進のため、一定の時間参加した場合は、所定の手続きを経て単位認定します。
*ボランティア活動 a の単位修得後、b を取得します。

到達目標
1 現場体験を通じて、社会の様々な課題を深く理解すること。
2 主体的な行動力を身に着けること。
3 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身に着けること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定します。
評価は「認(認定)」となります。(履修制限単位に含まれない)
提出したレポートについて、希望により面談やコメントをします。

事前・事後学習
(事前)参加する活動や団体に関する情報を収集し、よく内容を理解しておくこと。(90分)
(事後)学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと(90分)

国際協力研修／青年海外協力研修
岩崎祐子

国際協力研修／青年海外協力研修 岩崎祐子	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GESC1003	後学期	選択

授業のねらい
青年海外協力隊、NGO(非政府団体)、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。

到達目標
1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。
2 国際感覚を身に付けます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌(様式自由)・レポート(1200字以上)を提出すること。大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書(様式自由)および活動日誌(様式自由)・レポート(1200字以上)を提出すること。
レポートは、研修・活動の成果、全体の感想などが明記され、研修・活動の経験を今後どう活かすかについて言及すること。

事前・事後学習
事前：参加する活動や団体に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと(90分)
事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも目を通すこと(90分)

授業の位置づけ
「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授業計画
1 対象となる活動
①ボランティアセンターで紹介するボランティア活動
②別に大学の審査により認められたボランティア活動
2 単位認定に必要な活動時間
実労働時間60時間以上
(複数の活動や、年度を超えた活動でもかまいません。)
3 活動時期
授業や大学行事に支障がないと判断される時期
4 事前申請
単位認定を希望する場合は、参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」(教学課にあります)を教学課に提出してください。
(ボランティアセンターが紹介したボランティア活動については不要です。)
5 単位認定申請
実労働時間が60時間が予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出してください。(卒業年度の1月末日まで)
①ボランティア活動 a 単位認定申請書
②ボランティア活動団体発行の証明書
③活動日誌・レポート(様式自由、1000字程度)

テキスト・教材(参考文献含む)
なし

担当者から一言
ボランティアセンターのボランティア情報を活用するほか、これ以外のボランティア活動の紹介もします。積極的に参加されることを期待しています。

授業の位置づけ
「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授業計画
第1講 ガイダンス(集中講義期間)
第2講 事前研修(集中講義期間)
第3講 事前研修(集中講義期間)
第4講 海外現地研修
第5講 海外現地研修
第6講 海外現地研修
第7講 海外現地研修
第8講 海外現地研修
第9講 海外現地研修
第10講 海外現地研修
第11講 海外現地研修
第12講 海外現地研修
第13講 海外現地研修
第14講 海外現地研修
第15講 海外研修の振り返り
※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。
・四日市大学では、タイ・スタディツアーを2021年2月に実施予定です。期間は1週間、海外研修に関わる説明会には参加してください。
・大学外の海外研修・海外協力活動への参加の場合には、事前申請を行ってください。
第2講～第15講 ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク

テキスト・教材(参考文献含む)
四日市大学の海外研修の場合、研修国、研修訪問先(団体、プロジェクト)に関する資料を配布します。

担当者から一言
四日市大学の研修参加希望者は学内で開催する説明会に必ず参加してください。研修終了後は、自分はいかに活動を継続的に関わることができるか考えてください。
大学の研修では、時期・研修国が決まっています。自分の希望に合わせて、関心のある研修先を探して(事前申請をして)海外研修とすることができます。

インターンシップ 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GESCI004	前学期	選 択

授業のねらい
大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。
■インターンシップを履修するための条件
・3か月以上のアルバイトの経験(週2日以上)の定期アルバイト)があること
・基本的なマナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと
・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること

到達目標
正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。

事前・事後学習
講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。

データ分析の基礎 小川 東	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSSR1003	前学期	選 択

授業のねらい
複雑な現代社会を読み解く方法のひとつに、数量データを用いた多変量解析がある。本講義では多変量解析の基本的な考え方や代表的な技法の本質を理解し、それらを活用するための基礎力を身につけることを目的とする。できるだけself-containedな講義にするために、必要となる数学の基礎を統計処理を意識しながら最初にまとめ、受講者の便を図る。

到達目標
回帰分析、分散分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析など、多変量解析の基礎を理解すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験で評価します。なお、3割を越えて欠席した学生には単位を認定しません。

事前・事後学習
背景となる数学の知識を復習してください(90分)。毎回、次回の講義のキーワードを予告しますので、調べておいてください(90分)。

授業の位置づけ
「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授業計画
★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること
★詳細は、履修要綱に記載
4月：説明会(CSC主催)・・・スケジュール詳細説明/申込用紙配布
4月末：申込用紙を提出 ⇒ 書類選考の合格者を発表
5月中旬～下旬：面接 ⇒ 面接の合格者を発表
5月下旬：ガイダンス・・・受入企業一覧配付/希望研修先用紙配付/事前研修についての連絡等
6月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定
7月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等
7月下旬：直前ガイダンス・・・研修中の諸注意/事後研修についての連絡等
8～9月上旬：インターンシップ研修
11月：事後研修・・・レポート提出
12月頃：単位認定
*春期休業期間等にインターンシップ研修を行う場合のスケジュールなどは、担当教員が個別に対応する。

テキスト・教材(参考文献含む)
なし

担当者から一言
明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないでほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 数学の基礎
第3講 微分と積分
第4講 行列と行列式
第5講 統計の基礎知識の復習
第6講 重回帰分析1 回帰分析の考え方、重回帰分析の必要性を理解する
第7講 重回帰分析2 重回帰分析における変数の選択の手法とや結果の読み方や考え方を理解する
第8講 二項ロジスティック回帰分析 二項ロジスティック回帰分析の考え方や結果の読み方を理解する
第9講 分散分析 一元配置分散分析について手法と分析評価について検討する
第10講 三重クロス表 三重クロス表の考え方や結果の読み方を理解する
第11講 主成分分析 主成分分析の考え方、分析結果の読み方と解釈を理解する
第12講 因子分析 因子分析の考え方、分析結果の読み方と解釈を理解する
第13講 クラスター分析1 類似度、距離、順位データなどクラスター分析の基礎を理解する。
第14講 クラスター分析2 クラスターを構成するアルゴリズムを考える
第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
テキスト:ありません。
参考文献:
(1)久保川達也・国友直人『統計学』東京大学出版会、2016年、2,800円。
(2)浅野照彦『入門多変量解析の実際』ちくま学芸文庫、2018年、1,296円。

担当者から一言
多変量解析にはベクトルや行列の知識が必須ですので、線型代数の講義や自分に合った数学の本で基礎を固めておくのがいいでしょう。

統計的分析／環境の数理 1 小川 東	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSSR1004	後学期	選択

授業のねらい
統計的推定と検定とについて詳しく学びます。

到達目標
(1)母平均、母比率の推定の原理を理解すること
(2)平均値、比の検定の原理を理解すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験により評価します。講義中に小テストを行った場合はその結果もプラスします。
3割を超えて欠席した学生には単位を認定しません。

事前・事後学習
背景となる数学の知識を復習してください(90分)。毎回、次回の講義のキーワードを予告しますので、調べておいてください(90分)。

データ解析の技法 小川 東	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSSR1006	後学期	選択

授業のねらい
複雑な現代社会を読み解く方法のひとつに、数量データを用いた多変量解析がある。本講義では多変量解析の基本的な考え方や代表的な技法の本質を理解し、それらを活用するための基礎力を身につけることを目的とする。できるだけself-containedな講義にするために、必要となる数学の基礎を統計処理を意識しながら最初にまとめ、受講者の便を図る。

到達目標
重回帰分析、分散分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析など、多変量解析の基礎を理解すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験により評価します。講義中に宿題などを出した場合はその結果もプラスします。
3割を超えて欠席した学生には単位を認定しません。

事前・事後学習
背景となる数学の知識を復習してください(90分)。毎回、次回の講義のキーワードを予告しますので、調べておいてください(90分)。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2項 正規分布
第3講 二項分布と正規分布
第4講 標本の抽出、標本平均の分布
第5講 標本平均の分布と正規分布
第6講 母平均の推定
第7講 母比率の推定
第8講 仮説検定
第9講 帰無仮説と対立仮説
第10講 有意水準
第11講 2種類の過誤
第12講 両側検定と片側検定
第13講 母平均の検定
第14講 比の検定
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
テキスト:ありません。
参考文献:宮川公男『基本統計学』有斐閣(2015年)2,800円。

担当者から一言
統計学の基礎に関する科目を受講することをすすめます。受講生の理解度の応じて進度を変更します。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力と選択なるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス～多変量解析とは
第2講 数学の復習
第3講 平均値、分散、共分散
第4講 正規分布
第5講 標準化
第6講 回帰分析(1)回帰分析とは
第7講 回帰分析(2)平面の当てはめ
第8講 回帰分析(3)例
第9講 主成分分析(1)主成分分析とは
第10講 主成分分析(2)主成分分析の式
第11講 主成分分析(3)例
第12講 因子分析(1)因子分析とは
第13講 因子分析(2)因子分析の式(行列表現)
第14講 因子分析(3)例
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
テキスト:ありません。
参考文献:久保川達也・国友直人『統計学』東京大学出版会,2016年、2,800円。

担当者から一言
多変量解析にはベクトルや行列の知識が必須ですので、線型代数の講義や自分に合った数学の本で基礎を固めておくのがいいでしょう。

公務のための数的推理 高田晴美	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GSP01001	後学期	選択

授業のねらい
皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員1次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、殆どが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理の殆どのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。

到達目標
1 数的推理の出題パターンとその解法を知る。
2 今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の小テスト 30%
定期試験(資料持ち込み不可) 70%
授業時に行う小テストに関しては、テスト実施直後に解説を行います。

事前・事後学習
次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。
・講義で扱った問題の解きなおし(90分)
・講義では飛ばした問題を解く(90分)
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

公務のための判断推理 高田晴美	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GSP01002	前学期	選択

授業のねらい
公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありませんが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要があります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。

到達目標
1 判断推理の解法を一通り身に付ける。
2 論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。
3 今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の小テスト 30%
定期試験(資料持ち込み不可) 70%
授業時に行う小テストに関しては、テスト実施直後に解説を行います。

事前・事後学習
次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。
・講義で扱った問題の解きなおし(90分)
・講義では飛ばした問題を解く(90分)
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、整数の性質
第2講 比と割合
第3講 方程式と不等式①
第4講 方程式と不等式②
第5講 濃度
第6講 仕事算、ニュートン算
第7講 年齢算、平均算など
第8講 集合
第9講 速さ①
第10講 速さ②
第11講 場合の数
第12講 確率
第13講 剰余系の問題
第14講 n進法
第15講 数列
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト プラス 数的推理/資料解釈 第2版』エクシア出版(2019年)1,650円

担当者から一言
この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、順序関係
第2講 順序関係
第3講 位置関係
第4講 対応関係
第5講 試合
第6講 数量関係
第7講 命題と論理
第8講 真偽
第9講 暗号と規則性
第10講 操作・手順
第11講 パズル問題
第12講 移動と軌跡
第13講 立体図形
第14講 展開図
第15講 サイコロと位相
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト プラス 判断推理 第2版』エクシア出版(2019年)1,650円

担当者から一言
この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

公務のための現代文 高田晴美	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GSP01003	後学期	選択

授業のねらい
公務員試験科目のうちの「文章理解(国語分野)」の「現代文」と「資料解釈」の2科目について、問題演習を行います。「文章理解(国語)」では出題パターンの紹介とともに、どういうところに着目すべきかを解説します。「資料解釈」は出題数は少ないですが、出題タイプが限られるので、対策を取れば確実に得点源にできます。採用試験だけでなく、その後の公務員の仕事にも必要な能力でもありますから、得意科目にしていきたいと思います。

到達目標
1 「文章理解(国語分野)」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。
2 「資料解釈」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の小テスト(漢字) 30%
定期試験(資料持ち込み不可) 70%
小テストに関しては、毎回、実施直後に要注意ポイントを解説します。

事前・事後学習
次週の講義までに、前の週でやった単元(授業でやったあたり)について、以下のことをしておくこと。
・(特に「資料解釈」では)講義で扱った問題の解きなおし(90分)
・講義では飛ばした問題を解く(90分)
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。
上記に加えて、毎回の漢字テストの対策をすること。

公務のための政治学 小林慶太郎	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSP01004	後学期	選択

授業のねらい
わたしたちが、役所の人(公務員)に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょうか。そしてその背景には、どのような国の仕組みや歴史があるのでしょうか。
この授業ではこうした、地域で公務員につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします。

到達目標
市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。
・講義時に指示する小テストの提出状況:30%
・定期試験(持込不可):70%
毎回実施する小テストは、回収・採点し、次回の授業時に返却・解説を行います。

事前・事後学習
必ず予習・復習(各90分)をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、現代文①——内容把握
第2講 現代文②——内容把握
第3講 現代文③——要旨把握
第4講 現代文④——要旨把握
第5講 現代文⑤——文章整序
第6講 現代文⑥——文章整序
第7講 現代文⑦——空欄補充
第8講 資料解釈①——実数
第9講 資料解釈②——実数
第10講 資料解釈③——割合・構成比
第11講 資料解釈④——割合・構成比
第12講 資料解釈⑤——指数・増加率
第13講 資料解釈⑥——指数・増加率
第14講 資料解釈⑦——特殊な問題
第15講 資料解釈⑧——特殊な問題
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
● 瀧口雅仁『公務員試験 文章理解 すぐ解ける〈直観ルール〉ブック』実務教育出版(2011年)1,600円+税
● 畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト プラス 数的推理/資料解釈 第2版』エクシア出版(2019年)1,650円(「公務のための数的推理」と同テキスト)

担当者から一言
この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、特に「資料解釈」は真面目学習しないと得点できず、単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス:この授業の進め方
第2講 三権分立と法の支配
第3講 議院内閣制
第4講 国会
第5講 内閣
第6講 官僚制と行政
第7講 裁判所
第8講 地方自治
第9講 直接請求権
第10講 選挙
第11講 政党政治
第12講 政治理論
第13講 各国の政治制度
第14講 国際政治
第15講 時事問題
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂第2版]」実務教育出版(2018年)1,404円(税込)
※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。

担当者から一言
遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

公務のための経済学 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSPO1005	後学期	選 択

授業のねらい
この講義では、公務員や金融機関、大学院などをを目指す学生に対して、経済学の知識をわかりやすく伝授する。具体的には、職業人として必要な経済を見る力を身につけることと、企業の就職試験や公務員の教養試験における経済学分野の問題を解くための勉強を行う。できる限り、受験テクニックだけでなく、実際の社会の仕組みについても学ぶ。

到達目標
経済学の基本的知識を理論的に理解し、試験問題の解答を導き出す能力を身につけることが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業を理解した上で課題（8回を予定）を提出することが、単位認定の最低条件。その上で、課題50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。

事前・事後学習
指示した練習問題にトライして、理解できない問題は次回の講義で質問できるように準備しておくこと。8回の課題には、各3時間ほどを要するので、計画的に取り組むこと。この講義は、全学共通教育科目の「経済学」単位取得後の受講が好ましい。

公務のための法学 中西 紀夫	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSPO1006	前学期	選 択

授業のねらい
公務員試験対策の法学という形ではありますが、法理論や法制度の基礎的知識はもちろんのこと、憲法上の権利等も問題を解きながら認識を深めていきます。本講義では、大卒程度の警察官や消防官を対象としたテキストを使用しますが、必要に応じて市役所等の試験に出題される問題にも対応したいと思います。当然、たくさん問題を解いていきますが、答え合わせでも出来るだけ分かりやすい解説になるように工夫をしていきたいと思っています。

到達目標
法学や憲法の基本的な内容を論理的に理解したうえで、公務員試験の問題に対応できる能力を身につけることです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小テスト 30% : 授業中に行う小テストは採点をして2週間以内に返却します。受講態度等も含まれます。
定期試験 70% : 択一式や用語を書く問題が中心で、テキストや資料等の持込は不可です。
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習
その日に扱う内容は出来るだけテキストを事前に読んでおくと、もう一度説明を聞くことで更に頭に入りやすいですし問題の正解率も上がりますので、是非、お願いしたいと思います。ニュース、新聞記事のチェックも忘れないようにしましょう。(毎回の予習90分と復習90分)

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

- 授業計画**
1. ガイダンス(基礎数学復習と一次関数の演習問題) <課題①>
 2. 無差別曲線と消費者の行動①
 3. 無差別曲線と消費者の行動② <課題②>
 4. 企業の行動①
 5. 企業の行動② <課題③>
 6. 需要の価格弾力性①
 7. 需要の価格弾力性② <課題④>
 8. 市場メカニズムと安定性
 9. 比較優位の理論① <課題⑤>
 10. 比較優位の理論②
 11. 財政政策・金融政策① <課題⑥>
 12. 財政政策・金融政策②
 13. 公共財の供給① <課題⑦>
 14. 公共財の供給②
 15. その他の経済学の問題演習 <課題⑧>

テキスト・教材 (参考文献含む)
資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂第2版]」実務教育出版(2018年)1,404円(税込)
※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。

担当者から一言
公務員試験・社会科学系大学院では、経済学の知識は必須である。内容はとても難しいが、パワーポイントなどで分かりやすく解説する。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス
 - 第2講 法の特質、法の分類、法の支配、法の解釈
 - 第3講 大日本国憲法と日本国憲法の特徴、国民主権、平和主義、憲法改正の手続き
 - 第4講 人権の発達、基本的人権の原理
 - 第5講 日本国憲法における基本的人権の種類
 - 第6講 人権の享有主体性、平等権、自由権、社会権
 - 第7講 参政権と請求権、新しい人権と国民の義務
 - 第8講 要約(これまでの確認)
 - 第9講 民法、刑法、その他の法律
 - 第10講 主な社会学者とその業績、社会集団の分類、現代社会の諸特質
 - 第11講 労働三権、労働三法、近年の労働事情と労働問題
 - 第12講 社会保障、高齢社会、少子社会
 - 第13講 地球環境問題
 - 第14講 資源・エネルギー問題
 - 第15講 要約(これまでの確認)
- 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂第2版]」実務教育出版(2018年)1,300円+税(価格) 必要に応じて、プリントでも補足します。
※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。

担当者から一言
授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

公務のための人文科学 李 修二	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSPO1007	前学期	選択

授業のねらい
非常に幅広い人文科学の知識を、問題演習を通じて効率良く学び、それによって、どこでも通用するような、この分野の基礎知識を身に付けることをねらいとした授業です。公務員試験を目指す学生のみならず、様々な業種の就職試験などで課せられる一般教養の知識をできるだけ身に付けておきたいような学生にも適した授業となるはずです。

到達目標
幅広い人文科学の知識を、それらの意味も十分に理解したうえで確実に身に付けることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎授業のミニッツペーパーで50%評価し、学期末の筆記試験で50%評価します。(ミニッツペーパーの評価基準はガイダンス時に説明します。)

事前・事後学習
毎回の授業後、ミニッツペーパー(小レポート)を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。そのため、授業の復習に30分以上、予習に60分以上かける必要があるでしょう。

公務のための自然科学 高田晴美	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	GSPO1008	前学期	選択

授業のねらい
公務員試験の「自然科学」の内容は、「物理」「化学」「生物」「地学」「数学」(高校数学)です。これらは特に文系の受験生にとっては元々知識があまりないため学習困難なのですが、丸々捨てるわけにもいきません。しかし、的を絞って学習すれば、それなりに得点をできるようにはなれます。この講義では、自然科学の頻出テーマについて、特に自力では学習しづらい単元を中心に、広く浅く知識のインプットをした上で、過去問の演習を行います。

到達目標
公務員試験の自然科学の問題のうち、簡単なものなら解ける程度の知識、学力を身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験(資料持込不可) 70%
課題 30%
課題に関しては、講義で解説も行います。

事前・事後学習
次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。
・講義で扱った問題の解きなおし(90分)
・講義では飛ばした問題を解く(90分)
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

- 授業計画**
1. ガイダンス
 2. 日本史①
 3. 日本史②
 4. 日本史③
 5. 世界史①
 6. 世界史②
 7. 世界史③
 8. 世界史④
 9. 地理①
 10. 地理②
 11. 地理③
 12. 思想
 13. 文学・芸術①
 14. 文学・芸術②
 15. 国語
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文科学 改訂第2版 実務教育出版 2018年 1,300円+税

担当者から一言
あきらめずに最後までやり抜くことが大事です。やり終えた後、必ず何がしかの自信が湧いてくることでしょう。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス、物理①
 - 第2講 物理②
 - 第3講 物理③
 - 第4講 物理④
 - 第5講 地学①
 - 第6講 地学②
 - 第7講 地学③
 - 第8講 地学④
 - 第9講 生物①
 - 第10講 生物②
 - 第11講 生物③
 - 第12講 生物④
 - 第13講 化学①
 - 第14講 化学②
 - 第15講 化学③
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 自然科学 改訂第2版』実務教育出版(2018年)1,404円(税込)
その他、適宜プリントを配布。

担当者から一言
この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

公務のための英文理解 ゴードン・リース	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSP01009	後学期	選 択

授業のねらい
現在、日本では、公務員試験のための決まった英語カリキュラムは存在しない。この講座では公務員試験によく出るテーマ、自然科学、経済、社会、についての英語の記事を毎回読んで、ディスカッションを行います。そのため、Facts and Figures というテキストを採用しました。

到達目標
1. 英語の読解力を向上させる。
2. 英語の語彙を増やす。
3. 地図を通して世界の地理や歴史を英語で理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
学習態度 15%
単語ブック・小テスト 25%
レポート 20%
プレゼンテーション(1) 20%
定期試験 20%
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習
1. 講座が始まる前に資格英語や基礎英語I and II のテキストを復習する。
2. プリントを配布するので、ファイル(A4)を用意する。
3. Spend 90 minutes reviewing the textbook exercises, class handouts and reading the article aloud from the previous lesson. In addition, try and spend about 90 minutes reading ahead in the text and looking up vocabulary words that you are unfamiliar with.

公務のための論文・面接 小林慶太郎	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	GSP01010	前学期	選 択

授業のねらい
わたしたちが、役所の人(公務員)に何かをして貰おうとする時、それはどのように伝えられ、どのように進められるのでしょうか。どのように伝えれば、間違いが生じにくいのでしょうか。
この授業では、こうした地域で公務につく際に必要となってくるコミュニケーションスキルについて、学生諸君が、実際に小論文を書いたり面接の練習をしたりしながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします。

到達目標
市役所・警察・消防等の公務員採用試験の論文や面接試験を、確実にクリアできる程度のスキルを身につけることが、この授業の到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。
・課題等への取り組み状況:45%
・講義時に指示する宿題の提出状況:30%
・受講態度:25%
提出された論文は、毎回添削して返却します。

事前・事後学習
毎回宿題を課しますので、必ずやってきてください(60分)。なお、より良い論文や面接への応答のためにも、出来るだけ、日頃から、テレビや新聞のニュースに目を通し、社会に広く目を向けることを心掛けてください(毎日20分以上)。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
1. Guidance/Course Introduction
2. An Australian Surprise: The Koala Bear
3. A Gold Swimmer
4. The Dolphin
5. Why Do We Yawn?
6. Happy Medicine
7. Dream a Little Dream
8. Bamboo
9. The Everyman Food
10. The Green Power: Kiwifruit
11. Student presentations and reports
12. Old Time Rock'n Roll
13. A Rapper's Dream
14. The Most Exciting Job in the World
15. Review
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
New Reading and Vocabulary Development: Facts and Figures 1- Student book with audio cd
Patricia Ackert
Cengage Learning
3,270 yen

担当者から一言
皆さんと楽しく授業をしたいです。以下のルールを守って下さい。1. 授業にテキストとプリントを整理するためのファイルを持ってこない学生は欠席扱いになる。2. 英和辞典を持参する。3. 5回以上欠席すると単位がもらえない。履修者が24名を超えた場合は抽選となります。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス:この授業の進め方
第2講 文章の書き方(実習)
第3講 面接の心構え(実習)
第4講 論文のテーマ(実習)
第5講 面接の態度(実習)
第6講 論文の構成(実習)
第7講 面接での性格PR(実習)
第8講 論文の文体(実習)
第9講 面接での志望動機(実習)
第10講 論文の論旨(実習)
第11講 面接での経験PR(実習)
第12講 論文の論拠(実習)
第13講 集団面接での受け答え(実習)
第14講 論文のまとめ方(実習)
第15講 集団討論(実習)

テキスト・教材(参考文献含む)
なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります)

担当者から一言
この講義は、公務員試験に間に合うよう、6月上旬までの期間に集中して週2回実施します。履修の際には注意してください。なお、履修する以上は、真剣な態度で受講して下さい。

ビジネスマナー 岡 良浩	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GSHM1001	前学期	選択

授業のねらい
本講義は、おもてなし経営ユニット全体の導入にあたる授業です。おもてなし経営として、何より重要なのは、お客様との接し方です。コミュニケーションには言葉(言語)以外に、身ぶり・手ぶりといった非言語コミュニケーションも含まれます。実はコミュニケーションの要素としては非言語のコミュニケーションのほうが重要です。さらにコミュニケーション技術以前に、おもてなしをしようとする精神がなにより大事とも言われます。この授業ではこのようなコミュニケーションの基礎としてのビジネスマナーを学びます。

- 到達目標**
本講義の到達目標は以下の3点です。
1. 人間関係としてのマナーの基礎を習得すること
 2. 言語としての敬語を適切に使えるように習得すること
 3. 上記を通じて適切なコミュニケーションの基礎を理解すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業での参加態度および課題の提出状況50%、定期試験50%
課題は講義の振り返りとして課します。課題は採点して返却します。

事前・事後学習
予習: テキストで指定する範囲を読んでおくこと。(90分)
復習: 授業中に配布する理解度テストを行うとともに復習すること。(90分)
留学生はN1向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身に付けておくことが望まれます。

サービス経営論 岡 良浩	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GSHM1002	後学期	選択

授業のねらい
この講義はサービス業を念頭においた経営の基礎を学びます。日本では、経済に占めるサービス業の割合が年々増加しておりGDPの3/4を占めると言われています。サービス業は、製造業と違って、形のない扱いにくい性質を価値として販売するため、仕組み自体が製造業とは異なります。本講義では、このようなサービスの経営学を総合的に学びます。また初年次の受講者が多いことから、大人の考え方の基礎としての「7つの習慣」についても副読します。

- 到達目標**
以下の3つを目標とします。
1. サービス業の特徴を理解すること。
 2. サービス業の経営の特徴を理解すること。
 3. ホスピタリティ・おもてなしについて理解すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への参加態度(含む講義中の小レポート)20%
期末試験 80%
小レポートはコメントをつけて返却します。

事前・事後学習
予習: 資料を読んで理解しておくこと(90分)
復習: 小テストの実施(90分)

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

第1講	4/13	ガイダンス(岡)
第2講	4/20	人間関係づくり①コミュニケーションゲーム(長野)
第3講	4/27	人間関係づくり②コミュニケーションとは(石田)
第4講	5/11	人間関係づくり③パフォーマンス学(石田)
第5講	5/18	人間関係づくり④話し方・聞き方・考え方(木村)
第6講	5/25	一般的なマナー①敬語(木村)
第7講	6/1	一般的なマナー②敬語(木村)
第8講	6/8	一般的なマナー③表情・声・身体表現(則武)
第9講	6/15	ビジネスマナー①職場のルール(報連相)(則武)
第10講	6/22	ビジネスマナー②受付・案内・席次・訪問時のマナー(則武)
第11講	6/29	ビジネスマナー③ビジネス文書(田上)
第12講	7/6	ビジネスマナー④プレゼンテーション(田上)
第13講	7/13	ビジネスマナー⑤プレゼンテーション(田上)
第14講	7/20	ビジネスマナー⑥クレーム応対(田上)
第15講	7/27	総合演習(場面に応じた対応)(田上)

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストとしては以下を使用するので購入しておくこと。
有限会社幸プランニング『コミュニケーション&ビジネスマナー』SEP
自己表現能力出版部 1,500円
追加で適宜プリントを配布する。

担当者から一言
ビジネスマナーは社会で生きていくための必須の資質です。学生時代に、先んじてビジネスマナーを学びたいと思う学生は是非受講して下さい。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

第1講	ガイダンス
第2講	サービスの産業構造と経営の特徴
第3講	サービス業の人材育成
第4講	サービスの事例(1)リッツカールトン
第5講	サービスの事例(2)スーパーホテル
第6講	サービスの事例(3)クロネコヤマト
第7講	サービスの事例(4)TESSEN(新幹線清掃チーム)
第8講	製造業の3S、サービスのQSC
第9講	マーケティング
第10講	サービスのマーケティング
第11講	おもてなし経営とは
第12講	三重のおもてなし経営企業
第13講	ホスピタリティとおもてなし
第14講	サービス企業のガバナンスと組織
第15講	まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
特に使用しません。(その都度資料を配付します。)

担当者から一言
特にありません。

販売士講座 山川和美	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSHM1003	前学期	選択

授業のねらい
消費者ニーズが多様化・個性化しています。“消費者が何を求めているのか”ということ、流通業界ではあらゆる手段を用いて模索しています。このような時代にあつて注目されているのが流通業界で唯一の公的資格「リテールマーケティング(販売士)」です。この知識・スキルは流通・小売業界で活躍したい人は大変役立ちます。もちろん多様な分野にも活用出来ます。私達にとって親しみのあるコンビニエンスストアなど題材に、お店の売れる仕組みや、マーケティング、店舗運営、売場づくりなど幅広くビジネスの基礎を学びます。

到達目標
就職の選択肢の多くを占める流通・小売業界に興味を持っていただくことを考えています。
また就職活動を一歩リードできるようにスキルを身につけていきましょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
・平常点(授業態度、簡単な課題の提出状況等)60点
・定期試験:40点
なお、講義時に提出されたレポートは、3段階評価をつけて返却します。

事前・事後学習
事前(予習):事前に渡されるプリントを読んでおくこと。(90分)
事後(復習):ショッピングセンターやコンビニエンスストアなどに出かけて授業の検証に心がけること。(90分)

ビジネスコミュニケーション 岡 良浩	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSHM1004	前学期	選択

授業のねらい
本科目では、ホテル等の観光業での接客技術を学びます。顧客に幸福や感動を与える接客の要素としては、一般に精神(マインド)・設備・技術の3要素があるとされます。その技術を学ぶこととなります。
リッツカールトンホテルの企業理念のなかに「紳士淑女をおもてなしする私たちもまた紳士淑女です」というものがあります。これは接客を行おうとするものは、まず自分自身が紳士淑女の素養を持つ必要があるということであらわしています。その基礎を学ぶということでもあります。

到達目標
観光業での接客を行うための以下の技術を習得することが目標です。
①おもてなしの基礎的なコミュニケーション技術を習得する。
②ホテル・旅館のフロント・客室・バンケットでの接客技術の基礎を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験 50% 参加態度および小テスト 50%
小テストは、講義のふりかえりとして課します。提出されたものはコメントをつけて返却します。

事前・事後学習
予習:毎回のプリントをあらかじめ読んでおくこと。(90分)
復習:毎回の授業で学んだ技術を訓練するとともに、ふりかえりの小テストを行うこと。(90分)

「ビジネスマナー」を先行して履修していることが望ましい(必須ではありません)。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス ストアオペレーションのポイント①
第2講 ストアオペレーションのポイント②
第3講 ストアオペレーションのポイント③
第4講 小売業の類型のポイント①
第5講 小売業の類型のポイント②
第6講 小売業の類型のポイント③
第7講 マーチャンダイジングのポイント①
第8講 マーチャンダイジングのポイント②
第9講 マーチャンダイジングのポイント③
第10講 リテールマーケティングのポイント①
第11講 リテールマーケティングのポイント②
第12講 リテールマーケティングのポイント③
第13講 販売・経営管理のポイント①
第14講 販売・経営管理のポイント②
第15講 販売・経営管理のポイント③
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
なし(必要に応じてプリントを配布します)
【参考文献】
日本商工会議所・全国商工会連合会編「販売士3級ハンドブック(2冊セット)」キャリアック(2019年)5,400円

担当者から一言
店舗経営の視点でお店の見方が変わり買物が楽しくなりますよ。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
1 4/7 ガイダンス(岡)
2 4/14 ①チームワーク(価値交流ワーク)(長野)
3 4/21 ②ホテリエの心得(ほめるワーク)(武井)
4 4/28 ③コミュニケーション(ホウレンソウ ワーク)(武井)
5 5/12 ④ESとCS(私の感動体験ワーク)(武井)
6 5/19 おもてなしの技術①(笑顔・会釈・発声・言葉遣いワーク)(武井)
7 5/26 おもてなしの技術②(贈答)(武井)
8 6/2 おもてなしの技術③(電話・レター・メール)
9 6/9 パフォーマンス学(長野)
10 6/16 和の技術① 日本伝統文化と着付け(体験 浴衣着付け実習)(早川)
11 6/23 和の技術②(設備+案内ロールプレイング)(早川)
12 6/30 客室の技術①(設備+案内ロールプレイング)(水谷)
13 7/7 客室の技術②(ハウスキーピング/メンテナンス)(水谷)
14 7/14 バンケットの技術①(仕器・食器+テーブルセッティング)(水谷)
15 7/21 バンケットの技術②(テーブルサーブの技術)(水谷)

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストは特に指定せず、毎回プリントを配布します。
和の技術の実習費として学生1人1,000円を徴収します。

担当者から一言
この授業は、外部講師による実践的な接客技術を学びます。意欲的な学生を期待します。
1. この授業は「オペレーション演習」を受講する前提となります。
2. 希望者が多数の場合は「オペレーション演習」受講者を優先し、40名程度に履修者数を制限します。

グローバルコミュニケーション 富田 与	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSHM1005	後学期	選択

授業のねらい
この講義では、多文化共存の状況とそこでの関係者の行動を見ながら、文化や行動の多様化と制約、そして、そうしたものに対応するにはどうしたらいいのかについて考えます。おもに、参加者とのディスカッションを中心に、「仕事の文化」という視点から、二つの文化が出会う場面でのホスト＝ゲスト関係を実践的な挑戦としてとらえていくことにしたいと思います。

到達目標
多文化共存の状況を理解し、日常生活や仕事の中でそれに対応できる能力を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
学期末に、参加度（発言、発表等）40%、レポート60%の割合で総合評価を出します。
レポートは希望者に返却します。
講義中の課題は、毎時間発表してもらいます。

事前・事後学習
予習：指示された教材を読み、必要なデータに目を通しておいてください(90分)。
毎回、簡単な発表をしてもらいます。
復習：教材を読み直し、レポート等の課題を作成してもらいます(90分)。

オペレーション演習 永井 博・杉谷克芳・岡 良浩	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSHM1006	前学期	選択

授業のねらい
サービス業の中心となる技術である接客技術を、現地研修を通して身に付けることが本講義のねらいである。ホテルや旅館などの宿泊施設、土産物店やレストランなどの物販・飲食店、その他の観光関連事業は接客が仕事の最前線である。客から言えば、接客に当たる店員の「おもてなし」の態度・印象、それを支える知識や技術がその店のすべてであると言っても過言ではない。その技術は座学だけではすべてを身に付けることはできない。実際にホテル・土産物店・レストランなどの現場の業務を体験しながらノウハウを身に付けてもらう。

到達目標
サービス業の中心である接客技術を身に付けることが目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
研修の態度70%、課題レポート30%

事前・事後学習
2年生前期の「ビジネスコミュニケーション」を履修していないと受講できません。(同時履修は可能)
予習：上記「ビジネスコミュニケーション」で学習した接客技術の基礎事項を復習しておくこと。(90分相当)
復習：研修内容を整理すること。(90分相当)

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 第1章 なぜアジアに移住するのか。その1
第3講 第1章 なぜアジアに移住するのか。その2
第4講 第1章 なぜアジアに移住するのか。その3
第5講 第2章 和食職人の伝統。その1
第6講 第2章 和食職人の伝統。その2
第7講 第3章 「おもてなし」という感情労働。その1
第8講 第3章 「おもてなし」という感情労働。その2
第9講 第4章 日本化したアメリカ文化。その1
第10講 第4章 日本化したアメリカ文化。その2
第11講 第5章 「国語」教育から「日本語」教育へ。その1
第12講 第5章 「国語」教育から「日本語」教育へ。その2
第13講 第6章 再発見された仕事の価値。その1
第14講 第6章 再発見された仕事の価値。その2
第15講 まとめ：グローバル化の中での仕事とコミュニケーション

テキスト・教材（参考文献含む）
『世界に広がる日本の職人』 青山玲次郎著 ちくま新書 820円

担当者から一言
多文化が共存する社会では、その文化を理解していなくても、異なった文化背景を持つ人々とコミュニケーションを取っていかねばなりません。そんな時、どうしたらいいのか。一緒に考えてみましょう。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
受け入れ先企業において、夏季休暇中に15コマ相当の研修を行う。
前期授業期間中に事前説明会を行い、受け入れ企業を決定する。受講を希望する学生は、事前説明会に必ず出席すること。
受け入れ先企業が決まるまで、夏季休暇中の予定を空けておくこと。
参考までに、2019年度の受け入れ先企業とそれぞれの実習期間は以下の通りである。
志摩スペイン村：9月3日(火)～9月7日(土)
伊勢かぐらばリゾート千の杜：8月19日(月)～8月23日(金)
鳥羽シーサイドホテル：8月23日(金)～8月27日(火)
伊勢安土桃山文化村：8月12日(月)～8月16日(金)
戸田家：8月12日(月)～8月16日(金)
ねむりリゾート：8月27日(火)～8月31日(土)
わんわんパラダイス：9月5日(木)～9月9日(月)

テキスト・教材（参考文献含む）
大学からは特になし。受け入れ先企業から資料が配布される場合がある。

担当者から一言
学生の現地研修と言っても、客から見れば企業の一員である。社会人としての自覚をもって研修に臨むこと。また、事前の説明会に無断欠席、遅刻した場合、頭髪や服装に問題がある場合、あるいは留学生で日本語能力が著しく不足する場合は実習に参加させないことがある。

ビジネスマネジメント 岩崎祐子・奥原貴士	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	GSHM1007	前学期	選択

授業のねらい
本講義の前半(第2講～第7講)は、サービス業や観光業などのビジネス環境を学びます。ビジネスの競争環境などを理解します。そして、実際の企業活動におけるマネジメントをビジネスゲームを通して体験し、研究発表を行います。
次に、ビジネスをマネジメントするには企業の会計情報を利用する知識が必要になります。そこで本講義の後半(第9講～第15講)では、サービス業や観光業を営む企業の売上高・純利益などの会計情報を用いて、企業の収益性・安全性・生産性・不確実性などの経営分析を行う方法について学習します。

到達目標
・ビジネスの競争環境を理解する。
・ビジネスマネジメントの実際を把握する。
・経営分析の方法を理解する。
・企業の会計情報を使用して経営分析を行うことができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点(授業への積極的な参加、小レポートなど) 30%
中間試験 40%
レポート(第9講～第15講の間に行う)
定期試験 30%

事前・事後学習
事前:新聞や雑誌などを読んで、企業経営について学ぶ(90分)
事後:授業の復習と関連情報の収集(90分)
普段から新聞や雑誌などを読んで、この企業の経営はうまくいってそうだと、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、というように企業の経営状態に関心をもつようにしてください。

事前・事後学習
事前:新聞や雑誌などを読んで、企業経営について学ぶ(90分)
事後:授業の復習と関連情報の収集(90分)
普段から新聞や雑誌などを読んで、この企業の経営はうまくいってそうだと、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、というように企業の経営状態に関心をもつようにしてください。

マーケティング演習 岡 良浩・岩崎祐子・西浦尚夫	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	GSHM1008	後学期	選択

授業のねらい
本科目では、マーケティングに必要なスキルを実践的に学びます。マーケティングとは、「顧客のニーズに合ったものを、最適な形で提供される市場を作り出すための活動」のことを言います。その内容は様々ありますが、「顧客にニーズは何か」が起点となります。その意味で、マーケティング=市場調査と思っても良いでしょう。
ここでは「じばさん三重」で行われている物販事業をとりあげ、その物販会場で来場者を対象とした市場調査を行います。調査結果をもとに顧客のニーズを探ったうえで、報告書を作成し発表していただきます。

到達目標
本科目の到達目標は以下の3点です。
① 市場調査の一連の技法を身につけること
(調査票設計→配布→回収→集計・分析→提案)
② 調査の過程で、実際の市場関係者の考え方を理解すること
③ 市場調査の分析結果を発表する能力を身につけること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験(レポート試験) 50% 参加態度 50%
全期間を通じて、その都度、理解度を確認しながらすすめます。

事前・事後学習
予習:配付資料をあらかじめ読んでおくこと。(90分)
復習:学んだ技法を復習し、身につけておくこと。(90分)

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 グループ分け、グループワークの説明
第3講 ビジネスマネジメントの実際
第4講 ビジネスマネジメントの実際
第5講 ビジネスマネジメントの実際
第6講 ビジネスマネジメントの実際
第7講 プレゼンテーション
第8講 中間試験
第9講 経営分析の視点と方法
第10講 収益性の分析
第11講 収益性の分析
第12講 安全性の分析
第13講 安全性の分析
第14講 生産性の分析
第15講 不確実性の分析
定期試験
第2講～第6講 グループワーク、第7講 プレゼンテーション

テキスト・教材(参考文献含む)
講義資料は毎回プリントを配布する。
(参考文献)
桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社。

担当者から一言
本講義で学習する経営分析の知識は社会に出てから自社やライバル企業の経営状態を分析する際に不可欠です。すなわち、ビジネスの世界で活躍するために必要な知識です。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1回 ガイダンス 9/28
第2回 調査概要と担当者の割り振り 10/5
第3回 調査集計の方法 10/12
第4回 地場産品の学習 10/19
第5回 調査実施のロールプレイング 10/26
第6回 調査実習と入力作業の最終確認 11/2
第7回～11回 調査実習※
第12回 調査票の入力 12/14
第13回 調査票の集計 12/21
第14回 調査報告書の作成 1/4
第15回 調査結果の発表 1/18
※調査実習
期間中のじばさん三重の出店会場に向向き、受講生が市場調査を実施する。
日程などは講義中に調整する。参考として2019年度は以下のとおり。
10/29(火)8:30～17:00 地場産業めぐり
11/1(金)13:00～17:00 三重北勢地域の地場産品フェアin金山
11/2(土)13:00～17:00 三重北勢地域の地場産品フェアin金山
11/10(日)9:00～19:00 御在所SA物産店
11/29(金)8:30～17:00 地場産業めぐり
11/30(土)10:00～17:00 じばさん市
12/1(日)10:00～17:00 じばさん市

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストは特に指定せず、毎回プリントを配布します。

担当者から一言
学外の実際の会場で調査をします。貴重な体験の場になります。意欲ある学生の参加を期待しています。

おもてなし特別講義 a	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSHM1009	前学期	選択

授業のねらい
本講義は、おもてなしを担う企業の成功事例を、総合的に理解することを目的とする。おもてなし経営が成功しているのは、個々の技術要素というより、総合力が勝っているからだと思われる。このような総合力を見るのがこの講義のねらいである。
企業においては、経営理念や事業目標がどのように企業内に反映されているか、そのポイントはどこにあるかなど、三重県内の経営者層を招聘して伺う。

到達目標
・おもてなし経営の成功事例を理解する。
・成功事例から、成功の要因や他事業への応用(普遍化)を考察する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業中に作成するレポート(40%)、グループワーク・発表(30%)、定期試験(30%)により評価します。
授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。

事前・事後学習
日頃から、「おもてなし」をキーワードに企業経営、サービス、観光に関するニュースに目を通すようにして下さい(30分、週3日以上)。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください(90分)。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1回 ガイダンス
第2回 外部講師による講義
第3回 授業中レポート
第4回 外部講師による講義
第5回 授業中レポート
第6回 外部講師による講義
第7回 授業中レポート
第8回 外部講師による講義
第9回 授業中レポート
第10回 外部講師による講義
第11回 授業中レポート
第12回 記事担当の学生の振り分け・記事の執筆
第13回 記事の執筆
第14回 記事の仮提出と指導
第15回 記事の発表
定期試験

第12回～第14回 グループワーク、第15回 プレゼンテーション
※日程は変更する可能性があります。
※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、第1回ガイダンス時に配布します。
※履修登録者多数の場合、履修制限をする可能性があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。
参照資料として三重県「三重のおもてなし経営企業選」のホームページを参照してください。

担当者から一言
第12講以降PC教室を使用するため、履修登録者多数の場合、履修制限をする可能性があります。
「外部講師による講義」の際にも積極的に質問してください。多くの企業や経営者との出会いは、これから社会に出る学生にとっていい経験になりますし、就職活動にも役立ちます。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 「おもてなし」と情報技術
第3講 おもてなしとロボット
第4講 おもてなしサービスの事例研究(へんなホテルを中心として)
第5講 観光資源としてのロボット
第6講 インターネットとクラウドシステム
第7講 キャッシュレス決済
第8講 ビッグデータ
第9講 AI(音声合成、音声認識)
第10講 AI(対話システム、翻訳、ディープラーニング)
第11講 デジタルサイネージ
第12講 サイネージ向けコンテンツ作成(1)
第13講 サイネージ向けコンテンツ作成(2)
第14講 サイネージ向けコンテンツ作成(3)
第15講 フリーディスカッション

テキスト・教材(参考文献含む)
教材は、教育支援システム(Moodle)を通じて呈示します。

担当者から一言
この授業は、コンピュータでの入力が必要となるので、人数に制限があります。最初の授業には必ず出席してください。
この授業は単なる教員が行う講義ではなくて、皆さんが自ら参加する形式で進めていきます。授業中や教育支援システムを通じてフリーディスカッションへの積極的な参加や発言を期待しています。

事前・事後学習
観光産業を中心としたサービス産業や、人工知能・クラウド・ロボットなどの情報通信技術に関するニュースや情報を日常的に調査してください。(毎日30分)

観光英語Ⅰ エリック・ブレイ	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GSET1001	前学期	選択

授業のねらい
In this class students will do listening activities and conversation activities to prepare for travel abroad. This will be a challenging class and recommended for serious Intermediate level students who want to improve their English skills. このTravel English科目は1年生から参加できますが、英語のレベルは中級～上級者向けです、初級者は先に基礎英語1、2とEnglish Communication 1、2の受講を推奨します。

到達目標
The goal of this class is to help students prepare for experiences as tourists or as workers abroad. As English is a commonly used language in many countries, the focus will be on helping students develop the English skills useful in a variety of situations and also help students understand the customs and values of people in English speaking countries.

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%) , as well as the quality of their written work (60%) . Feedback will be given on a regular basis.

事前・事後学習
Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson(90 minutes)

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Week 1 - Introduction/Guidance
Week 2 - Talking about likes and dislikes
Week 3 - Talking about genre
Week 4 - Giving a summary 1
Week 5 - Giving a summary 2
Week 6 - Giving your reaction 1
Week 7 - Giving your reaction 2
Week 8 - Making a Prediction 1
Week 9 - Making a Prediction 2
Week 10 - Talking about culture 1
Week 11 - Talking about culture 2
Week 12 - Talking about people - Appearance 1
Week 13 - Talking about people - Appearance 2
Week 14 - Talking about a movie you saw
Week 15 - Review and Reflect
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
Textbook: Movie Time!
Publisher: Nan'un-do Publishing

担当者から一言
この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

観光英語Ⅱ エリック・ブレイ	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GSET1002	後学期	選択

授業のねらい
In this class students will do listening activities and conversation activities to prepare for travel abroad. This will be a challenging class and recommended for serious intermediate level students who want to improve their English skills. このTravel English科目は1年生から参加できますが、英語のレベルは中級～上級者向けです、初級者は先に基礎英語1、2とEnglish Communication 1、2の受講を推奨します。

到達目標
The goal of this class is to help students prepare for experiences as tourists or as workers abroad. As English is a commonly used language in many countries, the focus will be on helping students develop the English skills useful in a variety of situations and to understand the customs and values of people in English speaking countries.

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%) , as well as the quality of their written work (60%) . Feedback will be given on a regular basis.

事前・事後学習
Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson(90 minutes).

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Week 1 - Introduction/Guidance
Week 2 - Talking about likes and dislikes 2
Week 3 - Talking about genre 2
Week 4 - Giving a summary 3
Week 5 - Giving your reaction 3
Week 6 - Making a Prediction 3
Week 7 - Talking about culture 3
Week 8 - Talking about people - Character 1
Week 9 - Talking about people - Character 2
Week 10 - Talking about Proverbs
Week 11 - Talking about World Languages
Week 12 - Talking about Countries
Week 13 - Talking about Music
Week 14 - Talking about a movie you saw 2
Week 15 - Review and Reflect
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
Textbook: Movie Time!
Publisher: Nan'und-do Publishing

担当者から一言
この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

コンピュータ英語Ⅰ 柴田啓文	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GSET1003	前学期	選択

授業のねらい
インターネットを利用して、コンピュータやアプリケーション、ニュース・サイトやクラウドに関わる英語の基本を学びます。また、PythonやRのプログラミングも体験します。さらに、Excelの使用方法に関わる英語を学び、毎回のノートをExcelで提出します。
コンピュータとインターネットと英語を同時に学びたいという学生のみなさんのための授業です。

- 到達目標**
1. コンピュータ、インターネットに関わる基本的な英語を理解できる。
 2. Excelに関わる基本的な英語を理解できる。
 3. プログラムに関わる基本的な英語を理解できる。
 4. インターネットを利用して、基本的な英語情報を収集できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcelを利用）の提出と小テストなどによります。提出ノートのや小テストおよび学期末試験の得点は教育システムのコース上の「評定」に表示します。

事前・事後学習
英語に親しむことが英語学習のポイントです。タイトルや写真だけでもよいので、毎日30分はBBC NEWSを眺めてください。

コンピュータ英語Ⅱ 柴田啓文	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GSET1004	後学期	選択

授業のねらい
インターネットを利用して、コンピュータやアプリケーション、ニュース・サイトやクラウドに関わる英語を学びます。また、PythonやRのプログラムも作成します。さらに、Excelの使用方法に関わる英語を学び、毎回のノートをExcelで提出します。
コンピュータとインターネットと英語を同時に学びたいという学生のみなさんのための授業です。

- 到達目標**
1. コンピュータ、インターネットに関わる英語を理解できる。
 2. Excelに関わる英語を理解できる。
 3. プログラムに関わる英語を理解できる。
 4. インターネットを利用して、英語情報を収集できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcelを利用）の提出と小テストなどによります。提出ノートのや小テストおよび学期末試験の得点は教育システムのコース上の「評定」に表示します。

事前・事後学習
英語に親しむことが英語学習のポイントです。タイトルや写真だけでもよいので、毎日30分はBBC NEWSを眺めてください。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

- 授業計画**
- 第1回 ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの登録。
 - 第2回 教育支援システムの利用法。
 - 第3回 ニュースの英語(毎回)、英語辞書と翻訳サイトの使用法。
 - 第4回 Excelの英語の基礎1：基本的な使用法。
 - 第5回 Excelの英語の基礎2：高齢化グラフの作成。
 - 第6回 イラスト作成の英語の基礎1：Inkscapeの描画。
 - 第7回 イラスト作成の英語の基礎2：Inkscapeで名刺作成。
 - 第8回 写真編集の英語の基礎：Gimpでクリーニング。
 - 第9回 PythonとRの英語の基礎1：基本的な集計。
 - 第10回 PythonとRの英語の基礎2：モンティホール問題。
 - 第11回 PythonとRの英語の基礎3：サイコロの同じ目がでる確率。
 - 第12回 会話ロボットのプログラムの基礎。
 - 第13回 株や仮想通貨の英語の基礎。
 - 第14回 経済の英語の基礎：自然エネルギーによるパワー・シフト。
 - 第15回 まとめ。
- 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
使用しません。

担当者から一言
学習支援システム(Moodle)を利用。コンピュータやスマートフォン、AIやプログラミング、およびインターネットに興味があり、これらを利用するための英語の基礎を身に付けたいと考える学生の受講を期待します。
事前にExcelやプログラミングの知識は必要ありません。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

- 授業計画**
- 第1回 ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの登録。
 - 第2回 教育支援システムの利用法。
 - 第3回 ニュースの英語(毎回)、英語辞書と翻訳サイトの使用法。
 - 第4回 Excelの英語の基礎1：基本的な使用法。
 - 第5回 Excelの英語の基礎2：グラフの作成。
 - 第6回 イラスト作成の英語の基礎1：InkscapeのText。
 - 第7回 イラスト作成の英語の基礎2：Inkscapeでアニメーション。
 - 第8回 写真編集の英語の基礎：Gimpのフィルター。
 - 第9回 PythonとRの英語の基礎1：基本的な集計。
 - 第10回 PythonとRの英語の基礎2：日本の高齢化。
 - 第11回 PythonとRの英語の基礎3：世界の高齢化。
 - 第12回 会話ロボットのプログラムの英語の基礎。
 - 第13回 株や仮想通貨の英語。
 - 第14回 経済の英語：自然エネルギーによるパワー・シフト。
 - 第15回 まとめ。

テキスト・教材（参考文献含む）
使用しません。

担当者から一言
学習支援システム(Moodle)を利用。コンピュータやスマートフォン、AIやプログラミング、およびインターネットに興味があり、これらを利用するための英語の基礎を身に付けたいと考える学生の受講を期待します。
事前にExcelやプログラミングの知識は必要ありません。

英語表現Ⅰ／英語で映画 ゴードン・リース	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSET1005	前学期	選択

授業のねらい
Presentation Skills and Performance
In this course we will work on improving our English presentation and performance skills. We will use a textbook, but we will also use graded readers which are novels or short stories that have been abbreviated for EFL learners. Students will be expected to make short presentations and group performances based on the reading in class.
この講座は英語のプレゼンテーション・スキルとパフォーマンス能力を身につけるための講座です。

到達目標
1. 英語の聴解力と話す力を高める。
2. 英語の語彙を増やす。
3. 観光英語の知識を身に付けるとともに、日本文化をより深く理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度	15%
Summer vacation- speaking test	10%
Favourite restaurant speech	10%
Hometown speech	25%
WHS pres	40%

事前・事後学習
1. 講座が始まる前に基礎英語のテキストを復習する。
2. プリントを配布しますので、ファイル(A4)を用意する。
3. After each class, spend 90 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises we covered in the lesson. In addition, try and spend about 90 minutes by preparing and reading ahead

英語表現Ⅱ ゴードン・リース	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSET1006	後学期	選択

授業のねらい
注意。この授業は映画を見る授業ではありません！
演劇を通じて、学生の英語コミュニケーション能力の向上を図る事がこの講座の狙い。学生が英語を使って、スキットを演じることがメインです。毎回テキストのスキットを読みながら、スキットに出てくる英文法を説明して、スキットの内容確認する。そのあと、学生にスキットの役を与えて、練習を行う。次の授業までにセリフを覚えてもらって、授業にスキットを演技する。沢山の台詞を覚える必要があるため、毎回単語テストと台詞テストを実施する。

到達目標
1. 英語の聴解力と話す力を高める。
2. 人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度	15%
Skit performances(6)	30%
台詞テスト／単語テスト	5%
Reader's Theatre- Slow Food	30%

事前・事後学習
1. 英和辞典は必携。
2. プリントを配布しますので、ファイル(A4)を用意する。
3. Spend 90 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises covered in the previous class, as well as read aloud the skits that were explained.

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
1. Guidance/ Radio Thriller
2. Radio Thriller- Final performance/ Start Sherlock Holmes- The Red Headed League
3. Sherlock Holmes- The Red Headed League
4. Sherlock Holmes- The Red Headed League (Quiz 1)
5. Sherlock Holmes- The Red Headed League-Radio drama
6. Drumtown Girls- Reading
7. Drumtown Girls- Reading (Quiz 2)
8. The Bank
9. 学外授業ー演劇観戦
10. The Bank
11. The Bank
12. The Bank- Final Performance
13. Demonstration speech- preparation
14. Demonstration speech- preparation
15. Demonstration speech-preparation
16. Demonstration speech
学外授業という形で外国人の劇団の英語劇をクラス全員で見に行く予定をしている。交通費、入場料、食事代等は学生の負担になる。事情によって、学外授業を実施しない場合、または予定を変更する場合がある。ご了承ください。

テキスト・教材 (参考文献含む)
Discovering Cool Japan
Akiko Tsuda
Seibido 2019
2,700 yen

担当者から一言
皆さんと楽しく授業をしたいです。以下のルールを守って下さい。授業にテキストとプリントを整理するためのファイルを持ってこない学生は欠席扱いになります。Bring a dictionary to class! 5回以上欠席すると単位がもらえません。履修者が20名を超えると抽選になります。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
1. Guidance/Course Introduction/ Ice Breaker
2. A New Host Skit
3. A New Host Skit- Performance #1
4. Asking Permission and Learning the Rules
5. Asking Permission and Learning the Rules- Performance #2
6. Asking Permission and Learning the Rules- Performance #3
7. Talking About Time and Schedules
8. Talking About Time and Schedules- Performance #4
9. Talking About Time and Schedules-Performance #5
10. Meet Kim
11. Meet Kim
12. Meet Kim-Skit- Performance #6
13. Start Slow Food reader's theatre activity
14. Slow Food practice
15. Reader's Theatre- Slow Food
16. Final Test- Reader's Theater- Slow Food

テキスト・教材 (参考文献含む)
Performance
David Harrington and Charles Le Beau Language Solutions Inc
2,600 yen

担当者から一言
積極的に授業に参加する学生を歓迎します。
1. 授業にテキストを持ってこない学生は欠席扱いになります。
2. 2回遅刻すると1回の欠席になります。
3. 5回以上欠席すると単位がもらえません。
履修者が20名を超えた場合は抽選となります。

ビジネス英語Ⅰ デイビッド・ダイクス	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSET1007	前学期	選択

授業のねらい

ホテルや旅行代理店など、様々な観光業界に就職したプロの意見を交ぜながら、「おもてなし」の現場ならではの英語を身に付けるための授業。

The aim of this course is to master the kind of English widely used in the "hospitality scene" of the tourism and travel-related working world

We will also read about the experiences of people who have jobs in this area.

到達目標

訪日観光客を相手に、交通、宿泊施設、観光地などについての案内や、日本食、伝統文化体験、お土産などの説明に必要なスキルをみがくことが大きな目標です。

The main target in this course is to polish up skills needed to offer visitors practical guidance in areas such as transportation, accommodation and sightseeing, and information about things such as food, cultural experiences and shopping.

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

20% for BEFORE-CLASS / IN-CLASS performance

40% for Short tests

40% for End-of-term exam

I'm happy to respond to questions or comments

For written comments, I normally answer within a week.

事前・事後学習

BEFORE CLASS(90 min.)

[1] Fill in "Vocabulary Check" & "Pre-Activity"(30).

[2] Pre-read "Reading for Information"(30).

[3] Follow travel-related media topics(30).

AFTER CLASS(about 90 min.)

[1] Check you understood everything.

[2] Try to memori

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- 1 Guidance. Example topic: "Transportation"
 - 2 "At a hotel check-in counter"
 - 3 "Hotel facilities and services"
 - 4 "Giving directions"
 - 5 "Recommending a trip"
 - 6 "Dining in Japan" (1)
 - 7 "Dining in Japan" (2)
 - 8 "Arranging a tour"
 - 9 "Staying at a ryokan inn"
 - 10 "Culture experience in Japan" (1)
 - 11 "Culture experience in Japan" (2)
 - 12 "Japanese souvenirs"
 - 13 "Health problems and emergencies"
 - 14 "Complaints and accidents"
 - 15 "Departure". Final review.
- Week 16: End-of-term exam

テキスト・教材（参考文献含む）

上杉恵美、阿部佳、涓東史江、松島康彦、神末武彦、Jacob Schere 著、
"Hospitality on the Scene"
金星堂、2018年、定価:2,200円(税別)

担当者から一言

- [1] 科目の履修を決めしだい、テキストを早めに買うこと。
- [2] この科目用のホルダー(また、ノート)を用意すること。
- [3] ふつうは、欠席・遅刻しない。おたがいに責任感を示す。
- [4] 活発に有意義な授業になるように！

ビジネス英語Ⅱ デイビッド・ダイクス	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSET1008	後学期	選択

授業のねらい

In this class, we will practice the sort of English used in office work, at meetings, on business trips, in phone exchanges, for presentations, etc.

Most of the practice is for listening and speaking communication, but there will also be some reading and writing tasks of the kind important for work, and a lot of business vocabulary.

Most lessons will feature workplace problems and ways of dealing with them, for example: how to keep a plan on schedule.

到達目標

The main target is to polish up skills for cooperating with coworkers in routine office duties, discussing work projects, making plans, and sharing information.

Supportive and creative teamwork, information and goal sharing, and positive human relations, through the right words and actions, are targets that will be stressed all through.

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

20% for BEFORE-CLASS / IN-CLASS performance

30% for Short tests

50% for End-of-term exam

事前・事後学習

BEFORE CLASS(90 min.)

[1] Check "Vocabulary Preview" & "Grammar Point"(30).

[2] Fill in "Grammar" page as far as you can(30).

[3] Follow Business English media topics(30).

AFTER CLASS(90 min.)

[1] Check you understood everything.

[2] Complete

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- 1 Guidance. Then small talk: "This is my first visit."
 - 2 Questions: "How do you like Bangkok?"
 - 3 Scheduling: "It's going well so far."
 - 4 Reporting: "Have they decided on the design yet?"
 - 5 Help: "Could you take a look at them?"
 - 6 A problem: "My flight was canceled."
 - 7 Explaining a task: "What do you want me to do?"
 - 8 Poor human relations: "She knows marketing very well, but ..."
 - 9 Recruiting: "Thank you for coming to our interview."
 - 10 Marketing meeting: "The competition will be very strong."
 - 11 Before a presentation: "This is where we hold meetings."
 - 12 Presentation: "I'd like to talk about our latest model."
 - 13 Good human relations: "You are much better than me."
 - 14 Aiming for promotion: "If I were you, I wouldn't miss it."
 - 15 Announcing: "I'd like to propose a toast." Then review.
- Week 16: End-of-term exam

テキスト・教材（参考文献含む）

角山照彦、Simon Capper 著:"Let's Read Aloud More"
成美堂、2016年、定価:2,200円(税別)

担当者から一言

- [1] 科目の履修を決めしだい、テキストを早めに買うこと。
- [2] この科目用のホルダー(また、ノート)を用意すること。
- [3] ふつうは、欠席・遅刻しない。おたがいに責任感を示す。
- [4] 活発に有意義な授業になるように！

検定英語Ⅰ 河野桂一	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	GSET1009	前学期	選択

授業のねらい
この授業ではTOEICへの架け橋となるTOEIC Bridgeから学習を始めます。
単語・熟語、文法レベルなど易しめのTOEIC Bridgeの問題演習を通してTOEICに慣れることを目標とします。
4技能のうち特に「リーディング力」「リスニング力」アップにつながる授業です。
TOEICを受験したことがない人、受験したものの対策方法を見出したい人に向けています。

到達目標
この授業では、学生諸君が、
1. TOEICの問題形式になれること
2. TOEICの得点をアップできること
を到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
・中間テストおよび受講態度：40%
・定期試験：60%
中間テストでは辞書（電子辞書可）の使用を認めます。
定期試験では辞書（電子辞書可）及び手書き単語帳の持ち込みを認めません。
中間テストの解説は翌週の講義（第7講）で行います。
6回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。

事前・事後学習
テキスト購入後、音声ファイル無料ダウンロードを必ず行うこと。

事前学習として、授業で取り上げる各Unitのリスニング及びリーディングのVocabulary Checkを行い、Grammar欄を読んでおくこと(30分)。
事後学習として、授業で扱ったリスニングのスクリプトを見ながら音読を行い、リスニング及びリーディングの復習としてノートにまとめること(60分)。

検定英語Ⅱ 河野桂一	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	GSET1010	後学期	選択

授業のねらい
この授業では、大学生にとって最も身近な資格試験であるTOEIC試験の対策を行います。

到達目標
本授業では、
1. テスト形式に慣れ、実践力を養うこと
2. 解答のためのテクニックを身に付けること
を目標とします。
使用するテキストは、TOEICスコア400点以上を目標とする学習者を対象にしたものです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
・中間テストおよび受講態度：40%
・定期試験：60%
中間テスト①②では辞書（電子辞書可）の使用を認めます。
定期試験では辞書（電子辞書可）及び手書き単語帳の持ち込みを認めません。
中間テスト①②の解説は翌週の講義（第7講、第15講）で行います。
6回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。

事前・事後学習
事前学習として、授業で取り上げる各UnitのSound Check及びGrammar Checkを読み、最後のKey Wordsを調べておくこと(30分)。
事後学習として、授業で扱ったリスニングのスクリプトを見ながら音読を行い、リスニング及びリーディングの復習としてノートにまとめること(60分)。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画		授業の説明
第1講	ガイダンス	be動詞
第2講	Eating Out	一般動詞
第3講	Travel	品詞
第4講	Amusement	自動詞・他動詞
第5講	Meetings	受動態 中間テスト
第6講	Personnel	代名詞 中間テスト解説
第7講	Shopping	数えられる名詞、数えられない名詞
第8講	Advertisement	数量詞
第9講	Daily Life	To不定詞
第10講	Office Work	動名詞
第11講	Business	助動詞
第12講	Traffic	前置詞
第13講	Finance and Banking	接続詞
第14講	Media	比較
第15講	Health and Welfare	
定期試験		

テキスト・教材（参考文献含む）
林姿穂 西田晴美 Brian Covert「ブリッジから始めるTOEICテスト」朝日出版社
定価1,980円(税込)

担当者から一言
講義では積極的に発音練習、音読トレーニングに取り組んでください。
遅刻、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話（スマホ）の使用は原則禁止します。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画		授業の説明
第1講	ガイダンス	授業の説明
第2講	Traffic	
第3講	Weather & Events	
第4講	Lunchtime	
第5講	Hotels	
第6講	Health	
第7講	A New Life	中間テスト①
第8講	Job Hunting	中間テスト① の解説
第9講	Workplaces & Products	
第10講	Customer Service & Office Crime	
第11講	Office Messages	
第12講	Ordering & Shipping	
第13講	Business Trips	
第14講	Success in Business	中間テスト②
第15講	中間テスト② の解説	
定期試験		

テキスト・教材（参考文献含む）
Terry O'brien 三原 京 他「TOEICテスト：チャレンジ400」南雲堂
定価2,090円(税込)

担当者から一言
講義では積極的に発音練習、音読トレーニングに取り組んでください。
遅刻、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話（スマホ）の使用は原則禁止します。

メディアツール a 池田 幹男	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMD1001	前学期	選 択

授業のねらい
 ラスタ画像とベクトル画像の違いについて知り、Web用のベクトル画像として標準化されたSVG (Scalable Vector Graphic) について学びます。SVGファイルを編集するソフトウェアである Inkscape を使用してベクトル画像編集の基礎を学びます。

到達目標
 Inkscapeを使用してロゴやアイコンのデザインができるようになることを目標にします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 業参加 30%、提出課題 70%で評価し、定期試験は実施しません。フィードバックは教育支援システム(Moodle)を通じて実施します。

事前・事後学習
 授業のみでは操作に習熟することは不可能です。授業時間以外にもInkscapeを使用して操作に慣れるようにしてください。(週180分)

授業の位置づけ
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
 Windows PCを用いた演習を行います。
 第1講 ガイダンス ラスタ画像とベクトル画像
 第2講 SVG(Scalable Vector Graphic)について
 第3講 ベジェ曲線を描く
 第4講 ベジェ曲線の操作に慣れる
 第5講 パスツールを使用して曲線を変更する
 第6講 その他の Inkscape 組み込みの図形
 第7講 文字の入力と配置
 第8講 グループ化
 第9講 図形の切り取りと併合
 第10講 レイヤー
 第11講 その他のInkscapeの機能
 第12講 最終課題の制作(1)
 第13講 最終課題の制作(2)
 第14講 最終課題の制作(3)
 第15講 最終課題の提出と参加者による講評
 授業はいずれもPCを用いた実習です。

テキスト・教材 (参考文献含む)
 全ての教材は四日市大学教育支援システム(Moodle)に提示します。参考図書「できるクリエイターInkscape独習ナビ」インプレスジャパン発行

担当者から一言
 InkscapeはGPLで配布されているソフトウェアで自由に使用することができます。可能ならば自分のPCにインストールしてInkscapeの様々な可能性に挑戦してください。

メディアツール a 都 映里	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMD1001	前学期	選 択

授業のねらい
 Apple社Macintosh (Mac) でAdobe社IllustratorとPhotoshopを使用。メディアツール a では主にIllustratorの実習を通して、色や文字、レイアウト、デザインの基本を習得し、視覚効果を学びます。
 *メディアツール a で得た知識と技術がメディアツール b で生きてきますので、b を受ける前に a を受けておくことを強く薦めます。

到達目標
 インプットした情報を整理し、目的を持って視覚的にアウトプットできる技術を身につけます。
 どの分野の職業に進んでも、メディアツールで習得した知識や技能がいかせるような課題制作をします。
 提出課題と取り組み姿勢が成績評価の対象となります。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 出席状況・課題の提出率・理解度と出来栄・小テスト・取り組み姿勢すべての総合点。
 課題提出がすべてであっても取り組み姿勢に問題があると判断した場合は単位は与えません。
 制作物について各人にフィードバックし、その都度改善、向上してもらいます。

事前・事後学習
 宿題を前の週の講義で指示します。忘れてくると実習が遅れるため必須。
 Macを持っていなくても、インターネットを活用し、予習復習を行ってください。

授業の位置づけ
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
 Macを用いた演習を行います。
 第1講 ガイダンス・ファイル管理から課題提出までの流れ・Mac、Illustratorの基本操作
 第2講 色について・書体について
 第3講 トレーニング(回転・整列・パスファインダー・ペン・上下関係)
 第4講 四コマまんが(複製・移動・レイヤー)
 第5講 ロゴタイプ・ロゴマーク
 第6講 名刺(レイヤー・文字組み)
 第7講 ポストカード(画像補正・変換・配置・マスク)
 第8講 DM①
 第9講 DM②
 第10講 GIFアニメーション
 第11講 WEBバナー①
 第12講 WEBバナー②
 第13講 小テスト(筆記・実技)
 第14講 チラシ①
 第15講 チラシ②
 授業はいずれもMacを用いた実習です。
 *欠席すると理解不十分となっていくので、やむを得ない場合以外は必ず出席すること。
 *欠席した場合は、翌週までに欠席した分の講義内容を把握しておくこと。

テキスト・教材 (参考文献含む)
 教員が用意するもの、及び、目に映るすべてのもの。
 配布されたものは必ずファイリングして講義時に持参。

担当者から一言
 技術的なことだけでなく、楽しみながら表現に対しての考える力を身につけ、想像力を創造力にしていきたいと思います。

メディアツール a 池上 貴文	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMD1001	前学期	選 択

授業のねらい
DTPやWEBなど様々なメディアで、ビジュアル作成に利用されるドロー系ソフトの定番、Adobe社の「イラストレーター」を使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。
授業はApple社のマッキントッシュを使い、毎回の課題をひとつひとつつこなしながら、自分の思考をビジュアル表現する楽しさを体感し、基礎技術を身につけます。

到達目標
ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業内の課題(100%)。
課題の講評によってフィードバックします。

事前・事後学習
世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。

メディアツール b 都 映里	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMD1002	後学期	選 択

授業のねらい
Apple社Macintosh (Mac) でAdobe社PhotoshopとIllustratorを使用。メディアツール b では主にPhotoshopの実習を通して、画像補正・加工・編集の基本を習得し、視覚効果の表現を広げ、DTP、WEB、映像などのメディアに展開できる知識と技術を身につけます。
*メディアツール b では a で得た知識と技術が生きてきますので、b を受ける前に a を受けておくようにしてください。

到達目標
インプットした情報を整理し、目的を持って視覚的にアウトプットできる技術を身につけます。
どの分野の職業に進んでも、メディアツールで習得した知識や技能がいかせるような課題制作をします。
提出課題と取り組み姿勢が成績評価の対象となります。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
出席状況・課題の提出率・理解度と出来栄え・小テスト・取り組み姿勢すべての総合点。
課題提出がすべてであっても取り組み姿勢に問題があると判断した場合は単位は与えません。
制作物について各人にフィードバックし、その都度改善、向上してもらいます。

事前・事後学習
宿題を前の週の講義で指示します。忘れてくると実習が遅れるため必須。
Macを持っていなくても、インターネットを活用し、予習復習を行ってください。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Macを用いた演習を行います。
1. ガイダンス
2. 基本操作
3. 描画の基本
4. 自由曲線による描画
5. 色の指定、配色
6. 文字の入力、変形
7. イラストレーション
8. その他のツール
9. 写真の操作
10. 文章の編集
11. データの編集
12. デザインの実践 1
13. デザインの実践 2
14. オリジナル作品制作
15. 合評会

テキスト・教材 (参考文献含む)
実習内容に応じて教員から参考資料、データなどを配布します。

担当者から一言
これまでコンピュータが苦手だった方でも、興味があれば大丈夫です！

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Macを用いた演習を行います。
第1講 ガイダンス・ファイル管理から課題提出までの流れ・Mac、Photoshopの基本操作、色補正
第2講 移動・選択・テキスト・レイヤー・レイヤー効果
第3講 画像データの修正
第4講 ロゴタイプ・ロゴマーク
第5講 ロゴタイプを使ったデザインカード
第6講 切り抜きと合成(トレーニング)
第7講 映画広告①
第8講 映画広告②
第9講 WEBサイトデザイン①(素材収集)
第10講 WEBサイトデザイン②(素材・部品作り)
第11講 WEBサイトデザイン③(レイアウト)
第12講 小テスト(筆記・実技)
第13講 スライドショー①(素材作り)
第14講 スライドショー②(素材作り)
第15講 スライドショー③(編集)

授業はいずれもMacを用いた実習です。
*欠席すると理解不十分となっていくので、やむを得ない場合以外は必ず出席すること。
*欠席した場合は、翌週までに欠席した分の講義内容を把握しておくこと。

テキスト・教材 (参考文献含む)
教員が用意するもの、及び、目に映るすべてのもの。
配布されたものは必ずファイリングして講義時に持参。

担当者から一言
技術的なことだけでなく、楽しみながら表現に対しての考える力を身につけ、想像力を創造力にしていきたいと思います。

メディアツールb 池田幹男	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GSMD1002	後学期	選択

授業のねらい
コンピュータにおける色表現と、さまざまなカラーのラスター画像ファイルフォーマットについて理解し、ラスター画像編集ソフトウェアGIMPの使用法について学び、色の変更、画像の変形、合成、フィルターなどの様々な画像処理について学びます。

到達目標
GIMPを使用してラスター画像の色補正、画像の変形、合成など処理ができ、複数レイヤーを活用した画像が作れるようになることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業の演習課題(50%)と最終課題(30%)、授業への参加態度(20%)で評価します。定期テストは実施しません。フィードバックは教育支援システム(Moodle)を通じて実施します。

事前・事後学習
GIMPの操作は簡単には身につけません。授業以外の時間にも操作して慣れるようにしてください。(週180分)GIMPは自由にインストールできるので、可能ならば自分自身のコンピュータで動かして操作してください。

メディアツールb 池上貴文	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GSMD1002	後学期	選択

授業のねらい
DTPやWEBなど様々なメディアで、ビジュアル作成に利用されるペイント系ソフトの定番、Adobe社の「フォトショップ」を使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。
授業はApple社のマッキントッシュを使い、毎回の課題をひとつひとつこなしながら、自分の思考をビジュアル表現する楽しさを体感し、基礎技術を身につけます。

到達目標
ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業内の課題(100%)。課題の講評によってフィードバックします。

事前・事後学習
世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Windows PCを用いた演習を行います。
第1講 ガイダンスとコンピュータでのラスター画像表現
第2講 レイヤー
第3講 フィルター
第4講 色の補正
第5講 パス
第6講 パスの編集
第7講 文字の入力と変形
第8講 レイヤーマスクとアルファチャンネル
第9講 スタンプを使用した画像の修正
第10講 画像ファイルへのエクスポートと注意点
第11講 GIMPのその他の機能
第12講 最終課題の制作(1)
第13講 最終課題の制作(2)
第14講 最終課題の制作(3)
第15講 最終課題の提出と講評
授業はいつでもPCを用いた実習です

テキスト・教材(参考文献含む)
GIMPの操作は簡単には身につけません。授業以外の時間にも操作して慣れるようにしてください。(週180分)

担当者から一言
GIMPはGPLで配布されているソフトウェアで無料で使用することができます。可能ならば自分自身のPCにインストールしてGIMPの様々な可能性に挑戦してください。描きたい絵を描くことが、上達することです。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Macを用いた演習を行います。
1. ガイダンス
2. 基本操作
3. 画像処理の基本
4. 選択範囲作成
5. 写真修正、画像合成コラージュ
6. 変形、拡大縮小と解像度
7. ペイント、色変換
8. 文字入力、加工
9. イラストレーション
10. フィルター、その他のツール
11. GIFアニメーション
12. デザインの実践1
13. デザインの実践2
14. オリジナル作品制作
15. 合評会

テキスト・教材(参考文献含む)
実習内容に応じて教員から参考資料、データなどを配布します。

担当者から一言
これまでコンピュータが苦手だった方でも、興味があれば大丈夫です!

メディアツールc 田中麻衣	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSMD1003	前学期	選択

授業のねらい
 今後、専門教育科目でメディアを学びたい学生に映像の基礎を勉強し、卒業論文へ向けてスキルを積み上げていきます。
 この授業はAdobe Premiere Proを使用し、動画編集技術を学ぶ授業です。

到達目標
 Premiere Proを触ったことがない、編集ソフトを触ったことがない初心者が最終的には映像作品の制作が目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 最終的にグループになって作品を1本作成してもらいます。
 作品の出来栄え、授業に対する意欲、授業での態度などを総合評価し成績を出します。

事前・事後学習
 たくさんの映像作品にふれてもらいたいので、Youtubeにアップロードされているもの、TVドラマ、CM、ドキュメンタリー、映画など、最低でも1日に1本程度みることを準備学習とします。

メディアツールd 関根辰夫	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSMD1004	後学期	選択

授業のねらい
 Apple社の音楽制作ソフトであるGarageBandをツールとして使い、楽器を演奏できない人でも自己表現の一つとしての音楽を作り出すことができるようにする。また映像に合わせて音楽やSE(効果音)などを編集する基礎を学ぶ。

到達目標
 音源制作の基礎を学びオリジナルの音源を作り上げる力を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 毎回の実習態度及び課題や作品づくりを通して評価します。
 定期試験は行いません。
 作品づくり 1 (15%)、作品づくり 2 (30%)
 毎回の課題 (55%)
 その場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日フィードバックします。

事前・事後学習
 毎回の授業で学んだ内容は、次回の授業でその通りに実行できるように、手順などを各自復習をする。(実習時にとったメモなどを参考にし、不明な点は参考文献などで調べておくこと - 60分)
 またiPhoneやiPad版のGarageBandもあるので、持っている人はMacintosh版との共通点や異なる点を意識しつつ復習や予習のツールにする。(毎日30分程度)
 メディアツールのa、bを先行して履修し、Macintoshの操作には慣れていることが望ましい。

授業の位置づけ
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
 Macを用いた演習を行います。
 第1回:ガイダンス/自己紹介
 第2回:色んな種類の映像を楽しむ
 第3回:Premiere Pro「動画を編集するとは?」
 第4回:Premiere Pro「動画素材/インターフェイスについて」
 第5回:Premiere Pro「基本操作1」
 第6回:Premiere Pro「基本操作2」
 第7回:Premiere Pro「基本操作3」
 第8回:Premiere Pro「Premiere Proその他の機能紹介」
 第9回:Premiere Pro「応用編1」
 第10回:Premiere Pro「応用編2」
 第11回:Premiere Pro「応用編3」
 第12回:動画制作に向けての企画
 第13回:動画制作に必要な素材収集/撮影
 第14回:動画制作1
 第15回:まとめ/作品発表会

テキスト・教材 (参考文献含む)
 必要に応じてプリントを配布します。

担当者から一言
 大学卒業後映像業界へ進む方、編集に興味がある人に、少しでも学んだ事をいかしてもらえそうな授業をしたいと思います。
 一緒に、学びましょう。

授業の位置づけ
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
 第1講 ガイダンス(履修者選抜のくじ引き)/音楽の基礎
 第2講 GarageBand体験
 第3講 Apple Loops の検索、配置
 第4講 Apple Loops 編集、オーディオ化など
 第5講 作品づくり 構想、企画
 第6講 作品づくり 打ち込み
 第7講 作品づくり ミキシング~作品提出~発表
 第8講 既成の曲の取り込み/編集
 第9講 生音の録音/編集
 第10講 エフェクトについて
 第11講 ミキシングについて
 第12講 作品づくり2 構想、企画
 第13講 作品づくり2 打ち込み等
 第14講 作品づくり2 ミキシング~作品提出
 第15講 発表~まとめ
 授業はいずれもMacを用いた実習です。
 履修希望者が20名を超えていた場合、第1講においてクジ引きで受講者を選びます。
 第1講を欠席・遅刻した学生は、自動的に受講できなくなると考えてください。

テキスト・教材 (参考文献含む)
 配布するプリント

担当者から一言
 音楽を作るには楽器ができないと無理だと考えるかもしれませんが、今ではコンピューターを使い楽器の演奏ができなくても、音楽作品を作ることが可能です。この講義では音楽の理論の基礎も少しずつ学びながら、簡単な楽曲を仕上げる力を養います。

Webデザイン a 池田 幹男	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSMD1005	後学期	選 択

授業のねらい
World-Wide Webの基本であるHTML (Hyper Text Markup Language)と CSS(Cascading Style Sheet)について学び、実際にウェブページをデザインします。

到達目標
HTMLとCSSについて理解し、スタイルシートを持ち、ページ間でリンクがあるウェブページを実際に作製できるようになることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業態度30%、提出物30%、総合演習40%で評価し、定期試験は実施しません。

事前・事後学習
W3Cの仕様書などを授業の開始前後に読んで、各々のHTML要素・アトリビュート・CSSプロパティの意味を予習復習し、仕様書内の例を実際に表示して実習してください。(週180分)

Webデザイン a 堀内 敬弘	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSMD1005	後学期	選 択

授業のねらい
この授業では主にWebデザインやHTML、CSS言語の役割などWebサイト制作の仕組みとWebサイト制作の背景について授業を行います。例えば、どのような仕組みでWebサイトは構築され、どのような手順で製作されているのでしょうか。Webサイトは現代でどのような役割を担い、どのような影響をもたらしているのでしょうか。こういったWebサイトの背景を事例を通して知ることで、時代とデザインとの密接な関係性に気づき、表現方法を身につけ、Webデザインに対する関心を高めてもらう事をこの授業の狙いとしています。

到達目標
この授業では、学生諸君がWebサイト製作、デザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトへの制作ができるようになる事を到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
・授業時に指示する簡単な課題の提出状況及び受講態度:20%
・授業ごとに行う簡易的なプレゼンテーションへの積極的な参加態度:20%
・全授業終了後に提出する課題の提出状況及びクオリティ・理解度:60%
・定期試験:定期試験はありません

事前・事後学習
日頃からスマートフォンやパソコンなどでいろんなWebサイトを閲覧し、気に入ったものはブックマークしておくこと。(毎日10分程度)上記でブックマークしたものは毎授業開始時に数名ずつ皆へサイトの紹介(プレゼンテーション)をしていただき、人前に立って発言する、説明する訓練を行います。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Windows PCを用いた演習を行います。
第1講 ガイダンス e-Learning(Moodle)の使用法
第2講 HTML(1):見出しと段落(h1, h2, h3, p)
第3講 HTML(2):字体の変更(em, strong)と特殊な文字の表示方法
第4講 HTML(3):画像の埋め込み(img)
第5講 HTML(4):箇条書き(ul, ol, li)
第6講 HTML(5):リンク(a)
第7講 HTML(6):表の作製(table, tr, th, td)
第8講 CSS(1):フォントと文字のスタイル
第9講 CSS(2):色、背景のスタイル
第10講 CSS(3):ボックスモデル
第11講 CSS(4):スタイルシートのその他のプロパティ
第12講 総合演習(1)
第13講 総合演習(2)
第14講 総合演習(3)
第15講 総合演習(4)
授業はいずれもPCを用いた実習です。

テキスト・教材 (参考文献含む)
テキストは使用しません。学習支援システム(Moodle)を使用して呈示します。[W3C (World Wide Web Consortium), <http://www.w3.org/>]にある仕様を参考にしてください。

担当者から一言
「Webプログラミング a」を受講した後で履修することを推奨します。Webシステムである学習支援システム(Moodle)を使用して、授業を進めていきます。また、MoodleでのHTML要素、CSSプロパティを検証することは授業の理解の役に立ちます。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Macを用いた演習を行います。
第1講 <ガイダンス> 先生の自己紹介/今後の講義内容、試験について/これからのWEBデザイン/体験してみよう
第2講 Webデザインとは /Webサイトの構造
第3講 HTML・CSSとは / 実践の準備をしよう
第4講 ナビゲーション・ヘッダー制作1
第5講 ナビゲーション・ヘッダー制作2
第6講 ナビゲーション・ヘッダー制作3
第7講 ナビゲーション・ヘッダー制作4
第8講 メインビジュアル制作
第9講 新着情報コンテンツ(2カラム)制作1
第10講 新着情報コンテンツ(2カラム)制作2
第11講 1カラムレイアウト制作1
第12講 1カラムレイアウト制作2
第13講 2カラムレイアウト制作1
第14講 2カラムレイアウト制作2 / フッターレイアウト制作1
第15講 フッターレイアウト制作2

テキスト・教材 (参考文献含む)
なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります)

担当者から一言
パソコンが得意でなくてもいいです。絵にセンスがなくてもいいです。Webデザインはセンスは必要ありません。必要なのは学びたいと言う気持ちと受講を決めるあなたの行動力です。先生と一緒にモノづくりの難しさも達成感も全て楽しみながら授業しましょう。

Webデザイン b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSMD1006	前学期	選 択

堀内敬弘

授業のねらい

この授業ではWebデザインaで学習したHTML・CSSのスキルを活かして実際の現場のようなWebデザイン業務を疑似体験しながらデザイン・構築・納品までのプロセスを学びます。

例えば、数人1組で制作チームを作り、架空のクライアントの要望に対してチーム対抗でコンペを行います。

先生はその制作のプロセス、デザイン、マークアップクオリティ、プレゼンテーション能力から総合評価。

生徒による個人票投票の総合で最も優秀なWebページを選定します。

到達目標

チームで一丸となり一つのものを作り上げることでそのプロセスの楽しさ、大変さ、協調性、達成感などWebデザインにおける真の醍醐味を体験して頂くことを到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。

- ・授業時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:10%
- ・第15講にプレゼンを行う課題の提出状況および制作のクオリティとプレゼン力:90%

事前・事後学習

日頃からスマートフォンやパソコンなどでいろんなWebサイトを閲覧し、気に入ったものはブックマークしておくこと。(毎日10分程度)
上記でブックマークしたものは毎授業開始時に数名ずつ皆へサイトの紹介(プレゼンテーション)をしていただき、人前に立って発言する、説明する訓練を行います。

Webプログラミング a	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMD1007	後学期	選 択

片山清和・前川督雄

授業のねらい

ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学ぶ演習科目です。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。

到達目標

HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

「提出物」(60%)、「作品」(40%)

提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。

事前・事後学習

講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること(60分)
講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと(120分)。
本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミングb」で学習します。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

Macを用いた演習を行います。

- 第1講 ガイダンス 最新Webデザインのトレンド
- 第2講 チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とヒヤリング

第3講 ワイヤフレーム制作(Photoshop)

第4講 ワイヤフレーム制作(Photoshop)

第5講 デザイン制作(Photoshop)

第6講 デザイン制作(Photoshop)

第7講 デザイン制作(Photoshop)

第8講 HTML・CSSマークアップ

第9講 HTML・CSSマークアップ

第10講 HTML・CSSマークアップ

第11講 HTML・CSSマークアップ

第12講 HTML・CSSマークアップ

第13講 HTML・CSSマークアップ/マークアップ調整

第14講 マークアップ調整/プレゼンテーション準備

第15講 プレゼンテーション/投票・評価/まとめ

授業はいずれもPCを用いた実習です。

テキスト・教材 (参考文献含む)

なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります)

担当者から一言

Webデザイン aを受講済みの生徒へオススメする授業です。Webデザイン aを受講されていない生徒でもあらかじめHTML・CSSの理解がある場合は受講をオススメします。
Webデザイン aで学習したHTML・CSSを活かしてチームで1つのWebサイトを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

Windows PCを用いた演習を行います。

第1講 ガイダンス、WWWとWeb

第2講 HTML概要

第3講 画像とリンク

第4講 リストとナビゲーション

第5講 表組み

第6講 フォーム

第7講 CSS概要

第8講 見出しと段落

第9講 boxモデル

第10講 ページ全体のレイアウト

第11講 リストとナビゲーションのスタイリング

第12講 表のスタイリング

第13講 問合せフォーム

第14講 Webサイト制作(1)

第15講 Webサイト制作(2)

テキスト・教材 (参考文献含む)

赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3コーディングとサイト制作の教科書」 技術評論社 ¥2,680+税

担当者から一言

プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。

Webプログラミング b 池田 幹男	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSMD1008	前学期	選 択

授業のねらい
この授業では主にJavaScriptを使用したプログラミングを学びます。特に、Webページの基本であるHTMLやCSSと連携してそれらを操作するプログラミングや、CanvasAPIを使用したグラフィックを操作するプログラミング、イベントハンドラーを使用したプログラミングについて学びます。

到達目標
JavaScriptによる動的なWebページの制作、スタイルの操作、簡単なグラフィックプログラムが出来るようになることを目標にします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の授業の演習課題(70%)と、授業への参加態度(30%)で評価します。定期テストは実施しません。教育支援システム(Moodle)を通じてフィードバックします。

事前・事後学習
教育支援システムを通じて提示する例題や課題、Mozilla developerでの解説や例を予習(毎週90分)復習(毎週90分)することを推奨します。また、例題もとに新しいプログラムを自分の力で作るとより理解が深まります。

インターネット論 片山 清和	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSMD1009	前学期	選 択

授業のねらい
現在、スマホからパソコンに至るまでほとんど全てのコンピュータがインターネットでつながっている。そのインターネットを使って、電子メールを送受信したり、LINEなどのSNSを利用したりしています。この講義では、コンピュータネットワークの基礎知識と動作原理を最新の動向も含めて講義します。

到達目標
①インターネットの仕組みを説明できる。
②TCP/IPモデルを説明できる。
③ネットワーク機器の動作を説明できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
「レポート・小テスト」(40%)、「定期試験」(60%)
レポート・小テストは採点し、コメントを付加して、以降の講義で返却します。

事前・事後学習
講義前にはテキストを読んでくること(60分)。
講義後には復習を行い、演習問題をしっかり解くこと(120分)。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Windows PCを用いた演習を行います。
第1講 ガイダンス e-Learningの使用法
第2講 JavaScriptを使用した動的なウェブページの例
第3講 getElementById, getElementsByTagName, setInterval
第3講 JavaScript(式と変数)
第4講 JavaScript(関数)
第5講 JavaScript(繰り返し)
第6講 JavaScript(イベントとイベントハンドラ)
第7講 JavaScriptによるHTMLの操作
第8講 JavaScriptによるCSSの操作
第9講 Canvas API の解説
第10講 Canvas API プログラミング 1
第11講 Canvas API プログラミング 2
第12講 自由課題(1)
第13講 自由課題(2)
第14講 自由課題(3)
第15講 自由課題(4)
授業はいずれもPCを用いた実習です。

テキスト・教材(参考文献含む)
教育支援システム(Moodle)を通じて、資料やインターネット上の情報、プロトタイプを提供します。

担当者から一言
「Webプログラミング a」の単位を事前に修得することを勧めます。学ぶことが多いので、予習と復習をしっかりと行い、頭の中で知識を整理していかないと、訳が分からなくなります。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、インターネットの歴史
第2講 ネットワークの基礎知識(1)
第3講 ネットワークの基礎知識(2)
第4講 ネットワークの基礎知識(3)
第5講 信号の伝送と衝突(1)
第6講 信号の伝送と衝突(2)
第7講 信号の伝送と衝突(3)
第8講 IPアドレッシング(1)
第9講 IPアドレッシング(2)
第10講 ルーティング(1)
第11講 ルーティング(2)
第12講 コネクションとポート番号(1)
第13講 コネクションとポート番号(2)
第14講 コネクションとポート番号(3)
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
網野衛二 著 「[改訂新版]3分間ネットワーク基礎講座」 ¥1,780+税
【参考文献】
三上信男 著 「ネットワーク超入門講座 第3版」 SBクリエイティブ ¥1,980+税

担当者から一言
インターネットは現代社会を支える極めて重要な要素です。内容はやや専門的で難しく感じるかもしれませんが、皆さんが楽しく受講できるように、身近な事例を多く紹介します。

基礎数学／基礎数学 a 小川 東	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMS1001	前学期	選 択

授業のねらい
確率や統計を学ぶためのもっとも基礎的な数学について講義します。この講義を受講すると基礎的な計算方法をマスターすることができます。とくに指数関数についてよくわかるようになり、またそのイメージがつかめるようになります。

- 到達目標**
- (1)和を表すシグマ記号などを含む計算が自由にできるようになること
 - (2)指数法則を理解して自由に計算できるようになること
 - (3)指数関数とそのグラフを理解すること
 - (4)ネーピアの数を理解すること
 - (5)対数の法則を理解して自由に計算できるようになること
 - (6)対数関数とそのグラフを理解すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験により評価します。なお3割を超えて欠席した学生には単位を認定しません。講義中に小テストを行った場合はその結果もプラスします。黒板で問題を解いてもらいその場で採点、フィードバックします。

事前・事後学習
日頃から新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの統計や統計に関する記述を読んで下さい(90分)。講義内容のノートを見返して、不明な点をなどは参考文献で調べてください(90分)。

統計リテラシー／統計学 井岡 幹博	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMS1002	後学期	選 択

授業のねらい
環境関連の実験を行うと計測結果としてのデータが得られます。フィールド調査やアンケート調査を行っても、様々なデータが得られます。得られたデータを整理・分析し、データの中に潜む対象物の本来の姿を引き出す技術が統計学と言えます。たとえば、限られた数のデータから全体の姿を推定すること、得られたデータから役に立つ情報を引き出すことができるのみならず、確率の問題まで、統計学は含みます。ここでは基本的な事柄から応用までを具体的な例、グラフ等を使って説明し、実習していきます。

- 到達目標**
- 確率変数の意味を理解する。2つの確率変数の相関係数が計算できる。正規分布の意味を理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
課題提出50% 定期試験50%

事前・事後学習
配布されるプリントを熟読すること(予習)。毎回課される課題を自宅で演習すること(復習)。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス
 - 第2講 和の記号
 - 第3講 簡単な和の公式
 - 第4講 公式を利用した計算
 - 第5講 和の公式の証明
 - 第6講 指数の定義
 - 第7講 指数法則
 - 第8講 指数法則を利用した計算
 - 第9講 指数関数の定義とグラフ
 - 第10講 ネーピアの数
 - 第11講 対数の定義
 - 第12講 対数法則
 - 第13講 対数法則を利用した計算
 - 第14講 対数関数の定義とグラフ
 - 第15講 まとめ
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
テキスト:とくにありません
参考文献:
(1)石村園子『大学新入生のための数学入門 増補版』共立出版(2004年)の第4章と第5章。
(2)小川東『環境のための数学』朝倉書店(2005年)の第2章と第3章。

担当者から一言
数学は記号を使って抽象的にものを考える学問です。抽象的にものを考えることが本当に苦手な人も確かにいますが、ただ先入観で数学が難しいと思っている人が大半です。たぶんあなたもそうです。この講義ではそういう人を対象に講義を進めます。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス
 - 第2講 平均の性質
 - 第3講 分散と標準偏差
 - 第4講 分散と標準偏差
 - 第5講 相関係数
 - 第6講 相関係数
 - 第7講 順列と組み合わせ
 - 第8講 標本空間と事象
 - 第9講 確率
 - 第10講 条件付き確率
 - 第11講 ベイズの公式
 - 第12講 確率変数
 - 第13講 正規分布(1)
 - 第14講 正規分布(2)
 - 第15講 データが世の中でどのように使われているか
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
テキスト・教材
長谷川勝也著「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」 技術評論社 1,706円
参考文献
宮川公男著 「基礎統計学 第4版」 有斐閣 ¥2800+税

担当者から一言
授業内容確認のための課題を出します。とくに予備知識は必要としません。加減乗除が計算できれば、課題は解けます。まずは、ちゃんとノートを準備することです。

確率基礎／基礎数学 b 片山 清和	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSMS1003	前学期	選 択

授業のねらい
現在、自然科学の分野だけでなく、人文／社会科学の分野でも数字データが用いられています。それらの数字データを分析する道具として、統計学が用いられています。特に近年では、ビッグデータと呼ばれる大規模データを統計処理して、社会生活に役立てる試みがさかに行われています。そのため、統計学はより身近になっており、統計学なくして社会生活が成り立たないと言っても言い過ぎではありません。この講義では、統計学の基礎知識である確率の考え方を学び、確率分布を学びます。

到達目標
確率や確率分布の基礎知識を身に付け、確率の計算ができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)
提出課題は100点満点で採点し、教育支援システム (Moodle) を介して返却します。

事前・事後学習
講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと(60分)。講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと(120分)。「基礎数学」「統計リテラシー」を履修していることが望ましい。本講義の内容をふまえ、発展した内容を「統計的分析」で学習します。

授業のねらい
この講義では微分と積分について学びます。微分は情報の変化を理解するための最も基本的な方法です。また積分の計算は面積を求める計算としても重要ですが、この講義では統計処理を意識して講義します。

微分積分／微分積分学 1 小川 東	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSMS1004	前学期	選 択

到達目標
(1) 微分と積分の概念と計算、積分の概念と簡単な計算ができるようになること。
(2) 正規分布の式とグラフを理解すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験により評価します。講義中に小テストを行った場合はその結果もプラスします。
3割を超えて欠席した学生には単位を認定しません。
黒板で問題を解いてもらいその場で添削しフィードバックします。

事前・事後学習
毎回授業の内容に関する話題を予告するので、事前に調べてみてください(90分)。講義内容のノートを見返して、問題を解き直したり、不明な点を調べてください(90分)。

授業のねらい
この講義では微分と積分について学びます。微分は情報の変化を理解するための最も基本的な方法です。また積分の計算は面積を求める計算としても重要ですが、この講義では統計処理を意識して講義します。

到達目標
(1) 微分と積分の概念と計算、積分の概念と簡単な計算ができるようになること。
(2) 正規分布の式とグラフを理解すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験により評価します。講義中に小テストを行った場合はその結果もプラスします。
3割を超えて欠席した学生には単位を認定しません。
黒板で問題を解いてもらいその場で添削しフィードバックします。

事前・事後学習
毎回授業の内容に関する話題を予告するので、事前に調べてみてください(90分)。講義内容のノートを見返して、問題を解き直したり、不明な点を調べてください(90分)。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、統計学とは
第2講 順列・組み合わせ
第3講 標本空間と事象
第4講 確率
第5講 条件付き確率
第6講 ベイズの公式
第7講 確率変数
第8講 2項分布
第9講 ポアソン分布
第10講 正規分布(1)
第11講 正規分布(2)
第12講 確率分布の期待値(1)
第13講 確率分布の期待値(2)
第14講 確率分布の分散
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
長谷川勝也 著 「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」 技術評論社 ￥1,580+税
【参考文献】
宮川公男 著 「基礎統計学 第4版」 有斐閣 ￥2,800+税
「基礎統計学 I 統計学入門」 東京大学出版会 ￥2,800+税

担当者から一言
学習支援システム(Moodle)を利用します。
積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。
また、出席状況が悪い場合には減点します。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 微分の定義
第3講 微分法の基本公式(和, 差)
第4講 微分法の基本公式(積, 商)
第5講 合成関数の微分法
第6講 指数関数と対数関数の微分法
第7講 微分法とグラフ(増加, 減少, 極値)
第8講 微分法とグラフ(凹凸)
第9講 正規分布のグラフ
第10講 不定積分
第11講 定積分
第12講 定積分の基本公式
第13講 部分積分法と置換積分法
第14講 正規分布の導出
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
テキスト：とくにありません。必要に応じて解説、問題などのプリントを配布します。
参考文献：小川東『環境のための基礎数学』朝倉書店、3,132円、第4章、第5章。

担当者から一言
基本から丁寧に講義をします。授業中に練習問題を解く時間を作るので、わからないことは質問できるようにしています。遠慮なく質問をしてください。受講生の理解度に応じて進度を変更することがあります。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 微分の定義
第3講 微分法の基本公式(和, 差)
第4講 微分法の基本公式(積, 商)
第5講 合成関数の微分法
第6講 指数関数と対数関数の微分法
第7講 微分法とグラフ(増加, 減少, 極値)
第8講 微分法とグラフ(凹凸)
第9講 正規分布のグラフ
第10講 不定積分
第11講 定積分
第12講 定積分の基本公式
第13講 部分積分法と置換積分法
第14講 正規分布の導出
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
テキスト：とくにありません。必要に応じて解説、問題などのプリントを配布します。
参考文献：小川東『環境のための基礎数学』朝倉書店、3,132円、第4章、第5章。

担当者から一言
基本から丁寧に講義をします。授業中に練習問題を解く時間を作るので、わからないことは質問できるようにしています。遠慮なく質問をしてください。受講生の理解度に応じて進度を変更することがあります。

線型代数	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	小川 東	後学期	選択

授業のねらい
この講義では、全くの初心者を対象に、多変量分析など、統計学での利用を意識しながら連立方程式の解法を軸に、はきだし法、行列、行列式について講義をします。

到達目標
(1) 中学校以来行き当たりばつりに解いていた連立方程式が体系的に解けるようになること
(2) 解の構造を理解すること
(3) 行列、行列式の計算に習熟すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験により評価します。講義中に小テストを行った場合はその結果もプラスします。
3割を超えて欠席した学生には単位を認定しません。
黒板で問題を解いてもらいその場で添削しフィードバックします。

事前・事後学習
毎回授業の内容に関するキーワードを予告するので、事前に調べてみてください(90分)。講義内容のノートを見返して、問題を解き直したり、不明な点を調べてください(90分)。

データ統計処理	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	片山 清和	前学期	選択

授業のねらい
現在、自然科学の分野だけでなく、人文/社会科学の分野でも数字データが用いられています。それらの数字データを分析する道具として、統計学が用いられています。特に近年では、ビッグデータと呼ばれる大規模データを統計処理して、社会生活に役立てる試みがさかに行われています。そのため、統計学はより身近になっており、統計学なくして社会生活が成り立たないと言っても言い過ぎではありません。
この講義では、Excelの関数を用いて大規模なデータに対して統計処理を行う方法と、推定や検定を行う方法についても学びます。

到達目標
Excelを用いて大規模なデータに対して統計処理ができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)
教育支援システム(Moodle)に提出した課題は、100点満点で採点し、コメントを付加してMoodleを介して返却します。

事前・事後学習
講義前には前回までの内容を復習しておくこと(60分)。
講義後には復習を行い、演習問題をしっかり解くこと(120分)。
「基礎数学」「統計リテラシー」「確率基礎」「微分積分」「線形代数」「データ分析の基礎」「統計的分析」を履修していることが望ましい。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 簡単な例、連立方程式の表し方、はき出し法による連立方程式の解法
第3講 はき出し法による連立方程式の解法(つづき)
第4講 連立方程式の解が無数にある場合
第5講 連立方程式の解がない場合
第6講 連立方程式の行列表示、行列の演算
第7講 行列の演算(つづき)
第8講 逆行列と連立方程式
第9講 はき出し法による逆行列の求め方
第10講 行列式の定義、クラメル公式(2次の場合)
第11講 行列式の定義、クラメル公式(3次の場合)
第12講 行列式の展開公式
第13講 行列式の計算法
第15講 行列式の計算法(つづき)、4次以上の行列式
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
テキスト：ありません。受講生の理解の様子を見て、教材としてプリントを配ることがあります。
参考文献：線型(または線形)代数の本は多数刊行されています。必要な自分のレベルにあったものを見てください。

担当者から一言
この講義は数の加減乗除、分数の計算くらいしか使われません。しかしその内容は豊かです。基本から丁寧に講義をし、講義中に練習問題を解く時間を作ります。学習のコツは面倒くさがらないことです。受講生の理解度に応じて進度を変更することがあります。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、
第2講 1次元データの整理(1)
第3講 1次元データの整理(2)
第4講 2次元データの整理(1)
第5講 2次元データの整理(2)
第6講 確率分布(1)
第7講 確率分布(2)
第8講 確率分布(3)
第9講 検定(1)
第10講 検定(2)
第11講 検定(3)
第12講 推定(1)
第13講 推定(2)
第14講 推定(3)
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
長谷川勝也 著 「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」 技術評論社 ¥1,580+税
【参考文献】
宮川公男 著 「基礎統計学 第4版」 有斐閣 ¥2,800+税
「基礎統計学 I 統計学入門」 東京大学出版会 ¥2,800+税

担当者から一言
学習支援システム(Moodle)を利用します。
積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。
また、出席状況が悪い場合には減点します。

環境情報学概論Ⅰ 千葉 賢	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	EFC1001	前学期	必修

授業のねらい
自然環境分野とメディア情報分野の多様な講義を交互に配置し、実習も交え、両分野の学問の特徴や面白さを教える。多数の教員がオムニバス形式で授業を担当するので、1年次を担当していない教員を知る機会にもなる。以降の環境情報学部内での進路選択に役立つ情報も提供する。環境情報学概論Ⅱに繋がる内容とする。

到達目標
自然環境分野とメディア情報分野の学問の特徴を知り、環境情報学部で学ぶ分野を選択できるようにする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
各回の担当の先生による採点による（100%）。3割を越えて欠席した場合は単位を認定しません。

事前・事後学習
レポート課題の提出準備、または講義でとったノートの見返しと不明な点を調べる（90分）。毎回、次回講義の予告をすることで下調べすること（90分）。

環境情報学概論Ⅱ 吉山 青翔	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	EFC1002	後学期	必修

授業のねらい
(1) 自然環境問題に関する基礎事項を理解すること
(2) 卒業までに本学部で学べることを整理・理解すること

到達目標
(1) 里山、河川、伊勢湾の自然環境について理解すること
(2) 北勢地域の農業環境について理解すること
(3) 北勢地域のメディア環境について理解すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
各講の内容に関するレポートの出来具合（各講の担当先生による点数化）により総合評価。ただし3割を超えて欠席した場合は単位を認定しません。

事前・事後学習
レポート課題の提出準備、または講義でとったノートの見返しと不明点を調べる（90分）。毎回、次回講義の予告をすることで、下調べすること（90分）。

授業の位置づけ
1. 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
2. 地域の持続的発展のために貢献できる
3. 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる
4. 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる
5. メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス(千葉・前川)、大学里山の環境(千葉)
第2講 里山と竹林保全(PPK四日市)
第3講 竹林保全実習(PPK四日市)
第4講 環境調査とIT技術の連携(千葉)、アナログからデジタルへ(池田)
第5講 プログラム制作「夢宣言」
第6講 環境と思想(吉山)、ニュースから知る光メディア(黒田)
第7講 数学の大切さ・面白さ(小川)、メディアとクリエイティブティ(木村)
第8講 プランクトンの世界(牧田)、深層学習と画像認識(千葉・片山)
第9講 野生生物の生態研究と保護管理(橋本)、スタジオでの録音シミュレーション(関根)
第10講 アイディアと技術で広がる可能性(前川・黒田・関根)
第11講 自然と文化(田中)、地理情報システム(井岡)
第12講 水環境(大八木)、文化とメディア情報(メディア教員)
第13講 地域農業と環境(廣住)、Webを使った情報処理(片山)
第14講 スタジオ開き「PV制作」
第15講 分野選択(環境情報学部全教員)

テキスト・教材（参考文献含む）
テキスト：ありません。
教材：必要に応じて各先生から配布されます。
参考文献：各先生から紹介されることがあります。

担当者から一言
オムニバス形式の授業なので、教員によって、教え方は大きく異なり、伝えたい内容を1回の授業にまとめて話をするので、聞く側は結構大変です。自分の進路を決めるための情報が満載の授業なので、積極的な気持ちで参加してください。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
地域の持続的発展のために貢献できる

授業計画
第1講 ガイダンス(吉山)
第2講 地球環境と北勢地域の環境(千葉)
第3講 里山環境の健全度調査と保全活動(千葉)
第4講 里山に生息する野生動物と獣害対策(橋本)
第5講 陸水環境中の物質循環(大八木)
第6講 北勢地域の河川環境と保全①(武本)
第7講 北勢地域の河川環境と保全②(武本)
第8講 河川と湖沼のプランクトン(牧田)
第9講 北勢地域の環境と農業(廣住)
第10講 「基礎演習」の配属方法と研究紹介(吉山)
第11講 伊勢湾の水質環境(千葉)
第12講 伊勢湾の海洋ゴミ(千葉)
第13講 伊勢湾とマイクロプラスチック(大八木)
第14講 四日市近郊の音・光の環境(前川・黒田)
第15講 総括(吉山)

テキスト・教材（参考文献含む）
テキスト： 四日市大学環境情報学部自然環境分野編『北勢地域の自然環境論』
参考文献： 必要に応じて、随時配布。

担当者から一言
基礎演習の希望などについて疑問がある時はなんでも担当の吉山に聞いてください。

環境情報学概論Ⅱ 前川 督雄	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	EFC1002	後学期	必修

授業のねらい
 配属されたメディア情報分野での学生生活を確立していくための導入を行います。
 分野の教員全員が分担して講義・演習を行って、分野の概要を伝え、体験してもらいます。また、2年次以降の学修の核となる演習科目(いくつかのセミナーに分かれての少人数指導になります)への導入を行います。

到達目標
 メディア情報分野の概要を把握してもらいます。また、自分自身が進む方向性・興味の対象を見定めて、大学生活の核となる演習科目(セミナー)の配属希望を提出してもらいます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 定期試験を行いません。
 各回の講義・演習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。
 基礎演習(2年次)配属にむけて、期間中の授業時間外に個別面談を行います。

事前・事後学習
 メディア情報分野の専門的な学修の出発点となる講義・演習です。興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください(180分)。

四日市公害論 千葉 賢	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	EFC2001	前学期	必修

授業のねらい
 四日市公害は日本の四大公害の一つに数えられ、日本の公害対策、環境政策、環境関連法の整備に大きな影響を与えた。コンビナート企業群が引き起こした公害であり、環境問題における共同不法行為が争われたという点で特色を持つ。その後、総量規制という有効な環境対策も生み出され、排水・排気ガス・振動・騒音などの問題が大きく軽減されてきた歴史を持つ。このような四日市公害を学び、公害当時に人々がどのように行動したのかを知り、自分の立場に置き換えながら、今後の環境問題への教訓と知識と心構えを受講者が得られるようにする。

到達目標
 ①環境情報学部で学ぶ学生として、四日市公害について語るができるようにする。
 ②四日市公害の歴史と背景についての知識を深める。
 ③現代の環境問題等の社会問題を多角的に捉える視点を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 毎回の講義後に、ミニレポートを作成して提出させる。1回2点満点×15回=30点(優秀レポートには加点する)。レポートを採点してフィードバックする。フィールドワークとグループディスカッションへの参加姿勢30点満点。期末試験40点満点。

事前・事後学習
 シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること(180分)。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス/メディア情報分野概論(前川、片山)
 第2講 情報技術(池田)
 第3講 Webコンピューティング(片山)
 以下第4講～第6講、第7講～第9講は、2グループに分かれて並行・交代して実施する。
 第4講 パソコン分解組立て実習①(井岡、池田、片山)
 第5講 パソコン分解組立て実習②(井岡、池田、片山)
 第6講 パソコン分解組立て実習③(井岡、池田、片山)
 第7講 音響メディア(関根)
 第8講 映像メディア(木村)
 第9講 光メディア(黒田)
 第10講 デジタルメディア(前川)
 第11講 文化論 概論(山本)
 第12講 文化論 アジア・英語文化圏(加納、ブレイ)
 第13講 寺院見学(学外)(北島名誉教授)
 第14講 特別講義(豊島名誉教授)
 第15講 4年生の卒業研究・卒業制作発表会見学
 (内容・順序を変更することがあります)

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキストはありません。
 必要に応じて資料を配布します。

担当者から一言
 幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。
 とりまとめ教員は、前川(4号館4609)です。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 地域の持続的発展のために貢献できる

授業計画
 第1講 ガイダンス、授業の概要 千葉
 第2講 四日市公害と4大公害の歴史 千葉
 第3講 四日市公害と4大公害の歴史 千葉
 第4講 行政から見た四日市公害 外部講師
 第5講 技術者から見た四日市公害 外部講師
 第6講 ここまでのまとめとフィールドワークのガイダンス 千葉
 第7～10講 四日市公害と環境未来館でのフィールドワーク(6/28日曜日) 鬼頭・岡
 第11講 フィールドワークの振り返り学習 鬼頭・岡
 第12講 四日市公害から得られた教訓(資料調査とグループディスカッション)
 第13講 四日市公害から得られた教訓(資料調査とグループディスカッション)
 第14講 四日市公害から得られた教訓(グループディスカッションと発表)
 第15講 まとめと試験範囲の説明

テキスト・教材(参考文献含む)
 なし。毎回の講義で資料を配布する。

担当者から一言
 経済発展の過程で必ず発生する環境問題と、その改善への人々の様々な取り組みについて、四日市公害の事例から学んでください。悲惨な経験をされた患者さんたちの話も出てきます。真剣に授業に取り組むことを求めます。

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2001	前学期	必修

授業のねらい
情報学の基礎である論理学、離散数学、情報理論、アルゴリズムを学びます。論理学では命題論理を中心に学びます。離散数学では主に集合、ブール代数、グラフについて学びます。情報理論では主に情報量、符号化について学びます。アルゴリズムでは計算オーダー、アルゴリズムについて学びます。

到達目標
①命題論理を説明でき、論理演算ができる。
②ブール代数を説明でき、ブール演算ができる。
③計算量を理解し、アルゴリズムを考えることができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。課題は次回、コメントを付し返却する。

事前・事後学習
講義前には、これまでに学習した内容を復習すること(60分)
講義後には、学習した内容を十分に復習すること(120分)

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2001	前学期	必修

授業のねらい
メディア系セミナーは、映像・音響・照明その他のメディアによる表現力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とします。そのスタートにあたり、基本として修得していなければならない機材の使い方や理論を学ぶとともに、様々なメディアによる表現の鑑賞、評価を通して自己表現力を高めます。また、同時に、作品制作にも取り組み、30～60秒程度の映像作品をグループで作ります。

到達目標
映像・音・光などを使いこなすために必要な機材の基本的な使い方や理論の基礎を修得し、様々な形で表現することに挑戦します。特に第9講以降には、作品の企画、構成から撮影・録音や編集など、作品制作の基礎を実践的に身につけて作品を完成させることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験は実施しません。
成績評価は次の通りとします。
授業、課題への取り組み姿勢：30%
作品制作への意欲、参加度：40%
レポート内容、作品内容、完成度：30%
レポートや課題についての評価は5段階評価をつけて後日返却。
作品は第15講で発表し、評価も伝えます。

事前・事後学習
授業の中で様々なレポートや課題を出します。それに取組むことが準備学習となります。そのためには毎日30分程度、授業で出てきた機材やソフトウェアの使い方をマニュアルなどで復習し、また様々なクリエイティブな表現や作品にふれること。また、授業で呈示された表現のための新しいアイデアや方法論、また機材やソフトウェアの使い方などについては、授業後60分程度、様々な文献やインターネット等で研究し、知識を得ておくこと。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、ゼミの進め方
第2講 論理学(1)
第3講 論理学(2)
第4講 論理学(3)
第5講 離散数学(1)
第6講 離散数学(2)
第7講 離散数学(3)
第8講 離散数学(4)
第9講 情報理論(1)
第10講 情報理論(2)
第11講 アルゴリズム(1)
第12講 アルゴリズム(2)
第13講 アルゴリズム(3)
第14講 アルゴリズム(4)
第15講 まとめ
(必要に応じて内容を変更します)

テキスト・教材(参考文献含む)
なし(必要に応じて配布します)
【参考文献】
野矢茂樹 「論理学」 東京大学出版会 ¥2,600+税
石村園子 「やさしく学べる離散数学」 共立出版 ¥2,000+税
「はじめての情報理論」 森北出版 ¥2,400+税

担当者から一言
情報工学の基礎を学ぶので、少し難しく、やや退屈に感じるかもしれませんが、プログラミングを行う上で重要な内容です。なるべく丁寧にわかりやすい講義・演習を目指します。
積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス/自分を表現することと創造すること
第2講 「クリエイティブ」について
以下第3講～第8講は、3グループに分かれて2週ずつ並行・交代して実施する
第3講 映像の基礎1(木村) カメラ実習
第4講 映像の基礎2(木村) 動画撮影の基本
第5講 音響の基礎1(関根) ライブ音響の基礎
第6講 音響の基礎2(関根) アナログ音響調整卓の使い方
第7講 照明の基礎1(黒田) 照明機器の取り扱いについて / 安全講習
第8講 照明の基礎2(黒田) 光の方向性による照明効果
第9講 作品制作 - 企画
第10講 作品制作 - 絵コンテ作成
第11講 作品制作 - 撮影 1
第12講 作品制作 - 撮影 2
第13講 作品制作 - 編集
第14講 作品制作 - MA
第15講 作品制作 完成作品発表

テキスト・教材(参考文献含む)
必要に応じてテキストおよび資料を配布します

担当者から一言
課題だけでなく、個人個人の「何かを作りたい」「やってみたい」等の思いを大事にしています。クリエイティブな活動には出来る限りサポートします。

基礎演習 a 橋本幸彦	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2001	前学期	必修

授業のねらい
動物生態学の基礎知識を習得し、野外調査の手法や調査結果をレポートにまとめる技術を習得します。また、野外に出る前の準備や現場で留意すべきことを学びます。その上で、野外に生息する野生動物を見極める目を養います。
座学では自分の意見を整理し、人に伝え、意見交換することを重視します。

到達目標
野外調査を実施し、その結果をレポートとしてまとめられるようになることを目標とします。野外に出る前の準備、調査終了後のデータ整理、それを図表にすることができるようになることも含まれます。このために、様々な現場を見学します。これにより自分の興味を見極めることをめざします。
また、座学においては対話を重視し、自分の考えを他の人と共有し、さらに深い理解をできるようにすることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業・調査・見学に対する姿勢(50%)。見学後にレポート提出を課します。レポートは採点して返却します(50%)。

事前・事後学習
日頃から新聞やテレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックしてください(1日平均20分)。またフィールドワークをしたあとは、必ず内容について振り返り、反省点があれば次回までに改善する方法を検討してください(毎週40分)。

基礎演習 a 廣住豊一	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2001	前学期	必修

授業のねらい
野外調査・栽培実験・室内分析などを通して科学研究に必要な基本的な研究手法を身に付け、これからの研究活動につなげる。

到達目標
基本的な野外調査・栽培実験・室内分析の手法を理解する。実験結果・調査結果などのデータの取り扱い方法や分析方法を身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
野外調査・栽培実験・室内分析における実施態度・習熟度、結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。提出されたレポートは添削して返却する。

事前・事後学習
参考文献で野外調査・栽培実験・室内分析の注意点を調べ、必要な作業を確認する(90分)。実施した野外調査・栽培実験・室内分析の内容を振り返り、わからない点を参考文献等で復習する(90分)。「環境化学」、「環境化学実験」、「食糧生産学」を履修していることが望ましい。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス 自己紹介
第2講 野外調査の基本
第3講 有害駆除現場視察*
第4講 ブナ林見学*(千葉ゼミと合同)
第5講 分布調査(痕跡調査・カメラトラップ法)
第6講 野外実習 カメラトラップ法①
第7講 データ整理 図表作成
第8講 野外実習 カメラトラップ法② カメラ設置
第9講 個体数変動
第10講 実習 個体数推定
第11講 実習 行動解析(ラジオテレメトリー法)
第12講 野外実習 カメラトラップ法③ データ回収
第13講 データ整理 レポート作成
第14講 御在所山上公園 現地見学*
第15講 御在所山上公園 普及啓発実習*
* 見学先と調整の上、別日に行います。
フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。

テキスト・教材(参考文献含む)
自作プリント、および関連資料配布。
参考図書 哺乳類の生物学シリーズ(東大出版) 生態・社会など
携帯用図鑑の購入をお勧めします。様々な種類が販売していますので、必要に応じて自分に合ったものをご購入ください。

担当者から一言
本演習ではコミュニケーションとフィールドワークを重視します。フィールドでも教室でも、学生同士、学生と講師間の意見交換を通じ、野生動物などの環境問題に関する理解を深めましょう。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、実験・調査の手法
第2講 栽培実験① 供試作物の選定、栽培実験の計画立案
第3講 栽培実験② 試験は場の準備、播種・育苗
第4講 栽培実験③ 定植
第5講 栽培実験④ かん水・施肥等の栽培管理
第6講 栽培実験⑤ 収穫・記録
第7講 栽培実験⑥ 栽培実験の結果生理
第8講 土壌調査① 土壌調査の計画立案
第9講 土壌調査② 土壌調査の実施
第10講 土壌調査③ 調査結果の整理と分析
第11講 室内分析① 室内分析の基礎知識
第12講 室内分析② 機器や試薬の取り扱い
第13講 室内分析③ 土壌の物理性測定
第14講 室内分析④ 土壌の化学性測定
第15講 室内分析⑤ 土壌の生物性測定
進行状況に応じて作業内容は変更されることがある。
全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材(参考文献含む)
参考文献：鈴木正彦編著「園芸学の基礎」農文協(2012年)、日本ペドロジー学会編「土壌調査ハンドブック改訂版」博友社(1997年)、宮崎毅・西村拓編「土壌物理実験法」東京大学出版会(2011年)

担当者から一言
野外での調査や実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって作業に臨んでください。長靴・作業服を必ず着用してください。

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2001	前学期	必修

授業のねらい
基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付けることがねらいである。次に挙げる5項目は、担当教員が違っても共通に学ぶものであり、学ぶ時期や扱うテーマが教員によって異なる。①レポート作成、②プレゼンテーション（質疑応答を含む）、③文献・論文購読、④野外調査、⑤データ処理（表、グラフの作成）。
大八木・牧田が担当するクラスでは、水圏に関する自然分野を生物学と化学の両面から学びながら、上記5つのスキルの修得を目指す。

到達目標
「実験ノートへの記入を習慣化する」
「データ整理の方法を学ぶ(表、グラフの作成)」
「調査地の地図を作る」
「レポートの形式を学び、作成する」
基本的なことですが、重要です。必ず達成して下さい！

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
実験ノート:30%、レポート:50%、課題:20%
実験ノートは毎回、授業後に確認し、書き方の指導をする。
レポートは添削し、返却する。未完成のレポートは受け取らない。

事前・事後学習
(1)実験後は実験ノートに結果をまとめ、レポートを書く(90分)。
(2)課題に取り組む(30分)。

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2002	後学期	必修

授業のねらい
科学の基礎として、観察、調査は必須事項であり、実践を通じて多くのことを学ぶことができる。そして自然の神秘に直接触れることができる大変有意義な場である。しかし、経験をしていない学生も多い。大八木・牧田が担当する学生には水圏に関する自然分野について生物学と化学の両面から学び、大いに野外で自然に触れ合っ、興味関心を深めていただきたい。

到達目標
野外調査で疑問に感じた内容を科学的に解き明かせる過程、探究できる方法を学ぶ。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度30%、レポート及び課題70%
レポートは添削指導を行う。

事前・事後学習
参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 ビオトープでのプランクトン採集
第3講 顕微鏡の使い方、ミニレポートの作成
第4講 ドローンを用いた調査・体験
第5講 水田でのプランクトン採集
第6講 ビオトープで採水・簡易調査
第7講 水質分析①窒素の検量線作成
第8講 水質分析②窒素の試料分析
第9講 見学
第10講 プランクトンの観察と分類(低倍率中心)
第11講 プランクトンの観察と分類(高倍率中心)
第12講 観察できたプランクトンの確認
第13講 水質分析③窒素の分析手順書作成
第14講 水質分析④窒素の分析結果まとめ
第15講 水質分析⑤窒素の分析結果考察

フォールドワークや、実験実習

テキスト・教材（参考文献含む）
参考資料：
田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会（2002年）定価：10,450円（税込）

担当者から一言
必ず実験ノートを用意して下さい。みんなで協力して実験しましょう。

授業の位置づけ
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1回 ガイダンス
第2回 見学地レポート作成
第3回 見学会:下水処理場
第4回 見学地プレゼン作成
第5回 見学地プレゼン
第6回 専門書講読
第7回 専門書内容発表
第8回 地域の自然紹介
第9回 調査計画と準備
第10回 プランクトン採集法
第11回 プランクトンの観察と分類
第12回 永久プレパラート作成
第13回 電子顕微鏡によるプランクトン観察
第14回 プランクトン同定結果まとめ
第15回 プランクトン同定結果プレゼン
簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）
テキストなし
資料配布
参考資料：日本陸水学会東海支部会「身近な水の環境科学」朝倉出版、2010年、2,860円
田中正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会、2002年、10,450円

担当者から一言
卒業研究に生かせるスキルを身に付けましょう。

基礎演習 b 片山 清和	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2002	後学期	必修

授業のねらい
プログラミングはコンピュータ言語を用いてアルゴリズムを記述することです。この中で制御構造(条件分岐と繰り返し)を正しく記述することが重要になります。この講義では、JavaScriptを用いて制御構造(条件分岐と繰り返し)を中心に記述することでプログラミングの基礎を学びます。
具体的には、入力したプログラムをステップ実行によって動作を確認することで、ソースプログラムから動作をイメージする力に加え、希望する動作からアルゴリズムを作り出す力を身につけることを目指します。

到達目標
①制御構造(条件分岐と繰り返し)がどのようなものか説明できる。
②JavaScriptで記述されたプログラムからアルゴリズムを説明できる。
③アルゴリズムをJavaScriptで記述できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。
課題は次回、コメントを付し返却する。

事前・事後学習
講義前には、これまでに学習した内容を復習すること(60分)
講義後には、学習した内容を十分に復習すること(120分)

基礎演習 b 関根 辰夫	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2002	後学期	必修

授業のねらい
基礎演習aで得た表現力や技術を基に、マルチメディア作品を一人1作品制作し発表します。この制作にあたっては、セミナー生が互いに協力して行います。作品制作に取り組むにあたって、次の点を実践的に学びます。
・企画、コンセプト・ワークについて
・作品の構成について
・制作準備について
・撮影・録音および編集の基礎他
また、通常の作品の制作だけでなく、イベントなど様々な場面の制作にも取り組みます。

到達目標
様々な制作を経験することで、企画力やプレゼンテーション能力を高めることを目指します。また様々なイベントに参加することによって、実行力、コミュニケーション能力を身につけ、さらに仲間と協力し何かを達成する難しさ、喜びを体験してもらいたい。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験はしません。
成績評価は次の通りとします。
授業、課題への取り組み姿勢:30%
作品制作への意欲、参加度:40%
レポート内容、作品内容、完成度:30%
レポートや課題についての評価は5段階評価をつけて後日返却。
作品は第15講で発表し、評価も伝えます。

事前・事後学習
作品の制作への取り組みを実行するための活動も準備学習となります。それを行うために、1日20分程度、話題となっているイベントやパフォーマンス、映像作品等について、様々なメディアでチェックすることが求められます。取り組む課題に参考となる表現やその方法などについて、1日20分程度、文献やインターネット等で調べることも必要となります。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、アルゴリズムの復習(1)
第2講 アルゴリズムの復習(2)
第3講 変数と定数、代入と演算
第4講 条件分岐(1)
第5講 条件分岐(2)
第6講 繰り返し(1)
第7講 繰り返し(2)
第8講 繰り返しと条件分岐
第9講 配列(1)
第10講 配列(2)
第11講 配列に対する繰り返しと条件分岐(1)
第12講 配列に対する繰り返しと条件分岐(2)
第13講 アルゴリズムのコーディング(1)
第14講 アルゴリズムのコーディング(2)
第15講 まとめ
(必要に応じて内容を変更します)

テキスト・教材(参考文献含む)
なし(必要に応じて配布します)

担当者から一言
プログラミング能力は、入力したプログラムの量と経験したバグ(プログラムの誤り)の数が重要です。そのためには時間がかかりますが、演習の時間だけでは十分ではありません。したがって、演習の時間外で積極的に学習してください。
また、講義内容は積み重ねになっているので、欠席しないようにしてください。

授業の位置づけ
映像・音・光などのメディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
第1講 ガイダンス
以下第2講～第資料7講は、3グループに分かれて2週ずつ並行・交代して実施する
第2講 映像の基礎1(木村) 作品制作の基本①企画・構成
第3講 映像の基礎2(木村) 作品制作の基本②撮影・編集
第4講 音響の基礎1(関根) DAW (Digital Audio Workstation) の基礎1
第5講 音響の基礎2(関根) DAW (Digital Audio Workstation) の基礎2
第6講 照明の基礎1(黒田) 照明プログラミングの基礎1
第7講 照明の基礎2(黒田) 照明プログラミングの基礎2
第8講 作品制作 - 企画1
第9講 作品制作 - 企画2
第10講 作品制作 - 撮影1
第11講 作品制作 - 撮影2
第12講 作品制作 - 編集1
第13講 作品制作 - 編集2
第14講 作品制作 - MA
第15講 作品制作 完成発表

テキスト・教材(参考文献含む)
必要に応じてテキストおよび資料を配布します

担当者から一言
「やりたいこと」があれば、何でも挑戦しましょう。授業や課題だけでなく、個人個人のクリエイティブな意欲を応援、サポートします。

基礎演習 b 橋本幸彦	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2002	後学期	必修

授業のねらい
動物生態学の基礎知識を習得し、野外調査の手法や調査結果を人前でプレゼンし的確に伝え、的確に質疑応答する技術を習得します。また、関連する論文やテキストを購読する練習を行います。その上で、野外に生息する野生動物を見極める目を養います。
座学では自分の意見を整理し、人に伝え、意見交換することを重視します。

到達目標
野外調査を実施し、その結果をプレゼンできるようになることを目標とします。野外に出る前の準備、調査終了後のデータ整理、それを図表にすることができるようになることも含まれます。このために、様々な現場を見学します。これにより自分の興味を見極めることをめざします。
また、座学においては対話を重視し、自分の考えを他の人と共有し、さらに深い理解をできるようにすることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業・調査・見学に対する姿勢(50%)。見学後にレポート提出を課します。レポートは採点して返却します(50%)。

事前・事後学習
日頃から新聞やテレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックしてください(1日平均20分)。またフィールドワークをしたあとは、必ず内容について振り返り、反省点があれば次回までに改善する方法を検討してください(毎週40分)。

基礎演習 b 廣住豊一	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2002	後学期	必修

授業のねらい
基礎演習 a で実施した農地調査や土壌分析、栽培試験の結果を科学論文の形式でまとめ、学会形式で口頭発表を行うことによって、専門演習での研究活動につなげる。

到達目標
科学論文の体裁および規則に基づく文書を作成できる。学会形式に準拠した口頭発表を行うことができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
提出された論文および発表内容を総合的に評価する(100%)。提出された論文は添削し、返却する。執筆作業の進捗状況に応じた助言を行う。

事前・事後学習
各講ごとに指示書を配布し、翌週までに行う作業内容を説明するので、この指示内容に基づき準備を進める(90分)。返却された論文の添削内容を確認し、修正を行う(90分)。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 採食生態学
第3講 野外実習 食性研究①(痕跡調査・糞採集)
第4講 文献購読 論文の種類 読み方・探し方
第5講 文献購読
第6講 実習 糞分析
第7講 レポート作成・プレゼン
第8講 文献紹介(プレゼン)
第9講 文献紹介(プレゼン)
第10講 野生動物の行動
第11講 実習
第12講 野外実習 ラジオテレメトリー法 誤差推定
第13講 地理情報システム実習
第14講 三重県立博物館 バックヤード見学*
第15講 実習 雪上調査*
* 見学先と調整の上、別日に行います。
フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。

テキスト・教材(参考文献含む)
自作プリント、および関連資料配布。
参考図書 哺乳類の生物学シリーズ(東大出版) 生態・社会など
携帯用図鑑の購入をお勧めします。様々な種類が販売していますので、必要に応じて自分に合ったものを購入してください。

担当者から一言
本演習ではコミュニケーションとフィールドワークを重視します。フィールドでも教室でも、学生同士、学生と講師間の意見交換を通じ、野生動物に関する理解を深めましょう。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、研究論文と研究発表
第2講 研究論文① 科学論文の形式と構成要素
第3講 研究論文② 「方法」の書き方
第4講 研究論文③ 調査や実験のデータ分析と整理①
第5講 研究論文④ 調査や実験のデータ分析と整理②
第6講 研究論文⑤ グラフや表の作り方
第7講 研究論文⑥ 「結果」の書き方
第8講 研究論文⑦ 必要な文献の調べ方と参考文献の引用方法
第9講 研究論文⑧ 「考察」のまとめ方
第10講 研究論文⑨ 「はじめに」と「おわりに」の書き方
第11講 研究論文⑩ 「題名」・「要旨」・「謝辞」の書き方
第12講 研究発表① 研究発表の基本姿勢
第13講 研究発表② プレゼンテーション用ファイルの作り方①
第14講 研究発表③ プレゼンテーション用ファイルの作り方②
第15講 研究発表④ 発表会
作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材(参考文献含む)
参考文献:石黒圭「この1冊できちんと書ける!論文・レポートの基本」日本実業出版社(2012年)、酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版(2008年)

担当者から一言
この基礎演習では科学論文および学会発表の基礎を学びます。専門演習で実施する研究活動につながるものですので、しっかりと取り組んでください。

専門演習 a 大八木麻希	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	ESS3001	前学期	必修

授業のねらい
野外調査の一つとして水質調査は学問的、実用的、教育的な側面を併せ持つため、自身で立案しそれにしたがって研究を進めていくことで、総合的な力を養う。調査目的、内容(方法、期間、時期、日程など)、分析、結果の検討などの一連の流れを把握して、卒業研究に必要なスキルを身につけてもらいたい。

到達目標
本セミナーでは実際に自身の研究フィールドを決めて、調査計画を立案し実践する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度50%、レポート50%。レポートは採点后、返却する。

事前・事後学習
参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

専門演習 a 片山清和	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	ESS3001	前学期	必修

授業のねらい
ホームページは今や企業だけでなく一般の人でも作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページはHTMLで構造を記述され、スタイルシートでレイアウトやデザインが記述されています。さらにインタラクティブ性を持たせるためにJavaScriptが使用されています。
この講義では、コンピュータネットワークとホームページ(HTMLタグ、スタイルシート、JavaScript)について深く学びます。

到達目標
①インターネットの仕組みを理解する
②HTMLタグとスタイルシートを使ったホームページが作れる
③JavaScriptを使ったインタラクティブなホームページが作れる

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。次回、コメントを付し返却する。

事前・事後学習
講義前には、これまでに学習した内容を復習すること(60分)
講義後には、学習した内容を十分に復習すること(120分)

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1回 ガイダンス、調査地紹介
第2回 フィールドワーク:干潟
第3回 専門書購読
第4回 専門書内容発表
第5回 研究・調査進捗第1回報告会
第6回 文献検索
第7回 文献購読
第8回 フィールドワーク:河川
第9回 堆積物分析①IL、含水率
第10回 堆積物分析②全リン
第11回 堆積物分析③粒度
第12回 分析結果まとめ
第13回 分析結果グラフ化
第14回 分析結果考察
第15回 研究・調査進捗第二回報告会

実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストなし
参考文献は各自に提示する

担当者から一言
積極的に取り組む姿勢の学生を歓迎します。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけているメディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、wwwの基礎知識(1)
第2講 wwwの基礎知識(2)
第3講 HTML(1)
第4講 HTML(2)
第5講 HTML(3)
第6講 スタイルシート(1)
第7講 スタイルシート(2)
第8講 スタイルシート(3)
第9講 JavaScript(1)
第10講 JavaScript(2)
第11講 JavaScript(3)
第12講 電卓アプリ作成(1)
第13講 電卓アプリ作成(2)
第14講 電卓アプリ作成(3)
第15講 電卓アプリ作成(4)

テキスト・教材(参考文献含む)
なし(必要に応じて配布します)
【参考文献】
網野衛二 著 「[改訂新版]3分間ネットワーク基礎講座」 ¥1,780+税

担当者から一言
ネットワーク、HTML、スタイルシート、JavaScriptと学ぶ内容が多いですが、インタラクティブなホームページの基礎なので、復習を十分に慣れてください。アプリ作成など興味深い演習になるように目指します。

専門演習 a 木村真知子	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	ESS3001	前学期	必修

授業のねらい
基礎演習 a b で得た自己表現力を生かし、映像などのメディアを使って表現する能力をさらに発展させます。
セミナー共通のテーマを決め、個人、あるいはグループで5～10分程度の作品を制作します。その作品は、これまでのような映像作品だけでなく、デジタルアートなど新しい映像表現による作品やオーディオドラマなどでも構いません。制作にあたっては、メンバー全員で協力して制作することとします。
撮影、コンピュータによる編集など、映像加工の技術の基礎を習得しつつ、実践を通して企画・取材・構成・演出などを学びます。

到達目標
自分たちでテーマを探し、作品の形も自分たちで決定しそれを作品として企画立案し制作します。作品によっては専門家からのアドバイスも必要となる場合もあり、コミュニケーション能力はもちろん、企画力、構成力、総合的な判断力などの向上を目指します。また、実習では、カメラ操作、照明、録音など、映像制作の基礎をさらに身につけ、編集ではノンリニア編集の技術だけでなく編集することの意味を理解し作品を完成させます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験はしません。
成績評価は次の通りとします。
授業、課題への取組み姿勢:30%
作品制作への意欲、参加度:40%
レポート内容、作品内容、完成度:30%
作品は第15講に発表し、評価も伝えます。

事前・事後学習
映像作品の制作への取組みを実行するための活動も準備学習となります。作品制作のために、1日30分程度、様々なメディアを利用し、自らの作品や研究のために、注目されている表現や新たな表現などについてリサーチ・分析することが必要です。

専門演習 a 黒田淳哉	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	ESS3001	前学期	必修

授業のねらい
照明プランニングするうえで最も重要な技術の習得を目指します。コンソールを使用した照明プログラミング技術を身につけ、後学期の専門演習 b へつなげることをねらいとしています。

到達目標
①照明プログラミング技術を習得する。
②照明プランニングができるようになる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
・講義時に提示する課題の提出状況及びレポート(50%)
・ルーブリック評価(50%)
ルーブリック評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、提出物や課題等のフィードバックは次回の講義で行います。

事前・事後学習
毎回、講義の最後にキーワードを提示します。そのキーワードをインターネットや書籍で調べてくること(90分)。講義で配布する資料や講義ノートを見返して理解を深めること(90分)。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけているメディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 作品企画1 テーマ検討～決定
第3講 作品企画2 リサーチ・企画検討・構成案作成
第4講 作品企画3 制作準備 取材・交渉他
第5講 作品制作1 パイロット用撮影
第6講 作品制作2 パイロット用編集 試写
第7講 作品制作3 撮影①
第8講 作品制作4 撮影②
第9講 作品制作5 撮影③
第10講 作品制作6 編集①
第11講 作品制作7 編集② アラ編試写
第12講 作品制作8 編集③ 手直し
第13講 作品制作9 編集④ MA
第14講 作品制作10 編集⑤ 完パケ
第15講 作品完成発表
制作した作品について、学内コンペを実施します。

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。必要に応じてテキストおよび資料を配付します。

担当者から一言
ドキュメンタリーやドラマなどの映像作品からプロジェクトマップなどのデジタルアート、オーディオ番組など、自分が作りたいと思う新たな作品作りに挑戦をしてもらいます。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけているメディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、セミナーの進め方
第2講 舞台用語と照明用語
第3講 光源① ハロゲンランプ
第4講 光源② LED
第5講 光源③ ムービングスポット
第6講 照明システム① 回路
第7講 照明システム② DMX512
第8講 セッティング図面について
第9講 セッティング図面の作成
第10講 セッティング図面の完成
第11講 照明プログラミング技術① Patch
第12講 照明プログラミング技術② パレット
第13講 照明プログラミング技術③ 記憶
第14講 照明プログラミング技術④ エフェクト効果
第15講 まとめ
制作した作品について、学内コンペを実施します。

テキスト・教材(参考文献含む)
なし(必要に応じてプリントを配布します)

担当者から一言
毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、講義は休まないようにして下さい。

専門演習 a 関根辰夫	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	ESS3001	前学期	必修

授業のねらい
スタジオ、ステージと音響機器を活用して、前年次より更に高度なスタジオワークの実際を訓練し会得する。パッケージとしての最終商品(例えばCD、DVD等)の完成までのプロセスを学び、その制作過程を体験する。常に進歩するデジタル音響処理技術の情報を得ると共に、それらを評価する力をつける。行事のPA運用を実践して全体の流れを把握する。

到達目標
・大学祭に向けてPA機器の操作や進行の流れを理解する。
・下級生に指導できるようなコミュニケーション能力を得る。
・4年次の卒業制作の論文の前段階として、学内コンペ向けの作品を制作・発表する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
課題への取り組みや提出等によって総合評価する。すぐに評価できる課題などはその場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日コメントを含めた形でフィードバックする。

事前・事後学習
日頃から自分の好きなジャンルの音楽だけではなく、様々な音楽を意識して聞くようにすること(毎日30分程度)
実習が中心になるので、毎回の授業で学んだ内容は、次回の授業でその通りに実行できるように、手順などを各自復習をする。(実習時にとったメモなどを参考にして、不明な点は参考文献やマニュアルなどで調べておくこと - 60分)

専門演習 a 千葉 賢	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	ESS3001	前学期	必修

授業のねらい
積極的に地域に出て、自分で環境問題を見て感じる機会を多く設けます。また、環境問題に取り組む人々に出会う機会を多く設けます。休日に調査に出かけることもあります。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータを実験室やパソコンで分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーで協力して調査し、議論もします。このような経験を通じて、自分の卒業研究のテーマを見つけてください。

到達目標
北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持つようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。また、環境測定に用いる情報機器の使用法、観測結果を整理するためのPCの使い方を習得します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
ゼミ活動への積極参加姿勢(50%)、発表(25%)、提出物(25%)。ゼミなので対話を通じて学習進度をフィードバックする。

事前・事後学習
その時のテーマに応じて、自分から積極的に図書館やネット等で調べて事前学習(90分)や復習(90分)を行うこと。受動的な態度ではゼミについて行くことはできない。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、ゼミの進め方
第2講 PA(アナログ調整卓)の復習
第3講 マイクロフォンの種類
第4講 マイクロフォンの音の聞き比べ
第5講 マイクロフォンのセッティング
第6講 エフェクターEQ理論
第7講 エフェクターEQ実習
第8講 エフェクターリバーブ理論
第9講 エフェクターリバーブ実習
第10講 エフェクターコンプレッサー等理論
第11講 エフェクターコンプレッサー等実習
第12講 エフェクター小テスト
第13講 外部機器をコンソールにつなぎPA実習
第14講 PA仕込み図
第15講 大学祭PA企画
学内コンペを行います。

テキスト・教材(参考文献含む)
配布するプリント

担当者から一言
基礎演習より一歩進んだ形でレコーディングとPAのエンジニアリングを学びます。また自分のセミナーに新たに加わった後輩とも積極的にコミュニケーションをとり、後輩にとって人間的にも、技術的にも尊敬できる先輩になれるように学修してください。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、前期のマイクロプラスチック調査計画
第2講 吉崎海岸でのマイクロプラスチック調査
第3講 マイクロプラスチック試料の分析
第4講 鈴鹿山系のブナ林に関する事前学習
第5講 鈴鹿山系の自然環境のまとめと発表練習
第6講 鈴鹿山系のブナ林観察(別日程で実施)
第7講 鈴鹿山系のブナ林観察(別日程で実施)
第8講 ブナ林観察のまとめと発表練習
第9講 QGIS(地理情報システム)の学習
第10講 QGIS(地理情報システム)の学習
第11講 QGIS(地理情報システム)の学習
第12講 QGIS(地理情報システム)の学習
第13講 吉崎海岸でのマイクロプラスチック調査
第14講 マイクロプラスチック試料の分析
第15講 前期ゼミのまとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言
自然環境分野のセミナーですが、パソコンや情報機器をかなり使うので、その意識を持って参加してください。調査中心になるので、基礎学問は他の授業でしっかり学んでください。このゼミでは利他主義を大切にします。

専門演習 a 橋本幸彦	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3001	前学期	必修

授業のねらい

文献調査、文献購読、野外調査の準備など、卒業研究を進める上で必要なスキルを身に付ける。

到達目標

この演習では、自身の研究対象やテーマを定め、調査計画を立て、予備調査を実施する。進捗状況によっては卒業研究を始める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業・調査・見学に対する姿勢(50%)。見学後にレポート提出を課します。レポートは採点して返却します(30%)。最終講の調査報告も評価の対象とします(20%)。

事前・事後学習

日頃から新聞やテレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックしてください(1日平均20分)。またフィールドワークをしたあとは、必ず内容について振り返り、反省点があれば次回までに改善する方法を検討してください(毎週40分)。

専門演習 a 廣住豊一	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3001	前学期	必修

授業のねらい

土壌の性質を把握するための土壌断面調査および基本的物理性の測定法を学ぶ。

到達目標

土壌調査を計画し、実施することができる。土壌の基本的物理性を測定することができる。調査結果をまとめ、正しく報告することができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

調査および各実験における実施態度・習熟度、調査結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。提出されたレポートは添削し、返却する。

事前・事後学習

調査および各実験の前に測定の方法と原理を確認し、手順書を作成する(90分)。分析結果をまとめたレポートを作成する(90分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画

第1講 ガイダンス
第2講 論文の構成・読み方・書き方
第3講 研究事例の調べ方
第4講 研究計画の立て方
第5講 研究計画の発表
第6講 フィールドワーク① 大学周辺・八郷地区
第7講 フィールドワーク② 大学周辺・八郷地区
第8講 糞分析
第9講 フィールドワーク③ 菰野町
第10講 三重県立博物館 バックヤード見学*
第11講 フィールドワーク④ 菰野町
第12講 分析結果整理
第13講 文献紹介
第14講 文献紹介
第15講 調査報告・意見交換
フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。
* 見学先と調整の上、別日に実施します。

テキスト・教材(参考文献含む)

自作プリント、および関連資料配布。
参考図書 哺乳類の生物学シリーズ(東大出版) 生態・社会など
携帯用図鑑の購入をお勧めします。様々な種類が販売していますので、必要に応じて自分に合ったものを購入してください。

担当者から一言

野生動物の研究をするなら対象動物のことを知り尽くす必要があります。平日頃より、本、テレビ、インターネットなどから積極的に情報を集めてください。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画

第1講 ガイダンス、土壌調査法の解説
第2講 土壌調査の計画立案
第3講 土壌調査の実施
第4講 三相分布の測定① 乾熱法
第5講 三相分布の測定② 結果のまとめ
第6講 土粒子密度の測定① 土粒子の密度試験
第7講 土粒子密度の測定② 結果のまとめ
第8講 粒度分布の測定① 篩別法
第9講 粒度分布の測定② 沈降法
第10講 粒度分布の測定③ 結果のまとめ
第11講 飽和透水係数の測定① 変水位透水試験
第12講 飽和透水係数の測定② 結果のまとめ
第13講 土壌有機物の測定① 強熱減量試験
第14講 土壌有機物の測定② 結果のまとめ
第15講 土壌調査結果のまとめ
調査・実験の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材(参考文献含む)

参考文献：日本ペドロロジー学会編「土壌調査ハンドブック改訂版」博友社(1997年)、地盤工学会編「土質試験—基本と手引き—第二回改訂版」丸善(2010年)、宮崎毅・西村拓編「土壌物理実験法」東京大学出版会(2011年)

担当者から一言

野外での調査や実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。調査では長靴・作業服、実験では白衣を必ず着用してください。

専門演習 a 牧田直子	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	ESS3001	前学期	必修

授業のねらい
 専門演習 a では、基礎演習で習得した実験技術や知識などを基盤とし、野外調査や実験の計画を立てる練習をする。実践を繰り返すことにより、計画の立て方や記録の取り方を身につけることが目標である。その間に、各自で卒業研究に向けての調査対象を決める。卒業研究のサンプル収集や研究計画、データの蓄積を開始できればなお良い。

到達目標
 「自信を持って実験計画が立てられる」
 自分自身でしっかり下調べをして、具体的に実験計画を立てよう。
 「自主的に実習に取り組める」
 自分で考え、積極的に実習を進めましょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 実験ノート:30%、レポート:70%
 レポートは完成までに最低3回は添削し、返却する。未完了のレポートは受け取らない。

事前・事後学習
 (1)それぞれの調査に必要な資料や情報を調べ、予習しておく(60分)。
 (2)実験データの整理や分類結果をノートや表にまとめる(90分以上)。
 (3)レポートは実験と平行して、書ける部分から書き進めておく(30分)。

専門演習 a 前川督雄	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	ESS3001	前学期	必修

授業のねらい
 実環境そしてサイバースペースでメディア情報を制御するための専門的な活性の構築をめざします。
 基礎演習での成果をふまえ、対象を見る力、ものをつくる力、メッセージを伝える力、メディアを操る技術をより深め、広げていきます。また、より本格的な調査・研究を行える活性の構築をめざします。

到達目標
 各個で目標を定めて、アプローチを探索するとともに自学自習を開始する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 課題への取り組み、進捗等によって総合評価します。毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。定期試験を行いません。

事前・事後学習
 試行錯誤の数だけ視野が広がり、実感・理解が深まります。思いついたらまず試してみましょう(180分)。
 夏休みに課題を出します。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
 第1講 ガイダンスと課題の確認
 第2講 水質分析の練習1(DO)
 第3講 水質分析の練習2(COD)
 第4講 水質分析の練習3(EC、pH)
 第5講 野外調査と水質調査(水田1回目)
 第6講 プランクトンの観察と分類(第5講の試料)
 第7講 野外調査と水質調査(水田2回目)
 第8講 プランクトンの観察と分類(第7講の試料)
 第9講 野外調査と水質調査(水田3回目)
 第10講 プランクトンの観察と分類(第9講の試料)
 第11講 水田調査のまとめ
 第12講 野外調査と水質調査(溜池)
 第13講 プランクトンの観察と分類(第12講の試料)
 第14講 観察できたプランクトンの確認
 第15講 溜池調査のまとめと今後の研究計画

テキスト・教材(参考文献含む)
 田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会(2002年)定価:10,450円(税込)
 適宜、プリントを配布する。

担当者から一言
 必ず実験ノートを用意して下さい。どんなデータが必要か、期間内に実験を終えるにはどう計画したら良いか、考えながら実験しましょう。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス/面談
 第2講 目標提案/面談
 第3講 目標設定/面談
 第4講 アプローチ探索/面談
 第5講 アプローチ探索/面談
 第6講 アプローチ探索/面談
 第7講 自学自習/面談
 第8講 自学自習/面談
 第9講 自学自習/面談
 第10講 見直し/面談
 第11講 自学自習/面談
 第12講 自学自習/面談
 第13講 自学自習/面談
 第14講 進捗発表
 第15講 面談
 (各自の方向性・進捗にあわせて異なります)
 制作した作品について学内コンペを実施します。

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキストはありません。
 セミナーのFBページや、{ <セミナーサイト>, <http://edata.jp/you/seminar/> }などを参照。

担当者から一言
 広く深く探求してください。
 後輩の指導に関与してもらう場合もあります。教えることを通じて自分の理解・技能を深めて下さい。

専門演習 b 大八木麻希	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい
調査結果を検討するにあたり、文献が大きなウェイトを占めるため、既往の文献にとらわれることなく、しかしじっくり吟味して考察することが重要である。専門性の高い作業であるが卒業研究で大切なポイントであるために、そのためのスキルを身につけてもらいたい。

到達目標
本セミナーでは調査地での分析結果からデータ整理を行うための専門知識を深める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度50%、レポート50%。レポートは採点后、返却する。

事前・事後学習
参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後は復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

専門演習 b 片山清和	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい
ホームページは今や企業だけでなく一般の人でも作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページの中にはデータベースと連携することでウェブサービスを提供しているものがあります。この講義では、データベースの操作と、PHPを用いてHTML文書を生成することと、PHPを用いてデータベースを操作することを学びます。

到達目標
PHPとデータベースを連携したアプリを作成できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。課題は次回、コメントを付し返却する。

事前・事後学習
講義前には、これまでに学習した内容を復習すること(60分)
講義後には、学習した内容を十分に復習すること(120分)

授業の位置づけ
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1回 ガイダンス、
第2回 水圏関連文献(邦文)検索
第3回 水圏関連文献(邦文)購読
第4回 水圏関連文献(邦文)発表
第5回 研究・調査進捗中間報告会
第6回 卒論研究テーマに関する文献検索
第7回 卒業研究テーマに関する文献購読
第8回 卒業研究テーマに関する文献発表
第9回 フィールドワーク(施設見学)
第10回 施設見学のまとめ、プレゼン
第11回 フィールドワーク(調査地見学)
第12回 調査地見学のまとめ、プレゼン
第13回 卒業研究対象地の概要まとめ
第14回 卒業研究ポスター作製
第15回 研究・調査進捗報告会②
簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストなし
資料配布

担当者から一言
分析には責任を持ち、真摯な姿勢で取り組んでください。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、復習(HTMLタグ)
第2講 復習(スタイルシート)
第3講 復習(Javascript)
第4講 PHP(1)
第5講 PHP(2)
第6講 PHP(3)
第7講 日記アプリ作成(1)
第8講 日記アプリ作成(2)
第9講 データベース(1)
第10講 データベース(2)
第11講 PHPでのデータベース操作
第12講 日記アプリ作成(3)
第13講 日記アプリ作成(4)
第14講 日記アプリ作成(5)
第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
なし(必要に応じて配布します)

担当者から一言
積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。

専門演習 b 木村眞知子	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい
 これまでのセミナーで獲得した自己表現力をさらに生かし、個々にテーマを探し一人1作品、制作します。専門セミナーI同様、ドキュメンタリー、ドラマ、デジタルアートやオーディオ作品など様々な表現による作品とします。制作にあたっては同様に、メンバー全員で協力して制作することとします。
 撮影、コンピュータによる編集など、映像加工の技術の基礎をさらに身につけ、実践を通して企画・取材・構成・演出などの力をさらに深めてもらいます。また、撮影や編集など映像加工の技術の基礎を後輩の指導ができるようにします。

到達目標
 次年度の卒業制作に向け、自分のテーマを見据えた作品制作を目標とします。また、撮影、編集など映像制作に関わる様々な技術については自分のものにするだけでなく後輩への指導ができるような力をつけることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 定期試験はしません。
 成績評価は次の通りとします。
 授業、課題への取組み姿勢:30%
 作品制作への意欲、参加度:40%
 レポート内容、作品内容、完成度:30%
 作品は第15講に発表し、評価も伝えます。

事前・事後学習
 映像作品の制作への取組みを実行するための活動も準備学習となります。作品制作のために、1日30分程度、様々なメディアを利用し、自らの作品や研究のためのリサーチを行うこと。

専門演習 b 黒田淳哉	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい
 照明の本質を理解し、光をコントロールする技術だけでなく、適切なあかりや見え方の追求までを行います。さらに、卒業研究を見据え、研究や制作テーマの検討も行います。

到達目標
 ①シミュレーションソフトを使用した高度な照明プログラミング技術を習得する。
 ②クオリティーにこだわった照明プランニングができるようになること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 ・講義時に提示する課題の提出状況及びレポート(50%)
 ・ルーブリック評価(50%)
 ルーブリック評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、提出物や課題等のフィードバックは次回の講義で行います。

事前・事後学習
 毎回、講義の最後にキーワードを提示します。そのキーワードをインターネットや書籍で調べてくること(90分)。講義で配布する資料や講義内容のノートを見返して理解を深めること(90分)。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス 作品制作に向けて——
 第2講 作品制作 企画①個々に作品のテーマ検討
 第3講 作品制作 企画②テーマ決定
 第4講 作品制作 企画③リサーチ・取材他
 第5講 作品制作 企画④撮影交渉・撮影準備他
 第6講 作品制作 制作①撮影
 第7講 作品制作 制作②撮影
 第8講 作品制作 制作③撮影
 第9講 作品制作 制作④撮影
 第10講 作品制作 編集①
 第11講 作品制作 編集②
 第12講 作品制作 編集③ アラ編試写
 第13講 作品制作 編集④ MA
 第14講 作品制作 編集⑤ 完パケ
 第15講 作品完成発表

テキスト・教材 (参考文献含む)
 なし。必要に応じてテキストおよび資料を配付します。

担当者から一言
 誰のものでもない自分の作品を作りあげる喜び、達成感を味わってください。
 個々のクリエイティブな意欲を応援します。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス、セミナーの進め方
 第2講 照明プランニング① 準備
 第3講 照明プランニング② セットアップ図面の作成
 第4講 照明プランニング③ セットアップ図面の完成
 第5講 シミュレーションソフトを使用した照明プログラミング① 基礎設定
 第6講 シミュレーションソフトを使用した照明プログラミング② Patch
 第7講 シミュレーションソフトを使用した照明プログラミング③ パレット
 第8講 シミュレーションソフトを使用した照明プログラミング④ 記憶
 第9講 シミュレーションソフトを使用した照明プログラミング⑤ エフェクト効果
 第10講 コンソールセッティング
 第11講 照明プログラミング① 準備
 第12講 照明プログラミング② 制作
 第13講 照明プログラミング③ 修正
 第14講 照明プログラミング④ 発表
 第15講 まとめ

テキスト・教材 (参考文献含む)
 なし(必要に応じてプリントを配布します)

担当者から一言
 毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、講義を休まないようにして下さい。

専門演習 b 関根辰夫	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい
スタジオ、ステージと音響機器を活用して前年次より更に高度なスタジオワークの実際を訓練し会得する。パッケージとしての最終商品(例えばCD、DVD等)の完成までのプロセスを学びその制作過程を体験する。常に進歩するデジタル音響処理技術の情報を得ると共に、それらを評価する力をつける。行事のPA運用を実践して全体の流れを把握する。

到達目標
・大学祭に向けてPA機器の操作や進行の流れを理解する。
・下級生に指導できるようなコミュニケーション能力を得る。
・4年次の卒業制作・論文の前段階として、学内コンペ向けの作品を制作・発表する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
課題への取り組みや提出等によって総合評価する。
すぐに評価できる課題などはその場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日コメントを含めた形でフィードバックする。

事前・事後学習
日頃から自分の好きなジャンルの音楽だけではなく、様々な音楽を意識して聞くようにすること(毎日30分程度)
実習が中心になるので、毎回の授業で学んだ内容は、次回の授業でその通りに実行できるように、手順などを各自復習をする。(実習時にとったメモなどを参考にして、不明な点は参考文献やマニュアルなどで調べておくこと - 60分)

専門演習 b 千葉 賢	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい
積極的に地域に出て、自分で環境問題を見て感じる機会を多く設けます。また、環境問題に取り組む人々に出会う機会を多く設けます。休日に調査に出かけることもあります。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータを実験室やパソコンで分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返して行います。セミナーのメンバーで協力して調査し、議論もします。このような経験を通じて、自分の卒業研究のテーマを見つけてください。

到達目標
北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持つようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。また、環境測定に用いる情報機器の使用法、観測結果を整理するためのPCの使い方を習得します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
ゼミ活動への積極参加姿勢(50%)、発表(25%)、提出物(25%)。ゼミなので対話を通じて学習進度をフィードバックする。

事前・事後学習
その時のテーマに応じて、自分から積極的に図書館やネット等で調べて事前学習(90分)や復習(90分)を行うこと。受動的な態度ではゼミについて行くことはできない。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、ゼミの進め方
第2講 DTMとDAW
第3講 様々なDAW
第4講 ProTools 基本セッティング
第5講 ProTools 打ち込み
第6講 ProTools オーディオ録音
第7講 ProTools エフェクターのセッティング
第8講 ProTools ミキシング
第9講 X32(デジタル音響調整卓)のセッティング
第10講 X32とアナログコンソールとの違い
第11講 エフェクターEQ 応用
第12講 エフェクター リバープ 応用
第13講 エフェクター コンプレッサー 応用
第14講 PA仕込み図などの資料作成法
第15講 PA企画
授業は全体的にはほぼ実習で行われます。
学内コンペを行います。

テキスト・教材 (参考文献含む)
配布するプリント

担当者から一言
基礎演習より一歩進んだ形でレコーディングとPAのエンジニアリングを学びます。
また自分のセミナーに新たに加わった後輩とも積極的にコミュニケーションをとり、後輩にとって人間的にも、技術的にも尊敬できる先輩になれるように学修してください。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、後期のマイクロプラスチック調査計画
第2講 吉崎海岸でのマイクロプラスチック調査
第3講 マイクロプラスチック試料の分析
第4講 伊勢湾の海洋ゴミ問題に関する事前学習
第5講 伊勢湾の海洋ゴミ問題のまとめと発表練習
第6講 答志島奈佐の浜の海岸清掃(別日程で実施)
第7講 答志島奈佐の浜の海岸清掃(別日程で実施)
第8講 農業体験(学外施設)
第9講 吉崎海岸でのマイクロプラスチック調査
第10講 マイクロプラスチック試料の分析
第11講 マイクロプラスチック調査結果のまとめ
第12講 マイクロプラスチック調査結果のまとめと発表
第13講 マイクロプラスチック調査結果のまとめと発表
第14講 後期ゼミのまとめ
第15講 卒業研究発表会への出席

テキスト・教材 (参考文献含む)
必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言
自然環境分野のセミナーですが、パソコンや情報機器をかなり使うので、その意識を持って参加してください。調査中心になるので、基礎学問は他の授業でしっかり学んでください。このゼミでは利他主義を大切にします。

専門演習 b 橋本幸彦	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい
文献調査、文献購読、野外調査の準備など、卒業研究を進める上で必要なスキルを身に付ける。

到達目標
自身の研究対象やテーマを定め、調査計画を立て、予備調査を実施する。進捗状況によっては卒業研究を始める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業・調査・見学に対する姿勢(50%)。見学後にレポート提出を課します。レポートは採点して返却します(30%)。最終講の調査報告も評価の対象とします(20%)。

事前・事後学習
日頃から新聞やテレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックしてください(1日平均20分)。フィールドワークをしたあとは、必ず内容について振り返りをし、反省点があれば次回までに改善する方法を検討してください(毎週40分)。

専門演習 b 廣住豊一	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい
土壌の性質を把握するための化学的性質の測定法を学ぶ。

到達目標
土壌の化学的性質を測定することができる。分析結果をまとめ、正しく報告することができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
各実験における実施態度・習熟度、調査結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。提出されたレポートは添削し、返却する。

事前・事後学習
調査および各実験の前に測定の方法と原理を確認し、手順書を作成する(90分)。分析結果をまとめたレポートを作成する(90分)。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 研究計画の発表
第3講 フィールドワーク① 大学周辺
第4講 フィールドワーク② 菰野町
第5講 「方法」の書き方
第6講 「結果」の書き方
第7講 図表の作り方
第8講 フィールドワーク③ 大学周辺
第9講 フィールドワーク④ 菰野町
第10講 「序論」と「考察」のまとめ方 ①
第11講 「序論」と「考察」のまとめ方 ②
第12講 タイトルの作り方、要旨のまとめ方
第13講 プレゼンテーションの準備 ①
第14講 プレゼンテーションの準備 ②
第15講 調査報告・意見交換
フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。

テキスト・教材(参考文献含む)
自作プリント、および関連資料配布。
フィールドに出るようになったら、携帯用図鑑の購入をお勧めします。様々な種類が販売していますので、必要に応じて自分に合ったものを購入してください。

担当者から一言
本演習ではコミュニケーションとフィールドワークを重視します。フィールドでも教室でも、学生同士、学生と講師間の意見交換を通じ、野生動物などの環境問題に関する理解を深めましょう。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、土壌分析法の解説
第2講 土壌試料の採取
第3講 一般化学性の測定① pH および EC
第4講 一般化学性の測定② 結果のまとめ
第5講 交換性塩基の測定① ショーレンベルガー法
第6講 交換性塩基の測定② 結果のまとめ
第7講 陽イオン交換容量の測定① ホルモル滴定法
第8講 陽イオン交換容量の測定② 結果のまとめ
第9講 リン酸の測定① トルオーグ法
第10講 リン酸の測定② 結果のまとめ
第11講 リン酸吸収係数の測定① リン酸吸収係数測定
第12講 リン酸吸収係数の測定② 結果のまとめ
第13講 アンモニア態窒素の測定① 水蒸気蒸留法
第14講 アンモニア態窒素の測定② 結果のまとめ
第15講 土壌分析結果のまとめ
調査・実験の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材(参考文献含む)
参考文献：日本土壤肥料学会監修「土壌標準分析・測定法」博友社(2004年)、渡辺和彦ほか著「環境・資源・健康を考えた土と施肥の新知識」農文協(2012年)、JA全農著「だれにもできる土壌診断の読み方と肥料計算」農文協(2010年)

担当者から一言
実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。

専門演習 b 牧田直子	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい
 専門演習 b では、卒業研究のための調査を本格的に開始する。自分で決めた調査対象について十分な余裕を持って調査を進める。これまでに学んだ知識や身につけた実験技術をもとに、各自で創意工夫し、卒業研究の中核となるデータをとる。研究の最も楽しい時期であり、自分の考えで実験を進めることで、考える力を伸ばし、自信へとつながりたい。

到達目標
 「自信を持って調査・研究を進められる」
 多少の失敗やうまく行かないことがあっても大丈夫。自由な発想で色々試し、自分の実力にしていこう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 卒業研究への取り組み:30%、実験ノート:30%、レポート:40%
 レポートは完成までに最低3回は添削し、返却する。未完了のレポートは受け取らない。

事前・事後学習
 (1) 調査・研究に必要な資料や情報を調べ、準備しておく(60分)。
 (2) 調査・研究を進めながら、データの整理する(90分以上)。
 (3) レポートは調査・研究と平行して、書ける部分から書き進めておく(30分以上)。

専門演習 b 前川督雄	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい
 前期「専門演習 a」に引き続き、実環境そしてサイバースペースでメディア情報を制御するための専門的な活性の構築、また本格的な調査・研究を行える活性の構築をめざします。

到達目標
 各個で定めた目標を実現するために必要なツール、基礎的な知の体系を見定め、それらを獲得・達成するアプローチを組み立てる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 課題への取り組み、進捗等によって総合評価します。毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。定期試験を行いません。

事前・事後学習
 試行錯誤の数だけ視野が広がり、実感・理解が深まります。思いついたらまず試してみましょう(180分)。
 冬休みに課題を出します。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
 第1講 ガイダンスと研究計画の確認、調査準備
 第2講 試料採集(1回目)
 第3講 予備調査(1回目)
 第4講 調査・研究方法の妥当性を検討
 第5講 試料採集(2回目)
 第6講 予備調査(2回目)
 第7講 調査・研究方法の確認
 第8講 試料採集(3回目)
 第9講 予備調査(3回目)
 第10講 調査・研究方法の決定
 第11講 本調査・研究開始
 第12講 本調査・研究(継続)
 第13講 本調査・研究(継続2回目)
 第14講 本調査・研究(継続3回目)
 第15講 調査・研究のまとめ

調査・研究には、実験実習やフィールドワークを含む。

テキスト・教材(参考文献含む)
 田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会(2002年)定価:10,450円(税込)
 適宜、プリントを配布する。

担当者から一言
 積極的に取り組み、自分の考えで調査を進め、実現させていくことで得られる達成感、探求する楽しみを実感できるよう、技術面の支援、研究指導をするつもりです。のびのびと活動しましょう。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス/夏休み中の報告
 第2講 目標確認/面談
 第3講 自学自習/面談
 第4講 自学自習/面談
 第5講 自学自習/面談
 第6講 見直し/面談
 第7講 自学自習/面談
 第8講 自学自習/面談
 第9講 自学自習/面談
 第10講 進捗発表
 第11講 イベント制作(卒業展)
 第12講 イベント制作(卒業展)
 第13講 イベント制作(卒業展)
 第14講 イベント制作(卒業展)
 第15講 総括/面談
 (各自の方向性・進捗にあわせて異なります)

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキストはありません。
 セミナーのFBページや、{ <セミナーサイト>, <http://edata.jp/you/seminar/> }などを参照。

担当者から一言
 広く深く探求してください。模索し、試行錯誤できるのはここまでです。後輩の指導に関与してもらう場合もあります。教えることを通じて自分の理解・技能を深めて下さい。

専門演習 c 大八木麻希	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
基礎演習ab、専門演習abで取り組んだ内容を反芻しながら、実践的に卒業論文の執筆に取り組む。卒業論文完成に向けて、必要な知識と情報の収集について身に付ける過程で研究の楽しみに気づくことが出来れば、良い研究につながる。

到達目標
本セミナーでは調査研究を通じて、自然環境への理解の仕方を各自習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業研究への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習
参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。

専門演習 c 片山清和	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
卒業研究のテーマを自分で決定し、これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を生かして、主体的に卒業研究を進めてもらいます。
また、演習時間内で行う全体検討において、自分の研究の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。

到達目標
①卒業研究の中間発表会の準備ができる。
②研究の進捗状況を報告・議論できる。
③研究内容をプレゼンテーションできる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への取り組み姿勢や卒業研究の進捗状況などによって総合的に評価する。

事前・事後学習
研究の内容・進捗状況に応じて必要な知識を収集すること（90分）
研究や全体検討で生じた問題・課題への対応策を検討すること（90分）

授業の位置づけ
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1回 ガイダンス
第2回 文献(英文)検索
第3回 文献(英文)講読
第4回 文献(英文)発表
第5回 卒業論文目次作成
第6回 中間発表要旨作成①タイトル及び目的
第7回 中間発表要旨作成②概要及び方法
第8回 中間発表要旨作成③結果及び考察
第9回 中間発表プレゼン作成①タイトル及び目的
第10回 中間発表プレゼン作成②概要及び方法
第11回 中間発表プレゼン作成③結果及び考察
第12回 中間発表プレゼン予備発表、添削
第13回 中間発表プレゼン修正、発表
第14回 卒業論文骨子を固める
第15回 文献整理
実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）
テキストなし
資料配布

担当者から一言
教員はサポート側に徹し、セミナー時間外の指導についても歓迎します。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、卒業研究テーマの検討・決定
第2講 研究計画の立案
第3講 卒業研究の実施、全体検討（1）
第4講 卒業研究の実施、全体検討（2）
第5講 卒業研究の実施、全体検討（3）
第6講 卒業研究の実施、全体検討（4）
第7講 卒業研究の実施、全体検討（5）
第8講 ゼミ内中間発表会の準備
第9講 ゼミ内中間発表会
第10講 卒業研究の実施、全体検討（6）
第11講 卒業研究の実施、全体検討（7）
第12講 卒業研究の実施、全体検討（8）
第13講 卒業研究の実施、全体検討（9）
第14講 卒業研究の実施、全体検討（10）
第15講 卒業研究の中間発表会

テキスト・教材（参考文献含む）
なし（必要に応じて指示または配布します）

担当者から一言
卒業研究はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。

専門演習 c 木村真知子	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
 これまでのセミナーで習得した知識や技術などのクリエイティブな力と、テーマにアプローチする方法論を活かして、個々のテーマについて方向性を定め、卒業制作および卒業研究を進めます。
 作品は、映像によるものだけでなく活字、マルチメディア表現、またはそれらを組み合わせたものでも良いこととします。
 また、作品によって必然性があれば、セミナー内、あるいは他のセミナー生との共同制作も認めるものとします。

到達目標
 個々のテーマに沿った作品制作、研究の方向性を定めること。そして、よりよい作品制作、研究にむけての準備を進めることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 定期試験はしません。
 成績評価は次の通りとします。
 授業、課題への取組み姿勢:30%
 作品制作への意欲、参加度:40%
 レポート内容、作品内容、完成度:30%
 作品は卒業展において発表します。後日、総評を伝えます。

事前・事後学習
 卒業制作および研究への取組みを準備学習として認めます。そのためには、1日30分程度、様々なメディアを利用し、自らの作品や研究のための調査を行うこと。

専門演習 c 黒田淳哉	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
 専門演習 c は、卒業制作や研究論文の準備です。
 テーマを明確にし、これまでに習得した照明技術や知識をもとに、卒業研究を進めていきます。

到達目標
 ①自主的に卒業研究の進め方を計画する。
 ②計画に沿って卒業研究を進めることができる。
 ③専門演習 d に向けて、しっかりした研究の基盤をつくる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 卒業研究、制作の成果及び、進捗状況をもとに評価する(100%)。
 なお、研究の進捗状況に応じて適切な助言をおこなう。

事前・事後学習
 研究論文や制作に関して必要となる知識の収集を行うこと(90分以上)。毎回の講義時に課題を与えます。その課題に取り組むこと(90分以上)。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画

第1講	ガイダンス	卒業制作および研究に向けて――
第2講	卒業制作・研究	テーマの検討
第3講	卒業制作・研究	テーマのためのリサーチ
第4講	卒業制作・研究	テーマの決定
第5講	卒業制作・研究	実践的トライ
第6講	卒業制作・研究	テーマの再検討～最終決定
第7回	卒業制作・研究	リサーチ
第8講	卒業制作・研究	企画検討
第9講	卒業制作・研究	構成案作成
第10講	卒業制作・研究	準備 ケハン
第11講	卒業制作・研究	準備 構成案決定
第12講	卒業制作・研究	準備 取材交渉他
第13講	卒業制作・研究	準備 撮影・その他手配
第14講	卒業制作・研究	撮影1
第15講	卒業制作・研究	撮影2 ラッシュ確認他

テキスト・教材（参考文献含む）
 なし。必要に応じてテキストおよび資料を配付します。

担当者から一言
 大学生生活の集大成となる作品および研究となるよう、投げ出さず、自分らしい作品づくりや研究にこだわってください。そのためには、早め早めに動くことが大切です。
 楽しみにしています。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画

第1講	ガイダンス、研究テーマの確認
第2講	卒業研究、制作の計画書作成
第3講	卒業研究、制作の計画発表(ディスカッション)
第4講	文献の検索
第5講	卒業研究の実施
第6講	卒業研究の進行状況確認
第7講	卒業研究の実施
第8講	卒業研究の進行状況確認
第9講	卒業研究の実施
第10講	卒業研究の進行状況確認
第11講	卒業研究の実施
第12講	プレゼンテーション用資料の作成
第13講	プレゼンテーション用資料の完成
第14講	セミナー内研究報告会の準備
第15講	卒業研究の中間発表

テキスト・教材（参考文献含む）
 なし(必要に応じてプリントを配布します)

担当者から一言
 卒業研究は自分でテーマを見つけ、探求し、結果を追い求めていきます。毎回の講義でディスカッションを行い、課題を与えますので講義は休まないで下さい。また、セミナーの集大成として相応しい研究内容になるよう、計画的に研究を進めて下さい。

専門演習 c 関根辰夫	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
基礎及び専門セミナーで習得した知識、技術、技能を基に、受講生一人一人が自らの制作または研究の課題を設定し、年間を通して課題達成に向けて取り組む。音にかかわる課題を策定しその問題解決や実現に必要な知識、技術、意欲、工程管理能力などを身に付けるねらいとする。又自らの課題の達成に専念するのみではなく、他のメンバー(他のセミナーも含む)との交流を図りそのテーマの理解に努力し必要な場合はお互いに協力しあう事により他の側面からの意見や助言を得てテーマに対する理解の幅を広げる。

到達目標
・自身の研究の成果の集大成である卒業論文(卒業制作)を立案、制作する。
・下級生に対する模範となるコミュニケーション能力を確立する

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業制作、卒業研究の取り組み方や進行状況によって、総合的に評価します。
制作・研究の取り組み方・進行状況などに関しては随時フィードバックします。

事前・事後学習
毎回の授業での助言や修正点などを自分自身でよく理解し、以降の卒業研究の進行に役立ててください。(45分程度)
また卒業発表会においてスムーズな発表ができるように、必要となるパワーポイントなどのツールの使い方をあらかじめ習得しておいてください。(45分程度)

専門演習 c 千葉 賢	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
3年生までで経験したことを基礎に、地域の環境問題を中心に自分の研究テーマを見つけ、積極的に調査研究と卒業論文制作に取り組めます。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータをパソコン等で分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーと議論もします。このような経験を通じて、研究の方法、論理的な思考方法、図表の作成方法、論理的な文章の書き方などを身に付けてください。

到達目標
北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持つるようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。4年次は特に卒業論文の仕上げることを最大の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
大学ノートを全員に配布する。このノートに、卒業研究の作業内容と就職活動の様子を記入して、毎週の講義で提出させる。成績は毎週提出するノート点(優3点、良2点、可1点、不可0点)×15回(全部良で30点)、中間発表会・最終発表会(30点)、卒業研究の内容(30点)、努力点(10点)とする。

事前・事後学習
ゼミの時間外に毎週180分以上の研究時間を持ち、自分に誇れる論文を制作すること。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス・履修指導
第2講 ディスカッションによる、卒業制作のためのアイデア出し
第3講 アイディアをテーマにまとめる
第4講 テーマの内容の実現性検討
第5講 ディスカッションによるテーマの評価
第6講 卒業展での発表メディアの決定
第7講 制作時に必要となる機材、消耗品などの確認
第8講 卒業展のスケジュールから逆算してのスケジュールの作成
第9講 目的を明確にする
第10講 具体的な作業を列挙して計画を立てる
第11講 各自作業を行う
第12講 作業の結果を評価し計画を修正
第13講 修正結果をもとに作業を行う
第14講 作業を行い、結果を評価し計画を修正
第15講 セミナー内でのメディアチェック

テキスト・教材(参考文献含む)
特になし

担当者から一言
卒業論文・卒業制作は論文調査からスタジオを使用しての録音や編集まで非常に幅の広い作業になります。各自進行状況を常に担当教員に報告、相談して指導を受けるように心がけると共に、計画通り進めるよう自己管理を学んで下さい。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、卒業研究テーマの検討・決定
第2講 卒業研究計画書の作成・提出
第3講 卒業研究計画のゼミ内発表(パワーポイント)、グループディスカッション
第4講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第5講 学外活動(2・3年生との共同調査など)
第6講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第7講 就職に関するグループディスカッション
第8講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第9講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第10講 学外活動(2・3年生との共同調査など)
第11講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第12講 就職に関するグループディスカッション
第13講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第14講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第15講 卒業研究の中間発表会

テキスト・教材(参考文献含む)
必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言
4年生になると就職で頭が一杯になりますが、卒業研究も進めなければなりません。今年も年度当初から温かく厳しく指導します。コピペ社会になりましたが、卒業研究では汗をかいて、手作りの論文を作成し、世の中に役立つ成果を残しましょう。

専門演習 c 橋本幸彦	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
3年次までに習得した知識や技術を用いて、研究計画を定め、試行錯誤を繰り返しながら卒業研究を遂行する。

到達目標
自身の研究対象やテーマを定め、調査計画を立て、卒業研究を実施する。その上で卒業論文を執筆し、発表を行う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、中間発表会での発表内容をもとに総合的に評価します(100%)。演習の時間に関係なく相談等に応じ、助言します。

事前・事後学習
演習の時間に関係なく研究活動を進めてください。演習の時間は研究上の問題を教員や他の学生と共有する時間と捉え、まとまった状態で出席するよう心がけてください(90分)。演習後は指摘された内容をふまえて改善して進めてください(90分)。

専門演習 c 廣住豊一	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
これまでの講義・演習・実験・セミナーなどで得た知識・技術・経験を駆使し、自ら設定した研究課題に対して試行錯誤を繰り返しながら自分の力で遂行する。

到達目標
研究課題を設定できる。設定した研究課題を遂行する研究計画を立案できる。研究の進捗報告および議論ができる。研究の途中経過を適切に発表できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習
研究の進捗状況に応じて必要となる知識の収集(90分)。研究を実施した際に発生した課題への対応策の検討(90分)。教員から与えられた指示は期限までに必ず実行する。課題への対応が遅れると、研究計画全体の遅延につながる。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス 研究の進め方
第2講 卒業研究 中間報告
第3講 卒業研究の実施
第4講 卒業研究の実施
第5講 卒業研究の実施
第6講 卒業研究の進捗報告・意見交換
第7講 卒業研究の実施
第8講 卒業研究の実施
第9講 卒業研究論文 図表作成
第10講 卒業研究論文作成 序論(背景と目的)
第11講 卒業研究論文作成 方法・結果
第12講 卒業研究論文作成 考察・要旨
第13講 卒業研究 発表用パワーポイント作成
第14講 卒業研究 発表練習
第15講 卒業研究 発表練習
卒業論文発表会

テキスト・教材(参考文献含む)
これまで読んだ文献のほか、必要に応じて論文や資料を配布します。

担当者から一言
社会に出ると、課題は自ら見つけねばならなくなります。そしてその課題の正答は1つとは限りません。卒業研究も同じです。社会で仕事をするための練習と捉え、積極的に取り組んでください。わからないこと困ったことなどがあれば遠慮せずに相談してください。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス 研究の進め方
第2講 研究課題の検討
第3講 研究計画の策定
第4講 卒業研究の実施
第5講 卒業研究の進捗報告および議論
第6講 卒業研究の実施
第7講 卒業研究の進捗報告および議論
第8講 卒業研究の実施
第9講 卒業研究の進捗報告および議論
第10講 卒業研究の実施
第11講 卒業研究の進捗報告および議論
第12講 卒業研究の実施
第13講 卒業研究の進捗報告および議論
第14講 卒業研究中間発表会の準備
第15講 卒業研究中間発表会の確認
卒業研究中間発表会
作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材(参考文献含む)
研究課題に関するすべての文献。研究の遂行には、発生した課題や問題点に対して、自ら調査・検討する態度が求められる。

担当者から一言
自ら課題を発見し、解決方法を探し出す力を身につけることは、社会に出てからも役に立ちます。卒業研究はこれまでの大学生活や研究活動の集大成です。研究室の仲間や後輩と協力しながら、見事に研究を完遂してください。がんばりましょう。

専門演習 c 牧田直子	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
 専門演習cでは、卒業研究のための調査を本格的に進める。自分で決めた調査対象について自信を持って調査を進める。これまでに学んだ知識や身につけた実験技術をもとに、各自で創意工夫し、卒業研究のデータをまとめ上げる。研究の最も楽しい時期であり、自分の考えで実験を進めることで、考える力を伸ばし、実力へとつなげたい。

到達目標
 「自信を持って発表できる」
 これまでに調査したデータをまとめ、他人に分かる形で発表できるようにする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習
 (1)調査・研究に必要な資料や情報を調べ、準備しておく(30分)。
 (2)調査・研究を進めながら、データの整理をしておく(120分)。
 (3)調査・研究のまとめ方を考え、実験方法等、書けるところから論文用書き進める(30分)。

専門演習 c 前川督雄	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
 これまでの講義・演習で培った知識・技術・経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。

到達目標
 卒業制作・卒業研究の中間レポートを仕上げ、発表する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および進捗状況を総合的に評価します。
 定期試験を行いません。

事前・事後学習
 授業時間は教員への報告・相談の場であり、作業時間ではありません。毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
 第1講 ガイダンスと研究計画の確認、調査準備
 第2講 各自の調査・研究
 第3講 各自の調査・研究
 第4講 各自の調査・研究
 第5講 各自の調査・研究
 第6講 各自の調査・研究の中間報告(1回目)
 第7講 各自の調査・研究
 第8講 各自の調査・研究
 第9講 各自の調査・研究
 第10講 各自の調査・研究
 第11講 各自の調査・研究の中間報告(2回目)
 第12講 各自の調査・研究
 第13講 各自の調査・研究
 第14講 分野ごとの中間発表会の準備
 第15講 分野ごとの中間発表会
 調査・研究には、実験実習やワールドワークを含む。

テキスト・教材(参考文献含む)
 田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会(2002年)定価:10,450円(税込)
 適宜、プリントを配布する。

担当者から一言
 積極的に取り組み、自分の考えで計画的に調査を進め、データをまとめましょう。各自に合わせて技術面の支援、研究指導をするつもりです。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス/卒業制作・卒業研究の目標を設定
 第2講 卒業制作・卒業研究
 第3講 卒業制作・卒業研究
 第4講 卒業制作・卒業研究/4月期総括・見直し
 第5講 卒業制作・卒業研究
 第6講 卒業制作・卒業研究
 第7講 卒業制作・卒業研究/5月期総括・見直し
 第8講 卒業制作・卒業研究
 第9講 卒業制作・卒業研究
 第10講 卒業制作・卒業研究
 第11講 卒業制作・卒業研究
 第12講 卒業制作・卒業研究/6月期総括・見直し
 第13講 卒業制作・卒業研究
 第14講 中間発表
 第15講 夏休み・後期に向けて面談
 (7月末に卒業制作・卒業研究の中間レポートを提出)

テキスト・教材(参考文献含む)
 セミナーのFBページや、| <セミナーサイト>, <http://edata.jp/you/seminar/>などを参照。

担当者から一言
 前期でどこまで到達できるかが勝負です。頑張ってください。

専門演習 d 大八木麻希	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
基礎演習ab、専門演習abで取り組んだ内容を反芻しながら、実践的に卒業論文の執筆に取り組む。卒業論文完成に向けて、必要な知識と情報の収集について身に付ける過程で研究の楽しみに気づくことが出来れば、良い研究につながる。

到達目標
本セミナーでは調査研究を通じて、自然環境への理解の仕方を各自習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業研究への取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習
参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。

専門演習 d 片山清和	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を生かして、自分で決めた卒業研究を完成させます。
また、演習時間内で行う全体検討において、自分の研究の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。

到達目標
①卒業研究を完成させる。
②研究の進捗状況を報告・議論できる。
③研究内容をプレゼンテーションできる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への取り組み姿勢や卒業研究の内容などによって総合的に評価する。

事前・事後学習
研究の内容・進捗状況に応じて必要な知識を収集すること（90分）
研究や全体検討で生じた問題・課題への対応策を検討すること（90分）

授業の位置づけ
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1回 ガイダンス
第2回 卒業論文進捗中間報告会
第3回 卒業研究データまとめ
第4回 卒業研究グラフ作成
第5回 関連文献検索
第6回 関連文献購読
第7回 卒業論文進捗報告会
第8回 関連講演会への参加
第9回 卒業論文作成①目次及び方法
第10回 卒業論文作成②概要及び目的
第11回 卒業論文作成③結果及び考察
第12回 卒業研究発表プレゼン作成①目次及び方法
第13回 卒業研究発表プレゼン作成②概要及び目的
第14回 卒業研究発表プレゼン作成③結果及び考察
第15回 卒業研究要旨作成
実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）
テキストなし
資料配布

担当者から一言
最後の最後まで粘り強く取り組むことが良い卒業論文となり、人生の糧となってくれます。全力でサポートさせていただきます。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、卒業研究テーマと研究計画の再確認
第2講 卒業研究の実施、全体検討（1）
第3講 卒業研究の実施、全体検討（2）
第4講 卒業研究の実施、全体検討（3）
第5講 卒業研究の実施、全体検討（4）
第6講 卒業研究の実施、全体検討（5）
第7講 卒業研究の実施、全体検討（6）
第8講 卒業研究の実施、全体検討（7）
第9講 卒業研究の実施、全体検討（8）
第10講 卒業研究の実施、全体検討（9）
第11講 卒業研究の実施、全体検討（10）
第12講 卒業研究の実施、全体検討（11）
第13講 卒業研究の実施、全体検討（12）
第14講 ゼミ内発表会
第15講 卒業研究発表会

テキスト・教材（参考文献含む）
なし（必要に応じて指示または配布します）

担当者から一言
卒業研究はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。

専門演習 d 木村眞知子	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
「卒業制作」「卒業研究」を完成させます。
自らのテーマ、作品への思いを貫き、自分らしい作品を作ります。
ただし、自己満足で終わるのでなく、第三者の鑑賞に堪える作品を目指します。
「卒業研究」の場合も、誰かの受け売り等でなく、自らで考え研究する姿勢を大切にします。
卒業制作は、その作品のDVDおよび作品の企画書、構成案、台本などをまとめた論文形式のアウトプットとあわせて提出します。
また卒業制作および研究は提出するだけでなく、「卒業展」で作品の発表を行います。

到達目標
大学生生活の集大成となるような、自分で誇らしく思えるような作品、研究を目指します。最後まであきらめずに、よりクオリティの高い作品づくり、研究を完成させることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験はしません。
成績評価は次の通りとします。
授業、課題への取組み姿勢:30%
作品制作への意欲、参加度、完成度:40%
作品内容:30%
作品は卒業展で発表し、後日、総評を伝えます。

事前・事後学習
卒業制作への取組みを準備学習として認めます。そのためには、1日30分程度、様々なメディアを利用し、自らの作品や研究のための調査を行うこと。

事前・事後学習
卒業制作への取組みを準備学習として認めます。そのためには、1日30分程度、様々なメディアを利用し、自らの作品や研究のための調査を行うこと。

専門演習 d 黒田淳哉	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
これまででセミナーで得た技術や知識をもとに、卒業研究に取り組む。成果を収める為に必要なことを自ら考え行動できるようになること。

到達目標
①卒業研究および制作を完成させる。
②卒業展にて研究成果の発表を行う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業研究、制作の成果を評価する(100%)。
なお、研究の進捗状況に応じて適切な助言をおこなう。

事前・事後学習
研究論文や制作に関して必要となる知識の収集をおこなうこと(90分以上)。
毎回の講義時に課題を与えます。その課題に取り組むこと(90分以上)。

事前・事後学習
研究論文や制作に関して必要となる知識の収集をおこなうこと(90分以上)。
毎回の講義時に課題を与えます。その課題に取り組むこと(90分以上)。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス 卒業制作および卒業研究の完成に向けて——
第2講 卒業制作・研究 前期卒業研究セミナー I の振り返り
第3講 卒業制作・研究 テーマの再検討
第4講 卒業制作・研究 撮影1
第5講 卒業制作・研究 撮影2
第6講 卒業制作・研究 撮影3 ラッシュ確認
第7回 卒業制作・研究 編集1
第8講 卒業制作・研究 編集2
第9講 卒業制作・研究 編集3
第10講 卒業制作・研究 アラ編 試写
第11講 卒業制作・編集4 MA
第12講 卒業制作・編集5 完パケ作業
第13講 卒業制作・研究 完成提出(12月最終授業)
第14講 卒業制作・研究 発表準備
第15講 卒業展にて発表

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。必要に応じてテキストおよび資料を配付します。

担当者から一言
作品づくりや研究に妥協は認めません。
自らの作品や研究にエンドマークを記すまでは、投げ出さず、より良い作品、自分らしい作品づくり、あるいは研究に全力で取り組んでください。
期待しています。

担当者から一言
作品づくりや研究に妥協は認めません。
自らの作品や研究にエンドマークを記すまでは、投げ出さず、より良い作品、自分らしい作品づくり、あるいは研究に全力で取り組んでください。
期待しています。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、研究計画の再確認
第2講 卒業研究の進行状況確認
第3講 卒業研究の実施
第4講 卒業研究の進行状況確認
第5講 卒業研究の実施
第6講 卒業研究の進行状況確認
第7講 卒業研究の実施
第8講 卒業研究発表会の資料作成
第9講 卒業研究の提出
第11講 卒業研究発表会の発表準備
第12講 卒業研究のリハーサル(プレゼンテーション)
第13講 作品、論文の修正及び調整作業
第14講 卒業研究発表会(プレゼンテーション)
第15講 資料整理

テキスト・教材(参考文献含む)
なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります)

担当者から一言
卒業研究は自分で考え、探求し、結果を追い求めていきます。毎回の講義でディスカッションを行い、課題を与えますので講義は休まないで下さい。また、セミナーの集大成として相応しい研究内容になるよう計画的に研究を進めて下さい。

専門演習 d 関根辰夫	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
基礎及び専門セミナーで習得した知識、技術、技能を基に、受講生一人一人が自らの制作または研究の課題を設定し、年間を通して課題達成に向けて取り組む。音にかかわる課題を策定しその問題解決や実現に必要な知識、技術、意欲、工程管理能力などを身に付けるねらいとする。又自らの課題の達成に専念するのみではなく、他のメンバー(他のセミナーも含む)との交流を図りそのテーマの理解に努力し必要な場合はお互いに協力しあう事により他の側面からの意見や助言を得てテーマに対する理解の幅を広げる。

到達目標
・自身の研究の成果の集大成である卒業論文(卒業制作)を立案、制作する。
・下級生に対する模範となるコミュニケーション能力を確立する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業制作、卒業研究の取り組み方や進行状況によって、総合的に評価します。
制作・研究の取り組み方・進行状況などに関しては随時フィードバックします。

事前・事後学習
毎回の授業での助言や修正点などを自分自身でよく理解し、以降の卒業研究の進行に役立ててください。(45分程度)
また卒業発表会においてスムーズな発表ができるように、必要となるパワーポイントなどのツールの使い方をあらかじめ習得しておくと共に、セミナー内だけではなく自宅などでも発表のリハーサルをしてください。(45分程度)

専門演習 d 千葉 賢	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
3年生までに経験したことを基礎に、地域の環境問題を中心に自分の研究テーマを見つけ、積極的に調査研究と卒業論文制作に取り組めます。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータをパソコン等で分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーと議論もします。このような経験を通じて、研究の方法、論理的な思考方法、図表の作成方法、論理的な文章の書き方などを身に付けてください。

到達目標
北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持つようになります。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。4年次は特に卒業論文の仕上げることを最大の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
大学ノートを全員に配布する。このノートに、卒業研究の作業内容と就職活動の様子を記入して、毎週の講義で提出させる。成績は毎週提出するノート点(優3点、良2点、可1点、不可0点)×15回(全部良で30点)、中間発表会・最終発表会(30点)、卒業研究の内容(30点)、努力点(10点)とする。

事前・事後学習
ゼミの時間外に毎週180分以上の研究時間を持ち、自分に誇れる論文や作品を制作すること。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 卒業研究テーマの再確認
第3講 卒業研究進行状況報告相談
第4講 卒業生の制作物視聴会
第5講 業生の制作物視聴会
第6講 卒業研究進行状況報告相談
第7講 卒業研究中間報告会、意見交換
第8講 卒業研究進行状況報告相談
第9講 卒業展の時に必要なセッティングなどの確認
第10講 卒業研究進行状況報告相談
第11講 卒業展用パワーポイントファイル作成
第12講 卒業論文・制作提出(12月末)
第13講 セミナー内発表会
第14講 最終チェック(セミナー内)
第15講 発表練習(12月末に提出)(1月に卒業展予定)

テキスト・教材(参考文献含む)
特になし

担当者から一言
卒業論文(卒業制作)は論文調査からスタジオを使用しての録音や編集まで非常に幅の広い作業になります。各自進行状況を常に担当教員に報告、相談して指導を受けるように心がけると共に、計画通り進めるよう自己管理を学んで下さい。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、卒業研究の進捗状況の発表
第2講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第3講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第4講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第5講 学外活動(農業体験など)
第6講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第7講 就職に関するグループディスカッション
第8講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第9講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第10講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第11講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第12講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第13講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第14講 卒業研究の合同発表会
第15講 卒業研究の合同発表会

テキスト・教材(参考文献含む)
必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言
4年生になると就職で頭が一杯になりますが、卒業研究も進めなければなりません。今年も年度当初から温かく厳しく指導します。コピペ社会になりましたが、卒業研究では汗を流して、手作りの論文を作成し、世の中に役立つ成果を残しましょう。

専門演習 d 橋本幸彦	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
3年次までに習得した知識や技術を用いて、研究計画を定め、試行錯誤を繰り返しながら卒業研究を遂行する。

到達目標
自身の研究対象やテーマを定め、調査計画を立て、卒業研究を実施する。その上で卒業論文を執筆し、発表を行う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業論文発表会での発表内容をもとに総合的に評価します(100%)。演習の時間に関係なく相談等に応じ、助言します。

事前・事後学習
演習の時間に関係なく研究活動を進めてください。演習の時間は研究上の問題を教員や他の学生と共有する時間と捉え、まとまった状態で出席するよう心がけてください(90分)。演習後は指摘された内容をふまえて改善して進めてください(90分)。

専門演習 d 廣住豊一	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
これまでの講義・演習・実験・セミナーなどで得た知識・技術・経験を駆使し、自ら設定した研究課題に対して試行錯誤を繰り返しながら自分の力で遂行する。

到達目標
中間発表会で得られた課題を整理し研究計画を改善できる。研究の進捗報告および議論ができる。得られた研究成果を論文にまとめ、わかりやすく発表できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習
研究の進捗状況に応じて必要となる知識の収集(90分)。研究を実施した際に発生した課題への対応策の検討(90分)。教員から与えられた指示は期限までに必ず実行する。課題への対応が遅れると、研究計画全体の遅延につながる。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス 研究の進め方
第2講 卒業研究 中間報告
第3講 卒業研究の実施
第4講 卒業研究の実施
第5講 卒業研究の実施
第6講 卒業研究の進捗報告・意見交換
第7講 卒業研究の実施
第8講 卒業研究の実施
第9講 卒業研究論文 図表作成
第10講 卒業研究論文作成 序論(背景と目的)
第11講 卒業研究論文作成 方法・結果
第12講 卒業研究論文作成 考察・要旨
第13講 卒業研究 発表用パワーポイント作成
第14講 卒業研究 発表練習
第15講 卒業研究 発表練習
卒業論文発表会

テキスト・教材(参考文献含む)
これまで読んだ文献のほか、必要に応じて論文や資料を配布します。

担当者から一言
社会に出ると、課題は自ら見つけねばなりません。そしてその課題の正答は1つとは限りません。卒業研究も同じです。社会で仕事をするための練習と捉え、積極的に取り組んでください。わからないこと困ったことなどがあれば遠慮せずに相談してください。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス 中間発表会時の議論整理
第2講 研究計画の改定
第3講 研究計画の確認と修正
第4講 卒業研究の実施
第5講 卒業研究の進捗報告および議論
第6講 卒業研究の実施
第7講 卒業研究の進捗報告および議論
第8講 卒業研究の実施
第9講 卒業研究の進捗報告および議論
第10講 卒業研究の実施
第11講 卒業研究の進捗報告および議論
第12講 卒業研究の実施
第13講 卒業研究の進捗報告および議論
第14講 卒業研究発表会の準備
第15講 卒業研究発表会の確認
卒業研究発表会
作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材(参考文献含む)
研究課題に関するすべての文献。研究の遂行には、発生した課題や問題点に対して、自ら調査・検討する態度が求められる。

担当者から一言
自ら課題を発見し、解決方法を探し出す力を身につけることは、社会に出てからも役に立ちます。卒業研究はこれまでの大学生活や研究活動の集大成です。研究室の仲間や後輩と協力しながら、見事に研究を完遂してください。がんばりましょう。

専門演習 d 牧田直子	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
 専門演習 d では、卒業研究を論文にまとめ、発表する最終段階に入ります。研究データの追加や再検討を行い、納得のいく内容で、わかりやすくまとめ上げましょう。今までの経験をもとに、社会で応用できる実力へとつなげたい。

到達目標
 「わかりやすく発表し、議論(質疑応答)できる」
 自分の考えをわかりやすくまとめて伝え、議論できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習
 (1) データの整理、作図(90分以上)。
 (2) 論文の執筆、発表資料等の作成(90分以上)。

専門演習 d 前川督雄	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
 これまでの講義・演習で培った知識・技術・経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。

到達目標
 卒業制作(作品+制作レポート)あるいは卒業研究(卒業論文)の完成及び展示・発表を見事に成し遂げる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および成果を総合的に評価します。定期試験を行いません。

事前・事後学習
 授業時間は教員への報告・相談の場であり、作業時間ではありません。毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
 第1講 ガイダンスと調査・研究の現状確認
 第2講 各自の調査・研究
 第3講 各自の調査・研究
 第4講 各自の調査・研究
 第5講 各自の調査・研究
 第6講 各自の調査・研究
 第7講 卒業研究論文の下書き完成
 第8講 卒業研究論文の下書きの修正、確認
 第9講 卒業研究論文の図表、体裁の修正
 第10講 卒業研究論文の要旨作成
 第11講 卒業研究論文の完成
 第12講 発表原稿の完成
 第13講 パワーポイント資料の完成
 第14講 卒業研究発表会の準備
 第15講 専攻ごとの卒業研究発表会

 調査・研究には、実験実習やフィールドワークを含む。

テキスト・教材(参考文献含む)
 田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会(2002年)定価:10,450円(税込)
 適宜、プリントを配布する。

担当者から一言
 誰が読んでもわかりやすい論文に仕上げましょう。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス/面談
 第2講 卒業制作・卒業研究
 第3講 卒業制作・卒業研究
 第4講 卒業制作・卒業研究
 第5講 卒業制作・卒業研究/発表様式・概要メ切(10月末)
 第6講 卒業制作・卒業研究
 第7講 卒業制作・卒業研究
 第8講 卒業制作・卒業研究完成(11月末)
 第9講 論文レポート作成
 第10講 論文レポート作成
 第11講 論文レポート作成/メディアチェック
 第12講 発表準備/論文・レポート提出(12月末)
 第13講 発表準備
 第14講 発表練習
 第15講 発表練習
 (12月末に提出)
 (1月に卒業展・卒業研究発表会での展示・発表)

テキスト・教材(参考文献含む)
 セミナーのFBページや、| <セミナーサイト>, <http://edata.jp/you/seminar/>などを参照。

担当者から一言
 大学生活の総決算です。頑張ってください。

地球環境学総論／地球環境論 小川 東	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	ENE2001	後学期	分野必修

授業のねらい
この講義では現在地球上で生じている人間活動に起因する様々な問題について広く学びます。環境問題に対する基本的な考え方を身につけ、自然環境分野で開講される専門的な各科目の内容に円滑に接続できるようにします。

到達目標
(1)地球規模の環境問題を理解すること。
(2)自然と生態系について基礎的事項を理解すること。
(3)生活環境に関わる問題を理解すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験により評価します。宿題などを出した場合は、添削して返却します。その結果もプラスします。
3割を超えて欠席した学生には単位を認定しません。

事前・事後学習
講義で学んだキーワードを復習してください(90分)。また毎回、次回の内容を予告するので、書籍・テレビ・新聞・インターネットなどの関連する記事・ニュースで予習してきてください(90分)。
自然環境分野の科目全体の基礎となる科目です。

生態学 大八木麻希	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ENE2002	前学期	分野必修

授業のねらい
人類誕生の遙か昔から途切れることなく続いてきた生物活動の営みを理解するとともに、人間とのかかわりで生物多様性や保全活動が重要視されている。そこで、環境分野を学ぶための基礎となる科学的視点を身につけてもらいたい。

到達目標
生物基礎と社会情勢の両面から生態系を考える多角的な視点を養う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小レポート30%、試験70%
小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。

事前・事後学習
授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、いまわたしたちの地球で起きていること
第2講 地球と環境を知る① 環境問題の歴史
第3講 地球と環境を知る② 地球の構造と自然のはたらき
第4講 地球規模の環境問題① 地球温暖化
第5講 地球規模の環境問題② オゾン層の保護
第6講 地球規模の環境問題③ 大気汚染と酸性雨
第7講 地球規模の環境問題④ 人口増加と貧困・格差・食糧問題
第8講 自然と生態系を守る① 森林の破壊と保護
第9講 自然と生態系を守る② 土壌劣化と砂漠化
第10講 自然と生態系を守る③ 水資源問題と海洋環境汚染
第11講 自然と生態系を守る④ 生物多様性と生態系の保全
第12講 生活環境を考える① 暮らしにかかわる環境問題
第13講 生活環境を考える② 人間の活動とエネルギー問題
第14講 生活環境を考える③ 廃棄物の処理と資源のリサイクル
第15講 まとめ 持続可能な社会を目指して
定期試験
時事問題についてディスカッションなども行います。

テキスト・教材（参考文献含む）
テキスト：特にありません。
参考文献：『環境社会検定試験 eco検定公式テキスト』東京商工会議所(2107)、2,600円、ほか環境学・環境科学・地球環境に関する書籍など自分に合ったもの。

担当者から一言
ある一面からの視点では地球環境問題の全体像は把握できません。問題解決にはさまざまな立場から捉えることが重要です。広い視点を獲得するために不断から環境に関するニュースなどに注意してください。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる

授業計画
第1講 ガイダンス、生態学とは
第2講 生物圏と生態学
第3講 生物種の系統と進化
第4講 生物の生活資源と個体群
第5講 個体群の成長過程と密度効果
第6講 生物群集と生態系
第7講 種間競争と種の共存
第8講 生態系における物質循環
第9講 バイオドーム
第10講 森林の地理的植生
第11講 植生の遷移
第12講 生物多様性
第13講 人間活動とのかかわり
第14講 環境汚染と生態系
第15講 生態系保全

テキスト・教材（参考文献含む）
参考文献
原登志彦「大学生のための生態学入門」共立出版、2017年、2,640円

担当者から一言
日頃から関連するニュースや事象に興味関心を持ち、積極的な受講を望みます。

環境保全学／環境保全論 橋本幸彦	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	ENE2003	後学期	分野必修

授業のねらい
「環境と開発に関するリオ宣言(1992年)」において、「気候変動枠組条約」と「生物多様性条約」の2つの条約が合意された。これらの内容や課題について知識を深める。

到達目標
様々な環境問題の理解が第一の目標である。その上で環境問題をより身近なものとして捉え、それに対する自分自身の考え方を整理し、人に伝えることができるようになることを次の目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
それまでの講義の内容を踏まえた課題についてレポートとして第7講、第14講の終了時に提出してもらいます(各20%)。第8講、第15講ではレポートの内容をレビューし、議論・意見交換をします。講義中の意見交換で、優れた発表や発言を行った場合には、加点します。期末テスト(50%)も実施します。そのほか、授業中に優れた意見や質問をした場合にも加点します。質問や意見の内容で減点することはないので遠慮せずに発言してください。

事前・事後学習
前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください(毎週60分)。また、日頃から新聞やテレビ、インターネットなどで生物多様性に関する情報をチェックして下さい。またその中で出て来た用語等でわからないものがあれば、調べて下さい(1日平均20分)。

環境化学／化学2 牧田直子	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	EEB2001	後学期	選択

授業のねらい
物質の成り立ちや化学反応を理解し、環境に関する事柄を化学的に考える力を養うことを目標とする。具体的には、大気汚染、オゾン層破壊、地球温暖化等の化学について学ぶ。物質を構成している原子や化学反応における量の関係、エネルギーの出入りなどを学び、各種の反応へと発展させる。内容には物理化学および有機化学の基礎も含む。

関連科目は「化学概論」、「環境化学実験」など。

到達目標
(1)構造式や分子の形から、その物質の性質が考えられる。
(2)燃焼反応などの化学反応式が書ける。
(3)オゾンや酸素の役割、温室効果のメカニズムなどが化学的に説明できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
宿題プリント(13回分):25%、試験:75%
宿題は翌週の講義開始10分以内に提出。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。宿題の評価は正解率ではなく、解答率(問題数に対する解答数)に準ずる。
宿題プリントと授業内に行った演習プリントは、採点して返却する。

事前・事後学習
(1)予習・復習のために宿題のプリントを配るので、解答する(90分)。
(2)教科書を読む(60分)。各回の講義に該当する教科書のページ数を明記した講義計画を初回の授業で配布する。
(3)ノートの見直し、まとめ(30分)。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 リオ宣言と双子の条約
第3講 持続可能な開発目標
第4講 生物多様性とは
第5講 生物多様性 4つの危機
第6講 COP10と愛知目標
第7講 生物多様性保全に向けたわが国の取り組み
第8講 生物多様性の主流化のために
第9講 気候変動の現状
第10講 気候変動の将来予測
第11講 京都議定書とパリ協定
第12講 気候変動に対するわが国の取り組み
第13講 気候変動とエネルギー
第14講 低炭素社会にむけた取り組み
第15講 持続可能な社会に向けて
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
自作プリント、および関連資料配布。

担当者から一言
生物多様性や地球温暖化はごく身近な話題です。これらに関するニュースがあれば、随時紹介します。もし関心のあるニュースなどを見つけたら、講義中に発言してください。積極的な講義への参加を期待します。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、持続可能な未来のための化学
第2講 地球の空気
第3講 分子と化学変化
第4講 大気汚染物質
第5講 オゾン
第6講 光(電磁波)
第7講 成層圏オゾンの生成と破壊
第8講 オゾン層の保護
第9講 分子の形
第10講 温室効果と分子の形
第11講 分子の振動と温室効果ガス
第12講 燃料の化学
第13講 燃焼反応と熱エネルギー
第14講 石油化学
第15講 バイオ燃料
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
A Project of the American Chemical Society編、廣瀬千秋 訳「改訂 実感する化学 上巻 地球感動編」NTS社(2015)、3,850円(税込み)

担当者から一言
試験は自筆のノートと電卓のみ持ち込みを許可します。ノートを用意して下さい(ルーズリーフは不可)。
授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。

環境化学実験／環境分析化学・実験 牧田直子	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	EEB2002	前学期 後学期	選 択

授業のねらい
 化学は実験によって発展した学問であり、化学教育に実験は欠かせない。この授業では、基本的な実験器具の使用法を習得し、様々な分析実験を通して化学実験に慣れ、「化学」を実感できることを目標とする。また、実験を通して環境に対する意識が向上することをねらいとする。
 実験系科目の基礎になる科目なので、2年次の実験系科目を履修する前に、また、実験系の演習科目(セミナー)を希望する学生は是非、履修して欲しい。
 関連科目は上記科目の他に「化学概論」、「環境化学」など。

到達目標
 (1)実験器具を適切に取り扱える(使い方、洗い方)
 (2)水溶液の成分(無機化合物)を定性反応によって判別できる
 (3)水溶液の濃度を実験によって決定できる(濃度計算ができる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 実習:30%、実技:15%、予習:15%、試験:40%
 「実習」は各回の実験結果を実験ノート(プリント)のデータ欄で確認し、評価する。「実技」は設定された項目を達成した場合に、「予習」は実習プリントへの書き込み課題等で評価する。「試験」は試験期間中に筆記試験を行う。
 データ整理が完了した実験ノートは、添削して次回以降の授業内で返却する。

事前・事後学習
 (1) 予習として実験操作をよく読み、プリントに書き込む。マーカーで線を引く等の工夫をして、実験に必要な器具、試薬等や手順を把握しておく(90分)。
 (2) 実験データを実験ノート(プリント)にまとめ、計算しておく(90分)。完成した実験ノートは提出する。

自然調査法／生物調査法 大八木麻希	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EEB2003	前学期	選 択

授業のねらい
 20世紀後半の高度経済成長期の負の遺産として浮上してきた環境問題。21世紀には環境問題を改善する手法の確立や環境負荷を減らす産業の試みが行われている。その中で、環境そのものの現状把握として、生物調査を含めた環境調査が行われている。さまざまな開発に伴う自然環境についての生物調査は注目される分野であり、これらへの理解は社会環境へも応用的理解も有している。現代の問題に、生物調査法を通じて、幅広く対応できる人材を育成していきたい。

到達目標
 本講義では、自然調査法についての理論及び実際の方法について、生物学・生態学の知識をふまえて学ぶ。そこで、自然調査法について、自身で柔軟な視野で考え、科学的に理論を組み立てることが出来ることを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 小レポート30%、試験70%
 小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。

事前・事後学習
 授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
 第1講 ガイダンスと実験操作の基礎 - 器具の特徴、使い方、洗い方
 第2講 質量・体積・密度 - 物質の質量、体積、密度の関係
 第3講 溶液の作り方と定性分析
 第4講 リン酸イオンの定量(モリブデン青吸光光度法)
 第5講 濃度 - %濃度、モル濃度
 第6講 塩素イオンの定量(沈殿滴定)
 第7講 酸化還元反応(1) - 鉄の化学反応
 第8講 鉄の定量(α-フェナントロリン吸光光度法)
 第9講 酸化還元反応(2) - 酸化還元滴定
 第10講 酸化還元反応(3) - COD測定
 第11講 廃液処理 - 重金属廃液の処理、廃油のリサイクル
 第12講 酸と塩基(1) - 強酸の濃度とpH
 第13講 酸と塩基(2) - pHの測定
 第14講 酸と塩基(3) - 中和滴定
 第15講 実験操作の復習、データ整理、まとめ
 定期試験

 二人一組で協力して実験実習を進めるアクティブラーニング科目

テキスト・教材(参考文献含む)
 自作の実習プリントを参考資料と一緒に配布する。毎回すべてのプリントを持って来ること。実習プリントは①実験操作、②実験ノート、③予習、④補助プリントの4種類を用意している。

担当者から一言
 化学実験には化学の基本的な知識が必要になるので、高校で化学を学んでいることが望ましい。危険な化学薬品も使うので、緊張感を持って取り組み、安全を意識すること。白衣着用を勧めます。

授業の位置づけ
 地域の持続的発展のために貢献できる
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
 第1講 ガイダンス、生物調査法の概要
 第2講 森林① 森林管理
 第3講 森林② 植生調査
 第4講 森林③ 樹木計測
 第5講 森林④ 土壌生物・昆虫観察
 第6講 森林⑤ 哺乳類足跡観察
 第7講 海洋① 海洋モニタリング
 第8講 海洋② 魚類調査
 第9講 海洋③ 有孔虫分類
 第10講 河川① 水生昆虫分類
 第11講 河川② 生物学的水質判定法
 第12講 湖沼① 植物プランクトン観察法
 第13講 湖沼② 動物プランクトン観察法
 第14講 湖沼③ 水生植物調査
 第15講 干潟① ベントス調査
 レポート
 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材(参考文献含む)
 なし
 参考文献
 柴田英昭「生態学フィールド調査法シリーズ1 森林集水域の物質循環調査法」共立出版(2015)2,000円
 小池伸介ほか「生態学フィールド調査法シリーズ9 大型陸上哺乳類の調査法」共立出版(2017)2,600円

担当者から一言
 重要語句の暗記ではなく、多角的・柔軟的な科学的視点を持つという意識を持って取り組んでほしい。簡易な実習を実施予定。

地域環境論／環境特殊講義 千葉 賢	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	E2P001	前学期	選 択

授業のねらい
 現実の環境問題に対処してきた多数の専門家を招聘して講義を行う。本講義に参加することで、自然環境、社会環境、地域環境、環境教育、環境とエネルギーの問題などについて、幅広い知識を得られる。多分野の専門家に会うことが出来、その経験談・苦労話を聞けることが本講義の魅力である。専門家の話を聞き、今後、自分としてどのように環境問題に対処してゆけば良いのかを考える機会にして欲しい。自分の進路を考える機会にもなる。

到達目標
 毎週異なる講師から環境問題に関する講義を聞き、それに対する自分の見識を簡潔にレポートにまとめる訓練を行う。幅広い環境問題に関する知識を身に付け、それに対する自分の意見を持つことが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 毎回の講義後に、自分と環境問題の関係性（自分の生活とどのように関わっているか）を考慮した講義内容評価のミニレポートを作成して提出させる。1回6点満点×15回=90点（優秀レポートには加点）して成績評価する。レポートを採点してフィードバックする。遅刻者は減点する。期末試験はない。

事前・事後学習
 シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること（180分）。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。

環境エネルギー論／環境科学b 吉見勝冶	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ENE3001	前学期	選 択

授業のねらい
 現代の生活になくはならないエネルギー。その歴史を紐解き、身の回りにおけるエネルギーの起源や価値に気付くとともに、環境に対する負の側面について理解を深めます。また、現在導入が進められている自然エネルギーについて基礎的な技術と課題を学びます。最終的には、どのようなエネルギーシステムが理想形として望まれるか、自分なりの意見を持てるよう学習を進めます。

到達目標

- ・エネルギーとは何かを理解する
- ・主な発電技術について理解を深める
- ・エネルギー開発がもたらした環境への影響について理解する
- ・自然エネルギーとは何かを理解する
- ・電力供給システムの基礎と需給バランスについて理解する
- ・今後求められるエネルギー供給システムについて自分なりの意見を構築する

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

<評価方法>
 ・毎回の講義レポート:40% + 期末テスト:60%
 ・講義レポートについては、提出次週の講義にてコメントを記載し返却します
 <期末テスト概要>
 ・期末テスト:選択問題 30% + 筆記問題 70%
 ・持ち込み自由 - 自分なりの考え方を問う問題を出題しますので、持ち込んだ資料で回答を保證するものではありません。

事前・事後学習
 毎回小レポートを課題として出すので、次回講義までに提出して下さい。なお、本レポートは出席確認を兼ねます。常に環境に関連するニュースにはアンテナを高く張るよう意識して下さい。

授業の位置づけ
 地域の持続的発展のために貢献できる
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
 (各講義のタイトルは仮題。講師の都合でタイトルと順番の変更あり。)
 第1講 ガイダンス、北勢地域の環境問題と環境政策、千葉
 第2講 四日市市のゴミ処理とリサイクル、四日市市担当者
 第3講 三重県の廃棄物対策、三重県担当者
 第4講 伊勢湾のプラスチックゴミ問題、千葉
 第5講 食品廃棄物の有効利用、宍倉(戸田家)
 第6講 再生可能エネルギーとLCA、吉見(東産業)
 第7講 再生可能エネルギーと省エネ、岩下(グリーンソフィア)
 第8講 ESDとSDGs、外部講師
 第9講 ESDとSDGs、矢口(四日市大学エネ環教研)
 第10講 三重県の森林環境、三重県担当者
 第11講 鈴鹿山脈のけものたち。ニホンカモシカはいま。橋本
 第12講 北勢地域の獣害問題と対策、佐藤(いなべ獣害対策会社)
 第13講 北勢地域の里山の環境問題、千葉
 第14講 伊勢湾の水産資源と水産養殖、三重県担当者
 第15講 伊勢湾の水質環境、千葉

テキスト・教材 (参考文献含む)
 なし。毎回の講義で資料を配布する。

担当者から一言
 話題を提供していただく講師の皆様には感謝する気持ちを持って講義に参加してください。本講義は公開授業のため、一般市民の方々も聴講されます。履修する人は、マナーに気を付けてください。

授業の位置づけ
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
 第1講 ガイダンス -エネルギーとは何か?-
 第2講 人類の歴史とエネルギー
 第3講 産業革命がもたらしたもの
 第4講 発電技術① 火力発電
 第5講 発電技術② 原子力発電
 第6講 エネルギーがもたらした負の遺産 -大気汚染, 地球温暖化-
 第7講 エネルギーがもたらした負の遺産 -福島第一原子力発電所事故-
 第8講 自然エネルギー① 太陽光・地熱発電
 第9講 自然エネルギー② 風力・水力発電
 第10講 自然エネルギー③ バイオマス・燃料電池
 第11講 新しいエネルギー 熱電変換素子, 酵素電池等
 第12講 省エネルギー技術
 第13講 電力供給システム -なぜブラックアウトは発生したのか-
 第14講 環境影響評価 -ライフサイクルアセスメント-
 第15講 これからのエネルギー施策 -まとめに代えて-

テキスト・教材 (参考文献含む)

- ・自作プレゼン資料
- ・適宜資料や動画を使用します
- ・参考となる文献・図書については都度紹介します

担当者から一言
 エネルギーがない生活は皆さん想像ができないと思います。一方で、エネルギーの使用は多くの環境問題を引き起こしてきました。そのような背景を踏まえ、今後どのようなエネルギーシステムが望まれるのか、考えるきっかけとしてもらいたいと思います。

資源循環論／環境科学 a 吉見勝治	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ENE3002	後学期	選 択

授業のねらい
限りある資源をどのように活用するのか。大きな地球規模の物質循環から地域での資源循環に関する取り組みまで学習することにより、物質収支とは何か、資源循環とは何かを理解します。また、身近な事例をグループディスカッションという形で討議し、より良いモデルを自分たちで考える機会にしたいと思います。

- 到達目標**
- ・物質収支、物質循環の基礎について理解する
 - ・3 R の現状と各種 3 R 関連技術について理解する
 - ・最新のサーキュラーエコノミーの考え方を理解する
 - ・具体的な題材を基に自分たちなりに地域循環システムの在り方を考える

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

<評価方法>
 ・毎回の講義レポート:40% + 期末テスト:60%
 ・講義レポートについては、提出次週の講義にてコメントを記載し返却します
 <期末テスト概要>
 ・期末テスト:選択問題 30% + 筆記問題 70%
 ・持ち込み自由 - 自分なりの考え方を問う問題を出題しますので、持ち込んだ資料で回答を保證するものではありません。

事前・事後学習
毎回小レポートを課題として出すので、次回講義までに提出して下さい。なお、本レポートは出席確認を兼ねます。常に環境に関するニュースにはアンテナを高く張るよう意識して下さい。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス -資源とは何か? -
 - 第2講 日本の物質収支・世界の物質収支
 - 第3講 日本のゴミ発生量の推移と質の変化
 - 第4講 3 R とは -Reduce, Reuse, Recycle-
 - 第5講 3 R に関連する技術①
 - 第6講 3 R に関連する技術②
 - 第7講 3 R に関連する技術③
 - 第8講 環境配慮型設計とは
 - 第9講 資源としての水 -ウォーターフットプリントを例に-
 - 第10講 資源循環を進めるための法規制について
 - 第11講 3 R からサーキュラーエコノミーへ
 - 第12講 資源循環に関する事例-環境ビジネスを考えてみよう
 - 第13講 グループディスカッション:身近な資源循環モデルを考える
 - 第14講 グループディスカッションの結果プレゼンテーション
 - 第15講 これからの資源循環施策 -まとめに代えて-

- テキスト・教材 (参考文献含む)**
- ・自作プレゼン資料
 - ・適宜資料や動画を使用します
 - ・参考となる文献・図書については都度紹介します

担当者から一言
リサイクルやリユースという単語は知っていても、具体的な事例を説明することは難しいと思います。この講義を通じて身の回りのリサイクルやリユース、資源循環に興味を持ってもらうことを期待します。

地理情報システム論 井岡幹博	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ENE3003	前学期	選 択

授業のねらい
地理空間情報の基本的な概念を修得し、データの入手方法、生成方法、分析手法、結果の表示方法などを学びます。セミナー等で取得している環境情報が、地理情報システムで解析をすると、どのような事柄が見えてくるのかを修得します。

到達目標
セミナー等で取得した環境情報を地理情報システムで解析できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
提出物100%。毎回、成果物を印刷物、もしくはファイルとして提出してもらいます。提出物は、コメントを付して返却します。

事前・事後学習
授業内で提示するプリント類の熟読(予習90分)。毎回課される課題作成(復習90分)。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス、地理空間情報の概要
 - 第2講 測地系と座標系
 - 第3講 基盤地図情報
 - 第4講 国勢調査データ
 - 第5講 標準地域メッシュ統計
 - 第6講 ArcGISによる実例解析
 - 第7講 国土数値情報
 - 第8講 地図画像データ
 - 第9講 座標変換と空間データの結合
 - 第10講 地図データと属性データ
 - 第11講 属性検索
 - 第12講 空間データの抽出とオーバーレイ
 - 第13講 実例解析 農業の空間分析
 - 第14講 実例解析 衛星画像の分析
 - 第15講 実例解析 ハンディGPSを用いたデータ作成
- 授業はコンピュータによる演習と座学により進めます。

- テキスト・教材 (参考文献含む)**
プリント配布

担当者から一言
地理空間情報の扱いは、いままでの点での環境情報収集とは違って、巨視的、空間的な見方を与えてくれます。データ解析を楽しんでください。

環境倫理学 吉山青翔	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	EEP2002	前学期	選択

授業のねらい
環境倫理学は応用倫理学の一分野であります。本講義では、一般的な人文科学などの知識をベースにして「環境・文化・人間」を軸に、人間と環境、とくに自然環境とのあるべき関係をさぐります。

到達目標
近代的な環境思想の主な内容を把握し、環境問題の見方と環境問題の解決に関する思想的な基礎を据えることができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
中間テスト(30点) 定期試験(70点)により総合評価。毎回授業が終わる前に授業の内容や質問などを提出してもらい、次回、それに基づいて学生がよく理解できていないところをもう一度説明し、質問に答える。

事前・事後学習
授業前に1時間半ほどをかけて指定された資料を必ず読み、予習しておき、授業後にも1時間半ほどをかけて配布された資料とノートを確認し、復習してください。

環境政策／環境と社会 鬼頭浩文	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EEP2003	前学期	選択

授業のねらい
環境を守ることはとても大切なことだが、環境改善の努力が他の環境破壊を生んだり、資源の無駄づかいを発生させたりすることがある。環境政策を考える場合、ある環境問題を解決する対策のメリットとデメリットを、総合的に冷静に比較することが求められる。この講義はオムニバス形式で進め、地元や海外のローカルな環境問題からグローバルな問題まで多面的に取り上げ、環境政策について学習していく。

到達目標
環境問題の持つ難しさや環境改善の手法を多面的に理解することを通し、環境政策に関する問題を総合的に考える力を身につけ、最終的には地域の持続的発展に貢献する力を身につけることが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小レポート5点×約10回として全体の50%、学期末試験50%の配分で、総合的に評価する。フィードバックとして、小レポートから課題の解説や学生の主な間違いを指摘し、要望のある学生には課題の点数を伝える。

事前・事後学習
シラバスをもとにインターネットなどで事前に情報収集(毎回1時間程度)しておくことが望ましい。小レポートでは、講義を振り返るだけでなく、各自で事前に調べたこと、考えたことも踏まえ、書いてほしい。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 「自然」と「環境」概念の哲学的構造
第3講 「自然保護」に対する「保全」と「保存」の相違点
第4講 ソローの全体論的自然保護思想
第5講 ジョン・ミューアの自然保護思想と自然保護運動の開始
第6講 ギフォード・ピンチョーの自然保護思想及びジョン・ミューアとの論争
第7講 エルンスト・ヘッケルのエコロジー思想
第8講 エレン・リチャーズのエコロジー思想と環境科学の誕生
第9講 エレン・リチャーズ思想とエルンスト・ヘッケル思想の比較
第10講 アルド・レオポルドの「土地の倫理」の思想
第11講 クリストファー・ストーンの「自然の権利」の思想
第12講 ビンター・シンガーの「動物の解放」の思想
第13講 レイチェル・カーソンの環境思想
第14講 「人間環境」に関する「保全」の思想
第15講 総括

テキスト・教材(参考文献含む)
テキスト とくになし。
参考文献 ロデリック＝ナッシュ著、松野弘訳『自然の権利 環境倫理の文明史』(ちくま書房)

担当者から一言
授業中、必要時に資料を配布しますが、パワーポイントを使わず、板書の量が多いので、ノートを取らない者はこの講義に不向きであります。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる

授業計画
第1講 ガイダンス・環境政策とは(岡)
第2講 ゴミ問題から環境政策を考える(岡)
第3講 循環型社会とリサイクル(岡)
第4講 ICETTの取り組み(鬼頭:ゲスト講師=ICETTより)
第5・6講 四日市公害と中国の大気汚染対策①②(鬼頭)
第7講 四日市公害と夜景クルーズ(鬼頭:ゲスト講師=寺本)
第8講 三重の産廃問題とメガソーラーの環境影響(岡:ゲスト講師=武本)
第9講 モンゴル・インドネシアの環境問題(岡:ゲスト講師=武本)
第10・11講 伊勢湾の水質問題と環境政策①②(千葉)
第12講 地球温暖化の仕組みと現状(鬼頭)
第13講 三重の地球温暖化対策(鬼頭:ゲスト講師=三重県)
第14講 映像で観る今日の環境政策の課題(鬼頭)
第15講 まとめと講義の振り返り(鬼頭)

テキスト・教材(参考文献含む)
講義でプリントを配布する

担当者から一言
仕事の上でも、生活でも、とても大切な環境問題と政策を、多面的に学ぶのがこの講義の目的である。講義では、環境問題を冷静に幅広い視点で考える方法を身につけていく。

環境保全とツーリズム 千葉 賢	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EEP2004	前学期	選択

授業のねらい
政府は「観光ビジョン実現プログラム2019」を策定し、インバウンド観光を利用した地域の活性化に取り組むと発表した。本授業ではインバウンド観光に限らず、日本人も対象としたツーリズムによる経済活性化と地域おこしの方法と事例について学ぶ。また、自然環境と歴史文化資源などの地域の魅力を観光に生かす方法を学ぶ。授業の後半で、地域魅力発見体験合宿を行い、地域の方々と触れあい、田舎暮らしを体験し、地域の仕事を手伝う。この中で、地域の魅力を自分の目で発見する。これら経験をまとめてプレゼンする能力の育成も行う。

到達目標
ツーリズムによる地域経済の活性化や地域おこしの手法を学ぶとともに、それに関連した自然環境と歴史文化資源の保全の重要性を理解できるようになる。地域魅力発見体験合宿を通じて、地域の隠れた観光資源を発掘する方法を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義と合宿の取組み姿勢(60%)、合宿成果発表会(20%)、合宿成果レポート(20%)により評価する。合宿に参加しない者、合宿成果発表会で発表しない者、合宿成果レポートを提出しない者には単位を与えない。実習時や成果発表会を通じて学生に学習進度をフィードバックする。

事前・事後学習
四日市地域やいなべ市などのツーリズム関連の資料、自然資源や歴史文化資源の資料を配布するので、それを予習(180分)して授業に臨むこと。

環境社会学 橋本幸彦	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EEP2005	後学期	選択

授業のねらい
環境社会学という学問の基本的な知識や考え方を習得することを目標とします。過去および現在の様々な環境問題について理解し、その解決方法について考察します。後半では近年、深刻化している野生動物の問題を題材として、ディスカッションなどを行い、問題解決能力の向上を図ります。

到達目標
人間社会と環境の間にある、複雑かつ多岐にわたる様々な環境問題について、歴史を学び、そこから得た教訓を踏まえ、一人一人が考え、行動できるよう、基礎知識や思考法等を身につけることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業に対する積極性(50%)、期末試験(50%)を元に総合的に評価します。毎回、小レポートの提出を課し、授業に対する積極性として評価します。その他、授業中の発言や質問なども評価します。次回以降、小レポートを採点しフィードバックします。

事前・事後学習
前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください(毎週60分)。また日頃から新聞やテレビ、インターネットなどで地域社会に関する情報をチェックし、わからない用語を調べ、なぜ関心を持ったか自分の中で整理してください(1日平均20分)。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる

授業計画
第1講 ガイダンス、ツーリズムとは
第2講 ツーリズム概論(講師:岡)
第3講 ツーリズム概論(講師:岡)
第4講 ツーリズム概論(外部講師)
第5講 ツーリズムと環境問題(講師:千葉)
第6講 ツーリズムと環境問題(講師:千葉)
第7講 地域魅力発見合宿のガイダンス(講師:岡、千葉)
第8-13講 地域魅力発見合宿(3泊4日前後)
第14-15講 合宿成果発表会(合宿地にて)(講師:岡、千葉)
レポート 合宿成果をレポートとして提出

定員:合宿を行う関係から、履修者上限を20名とする。
合宿期間:8月下旬から9月上旬
合宿予定地:鳥羽市答志島桃取町
合宿費用、旅費:学生負担。ただし、大きな負担にならないように配慮する。
食事:自炊

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。資料を配布する。

担当者から一言
田舎暮らしを体験し、地域の方々と触れ合い、地域の魅力を発見し、それを発表するアクティブラーニング形式の授業です。観光産業に興味のある人、農業、漁業、田舎暮らしや神社仏閣や史跡に興味のある人、企画好きな人は是非参加してください。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 環境社会学とは
第3講 環境問題の歴史 ① 第二次世界大戦以前
第4講 環境問題の歴史 ② 産業公害を中心に
第5講 環境問題の歴史 ③ 生活公害を中心に
第6講 被害構造論
第7講 受益圏・受苦圏
第8講 社会的ジレンマ論
第9講 生活環境主義
第10講 環境問題と環境運動
第11講 野生動物保護管理とは
第12講 野生動物と人間社会 ①
第13講 野生動物と人間社会 ②
第14講 野生動物保護管理と動物の生態
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
自作プリント、必要に応じて関連資料配布。
参考文献 飯島伸子著「環境社会学のすすめ」丸善
鳥越皓之・帯屋博明編著「よくわかる環境社会学」ミネルバ書房

担当者から一言
最近では、環境問題に関するニュースが毎週のように報じられています。これらのニュースがあれば、随時紹介します。みなさんも関心のあるニュースなどを見つけたら、講義中に発言してください。積極的な講義への参加を期待します。

環境法	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	EEP3004	前学期	選択

中西紀夫

授業のねらい
本講義のねらいは、都市計画の骨子と環境対策の基本を学ぶことで、つまり、国民に安全かつ健康で文化的な生活ができる都市をつくり、改善もしていく仕組みです。これは憲法25条の「生存権」から導き出されるとも考えられます。都市計画の学び方としては、「都市計画を定める仕組み」という法律学の観点から学んでいきます。また、都市計画に必要となる環境対策においても現代社会の変化を踏まえながら、分かりやすく解説します。

到達目標
本講義では、都市計画や環境対策の関連法を体系的に理解することを目標としています。具体的には、時代別に学んでいくことにより、法の制定経緯および骨子を概観することにつながります。最終的には、都市計画や環境対策に関わる仕事の実践的な法処理技術の取得まで対応できる人材育成を目指しています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は、次のような評点配分です。
受講態度 30% : 授業中に行うテキストの講読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果や出席状況も含む。
定期試験 70% : テキストのみ持込可
なお、授業中に実施した小テストについては、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

事前・事後学習
毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。

都市計画論	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	EEP3005	前学期	選択

本部賢一

授業のねらい
都市にかかわる様々な課題を把握し、よりよい将来を実現するために、都市そのものや、そこで暮らす人々に対して働きかけを行う行為が「都市計画」です。
本講義では、都市計画に関連する制度ならびに都市環境計画、都市防災計画について学びます。目まぐるしく変化していく社会や自然環境に対応するためには、都市計画に対する「考え方」そのものを変えていく必要があります。その手掛かりをどうつかむのか、ヒントを探るために、必ずしも成功例とはよべない事例も含め、具体的な事例を多く交えて学習していきます。

到達目標
授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域や公務員として従事される自治体職場での地域づくりまたはまちづくりに参加した際、既存の都市計画制度を活用できるようになるだけでなく、変化する社会に対応できるよう、必要に応じて制度の改革にも取り組んでいくことができるような力を身につけることを到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により総合的に評価します。
・授業時に出す課題の提出状況:30%
・定期試験:70%
なお、授業時に提出した課題については、添削の上、以降の授業で返却します。

事前・事後学習
【予習】90分
配布されたプリントには必ず目を通し、疑問点を整理しておきましょう。
【復習】90分
ノート整理を行い、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。また、プリントに出てきた自治体の都市計画部局のサイトを閲覧しましょう。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる

授業計画
第1講 ガイダンス
～都市計画編～
第2講 都市計画の基本的枠組み
第3講 第2次世界大戦前と後の都市計画の時代
第4講 現行都市計画法の制定時の都市計画の時代、地区計画・規制緩和・コンパクトシティの時代
第5講 これだけは知っておきたい都市計画用語、都市計画図書の読み方
第6講 都市計画区域と都市計画の内容のポイント
第7講 都市計画のための手続きと土地利用に関する都市計画の実現手法
第8講 まとめ
～環境対策編～
第9講 環境法と既存の法(憲法・行政法・民法・刑法)との関係
第10講 環境対策と法規制、主な環境規制法
第11講 環境アセスメントの考え方
第12講 私法的な救済方法
第13講 条例による規制とその問題点
第14講 環境マネジメントシステム
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
参考文献 : 佐々木晶二著『いちからわかる知識&雑学シリーズ 都市計画のキホン』ぎょうせい(2018年)2,000円+税(価格)
参考文献 : 中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院(2010年)
プリントを配布しますが、最新の内容は提供します。

担当者から一言
授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる

授業計画
第01講 ガイダンス(講義内容の説明)
第02講 都市形成のメカニズム
第03講 日本の都市化の進展とそれに伴う諸問題
第04講 都市の進化とプランニング
第05講 計画の概念とプランナーの役割
第06講 都市の暮らしを支える施設配置計画
第07講 豊かさを実感できる都市空間づくりとは
第08講 都市環境計画(1)
第09講 都市環境計画(2)
第10講 環境保全対策
第11講 環境経済評価(1)
第12講 環境経済評価(2)
第13講 都市防災計画(1)
第14講 都市防災計画(2)
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
なし(適宜プリントを配布)

担当者から一言
スライドを見ながら口頭で説明する内容が多いので、ノートテイクが重要です。
4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。
講義中の遅刻、中座、飲食、携帯電話の使用などは禁止です。

海洋学／海洋環境学 千葉 賢	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	EEE2001	後学期	選択

授業のねらい
地球規模の環境問題を理解できるようになるため、大気と海洋の物理化学と、陸域を含む物質・エネルギー循環とその発生機構について最初に学ぶ。続いて、水中光の物理に触れながら、それに左右される基礎生産と、基礎生産を底辺とした海洋生態系の仕組みと変動機構について学ぶ。海洋生物群について、分類学的な観点から理解を進め、その生態と生活史などを学ぶ。また、その応用として沿岸海洋学、沿岸環境学についても学び、地域の持続的発展に重要な伊勢湾の現状とその将来について考える。

到達目標
大気科学と海洋学の基礎知識を得て、地球温暖化、海洋プラスチック問題、魚類資源の減少などの地球規模の環境問題とともに、沿岸域の水質などの環境問題などが理解できるようになる。2年次担当の「海洋調査法」を履修するために必要な知識を得る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義毎のレポート(40%)と期末試験(60%)。毎週小レポートを課すので少し大変だが、その積み重ねで知識がつく。期末試験もレポートの問題の中から主に出題する。積極的にレポートに取り組んだ者は加点する。レポートは採点して返却する。

事前・事後学習
シラバスを読み、授業週の翌週の内容を把握し、教科書やネットで予備知識を得る(90分)。授業を聴いたら、内容を復習(90分)し、理解できなかった部分を教科書やネットで調べる。

生物分類学／生物分類 大八木麻希	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EEE2002	後学期	選択

授業のねらい
分類学は17世紀ごろに始まり、博物学が盛んになる18世紀にはリンネによって整理された。日本の動植物はシーボルトによって西洋に広められた。近年では分子生物学によって、分類学の新たな知見が得られてきた。これまでの分類学の歴史を理解するとともに、生物同定の技術を確立する。

到達目標
本講義では、生物分類について生物学・博物学の知識をふまえて学ぶ。そこで、生き物の分類の仕方や名づけについて、体系的に理解し、技術として獲得することを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小レポート30%、試験orレポート70%
小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。

事前・事後学習
授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、海洋学とは
第2講 海洋の大きさと海水の物性
第3講 大気と海洋(大気の熱力学)
第4講 大気と海洋(大気中の水循環と温室効果)
第5講 大気と海洋(コリオリ力とエクマン輸送)
第6講 大気と海洋(風成循環と海流)
第7講 潮汐と潮汐流
第8講 水中の光環境と基礎生産
第9講 水中の光環境と基礎生産
第10講 海洋生態系と栄養段階
第11講 海洋生態系と栄養段階
第12講 海洋生物とその分類
第13講 海洋生物とその分類
第14講 伊勢湾の環境問題
第15講 海洋調査法の紹介

テキスト・教材(参考文献含む)
担当教員が作成する安価なテキストを販売する予定。購入方法と価格を、後日案内する。

担当者から一言
地球温暖化や海洋プラスチック汚染などの地球規模の環境問題を理解する上で、海洋学の知識は必須です。2年次担当の「海洋調査法」で役立つ知識を教えるので、履修予定の人は、この科目を先に学んでください。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 分類学の研究史
第3講 博物学の研究史
第4講 生物世界の分類体系
第5講 生物世界の階層構造
第6講 生物学の種概念
第7講 分類学の位置づけ
第8講 国際命名規約
第9講 動物と植物の命名の違い
第10講 学名とタイプ標本
第11講 進化学との関連性
第12講 遺伝学との関連性
第13講 分子生物学との関連性
第14講 新種の発見と記載
第15講 分類学の発展

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストは無し
参考文献
馬渡峻輔(2008)動物分類学30講、朝倉書店、3,400円+税

担当者から一言
普段の身の回りの何気ない生物にもそれぞれ名づけが行われてきた過去の歴史や研究者の情熱を感じ取って、皆さんが学ぶ意識の向上に役立てることができればと考えています。

海洋調査法／環境研修 b 千葉 賢	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
		前学期	選 択

授業のねらい
三重大学の勢水丸をお借りして、2泊3日で伊勢湾や周辺の海域に出て、水質・底質・生物調査などを行います。そのような実習と事前事後授業を通じて、伊勢湾の環境問題についての知識を増やし、伊勢湾の環境保全の大切さを理解できるようにします。海洋調査法の基本を体験し、その後のゼミ活動や他授業で役立てられるようにします。船内で規律ある団体生活(ラジオ体操、船内清掃、配膳皿洗い等)を体験し、班分けで活動することで、社会人基礎力も養成します。

到達目標
伊勢湾の環境問題を理解できるようになる。海洋調査とデータ整理の基本技術を知る。観測内容を報告書にまとめる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
実習への取組み姿勢(70%)と実習報告書(30%)により評価する。実習に参加しない者、実習報告書を提出しない者には単位を与えない。事前事後授業についても、特別な事情がある場合を除いて、出席を必須とする。実習なのでフィードバックは現場で行う。

事前・事後学習
事前授業資料を授業に先立ち配布するので予習すること(180分)。事前授業では反転授業の形式を採用して、学生に予習したことを発表させるので、予習しないと困ることになる。

環境実験・調査 a／環境測定・実験 a 廣住 豊一・大八木 麻希	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	EEE2004	前学期	選 択

授業のねらい
この授業では、大気・水質の調査・分析に関する理論と測定方法を学び、分析結果を通して環境問題について考える。

到達目標
調査・実験を実施する上での安全管理の考え方、基本的な実験器具の取り扱いや試薬の調整方法について身につける。調査結果をまとめ、正しく報告することができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
それぞれの実験における実施態度・習熟度、分析結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。提出されたレポートは添削し、返却する。

事前・事後学習
シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を予習する(90分)。実験内容をよく見直し、それぞれの実験で配布した資料で復習する(90分)。「環境化学」・「環境化学実験」を履修していることが望ましい。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、伊勢湾調査実習の内容説明
第2講 伊勢湾の地形・流動・水質の特徴(学内教室・事前授業)
第3講 伊勢湾の地形・流動・水質の特徴(学内教室・事前授業)
第4講 実習オリエンテーション(実習開会式含む)(勢水丸船内・実習1日目)
第5講 海洋調査実習(勢水丸船内・実習1日目)
第6講 海洋調査実習(船内実習1日目)
第7講 海洋調査実習(船内実習1日目)
第8講 観測データ分析(船内実習1日目)
第9講 海洋調査実習(船内実習2日目)
第10講 海洋調査実習(船内実習2日目)
第11講 海洋調査実習(船内実習2日目)
第12講 観測データ分析(船内実習2日目)
第13講 海洋調査実習(実習終了式含む)(船内実習3日目)
第14講 実習報告書の書き方(学内教室・事後授業)
第15講 実習報告書の書き方(学内教室・事後授業)

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。資料を配布する。

担当者から一言
伊勢湾の水産資源が減少し、コウナゴは4年連続で禁漁になったことを知っていますか。伊勢湾の環境に異変が起きています。その原因を是非知りたいという人は履修してください。1年次配当の「海洋学」を先に履修することを強く勧めます。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス 安全指導・レポート書き方・実験器具の使い方(廣住)
第2講 水質① 物理指標 水温・pH(大八木)
第3講 水質② 物理指標 浮遊懸濁物質(大八木)
第4講 水質③ 生物指標 BOD(大八木)
第5講 水質④ 化学指標 窒素(大八木)
第6講 水質⑤ 化学指標 リン(大八木)
第7講 水質⑥ 化学指標 COD(大八木)
第8講 水質⑦ 分析演習 塩水と砂糖水の水質比較(大八木)
第9講 大気① 気象条件 気温と湿度(廣住)
第10講 大気② 気象条件 雨量と酸性雨(廣住)
第11講 大気③ 気象条件 風(廣住)
第12講 大気④ 生活環境 花粉・粉じん・PM2.5(廣住)
第13講 大気⑤ 生活環境 照度(廣住)
第14講 大気⑥ 生活環境 騒音(廣住)
第15講 大気⑦ 生活環境 不快指数と暑さ指数(廣住)
全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材(参考文献含む)
各回の講義内容に関連した資料を配布する。

担当者から一言
実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。

陸水学 大八木麻希	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EEE3001	後学期	選 択

授業のねらい
陸水学は、内陸部に存在する陸水（湖沼、河川、ダム湖、河口域、地下水、湿地、雪氷など）に関する総合科学である。日本は古来から水資源が豊かな国であり、恵まれた水環境の中で歴史を刻んできた。しかし、高度経済成長期には公害問題、80年代には富栄養化問題、そして現在ではダム建設の必要性の有無が問われているなど水環境と人との関わりの中で、さまざまな現状と直面している。そこで、学問的な自然科学である陸水学を通じて、理解を深めていきたい。

到達目標
本講義では、湖沼や河川の物質循環を理解するとともに、水域環境の現状と問題点を整理し、環境保全・環境再生や復元のための基礎理論や技術を学ぶことを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小レポート 30% レポート 70%
小レポートについては、毎回採点し返却する。

事前・事後学習
授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。

森林学 田中伊知郎	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	EEE3002	後学期	選 択

授業のねらい
日本の国土の7割を占める森林がどのような特徴を持ち、環境保全にどのように関連するかを明らかにしていきます。次に、経済的な問題を説明します。

到達目標
日本の環境保全を考える上で、土台となる森林に関する知識を養うこと、人間とのかかわり（森林からどのように財を生み出すかを含む）を生物学の視点から明らかにすることをこの講義の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義の各単元の終わりに練習問題（実践課題）をやります。講義中の課題は、コメントを次回の講義でフィードバックします。
実践課題60% 定期試験 40%

事前・事後学習
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください（60分）。2・3日後に、ノートを再度読んで（30分）、その次に当たることを考えてください（30分）。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください（60分）。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、水循環
第2講 陸水学・湖沼とは
第3講 湖沼の基本情報
第4講 湖沼成因
第5講 透明度と光
第6講 湖沼型
第7講 湖沼の一般性状
第8講 湖沼の理化学的性質
第9講 水圏生物（プランクトン）
第10講 古陸水学的手法 事例紹介
第11講 河川水質
第12講 河川管理
第13講 多自然河川の現状
第14講 地下水の現状と問題点
第15講 ダム湖の現状と問題点
レポート試験
簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）
テキスト
飯田貞夫「やさしい陸水学」文化書房博文社(1997)2,750円
参考文献
西條八東・三田村緒佐武「新編湖沼調査法」講談社(2016)3,400円

担当者から一言
各講義では計算や簡易な実習を行うので積極的な学生の履修を望む。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス・四日市本来の自然林と人工林：大学周辺の森の見学（フィールドワーク）
第2講 森林生態系の基礎：植物の光合成
第3講 植物同士の競争と遷移
第4講 西日本の極相：照葉樹林（mast fruiting）
第5講 東日本の極相：夏緑樹林（落葉広葉樹林）
第6講 二次林：どんぐり食糧から新炭利用へ
第7講 貧栄養土壌と松林（二次林のなれの果て）
第8講 人工林：技術発展による木材利用の変化（イケアなどの集材材）
第9講 スギ植林の問題点（挿し木杉植林について意見を述べる実習）
第10講 森林（ブナ極相林）における動物相
第11講 獣害（人を食い殺すツキノワグマやオオカミ）
第12講 コアエリア計画（積雪地のブナ林で）
第13講 ニホンジカ管理計画（非積雪地のブナ林で）
第14講 ニホンジカの利用：東京におけるジビエ料理の進展
第15講 持続可能な森林に向けて：天然更新
定期試験 持ち込み不可

テキスト・教材（参考文献含む）
なし

担当者から一言
できるだけ日常的な言葉で説明します。
「生態学」（前期）の履修後だとわかりやすくなります。

土壌学／環境土壌学 廣住豊一	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	EEE3003	前学期	選択

授業のねらい
土壌は、農業・林業などによる生産機能だけでなく、環境変化に対する緩衝機能や環境汚染に対する浄化機能など、有益で重要なさまざまな機能を持っている。この講義では、土壌の基本的な性質や機能を学ぶだけでなく、土壌が地球環境や生態系のなかでどのような地位を占め、どのような役割を果たしているかを学ぶ。また、三重県の土壌についても紹介する。

到達目標
土壌の成り立ちや構造、土壌のもつ性質や機能を理解する。土壌を地球にある有限資源のひとつとして捉え、地球環境のなかで土壌が果たす役割について考えることができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。確認テストは次の講義までに添削して返却する。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに評定を1段階下げる。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。

事前・事後学習
シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。「化学概論」・「生物学概論」・「地学概論」・「環境化学」・「生態学」を履修していることが望ましい。

食糧生産学／環境計量測定論 廣住豊一	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	EFE2001	後学期	選択

授業のねらい
世界人口の増加による食糧需要の増大、気候変動やバイオエネ르기ーとの競合などによる食糧供給の不安定化、生産にともなう環境の汚染や破壊など食糧への関心が高まっている。この講義では、農業・水産業・畜産業などの食糧生産の基礎を学ぶ。

到達目標
世界の食糧事情と食糧生産システムについて理解する。農業・水産業・畜産業など食糧生産に関する産業の基礎を理解する。食糧生産に関する環境問題について考えることができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。確認テストは次の講義までに添削して返却する。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに評定を1段階下げる。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。

事前・事後学習
シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス 土壌とは何か？
(土壌の成り立ち)
第2講 土壌の生成 ——月に土壌はあるか？
第3講 土壌の分類 ——世界の土、日本の土、三重の土
(土壌のつくり)
第4講 土壌の構造 ——土は何でできている？
第5講 土壌生物と土壌有機物 ——土のなかの生き物たち
第6講 土壌のpHと温度 ——住み心地はいかが？
(土壌のはたらき)
第7講 土壌の保水性 ——水もちの良さはどう決まる？
第8講 土壌の排水性 ——水はけのよい土わるい土
第9講 土壌の保肥性 ——土はどのようにって栄養を蓄える？
(土壌の種類と特徴)
第10講 いろいろな土壌① 森林の土壌
第11講 いろいろな土壌② 水田の土壌
第12講 いろいろな土壌③ 畑地の土壌
第13講 いろいろな土壌④ 施設・草地・樹園地の土壌
(環境と土壌)
第14講 土壌の浄化機能と土壌汚染 ——土壌を守る
第15講 土壌の劣化と保全 ——土壌を育む
定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
各回の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。参考文献には、松中照夫著「土壌学の基礎」農文協(2004年)、久馬一剛編著「最新土壌学」朝倉書店(1997年)、安西徹郎・犬伏和之編「土壌学概論」朝倉書店(2001年)などを推奨する。

担当者から一言
私たちの足もとにある土壌は地球の歴史とともに育まれてきました。長い時間の流れに想いを馳せながら、これから土壌とどう付き合っていくのか考えてみてください。なお、本科目は三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格の認定対象科目です。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1講 ガイダンス、現在の食糧事情と生産体系
第2講 農業① 農耕の起源と作物
第3講 農業② 日本の農業と作物生産の特徴
第4講 農業③ 作物生育と栽培環境・栽培管理
第5講 農業④ 稲作と水田農業
第6講 農業⑤ 野菜・果樹・花の生産
第7講 農業⑥ 農業分野の新しい技術
第8講 農業⑦ 農業と環境問題
第9講 水産業① 日本の漁業の歴史と特徴
第10講 水産業② 漁業の仕事と制度
第11講 水産業③ 養殖と栽培漁業
第12講 水産業④ 海洋の資源と環境の保全
第13講 畜産業① 畜産業と畜産物
第14講 畜産業② 世界と日本の畜産業
第15講 これからの食糧生産
定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
各回の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。参考文献には、八木宏典監修「知識ゼロからの現代農業入門」(2018年)、濱田武士監修「知識ゼロからの現代漁業入門」(2017年)、八木宏典監修「知識ゼロからの畜産入門」(2018年)などを推奨する。

担当者から一言
毎日の食卓に並ぶ料理の食材は、化学・物理学・生物学・地球科学の科学的知識と現場で培われた実践的経験を駆使して栽培・飼育・採取・捕獲されたものです。普段から、ひとつひとつの食材をよく観察し、どのようにして食卓に並んだのか考えながら、感謝しておいしいいただきます。

食品微生物学／環境生物学 大八木麻希	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EFE2002	前学期	選択

授業のねらい
 人の生活に欠かせない「食」。お酒やしょうゆのように食品を作り出す役割、感染症や食中毒を引き起こす健康を損なう存在、抗生物質など健康に役立つ存在など様功罪両面を持つ微生物を知るとともに、基礎事項について学ぶ。

到達目標
 本講義では、食品微生物について、多角的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 小レポート30%、テスト70%
 毎回講義の終わりに小レポートを課し、添削後次回返却し講評を行う。

事前・事後学習
 授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

事前・事後学習
 授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

食品衛生学／環境衛生学 廣住豊一	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EFE2003	後学期	選択

授業のねらい
 「食」は人間の健康的な生活を支えるもっとも重要な要素のひとつである。その一方で、食中毒や食品の汚染など食に関するさまざまな問題が生じている。この講義では食品の安全性を守るために必要な食品衛生の基礎を学ぶ。

到達目標
 食品の変質や食中毒の発生メカニズムを理解できる。有害物質や食品添加物、残留農薬などによる食品への影響を理解できる。食品衛生管理を行うための法律やシステムを理解できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。確認テストは次の講義までに添削して返却する。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに評定を1段階下げる。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。

事前・事後学習
 シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。「化学概論」・「環境化学」・「食品微生物学」を履修していることが望ましい。「環境実験・調査b」の履修を推奨する。

事前・事後学習
 シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。「化学概論」・「環境化学」・「食品微生物学」を履修していることが望ましい。「環境実験・調査b」の履修を推奨する。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
 第1回 ガイダンス、微生物学の歴史
 第2回 微生物の取り扱い法
 第3回 微生物の種類と分類
 第4回 微生物の構造
 第5回 微生物の栄養と増殖
 第6回 微生物の代謝
 第7回 微生物の遺伝現象とその応用
 第8回 微生物の増殖制御と殺菌
 第9回 抗生物質の作用機序
 第10回 醸造食品
 第11回 食品の素材生産と微生物
 第12回 グリーンバイオテクノロジー
 第13回 口腔細菌や腸内細菌と健康
 第14回 食品の腐敗と微生物
 第15回 微生物による食性病害
 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）
 テキスト指定無し、毎回関連プリント配布
 予習復習用
 村田常容・渋井達郎「食品微生物学」東京化学同人(2015)2,700円

担当者から一言
 ノートテイクのみでは試験通過は難しいため、理解を深めるため積極的な姿勢で取り組む学生を望む。

授業の位置づけ
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
 第1講 ガイダンス、食品の安全性と食品衛生
 第2講 食の安全を支える法規と行政
 第3講 食品と微生物
 第4講 食品の変質① 腐敗と化学的変質
 第5講 食品の変質② 変質の防止
 第6講 食中毒① 食中毒の概要と発生状況
 第7講 食中毒② 微生物による食中毒
 第8講 食中毒③ 自然毒・化学物質による食中毒
 第9講 有害物質による食品の汚染
 第10講 食品添加物① 食品添加物の概要と安全性評価
 第11講 食品添加物② いろいろな食品添加物
 第12講 残留農薬と動物用医薬品
 第13講 アレルギー物質と遺伝子組換え食品
 第14講 総合的な食品衛生管理システム
 第15講 食品表示制度
 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
 各回の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。参考文献には、一戸正勝・西島基弘「図解 食品衛生学 第5版」講談社(2016年)、田崎達明「栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学」羊土社(2017年)などを推奨する。

担当者から一言
 私たちが普段食べている食品の安全性は、さまざまな科学的知識や技術、法律に支えられています。何気なく店頭で目にする食品も違った視点で眺めてみると、いろいろと面白いかもしれませんよ。

環境実験・調査b/環境測定・実験b 大八木麻希・廣住豊一	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EFE2004	後学期	選択

授業のねらい
食生活は多くの分野と関連し、食の安全を担保するうえで重要な分野の一つである。基礎実験を中心として、食品の栄養特性及び機能性を理解する。

到達目標
本実験では、知識のみでなく自身で正しい判断をできる応用力を身に付けることを求める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
実験レポート100%
毎回の実験レポートを提出し、再提出の場合は合格するまで提出すること。

事前・事後学習
授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

農産物流論 杉谷克芳	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	EFE3001	前学期	選択

授業のねらい
本講義では、現実の流通業の動向にホットな関心を抱きつつ、「流通の社会的役割」「農産物流通」「投機的流通から延期的流通へ」等の流通経済の理論的な話をしていきます。流通業は、もっとも身近な産業だと言えます。私たちは毎日どこかで買物をしており、流通業の変化は私たちの消費生活に直接的に影響を与えます。また、卒業後のあなたの方の就職先として流通業が近年ますます大きな比重を占めてもいます。流通業の動きに興味をもったり、何気なく買物をしていた店舗を見る眼が変わったりのきっかけになればと思っています。

到達目標
流通論の基本的用語や理論を理解した上で、現実の流通業の動きに関心を持ち、自分なりに分析する力を培うこと

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
基本的には定期試験の結果によって評価します。また、授業への積極的な参加度、小テスト、レポート(任意提出)等による加点を行います。定期試験だけで秀をとる人はきわめて稀です。受講態度や小テスト等による加点をねらいましょう。授業中・授業後の質問には、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習
新聞、雑誌などの流通業に関する記事に目を通すこと、テレビやインターネットでも構いません(毎日30分以上)。講義後は、その日のノートを見返して、不明な点を参考文献等で調べておくこと(60分以上)。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
第1回 ガイダンス、実験の心構え・準備
第2回 洗浄実験① 合成洗剤の働き(大八木)
第3回 食品の分析① 牛乳の鮮度(大八木)
第4回 食品の分析② 清涼飲料水の糖度・酸度測定(大八木)
第5回 食品の分析③ 溶液の密度測定(大八木)
第6回 食品の分析④ 鶏卵の鮮度(大八木)
第7回 食品の分析⑤ 変性(熱・塩)(大八木)
第8回 食品の分析⑥ ミネラルウォーターの硬度測定(大八木)
第9回 農地の調査① 野外での農地調査(廣住)
第10回 農地の調査② 農地土壌のpHとEC(廣住)
第11回 農地の調査③ 農地の養分分析(廣住)
第12回 農作物の分析① 果実の糖度と酸度(廣住)
第13回 農作物の分析② 野菜や果物の水分量と灰分(廣住)
第14回 農作物の分析③ 果汁中のリン(廣住)
第15回 農作物の分析④ 果汁中のミネラル分(廣住)
実験を行い、アクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストなし
参考文献
谷口重樹子ほか「基礎から学ぶ食品科学実験テキスト」建帛社(2016)2,300円

担当者から一言
実験は危険を伴うため、慎重な行動と適切な判断が必要となります。責任を持ち取り組むこと。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる

授業計画
第1講 ガイダンス、講義の概要
第2講 必要としての買物と娯楽としての買物
第3講 小売業の定義、小売業と卸売業、小売業とサービス業
第4講 社会的分業と流通、生産と消費の間の懸隔の架橋
第5講 流通の4要素と流通フロー、流通の担い手とは
第6講 商業者の存立基盤、取引数最小化の原理
第7講 農産物流通—卸売市場流通と卸売市場外流通、食料品ニーズの変化、
第8講 農産物流通—卸売市場の誕生とその目的
第9講 農産物流通—卸売市場の仕組み
第10講 農産物流通—青果物流通の現在、畜産・米・お茶の流通
第11講 在庫の役割、危険プールの原理
第12講 投機的流通の延期化、ファーストファッション
第13講 延期と投機、回転寿司
第14講 SPAと延期化、ユニクロ
第15講 セブンイレブン・ジャパン、コンビニを支えるもの

テキスト・教材(参考文献含む)
特になし。講義中に適宜プリントを配布します。

担当者から一言
あまり難しい話にならず、学生さんの興味を引く授業にしたいと思いますが、そのためには学生さんの協力が必要です。私語は苦手ですので、よろしく。また、講義中のスマホ使用も禁止します。

農業経営論	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	EFE3002	後学期	選択

授業のねらい
この講義では、前半（杉谷担当）において主に日本の農業問題に焦点を当て、後半（鶴田担当）では国際的な視点から農業問題を考えます。日本の農業問題では第二次世界大戦後の改革から始まり、高度経済成長期やグローバル化が進む中で、日本の農業問題やビジネスがどのように進展していったのかを学びます。国際的な視点からはGATT（貿易と関税に関する一般協定）やTPPなどの自由貿易協定の中で農業問題がどのように捉えられてきたのかを理解します。皆さんの意見や疑問もぶつけ合いながら、活発なディスカッションを行いながら進めます。

到達目標
日本及び世界における農業の経済的側面に関する基本的な知識と問題点を理解し、将来の展望を考える力を培う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
前半と後半の2回にわたるレポート試験により評価します。
フィードバック方法：講義中や終了後の質問や疑問には適宜コメントします。

事前・事後学習
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(30分以上)。

メディア情報と文化／異文化社会論	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	山本 伸 EMI2001	後学期	分野必修

授業のねらい
そもそもメディア情報と文化とは何をどう学ぶための授業であるかを意識しながらすすめていく。アメリカメディアにおける日米関係を史実に基づいて探ることを基軸に、現代世界におけるメディア情報が文化とどのように連関しているのかをリアルタイムで探っていく。

到達目標
メディアと文化の連関性の確認と理解をベースにして、異文化理解に際してのさまざまな側面を探るとともに、メディア情報を専門とする者としての的確な知識、あるべき姿勢、豊かな感性を伸ばす。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等）50%、レポート（期末試験）50%で総合的に判断します。なお、確認テストについては毎回授業の最後に行い、その場で解答し、相互に添削してもらいます。

事前・事後学習
前週に出された課題（テキストの熟読／わからない用語の検索等）に90分、学習した箇所の復習（前週の確認テストの誤答分析／テキストのおさらい／ノート整理等）に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 日本の農業の現状①：農地、農家、農業産出額
第3講 日本の農業の現状②：農業生産の縮小と食糧自給率の低下
第4講 日本の農政①：戦後改革と農業、食糧制度
第5講 日本の農政②：高度成長と農業、農業基本法、総合農政
第6講 日本の農政③：グローバル化と農業、食料・農業・農村基本法
第7講 農業のビジネス化、地域の農業：農業生産法人、企業の農業参入
第8講 前半のまとめ
第9講 世界の食糧事情と問題点
第10講 穀物貿易の特質
第11講 農業保護政策
第12講 輸出競争とGATT農業交渉
第13講 WTO農業協定とドーハ開発アジェンダ
第14講 FTA(自由貿易協定)と農業問題
第15講 後半のまとめ

テキスト・教材（参考文献含む）
プリントを配布します。

担当者から一言
質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、導入「メディア情報と文化の連関／異文化理解について」
第2講 メディアにおけるアメリカ黒人と人種①
第3講 メディアにおけるアメリカ黒人の文化②
第4講 メディアにおけるアメリカ黒人の歴史③
第5講 黒人メディアにおける日本人と人種①
第6講 黒人メディアにおける日本の社会②
第7講 黒人メディアにおける日本の文化③
第8講 黒人メディアにおける日本の歴史①「日露戦争」
第9講 黒人メディアにおける日本の歴史②「パリ講和会議と関東大震災」
第10講 黒人メディアにおける日本の歴史③「真珠湾攻撃」
第11講 黒人メディアにおける日本の歴史④「日本人収容キャンプ」
第12講 黒人メディアにおける日本の歴史⑤「原爆投下」
第13講 黒人メディアにおける現代日本①
第14講 黒人メディアにおける現代日本②
第15講 まとめ
定期試験
(毎時間授業終了後に行う確認テスト（学生相互に採点）をもってアクティブラーニングとする。)

テキスト・教材（参考文献含む）
レジナルド・カーニー著 山本 伸訳 『20世紀の日本人—アメリカ黒人の日本人観1900-1945』五月書房 1995年 定価:1,300円(税込)

担当者から一言
現代社会にはどのようなメディアがあるかを知っておくとともに、メディアによって情報が微妙に異なっていたり、ときに真反対だったりすることもあります。メディア情報に踊らされるのではなく、メディア情報を取捨選択し、自らの力で真理へと近づけるよう心がけることが大切です。

脳・音・光の科学 I 前川 督雄・関根 辰夫	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	EMI2002	前学期	分野必修

授業のねらい
 私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。
 (1) 感覚と脳の仕組みと機能の概要を学びます。
 (2) 音楽を含めた環境音が現代の人間にどのような影響をもたらすか、更にこれ等を理解するのに必要な音についての物理的側面を学びます。
 (3) 光の物理、視覚の生理・心理の基礎を学びます。

到達目標
 (1) 見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。
 (2) 音の基本的な性質を理解し、音楽の基礎的な知識を理解する。
 (3) 光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 次の配分で総合評価します。
 受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等(45%)
 定期試験(55%)
 授業中の演習問題等について、事後に解説を行います。

事前・事後学習
 授業中に演習問題を出し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習する(90分)とともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい(90分)。
 後期の「脳・音・光の科学 II」で継続した内容の授業を行います。

ソフトウェア論 池田 幹男	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	EMI2003	後学期	分野必修

授業のねらい
 コンピュータがどのように動作しているかについて学びます。ソフトウェアが中心となります。コンピュータのソフトウェアの種類と構成について学びます。また、コンピュータの中でデータがどのように処理されているかを学びます。

到達目標
 コンピュータの基本的なソフトウェアの構成とマルチメディア処理の基礎を理解することを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業態度と小レポート(合計60%)と定期試験(40%)によって評価します。小レポートの疑問点は出来るだけ早く授業直後に説明します。

事前・事後学習
 積み上げる内容なので疑問点は小レポートに書いて質問し、次の授業までに解決すること。(疑問点はすぐに教えます)
 十分な復習(180分程度)を行ってから受講すること。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス／五感と脳
 第2講 脳 脳の構造と機能(1)
 第3講 脳 脳の構造と機能(2)
 第4講 音 物理(1) 音とは？
 第5講 音 物理(2) 音の三要素
 第6講 音 物理(3) 伝播
 第7講 音 物理(4) 反射
 第8講 音 物理(5) 屈折
 第9講 音 楽器と音(1)弦楽器
 第10講 音 楽器と音(2)管楽器
 第11講 光 物理 光とは？
 第12講 光 生理(1) 眼球構造
 第13講 光 生理(2) 視細胞／視神経
 第14講 光 心理(1) 視力
 第15講 光 心理(2) 色覚
 定期試験
 (内容・順序を必要に応じて変更することがあります)

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキストはありません。
 講義中にプリントを配付します。
 (参考文献)
 山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社(2001年)
 池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社(2016年)
 仁科エミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」(2013年)

担当者から一言
 学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。授業はインタラクティブで受講生と議論しながら進めますので積極的に議論に参加してください。参考となる音楽・映像の視聴を行います。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンスとコンピュータの歴史
 第2講 コンピュータが出来ること
 第3講 低水準プログラミング言語
 第4講 高水準プログラミング言語
 第5講 OS①:OSの役割、デバイスドライバ
 第6講 OS②:マルチタスク・マルチスレッド
 第7講 OS③:仮想記憶
 第8講 OS④:ファイルシステム
 第9講 各種アプリケーション・ソフトウェア
 第10講 文字符号化
 第11講 アナログとデジタル
 第12講 オーディオ処理
 第13講 画像処理
 第15講 最近のトピック

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキストはありませんが、教育支援システム(Moodle)に資料を呈示します。

担当者から一言
 この授業には特に前提知識を必要としませんが、時間やデータ量などの物理的な単位に関して理解する必要があります。コンピュータの原理は非常に単純なもので、表面的な使い方は著しく変化しても基礎は変わりません。

メディアの歴史／メディアの150年史 木村眞知子	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	EMS2001	前学期	選 択

授業のねらい
古くから私たちの暮らしはメディアと深く結びついています。メディアの変化が我々人類の政治や経済、社会、文化の変容にどうかかわってきたかを学び、これからのメディアと私たちの未来を展望します。また、これまでメディアが、何を、どのように語り、描いてきたかを振り返り、メディアの役割を考察するものとします。授業内容をより理解するために、ミニレポートや課題レポートを課します。

到達目標
メディアと人類の歴史を概観することでメディアが歴史に及ぼしてきた影響を知り、変化し続けるメディア環境を生きる私たちと今の社会を理解していきます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績評価は次の通りとします。
ミニレポート・課題レポート:50%
試験:50%
課題レポートについては、以降の講義で取り上げ応答していきます。

事前・事後学習
課題レポート等のためのリサーチ・分析も事前学習と認めます。その準備として「メディア」をより理解するために、毎日30分程度、ネットやテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などで、今、どのような情報が発信されているかを調べ、分析すること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次の講義で質問できるように準備をすること。

音楽とまちづくり／芸術学 鬼頭浩文	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	EMS2003	後学期	選 択

授業のねらい
四日市市では、「街は劇場、通りは舞台 主役はあなた♪」の合言葉のもと、2012年から、市民ボランティアが中心になって「四日市JAZZフェスティバル」が開催されています。
この授業では、「四日市JAZZフェスティバル」を通じて街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞いたり、実際に現場に出かけて行ってボランティアスタッフとしてこの活動のお手伝いをしたりする予定です。学生諸君が、音楽イベントを通じたまちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。

到達目標
音楽フェスの運営方法を実践的に学ぶとともに、音楽をまちづくりにつなげる仕組みや市民の活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
現地実習に取り組む姿勢・パフォーマンス30%、講義で課す課題40% (①～⑧)、定期試験(レポート)30%で総合評価する。

事前・事後学習
座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、課題に取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちにパンフレットを見ながらイベントを振り返ること。

授業の位置づけ
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる

授業計画
第1講 講義ガイダンス——メディアの歴史を読み解く意味
第2講 メディア事始め——人類が生き抜くために
第3講 文字の登場——歴史の始まり
第4講 メディアの変化と歴史1印刷革命 宗教改革へ
第5講 メディアの変化と歴史2動く映像の登場
第6講 メディアの変化と歴史3 電信・ラジオ ヒットラー&ルーズベルト
第7講 メディアの変化と歴史4 ラジオ 玉音放送
第8講 メディアの変化と歴史5 テレビ ケネディvsニクソン～ベトナム戦争
第9講 メディアが描いたもの①高度経済成長と「豊かさ」
第10講 メディアの変化と歴史6 テレビ新時代 ベルリンの壁崩壊
第11講 メディアが描いたもの②広告と暮らし
第12講 メディアの変化と歴史6 SNS アラブの春
第13講 メディアが描いたもの③災害とメディア——同時性とアーカイブ
第14講 変わりゆくメディア、変わりゆく世界
第15講 まとめ——課題試験に向けて

テキスト・教材 (参考文献含む)
なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。

担当者から一言
歴史を学ぶことは単に史実を知ることでなく、歴史から今の私たちへのメッセージを受け取ることです。メディアの歴史からのメッセージを読み取り、今の私たちを、時代を深く理解したいと思っています。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講(10/1)ガイダンス(教員全員)
第2講(10/8)JAZZフェスとまちづくり(実行委員長柳川)①
第3講(10/15)会場設営(実行委員会 堀木)②
第4講(10/22)イベントに向けた心構えと詳細打ち合わせ(実行委員会 山川)③
第5・6講(10/24)現地実習
第7～10講(10/25)現地実習
10/29休み
第11講(11/5)経費と協賛(実行委員会 阪)④
第12講(11/12)発信とメディア(実行委員会 山川)⑤
第13講(11/19)音楽イベントと音響(関根)⑥
第14講(11/26)音楽イベントとしてのオペラの制作とミュージカルとの比較(関根)⑦
第15講(12/3)まちづくりにおける音(前川)⑧
(以降は予備日)
※都合により講義計画が変更になる可能性があります。掲示等を見て見るようにしてください。なお、現地実習を遅刻・欠席した者には原則として単位は与えません。忌引きや伝染病などの公欠にあたる理由が発生した場合は、課題などで代替することを検討します。

テキスト・教材 (参考文献含む)
JAZZフェスのパンフレットと配布資料

担当者から一言
最も重要な現地実習に参加できない学生は、単位の修得が極めて困難になります。

脳・音・光の科学Ⅱ 前川 督雄・関根 辰夫	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EMS2004	後学期	選択

授業のねらい

「脳・音・光の科学Ⅰ」に引き続き、私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。
感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。
(1) 感覚・認識に限界があることを学びます。また、脳の諸機能について学び、心の動き・文化の役割・コミュニケーションの本質について理解を深めます。
(2) 音の様々な心理的効果とその応用例について学びます。
(3) 目に映る光と影から世界を把握する仕組みを学び、ものが見えるとはどういうことなのかを考えます。

到達目標

(1) 見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。
(2) 音の基本的な性質を理解し、音楽の基礎的な知識を理解する。
(3) 光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

次の配分で総合評価します。
受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等(45%)
定期試験(55%)
授業中の演習問題等について、事後に解説を行います。

事前・事後学習

前期の「脳・音・光の科学Ⅰ」を先行して履修していることが望ましい。
授業中に示す次回のキーワードを事前に調べて予習して下さい(90分)。
授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい(90分)。

グラフィックデザイン概論 池上 貴文	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EMS2005	前学期	選択

授業のねらい

コミュニケーション手法のひとつであるグラフィックデザイン。その歴史を辿りながら社会的意義を探ります。そして、著名なデザイナーの作品や言葉から最新のグラフィックデザインまでを紐解き、思考方法や表現方法について解説します。
これまで何気なく見ていた様々なメディアに対し、問題意識や分析意識を持って接していくこととなります。

到達目標

デザイン思考および、ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業内の課題(100%)。
課題の講評によってフィードバックします。

事前・事後学習

世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接して下さい。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画

第1講 ガイダンス／脳 生き物と環境(1)
第2講 脳 生き物と環境(2)
第3講 脳 言語と意識
第4講 脳 記憶
第5講 脳 文化と社会
第6講 脳 生命活動の制御(1)
第7講 脳 生命活動の制御(2)
第8講 音 なぜ人間の耳は左右についているのか？
第9講 音 心理的効果と応用
第10講 音 音とエンジニア
第11講 光 心理(3) 輪郭／錯視
第12講 光 心理(4) 図と地／不思議絵
第13講 光 心理(5) 三次元知覚と立体視
第14講 光 心理(6) その他関連分野
第15講 コミュニケーションとは？
定期試験
(内容・順序を変更することがあります)

テキスト・教材 (参考文献含む)

テキストはありません。
講義中にプリントを配付します。
(参考文献)
山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社(2001年)
池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社(2016年)
仁科エミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」(2013年)

担当者から一言

学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。授業はインタラクティブで受講生と議論しながら進めますので積極的に議論に参加して下さい。参考となる音楽・映像の視聴を行います。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画

1. ガイダンス
2. グラフィックデザインの歴史
3. 広告デザイン
4. 編集デザイン
5. パッケージデザイン
6. 環境デザイン
7. 写真表現
8. 絵画表現
9. 図形表現
10. 文字、文章表現
11. レイアウト表現
12. デザイン思考1
13. デザイン思考2
14. デザイン思考3
15. ディスカッション

テキスト・教材 (参考文献含む)

実習内容に応じて教員から参考資料、作成用紙などを配布します。

担当者から一言

これまでデザインや美術が苦手だった方でも、興味があれば大丈夫です！

コミュニケーションデザイン論/広告論	科目 ナンバリング	3年次	2単位
木村眞知子	EMS3001	後学期	選択

授業のねらい
 近年、「広告」は単に何かを「広告」するだけでなく、コンサルタント業務から商品企画まで、その領域は拡大し「コミュニケーションデザイン」という捉え方が、今の「広告」に最も近いと言えます。
 多くの企業が様々なメッセージを発信し続け、そのメッセージは時には私たちの暮らしや考え方にも影響を与えています。それを仕掛ける「コミュニケーションデザイン」の現場の様々な活動を実践的に学ぶことで、今という時代を、社会を見つめます。

到達目標
 「広告」を本来の姿である「コミュニケーションデザイン」ととらえると、その企業について別の見方が出来るようになります。「コミュニケーションデザイン」という切り口で様々なモノを様々な角度から見つめる姿勢をもつことを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 成績評価は次の通りとします。
 授業への取組み姿勢:30%
 課題:30%
 試験に代わる課題レポート:40%
 レポートや課題や課題レポートについては、以降の講義で取り上げ応答していきます。

事前・事後学習
 授業の中で、様々な課題について考察し発表してもらうことが多々あり。それへの取組みを事前学習とします。そのためには、1日30分程度、看板やポスター、CM、ちらしなど、身の回りの様々なコミュニケーションデザイン(広告)の作品に注目し、その傾向などの分析をすること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次回の講義で質問できるように準備をすること。

次世代メディア社会	科目 ナンバリング	3年次	2単位
前川督雄	EMS3002	前学期	選択

授業のねらい
 メディアを造る人の心、作品を創る人の心を考える講義です。
 現代日本人は様々なメディアの存在が不可欠な日常生活を送っています。次々と新しいメディア製品・サービスが発売され、作品群が発表されます。次に何が来ようとしているのか、時代の変遷に関わらず大切なことは何なのでしょう。偉大な先人たちは何を求めて、何に努めていて、何を守っていたのでしょうか。次世代のメディア社会について、ユーザとして、観客・視聴者として、読者として、あるいはクリエイター・アーティストとして、よく考えましょう。

到達目標
 一流のプロフェッショナルが持つクリエイティビティの有り様を知り、自分の次の一歩を考察する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 次の配分で総合評価します。
 受講態度、学習意欲、小レポート等(40%)
 定期試験(60%)
 講義中に、小レポートの内容などについて意見交換を行います。

事前・事後学習
 毎回の講義で示す事例を振り返るとともに調べて(90分)、自分自身の課題にどう活かしていけるか考えて下さい(90分)。
 前後して「メディア情報産業論」(後期開講)とあわせて受講することで、より多面的な理解が得られるでしょう。

授業の位置づけ
 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる

授業計画
 第1講 講義ガイダンス
 コミュニケーションデザインとは何か——
 第2講 広告の始まり・広告の役割(演習)
 第3講 広告とコミュニケーション(演習)
 第4講 広告と消費者
 第5講 広告とマーケティング
 第6講 コミュニケーションデザインの実践1——製品企画&販促企画(演習)
 第7講 コミュニケーションデザインの実践1——製品企画発表&販促企画発表(演習)
 第8講 ブランディング
 第9講 コミュニケーションデザインの実践2——ブランド研究発表(演習)
 第10講 企業メッセージ
 第11講 コミュニケーションデザインの実践3——コピーライティング(演習)
 第12講 広告と政治
 第13講 CMから今を考える——カンヌライオンズ&ACC賞
 第14講 広告とジェンダー
 第15講 コミュニケーションデザイン——今日から明日へ 課題に向けて

テキスト・教材(参考文献含む)
 なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。

担当者から一言
 コミュニケーションデザイン(広告)について、単に知識を得るのではなく、事例をもとにした様々な課題に取り組んでもらいます。発信側、受信側の中間にある「コミュニケーションデザイン」、その立ち位置から自分の目で両者をしっかり見てください。今の日本、今の世界が見えてくるかもしれません。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス/講義の概要
 第2講 映画制作現場
 第3講 コンピュータグラフィックス
 第4講 音楽の楽しみ方
 第5講 ジョブズは世界を変えた
 第6講 サラウンド音響
 第7講 制作プロデューサー
 第8講 アニメーション制作現場
 第9講 マンガ制作現場
 第10講 花火
 第11講 メディアアート
 第12講 バーチャルリアリティ(VR)
 第13講 メディアの発達要因
 第14講 近未来予測
 第15講 まとめ
 定期試験
 (内容・順序を必要に応じて変更することがあります)

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキストはありません。
 講義中に、参考にする映像・音楽を視聴します。

担当者から一言
 「次世代メディア社会」では主に個人の視点から、「メディア情報産業論」(後期開講)では主に社会的な見地からメディア情報を捉えます。

コンピュータ音楽論 柳澤翔士	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	EMS3003	前学期	選択

授業のねらい
コンピュータ技術の発展とパーソナルコンピュータの普及により、コンピュータは現代の音楽における作曲や録音・編集・演奏・配信のほとんどに関わっており、近年はコンピュータを使った個人レベルでのDTM(Dest Top Music)による音楽制作が盛んに行われています。
本講義では、コンピュータ音楽の歴史や技術面の理解、またコンピュータでの制作時において既に用意された音源だけでなく、自分の音を創作し、音作品や映像作品等に活かせる知識と技術について、座学と実習で学びます。

到達目標
コンピュータを利用した音楽制作の歴史、作品制作のための技術や技法を、作品鑑賞や座学と実習の中で理解し、自分の音楽作品や映像作品等に活かせるシンセサイザー音のエディットや、録音素材の加工技術の基礎を習得することを目指す。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度30% (座学の受講態度・実習に取り組む姿勢・授業後の小レポート提出状況)
作品提出20%
定期試験50%

小レポートのフィードバックは出来る限り翌週に行い、提出作品は当日または後日講評を行う。

事前・事後学習
実習ではMacを使用します。Macのある教室で授業時間内にできなかった課題制作や、操作予習をすることでMacの基本操作を理解しておくこと(90分)
日頃から電子音楽に触れておくことで実習の際のアイデアにつながるでしょう。(90分)

コンピュータグラフィックス 井岡幹博	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	EMS3004	後学期	選択

授業のねらい
世界中で最も使われている3次元コンピュータグラフィックス(以下CG)作成ソフトウェアのひとつであるPOV-Rayを使って、いろいろな作品を創ることを目的とします。前提の知識はありません。簡単なコマンド(PCに対する命令)を並べるだけで、美しいCGが創れます。CGの理論などを気にせず、どんどんCGを創っていきましょう。また、使用するソフトウェアはフリーソフトですので、PCがあれば家庭でも作品を創ることができます。

到達目標
コンピュータグラフィックスによるアニメーションが作成できること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
提出物100%。毎回課題を課し、Moodleを介して提出します。次回に全員で出来栄を評します。

事前・事後学習
授業内で提示するプリント類の熟読(予習90分)。毎回課される課題作成(復習90分)。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
1 ガイダンス・講義の概要
2 コンピュータ音楽とMIDI
3 コンピュータ音楽とナチュラルサウンド作品
4 作品を作るということ
5 デジタル信号処理・メディアの変容
6 シンセサイザーの仕組みと音作り1 DTM実習
7 シンセサイザーの仕組みと音作り2 DTM実習
8 ヴォーカルの録音と処理 カラオケVo.録音 DTM実習
9 ヴォーカルの録音と処理 エフェクターとは DTM実習
10 エフェクター実習 DTM実習
11 効果音をつくる DTM実習
12 サンプリングとは 身近なものから音をつくる1 DTM実習
13 サンプリングとは 身近なものから音をつくる2 DTM実習
14 提出作品制作 DTM実習
15 提出作品制作 講評
定期試験
Macを用いた演習を行います。
毎回、宿題とアンケートを兼ねた小レポートを配布します。翌週の講義開始時に必ず提出してください。
また、自分の携帯電話や録音機材を用いて身の回りの音素材収録を宿題とすることもあります。
※授業計画は受講者の理解・技量の状況に合わせて内容・順序を大幅に変更する場合があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストは特になし(適時プリントや資料を配布・提示します)
データ保存用にUSBメモリー(8GB以上 USB3.0以上推奨)を用意してください。

担当者から一言
オリジナルの音は、音楽作品、映像作品やゲーム作品の効果音等に利用することで、作品にさらなるオリジナル性ができます。
メディアツールD受講後の履修だとスムーズですが、音楽制作の基礎から学ぶので全くの初心者でも構いません。共に学びましょう。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、POV-Rayとは何か。グラフィックスとはどんなものか。
第2講 物体を作る。カメラを設定する。光をあてる。座標系を知る。
第3講 物体を作る。カメラを設定する。光をあてる。座標系を知る。
第4講 物体を移動させる。回転させる。拡大・縮小させる。
第5講 物体を移動させる。回転させる。拡大・縮小させる。
第6講 物体を移動させる。回転させる。拡大・縮小させる。
第7講 物体に色を付ける。いろんな模様をつける。
第8講 物体を組み合わせて、複雑な物体を作る。
第9講 光のことをもっと詳しく知る。
第10講 物体につける模様についてもっと詳しく知る。
第11講 物体に画像を貼り付ける。
第12講 物体の表面を凸凹にする。
第13講 空や地面をつくる。
第14講 アニメーションをつくる。
第15講 アニメーションをつくる。
授業はコンピュータによる演習と座学により進めます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
提出物100%。毎回課題を課し、Moodleを介して提出します。次回に全員で出来栄を評します。

事前・事後学習
授業内で提示するプリント類の熟読(予習90分)。毎回課される課題作成(復習90分)。

担当者から一言
毎回作品を提出してもらいます。作品の質は問いません。如何に一生涯懸命取り組んだかを判断します。出席と作品提出が重要な評価項目です。

ポップカルチャー論 山本 伸	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	EMS3005	前学期	選択

授業のねらい
 まずは、ポップカルチャーが内包する社会的な本質について理解する。次に、沖縄のポップカルチャーを通して基本的に具体的な沖縄の文化や哲学、社会についての知識を学びます。

到達目標
 学習時に度々目や耳にする「うちなーぐち(沖縄方言)」のいくらかは意味がわかるようになること、沖縄の風習や考え方を通して現代社会全般を考える発想力を身に着けること、さらには逆に現代社会が抱える課題とは何かを思考できる能力を身に着ける、などを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 平常点(積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等)50%、期末試験50%で総合的に判断します。なお、確認テストについては毎回授業の最後に行い、添削して翌週返却します。

事前・事後学習
 前週に出された課題(テキストの熟読/わからない用語の検索等)に90分、学習した箇所の復習(前週の確認テストの誤答分析/テキストのおさらい/ノート整理等)に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。

感性と創造 池上貴文	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	ESP2001	後学期	選択

授業のねらい
 文化が生まれるところには、まず最初に「遊び」があり、その遊びが社会的に評価され、継続され、文化として定着していきます。1960年代に世界的に巻き起こったロックの文化、現在のSNS文化も、元を正せばちょっとした工夫や遊びの延長線上に花開いたものです。これまで何気なく見ていた様々なメディアに対し、問題意識や分析意識を持って接していくこととなります。

到達目標
 「創造力」とは誰にでも本来的に備わる力であり、自分の中にある隠れた一面や才能に気づいてもらうことが最終目標となります。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業内の課題(100%)。課題の講評によってフィードバックします。

事前・事後学習
 世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス/沖縄に関する概略、ポップカルチャーの社会的側面等
 第2講 『琉神マブヤー』(1)
 第3講 『琉神マブヤー』(2)
 第4講 『琉神マブヤー』(3)
 第5講 『琉神マブヤー』(4)
 第6講 『琉神マブヤー』(5)
 第7講 『琉神マブヤー』(6)
 第8講 『琉神マブヤー』(7)
 第9講 『琉神マブヤー』(8)
 第10講 『琉神マブヤー』(9)
 第11講 『琉神マブヤー』(10)
 第12講 『琉神マブヤー』(11)
 第13講 『琉神マブヤー』(12)
 第14講 『琉神マブヤー』(13)
 第15講 『琉神マブヤー』(14) /まとめ/試験についての説明
 定期試験
 (毎時間授業終了後に行う確認テスト(学生相互に採点)をもってアクティブラーニングとする。)

テキスト・教材(参考文献含む)
 山本 伸著 『琉神マブヤーでーじ読本:ヒーローソフィカル沖縄文化論』 三月社 2015年 定価:2,376円(税込)

担当者から一言
 一般的にはツーリズムの対象でしかない沖縄ですが、一歩踏み込んだ沖縄の社会、歴史、文化の理解の意義を知ると同時に、ポップカルチャーがその理解を促進する力を強く保持していることを講義を通して体感してくれることを期待します。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 1. ガイダンス
 2. 写真を読む1
 3. 写真を読む2
 4. 写真を読む3
 5. 写真を撮る1
 6. 写真を撮る2
 7. お絵描きしてみる
 8. 4コマ漫画を描いてみる
 9. ダメ出しを受け漫画を完成、ディスカッション
 10. ノンバーバル・コミュニケーション1
 11. ノンバーバル・コミュニケーション2
 12. 絵コンテをバラバラアニメにする
 13. ダメ出しを受けバラバラアニメを完成
 14. バラバラアニメ撮影と提出
 15. ディスカッション

テキスト・教材(参考文献含む)
 実習内容に応じて教員から参考資料、作成用紙などを配布します。

担当者から一言
 これまでデザインや美術が苦手だった方でも、興味があれば大丈夫です!

表現と思想 木村眞知子	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	ESP2002	前学期	選択

授業のねらい
 常に変化し、進化する今のメディア環境は、情報の送り手、受け手という構造も崩れてしまいました。だからこそ、コミュニケーションとは何かを問い直し、自分自身を表現することの意味を考えなければなりません。これは、自分自身を見つめること、知ることにもつながります。
 時代を読み解き人間を深く探ろうとしたこれまでの思想家たちの考えを学び、私たちの今を生きる力、表現する力を養います。授業に沿った課題とその発表に重きをおいています。特に詩作する課題は、最終週に作品発表として「詩のボクシング」を行います。

到達目標
 考えること、言葉を発すること、行動すること…すべて自分を表現することです。自分自身が発信者であることを自覚し、自己表現できる存在となることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 成績評価は次の通りとします。
 授業への取組み姿勢:30%
 課題への取組み姿勢:30%
 試験に代わる課題レポート:40%
 レポートや課題や課題レポートについては、以降の講義で取り上げ応答していきます。

事前・事後学習
 授業の中で様々なテーマの課題を出します。その課題に取り組むためには、1日最低30分程度、詩や小説、エッセイなどを読み、その感想をまとめること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次回の講義で質問できるように準備をすること。

映像概論 柳瀬元志	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	ESP2003	前学期	選択

授業のねらい
 現代はまさに「映像の時代」。
 2011年にテレビ放送はSDからHDへと移行しました。しかし現在はすでに4K8Kの時代。
 ハード面は加速度的に進化しています。
 人類が「映像」発明し、手にしてからおよそ130年。
 その映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など映像の大枠をつかむことを狙いととしています。
 座学はもちろん、各界で活躍するクリエイター(脚本・映像・アニメなど)を講師に招いて、映像の世界の“リアル”を学んでもらいます。

到達目標
 映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応するアンテナが張れるようになることを到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業への取組み姿勢 30%
 課題への取組みと内容 30%
 定期試験もしくは課題レポート 40%
 レポートや課題は、採点して返却

事前・事後学習
 毎日ジャンルを問わず映像に触れる時間を作ること。
 最低1時間はテレビを見ること。
 テレビを見ることが学習になります。
 映像を見ることは、スポーツでいえばランニングのようなもの。
 クリエイティブの基礎となります。
 また、新聞には必ず目を通すこと。
 新聞を読んで頭の中で映像化し、ニュースなどで確認をすると、映像制作の練習になります。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス メディアコミュニケーションの今
 第2講 コミュニケーションの領域(演習)
 第3講 身体メディアである自分の確認(演習)
 第4講 ポスト構造主義——今という時代を見つめる
 第5講 言語とは何か①伝えるために 言語と非言語(演習)
 第6講 言語とは何か②表現するために 記号論(演習)
 第7講 詩をよむ・詩をかく(演習)
 第8講 詩とコピー
 第9講 考えるということ・意見を持つということ(演習)
 第10講 メッセージソング(演習)
 第11講 物語を組み立てる(演習)
 第12講 みんなで作るモノガタリ(演習)
 第13講 詩作を巡って——書くこと・推敲すること
 第14講 プロの表現者によるワークショップ(演習)
 第15講 「詩のボクシング」(演習・作品発表)
 自らを表現することの意味とは——課題に向けて

テキスト・教材(参考文献含む)
 なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。

担当者から一言
 本授業は、講義だけでなく、詩作など様々な形で自分を見つめ表現することに取り組み、それを人前で発表するなど体験的に学ぶことが少なくありません。苦手だからといって特別扱いはしません。チャレンジする気持ちで受けてください。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講:講義ガイダンス ~映像って何?~
 第2講:映像の歴史 ~人類はどのようにして映像を獲得したか~
 第3講:ENGの現場から ~取材ってどうやるの?~
 第4講:GWを撮ろう(演習)
 第5講:GWをみんなで見よう
 第6講:スポーツの現場から ~予想外・想定外からの映像制作~
 第7講:映像の新しい可能性 ~アクションカムやドローン~(演習)
 第8講:脚本家から見た映像 ~名古屋在住の女性脚本家~(演習)
 第9講:アニメの現場から
 第10講:ローカル放送の役割と未来
 第11講:新聞はオワコンか
 第12講:東京オリンピックにおける映像
 第13講:主役交代?電波から配信へ
 第14講:映像を描いて見よう ~絵コンテ作成~(演習)
 第15講:描いた映像を見てみよう ~絵コンテを映像化~(演習)

テキスト・教材(参考文献含む)
 必要に応じて、テキストや資料の配布を行います。

担当者から一言
 現役ディレクターとして、持てる知識や情報、人脈などあらゆる手段手法で
 映像の世界の面白さや奥深さを伝えていきます。

照明概論	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	ESP2004	前学期	選択

黒田 淳哉

授業のねらい
 照明と我々の生活は、切り離すことのできない関係にあります。光は我々に視覚を与えるだけでなく、快適な空間を演出したり、物を印象的に見せたり等、様々な力があります。この講義では光の性質を知ることから始まり、照明演出の基礎知識や技術までを広く学びます。

到達目標
 ①照明を扱ううえでの基礎を理解する。
 ②光の性質が理解できる。
 ③暮らしの照明だけでなく、撮影照明や舞台照明など、幅広い照明の知識を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 ・講義時に指示する課題の提出状況及び小テスト、受講態度:(30%)
 ・定期試験:(70%)
 なお、提出課題や小テストの解説に関しては次回の講義で行います。

事前・事後学習
 毎回、講義の最後に次回までに調べてくるキーワードを提示します。そのキーワードについてインターネットや書籍で調べてくること(90分)。
 講義で配布する資料や講義内容のノートを見返して理解を深めること(90分)。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス、ニュースから知る光メディア
 第2講 光源の歴史と文化
 第3講 光環境(ディスカッション)
 第4講 撮影照明の基礎
 第5講 撮影照明①セッティング(グループワーク)
 第6講 撮影照明②撮影(グループワーク)
 第7講 光と測光量
 第8講 視覚と照明
 第9講 色彩
 第10講 舞台照明の基礎
 第11講 舞台照明①セッティング(グループワーク)
 第12講 舞台照明②発表(グループワーク)
 第13講 電源回路
 第14講 照明ネットワーク構築の基礎
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
 なし。(必要に応じてプリントを配布します)

担当者から一言
 遅刻や、飲食、携帯電話の鳴動などは原則禁止します。これらの事が守られない者には退室を命ずることがあります。

音響概論	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	ESP2005	後学期	選択

関根 辰夫

授業のねらい
 1) 音楽(音)と人の関わりを深く考える。
 2) 音を聞くメカニズムを理解する。
 3) 音楽(音)の記録再生について理解する。
 4) 電気回路の基礎を身に付ける。
 5) 音楽の再生空間及び最新のメディアを理解する

到達目標
 ・マイクやスピーカーなどの原理を理解する。
 ・サラウンドや音楽配信などの基礎理論を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 次のような配分で総合評価します。
 授業中の演習問題等(45%)、定期試験(55%)
 なお、授業中の演習問題等については、事後に解説を行います

事前・事後学習
 授業中に演習問題を出し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい(180分程度)。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス、講義の概要
 第2講 電流の三大作用
 第3講 電圧・電流・抵抗の関係
 第4講 電力の効果、抵抗の直列接続
 第5講 抵抗の並列接続
 第6講 小テスト
 第7講 ダイナミックスピーカの構造と原理
 第8講 コンデンサスピーカの構造と原理
 第9講 スピーカのエンクロージャー、ネットワーク
 第10講 超小型マイクロフォンとしての耳の構造
 第11講 ダイナミックマイクロフォンとコンデンサマイクロフォン
 第12講 CDとPCM録音について
 第13講 音の圧縮について
 第14講 サラウンドとマルチチャンネル
 第15講 模擬テスト定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
 配布するプリント

担当者から一言
 復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。授業はインタラクティブで受講生と議論しながら進めますので積極的に議論に参加してください。また理解を深めるため、参考になる音や音楽の聴取を行います。

クリエイティブワークⅠ／作品演習 柳瀬元志	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	ESP3001	後学期	選択

授業のねらい
メディアを目指す人間としての発想や着眼点、また制作プロセスなど、様々な演習を通してスキルを上げていきます。
イベント企画からラジオCM、写真構成やアイデア勝負のオモシロ画像まで、様々な作品制作に取り組む「演習」を中心とした授業となります。
また各授業とは別に、クリエイティブ力を養成する絵本作りも行います。
「作品を作る」ということを通して、モノを作るとは、そして人から評価を受けるとはを体験しながら自分を表現することを考えます。

到達目標
プロの方法論による作品制作の演習を通してモノづくりの楽しさ、むつかしさを体験するとともに、専門課程につながる知識や技術の習得を目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業・課題への取り組み姿勢 30%
課題制作への意欲・参加度 30%
作品内容・完成度 20%
試験に代わる課題レポート 20%
レポートについては5段階評価にて後日返却
第15項で制作した作品の発表、評価を行います。

事前・事後学習
作品作りだけでなく、15回の授業を通して取り組む課題があります。そのため1日1時間程度は様々なメディアを利用して、話題となっているイベントや展覧会、映画・CM、テレビ番組、小説など、参考となる作品を鑑賞し、自分なりの考察を行うことが必要です。

クリエイティブワークⅡ／映像制作論 柳瀬元志	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	ESP3002	前学期	選択

授業のねらい
演習を軸とする授業で、「映像」「音響」「証明」をベースに作品作りに取り組みます。
その中で、よりレベルアップしたクリエイティブな知識や技術を学びます。実際に作品制作を体験することで、様々なモノづくりやクリエイティブワークの本質に触れ、何を表現しどのように個性を出すかなど、クリエータとしての知識や感性を磨き上げていきます。

到達目標
クリエイティブワークにおける3大要素「映像」「音声」「照明」を、作品作りを経験することで、それぞれの特性を深く理解し、身につけることを目標とします。
またメディア情報分野で学ぶ以上、学生の実習レベルを超え、第三者が見ても満足と納得のいく作品作りを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への取り組み姿勢 30%
課題への取り組み姿勢 30%
試験に代わる課題レポート 40%
課題レポートは、5段階評価をつけて後日返却

事前・事後学習
作品制作が成功するか失敗するかは、事前の仕込みによるところがとても大きいものです。
したがって、映像を見る、本を読む、新聞に目を通す、様々な音楽を聴く、舞台を鑑賞するなど、日常生活をどのように送るかが基本となります。
漫然と日々を過ごすのではなく、すべてがクリエイティブな発想や制作につながっていることを意識してください。
これらを1日90分程度は実践してください。

授業の位置づけ
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる

授業計画
第1講:ガイダンス ～クリエイティブティとは何か～
第2講:「こんなことできません」1 企画
第3講:「こんなことできません」2 撮影
第4講:「こんなことできません」3 撮影
第5講:メディアを使いこなす1「ラジオCM」企画・NA原稿作り
第6講:メディアを使いこなす1「ラジオCM」制作・録音
第7講:メディアを使いこなす1「ラジオCM」制作・録音
第8講:冬の四日市大学を彩るイベント 企画立案
第9講:冬の四日市大学を彩るイベント 製作①
第10講:冬の四日市大学を彩るイベント 製作②
第11講:冬の四日市大学を彩るイベント 完成
第12講:「私の発見」～ポートレート①企画 テーマ決定・撮影
第13講:「私の発見」～ポートレート②制作 撮影・発表
第14講:「フォトエッセイ」作品制作
第15講:フォトエッセイ作品発表、合評

テキスト・教材 (参考文献含む)
必要に応じて、テキスト及び参考文献や資料を配布します

担当者から一言
フォト作品やラジオCMなど、様々な作品を制作します。グループで行う作業もあるので、遅刻や欠席など、身勝手な行動や振る舞いで他人に迷惑をかけることはできません。責任をもって取り組んでください。なお、「表現と思想」を先に受講していることが望ましいと考えます。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講:講義ガイダンス
実践的クリエイティブワーク
第2講:音響作品づくり① 企画
第3講:音響作品づくり② 制作
第4講:音響作品づくり③ 録音
第5講:音響作品づくり④ 発表
第6講:「光」で演出① 様々な光の演出にトライ
第7講:「光」で演出② 照明演出プラン作成 撮影準備 撮影
第8講:「光」で演出③ 光の演出 撮影 完成
第9講:「映像制作」① スマホで映像遊び 作品制作
第10講:「映像制作」② ショートムービー企画・構成・撮影準備
第11講:「映像制作」③ 撮影1
第12講:「映像制作」④ 撮影2
第13講:「映像制作」⑤ 編集1
第14講:「映像制作」⑥ 編集2 完成
第15講: 作品合評

テキスト・教材 (参考文献含む)
必要に応じて、テキスト及び資料等配布

担当者から一言
音響・照明・映像とクリエイティブの基礎となるものを学びます。その中で作品制作する喜び・むつかしさ・感動などを体験してほしいと思います。共同作業が多くなりますので、遅刻、欠席は許しません。なお、「クリエイティブワークⅠ」を先に受講していることが望ましいと考えます。

イベント制作演習 黒田 淳哉・柳瀬 元志	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESP3004	後学期	選 択

授業のねらい
この講義のターゲットは、分野4年生が卒業研究・卒業制作を発表する卒業展の進行およびテクニカルなオペレーションを行うことです。演習の前半には、イベント制作について座学を行うとともにイベント企画の演習を行い、後半には全員で共同して卒業展を制作します。

到達目標
① イベント制作に必要な各ステップを把握し、経験する。
② プロジェクト進行や質が良くなるよう努めて、行動ができるようになる。
③ プロジェクトの全体像を十分に把握し、課題を発見及び発信できるようになる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
・定期試験は行わない。
・成績評価はルーブリック評価を用いる。

ルーブリック評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、提出物や課題等のフィードバックは次回の講義で行います。

事前・事後学習
年末年始の休暇期間を含め、プランニングや資料作成、連絡調整等が持ち帰り課題となる(180分)。

ハードウェア論 千葉 賢	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	EIF2001	後学期	選 択

授業のねらい
ハードウェアとはパソコンなどの電子装置のことである。この講義では、パソコンのハードウェアに関して、その構成、仕組みをビジュアルな資料や実物を用いて解説する。環境情報学部にはハードウェアを教える授業が他にないので、本講義の受講を薦める。また本講義は、経済産業省のITパスポートなどの資格取得を考慮して行う。情報系の資格取得を目指す人、情報系セミナー・専攻に進む人にも受講を薦める。「情報科学」(千葉担当)の内容を深めた授業なので、そちらを先に受講すると理解し易い。

到達目標
パソコンを構成する主要な装置の名称と役割、構造、動作原理、速度や容量などの特徴を理解できるようにする。パソコンを選定する際の仕様(スペック)を理解できるようにする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業毎のレポート(30%)、小テスト(30%)、期末試験(40%)。レポートは採点して返却する。

事前・事後学習
シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、教科書の該当部分を予習すること(30分)。
インターネットを使用して、該当する機器の形状・動作原理・メーカー・価格帯などの情報を調べること(60分)。小テストに向けて講義後に復習すること(90分)。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス イベント制作について
第2講 イベント企画立案① 企画案
第3講 イベント企画立案② 資料制作
第4講 イベント企画立案③(プレゼンテーション)
第5講 昨年度実績伝達
第6講 昨年度実績再現① システム構築
第7講 昨年度実績再現② リハーサル(実習)
第8講 進行演出立案①(ディスカッション)
第9講 進行演出立案②(プレゼンテーション)
第10講 部門ごとの準備(グループワーク)
第11講 テクニカルリハーサル
第12講 メディアチェック
第13講 ランスルー
第14講 最終リハーサル(実習)
第15講 卒業展(実習)

テキスト・教材(参考文献含む)
講義中に資料やワークシートを配布する。専用のクリアファイルを準備しておくこと。

担当者から一言
卒業展直前は講義時間外にも集合して課題を進めます。講義には積極的に参加して下さい。
また、卒業展当日は原則として全員参加です。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、パソコンの種類、五大装置、パソコン内部の主要な装置と構成
第2講 パソコンの入出力装置、マウス、キーボード
第3講 光・色の原理、加法混色、パソコンの出力装置、ディスプレイの規格・サイズ、CRTディスプレイ
第4講 パソコンの出力装置、液晶ディスプレイ、その他のディスプレイ
第5講 減法混色、パソコンの出力装置、プリンタの種類、インクジェットプリンタ
第6講 第1回小テスト、CPUの構造、動作原理、命令サイクル
第7講 CPUの技術発展史、ムーアの法則、CPUの製造工程
第8講 キャッシュメモリ、バス
第9講 主メモリ
第10講 第2回小テスト、チップセット
第11講 磁気ディスク、ハードディスク、RAIDシステム
第12講 光ディスク、CD
第13講 光ディスク、DVD、ブルーレイ
第14講 第3回小テスト、パソコンのインタフェース
第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
高作 義明、徹底図解 パソコンのしくみ 新版、1,620円

担当者から一言
ハードウェアというとなんとなく難しく感じるかもしれませんが、ビジュアルな教材を用いて、分かり易い授業を行います。予習を行い、授業中に積極的に質問してください。

プログラミング 片山清和	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EIF2002	後学期	選択

授業のねらい
 ほぼすべてのアプリケーション・プログラムは、プログラミング言語で記述されています。プログラミング言語の中でも、C言語はオペレーティングシステムから携帯電話など末端の応用プログラムまで、広い範囲で使用されています。このC言語を学ぶことで、アプリケーション・プログラムの動作をより理解することができます。この講義では、C言語を用いてプログラミングの基礎を学び、アプリケーション・プログラムの動作の理解を深めると同時に、プログラム作成と通じて、論理的思考を身につけることを目指しています。

到達目標
 C言語で基本的なプログラミングができるようになること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)
 提出物は100点満点で採点后、教育支援システム(Moodle)を介して返却します。

事前・事後学習
 講義前には、これまでに学習した内容を復習すること(60分)
 講義後には、演習問題を行うこと(120分)
 「ソフトウェア論」「ハードウェア論」「コンピュータ動作論」を履修していることが望ましい。

コンピュータ動作論 片山清和	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EIF2003	前学期	選択

授業のねらい
 現代社会では、ほぼあらゆるところにコンピュータが使われています。われわれは漠然とコンピュータを使っているのですが、コンピュータは一体どのようにして動作しているのでしょうか？この講義では、コンピュータがどのように動いているのかを、数の表現方法、コンピュータの内部構成について学びます。また高速化技法としてスーパーパイプラインとスーパースカラとキャッシュメモリについて学びます。さらに最新のコンピュータについても学びます。

到達目標
 ①コンピュータの動作原理を説明できる。
 ②組み合わせ論理回路を説明できる。
 ③順序回路を説明できる。
 ④記憶素子の動作原理を説明できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 「レポート・小テスト」(40%)、「定期試験」(60%)
 レポート・小テストは採点し、コメントを付加して、以降の講義で返却します。

事前・事後学習
 講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと(60分)。
 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと(120分)。
 「ハードウェア論」を履修していることが望ましい。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス、プログラミングとは
 第2講 Cプログラムの入力・コンパイル・実行
 第3講 変数・定数とデータ型と演算子
 第4講 入力と出力
 第5講 ifによる条件分岐
 第6講 switchによる分岐
 第7講 forによる繰り返し
 第8講 whileによる繰り返し
 第9講 関数(1)
 第10講 関数(2)
 第11講 配列
 第12講 ポインタ
 第13講 構造体
 第14講 共用体
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 なし(必要に応じて配布します)
【参考文献】
 B.W.カーニハン、D.M.リッチー 著 石田晴久 訳 「プログラミング言語C 第2版 ANSI規格準拠」 共立出版 ¥3,000+税

担当者から一言
 学習支援システム(Moodle)を利用します。
 プログラミングでは積み重ねが重要ですので、欠席しないようにしてください。
 また、出席状況が悪い場合には減点します。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス、数の表現とコンピュータの五大装置
 第2講 ハーバード・アーキテクチャとノイマン型アーキテクチャ
 第3講 命令サイクル
 第4講 論理素子とCMOS
 第5講 組み合わせ回路
 第6講 順序回路
 第7講 制御方式(ハードワイヤード方式、マイクロプログラム方式)
 第8講 命令セットRISC、CISC)
 第9講 記憶素子(SRAM、DRAM)
 第10講 シングルサイクルコンピュータとCPI
 第11講 マルチサイクルとパイプライン処理
 第12講 割り込みとプロセスの切り替え
 第13講 スーパーパイプラインとスーパースカラ、キャッシュメモリ
 第14講 最新コンピュータの動向
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 なし(必要に応じて配布します)
【参考文献】
 馬場敬信 著 「コンピュータのしくみを理解するための10章」 技術評論社 ¥1,980+税

担当者から一言
 積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。
 また、出席状況が悪い場合には減点します。

システム管理論 井岡幹博	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	EIF2004	後学期	選択

授業のねらい
本講義では、将来システム管理業務にあたる際に必要となる基礎知識と考え方を学ぶことを目標とします。また、ネットワークのセキュリティなど一般ユーザも理解しておくべき内容も学びます。

到達目標
・システムの信頼度向上のための知識
・システム開発とプロジェクトマネジメント
・システム運用管理
・情報セキュリティなどに関するスキルが身につくことを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小テストおよび課題50%、定期試験50%。小テストを返却し、間違いを正します。

事前・事後学習
情報技術とその利用に関する新聞記事の熟読（予習90分）。毎回課されるITパスポート過去問を解くこと（復習90分）。

データベースプログラミング 井岡幹博	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	EIF3001	前学期	選択

授業のねらい
世界中で最も使われている3次元コンピュータグラフィックス（以下CG）作成ソフトウェアのひとつであるPOV-Rayを使って、いろいろな作品を創ることを目的とします。前提の知識はありません。簡単なコマンド(PCに対する命令)を並べるだけで、美しいCGが創れます。CGの理論などを気にせず、どんどんCGを創っていきましょう。また、使用するソフトウェアはフリーソフトですので、PCがあれば家庭でも作品を創ることができます。

到達目標
コンピュータグラフィックスによるアニメーションが作成できること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
提出物100%。毎回課題を課し、Moodleを介して提出します。次回に全員で出来栄を評します。

事前・事後学習
授業内で提示するプリント類の熟読（予習90分）。毎回課される課題作成（復習90分）。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス（授業の進め方、成績評価法の説明）、関連科目履修度の確認、この後の講義が必要となる基礎理論の復習（2進数など情報に関する理論）
第2講 システムの信頼度（稼働率、冗長化）
第3講 企業活動（問題点の発見、業務分析）
第4講 第1回小テスト
第5講 第1回小テストの解説
第6講 システム開発とプロジェクトマネジメント
第7講 考え方を整理するための方法と知識
第8講 テストの方法、エラーチェック
第9講 第2回小テスト
第10講 第2回小テストの解説
第11講 パソコンとネットワーク（OSIの参照モデル、TCP/IP、インターネットで利用可能な主なサービス）
第12講 システム運用管理と情報セキュリティ
第13講 暗号化と認証
第14講 第3回小テスト
第15講 第3回小テストの解説
定期試験
小テストはITパスポート過去問による演習とその解説により進めます。

テキスト・教材（参考文献含む）
プリント配布

担当者から一言
この講義ではコンピュータや情報ネットワークに関する項目が多く出てきますので、「インターネット論」、「情報ネットワーク論」、「ソフトウェア論」、「コンピュータ動作論」などの内容をよく理解しておくとういでしょう。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス、POV-Rayとは何か。グラフィックスとはどんなものか。
第2講 物体を作る。カメラを設定する。光をあてる。座標系を知る。
第3講 物体を作る。カメラを設定する。光をあてる。座標系を知る。
第4講 物体を移動させる。回転させる。拡大・縮小させる。
第5講 物体を移動させる。回転させる。拡大・縮小させる。
第6講 物体を移動させる。回転させる。拡大・縮小させる。
第7講 物体に色を付ける。いろんな模様をつける。
第8講 物体を組み合わせて、複雑な物体を作る。
第9講 光のことをもっと詳しく知る。
第10講 物体につける模様についてもっと詳しく知る。
第11講 物体に画像を貼り付ける。
第12講 物体の表面を凸凹にする。
第13講 空や地面をつくる。
第14講 アニメーションをつくる。
第15講 アニメーションをつくる。
授業はコンピュータによる演習と座学により進めます。

テキスト・教材（参考文献含む）
プリント配布、Moodleでの電子ファイル配布。

担当者から一言
毎回作品を提出してもらいます。作品の質は問いません。如何に一生涯懸命取り組んだかを判断します。出席と作品提出が重要な評価項目です。

情報システム論／経営情報システム論 a 池田 幹男	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	EIF3002	後学期	選 択

授業のねらい
Microsoft Accessは、リレーショナル型のデータベース・ソフトウェアであり、実社会では大規模なデータベースを作成するために使われています。したがって、社会で活躍するためには、Accessを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Accessの資格試験(Microsoft Office Specialist)を受験するための演習・実習を行います。

到達目標
MOS Access 2016の資格試験の準備が整うようにします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の課題(40%)、模擬試験(60%)
毎回の課題は採点し、教育支援システム (Moodle) を介してフィードバックします。

事前・事後学習
講義前には、教科書の該当部分を読んで、操作を理解しておくこと(90分) 講義後には、講義で学習した操作を復習して、教科書付属の模擬試験を行っておくこと(90分)

メディア情報産業論／メディア産業論 前川 督雄	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	EIF3003	後学期	選 択

授業のねらい
Society5.0を視野に入れた、社会のありかたを産業の側面から考える講義です。
テレビやアプリ、ゲーム、インターネットなど、私たちはメディア情報産業の恩恵に浴して暮らしています。メディア情報産業は、情報通信技術の発達によってその枠組みを大きく変化させ、また社会インフラとしてその重要性を増してきています。その歴史・背景は、また将来展望はどのように変わっているのでしょうか。
この講義では、メディア情報産業の歴史・構造を概観するとともに、現代社会においてメディア情報産業が果たす役割について考えます。

到達目標
メディア情報産業の歴史・構造を知り、それぞれのメディアが果たしている(果たしてきた)社会的役割とこれからの展望・課題とを考察する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験100%
講義中に意見交換を行います。

事前・事後学習
講義内容を復習する(90分)とともに、配布した資料およびURL提示した参考情報を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい(90分)。

前後して「次世代メディア社会」(前期開講)とあわせて受講することで、より多面的な理解が得られるでしょう。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 データベースの作成と管理(1)
第3講 データベースの作成と管理(2)
第4講 データベースの作成と管理(3)
第5講 テーブルの作成(1)
第6講 テーブルの作成(2)
第7講 テーブルの作成(3)
第8講 クエリの作成(1)
第9講 クエリの作成(2)
第10講 フォームの作成(1)
第11講 フォームの作成(2)
第12講 レポートの作成(1)
第13講 レポートの作成(2)
第14講 模擬試験演習(1)
第15講 模擬試験演習(2)
すべて実習です。

テキスト・教材 (参考文献含む)
「Microsoft Office Specialist Microsoft Access 2016 対策テキスト&問題集 (よくわかるマスター)」FOM出版 ¥3,024

担当者から一言
積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。
「データベースプログラミング」と併せて受講することをすすめます。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
第1講 ガイダンス／講義の概要
第2講 基礎論 メディア情報が産業になるとはどういうことか
第3講 基礎論 Society5.0に向けて
第4講 産業構造 通信産業／インターネット産業
第5講 産業構造 映画産業
第6講 産業構造 テレビ産業
第7講 産業構造 出版産業
第8講 産業構造 メディア融合
第9講 産業構造 IoT
第10講 社会 マスメディアの責務
第11講 社会 知的財産／知る権利／表現の自由
第12講 事例 メディア利用動向
第13講 事例 メディア情報産業の最新トピックス
第14講 事例 最新の国際展示会レポート／メディア情報技術開発について
第15講 まとめ
定期試験
(内容・順序を必要に応じて変更します)

テキスト・教材 (参考文献含む)
テキストはありません。
講義中に資料を配付します。 { <参考情報サイト>, <http://edata.jp/you/imi/> }
<参考文献>
電通総研編「情報メディア白書2019」ダイヤモンド社(2019)
日本経済新聞社編「日経業界地図2019年版」日本経済新聞出版社(2019)

担当者から一言
「メディア情報産業論」では主に社会的な見地から、「次世代メディア社会」(前期開講)では主に個人の視点からメディア情報を捉えます。

環境情報特別講義Ⅰ 前川 督雄	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
		後学期	選 択

授業のねらい
 本科目は履修制限対象外科目のひとつとして、国内外の教育機関で実施される「環境」に関する講義・研修の受講に対して単位認定を行う。
 環境への幅広い知見を学ぶと共に、海外の実習では異文化体験を通して国際レベルで環境問題を考える力を身に付けることが期待される。

到達目標
 環境に関する幅広い知識を得る。
 海外実習では、異文化を体験し、自ら持つ文化を自覚すると共にそれらの違いについて理解を深める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 受講する教育機関の修了証等や受講生から提出されるレポートによって評価し、単位認定を行う。
 レポートに対するフィードバックを行う。

事前・事後学習
 受講を希望する学生は、あらかじめセミナー担当教員に相談して指示を受けること。
 受講先で示される講義・研修内容について事前に各自で予習を行い(90分)、講義・研修終了後にレポートを作成すること(90分)。

音楽史 関根 辰夫	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	ECF2001	前学期	選 択

授業のねらい
 クラシック音楽や様々な地域の音楽が互いに影響しあってどのように変遷してきたのかを学ぶ。また日本の大衆音楽を含む様々なジャンルの音楽の歴史を通し、現代の音楽の成り立ちを考察する。さらに音楽に関する著作権の歴史も学び、自らが音楽を発信するときに必要となる基礎知識を習得する

到達目標
 ・現代の音楽が過去のどのような音楽に基づいて成立しているかを理解する
 ・様々なジャンルや国々の音楽について理解を深める

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 次のような配分で総合評価します。
 授業中の演習問題等(45%)、定期試験(55%)
 なお、授業中の演習問題等については、事後に解説を行います。

事前・事後学習
 日頃から自分の好きなジャンルの音楽だけではなく、様々な音楽を意識して聞くようにすること。(毎日30分程度)
 授業中に演習問題を出し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい。(60分程度)

授業の位置づけ
 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる

授業計画
 本科目は、履修要綱に記載の「履修制限対象外科目」にあたり、年度初めの履修登録を行う必要はなく、また年度初めに履修登録することはできない。
 〈オーストラリア語学環境研修〉
 隔年(予定)で開講される「オーストラリア語学環境研修」は、本科目に充当される。
 〈その他の教育機関での環境研修〉
 1) 受講の要件
 時間数：15コマ
 期間：長期休業期間中
 事前申請：受講一か月前までに内容等(下記)を教学課に提出のうえ、確認を受けること
 2) 提出書類に記載する事項
 ・受講する教育機関名および所在地、連絡先
 ・講義内容(具体的に記載された資料を添付してもよい)
 ・受講期間

テキスト・教材(参考文献含む)
 受講する講義・研修による。

担当者から一言
 〈オーストラリア語学環境研修〉で訪れるブリスベンは誰もが滞在したい人気No.1の都市です。ホームステイしながら、世界屈指のクイーンズランド大学で英語を学び、バラエティに富んだ環境学習。夢のような2週間を過ごしたあなたは、間違いなく、変わります。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス、音楽の基礎知識(音楽の三要素などについて)
 第2講 音楽の基礎知識(様々な音律について)
 第3講 楽譜の歴史
 第4講 大陸からの音楽の影響を含めた日本の音楽芸術の歴史
 第5講 「こと」の歴史と世界の「こと」
 第6講 西洋の音楽史(ギリシャ悲劇からアルス・ノヴァまで)
 第7講 西洋の音楽史(ルネッサンスからバロックまで)
 第8講 西洋の音楽史(バロックの続き)
 第9講 小テスト
 第10講 西洋の音楽史(古典派とロマン派)
 第11講 西洋の音楽史(ロマン派の続きから、近代まで)
 第12講 ラテン音楽
 第13講 著作権の歴史(ベルヌ条約から最近の著作権法の改正まで)
 第14講 著作権の歴史(JASRACについて)
 第15講 模擬試験
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 配布するプリント

担当者から一言
 音楽の歴史を通して様々な音楽に触れ、またその制作や記録の方法の変遷を知る事で、これからの音楽との関わり方を学んでください。今まで何気なく聴いていた音楽の中に様々な時代や国の音楽の要素がちらりばめられている事に気がつくでしょう。

生命-情報-環境／情報環境概論 前川 督雄	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	ECF2002	前学期	選択

授業のねらい
 有限な地球環境と私たち人類との関係を、情報を軸に読み解いていきます。
 地球生態系38億年の歴史のなかで、また700万年におよぶ人類史のなかで生命と環境とは相互作用を重ね、互いに適合するように進化してきました。私たちは有限環境に適合した遺伝子を有しているのです。しかし現代の物質文明は無限に続く進歩や発展を前提として発展してきており、その矛盾は深刻な破綻を呈しつつあります。
 「生命-情報-環境」では、現代日本が直面している環境問題を「物質」「エネルギー」に「情報」を加えた3つの次元から考えていきます。

到達目標
 地球生態系の一員として自分の立つ位置、そして現在の世界のなかで自分の立つ位置について考えを深める。
 従来の環境観から欠落していた「情報環境」「本来性」の枠組みを得て、その観点から環境問題を捉え直す。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 定期試験100%
 小レポートを課すことがありますが、レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。

事前・事後学習
 毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り復習する(90分)とともに、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい(90分)。

 前後して「文化論」(後期開講)とあわせて履修することで、より重層的な理解が得られるでしょう。

◆日本文化論
 ▼永井 博

◆日本文化論 ▼永井 博	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	ECF2003	前学期	選択

授業のねらい
 いわゆる「日本文化論」は、たとえばお茶やお能などの伝統芸能などを日本に独自の文化として論じる。しかし「日本」の「文化」はどのような文化なのかについて考えるのではなく、むしろ「文化」という概念のもとに何が語られているかを考えることの方がより大きな問題であると思われる。
 この講義では、いろいろな「日本文化論」を取り上げて、「日本」の「文化」がどのように語られ、どのような問題をかたちづくってきたかについて一緒に考えてみたい。

到達目標
 「文化」という概念が含む問題を自らの中にも根付いている自分の問題としてとらえ、それをどのように克服していくかについて考える糸口を見つけることができることを目標にする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習
 予習として、配布する日本文化論のテキストをよく読んでくること。(90分)
 復習として、講義の内容を踏まえて上記のテキストをさらによく読むとともに、それらの筆者の他の文章も自分で入手して読むこと。(90分)

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

授業計画
 第1講 ガイダンス／講義の概要
 第2講 基礎論 感覚で感じる環境
 第3講 基礎論 情報中毒と情報失調
 第4講 基礎論 熱帯雨林が人類のふるさと
 第5講 基礎論 生物-環境系の本来・適応・自己解体モデル
 第6講 基礎論 棲み分けと非棲み分け
 第7講 基礎論 文明化による情報環境の変容
 第8講 基礎論 ハイパーソニック・エフェクト
 第9講 有限環境 食糧と環境
 第10講 有限環境 環境破壊・環境汚染の源
 第11講 有限環境 山・森・里・川・海
 第12講 事例 人類の本来の生きかたを続ける狩猟採集民
 第13講 事例 豊かな情報環境をつくりだす文化
 第14講 事例 情報環境の視点を現代社会に活かす試み
 第15講 まとめ
 定期試験
 (内容・順序を必要に応じて変更します)

テキスト・教材 (参考文献含む)
 テキストはありません。
 (参考文献)
 大橋 力「情報環境学」朝倉書店(1989年)
 大橋 力「音と文明」岩波書店(2003年)
 大橋 力「ハイパーソニック・エフェクト」岩波書店(2017年)

担当者から一言
 学際的・総合的な講義内容になります。講義中に、参考とする映像・音楽の視聴を行います。
 この講義では単に知識を獲得することよりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。

授業の位置づけ
 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる

授業計画
 第1回 ガイダンス
 第2回 「文化」概念について
 第3回 「日本文化論」の問題点について
 第4回 ブルーノ・タウトの日本文化論 ① 「日本文化私観」
 第5回 ブルーノ・タウトの日本文化論 ② 「ニッポン」
 第6回 日本の食文化 お雑煮
 第7回 加藤周一<雑種文化論> ① その背景
 第8回 加藤周一<雑種文化論> ② その主張
 第9回 加藤周一<雑種文化論> ③ その特長と問題点
 第10回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ① その概要
 第11回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ② その問題点
 第12回 三島由紀夫「文化防衛論」 ① その特長
 第13回 三島由紀夫「文化防衛論」 ② 戦後の日本文化論
 第14回 坂口安吾「日本文化私観」 ① その内容
 第15回 坂口安吾「日本文化私観」 ② その思想的意味
 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
 プリントなどの資料を配布する。

担当者から一言
 日本の文化論がこれまでにそのような問題を構成してきたか、現在どのような問題をはらんでいるかについて一緒に考える時間にしたいと思っている。

出版文化論 稲葉年計	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	ECF2004	前学期	選択

授業のねらい
本授業では、出版文化の基本として、まずは現代日本の文学を見ていくこととなります。
時代時代の諸所の文学的な作品を通じて、人々と社会の関係の上で何が表現されているかを考えます。文学やサブカルを通じての現代社会の捉え方を学んでいきます。そうした現代の社会背景を把握した上で、現在の出版文化や出版メディアの位置づけを、小さな出版社をつくる実践例を見ることで理解します。文学と出版文化を通じて、現代の文化や社会の仕組みを考えます。

到達目標
全体性に留意しつつ、現代社会を考えることができること。
文学と経営を通じて、社会を深く把握すること。
また受講生徒数にもよるが、出来る限りディスカッションや受講生の発表報告を経ながら授業を行うことで、考える力や学ぶ力を養いたい。おそらく実際は、出席カードの裏に授業の感想や意見を書いてもらうことで、コミュニケーションをとっていくこととなる。よって、考え、意見する力を身に付けること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績評価は、授業への参加度50%、定期試験(レポート)50%による。レポート試験については、希望者は返却するなどの対応をします。

事前・事後学習
本や小説、映画等により時事的なニュースや社会に触れること。(180分)

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

- 授業計画**
1. ガイダンス
 2. 1960年代の文学の展開(松本清張)
 3. 1960年代の文学の展開(三島由紀夫)——全体性の喪失——
 4. 映画「美しい星」(三島由紀夫)
 5. 映画「美しい星」(三島由紀夫)
 6. 映画「春の雪」(三島由紀夫)
 7. 映画「春の雪」(三島由紀夫)
 8. 東浩紀『動物化するポストモダン』
 9. 東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生』
 10. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』
 11. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』
 12. 映画「ウォーターボーイズ」
 13. 福嶋亮大『神話が考える』
 14. 永江朗『小さな出版社のつくり方』
 15. 全講義のまとめ
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
(テキスト) 宇野常寛著「ゼロ年代の想像力」早川書房(2011年)定価:902円
(参考文献) 東浩紀著「ゲーム的リアリズムの誕生 動物化するポストモダン2」講談社(2007年)定価:880円

担当者から一言
授業内で、できる限りコミュニケーションが取れることを考えます。また留学生にもできる限り配慮したいと思います。

アジア文化論 加納 光	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	ECF2005	後学期	選択

授業のねらい
アジア地域・諸国の歴史・文化・社会を概観しながらアジアに対する認識を深め、アジアの特性について考えていきます。また、日本を含むアジア地域・諸国の諸事情を学びながら、アジア地域・諸国から日本社会が学ぶべき点についても考えてみたいと思います。
アジアに対する理解を深めるため、受講生自身がアジアに関する特定のテーマについて調べ、レポートにまとめて発表する機会も持ちたいと考えています。
アジアに対する理解を深めながら、アジア地域の特性を明らかにすることを、この授業のねらいとします。

到達目標
この授業では、社会・文化・宗教・言語など、さまざまな視点からアジア諸国に対する理解を深め、学生諸君が明確なアジア像をイメージできるようになることが、到達目的です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験60%、課題レポート40%をもとに、総合的に評価します。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習
毎回のテーマに関する内容を事前に調べ授業に臨んでください(90分)。授業後は、学習内容の理解を定着させるために再度しっかり復習してください(90分)。事前学習の内容については、毎回の授業終了時に連絡する予定です。

授業の位置づけ
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる

- 授業計画**
- 第1講:ガイダンス、講義の概要
 - 第2講:アジアとは何か
 - 第3講:アジアの地理学的な規定1
 - 第4講: 同上 2
 - 第5講:アジアの地域区分
 - 第6講:アジアの語源
 - 第7講:アジアの多様性
 - 第8講:民族の多様性
 - 第9講:言語の多様性 グループ発表①
 - 第10講:宗教の多様性1 グループ発表②
 - 第11講: 同上 2 グループ発表③
 - 第12講:中国近代史1
 - 第13講: 同上 2
 - 第14講: 同上 3
 - 第15講: 同上 4 まとめ
- 定期試験
注 進捗および授業内容はクラスの状況に応じて変更する場合があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
プリント教材(適宜教材を配布します)。

担当者から一言
日頃からアジア地域・諸国に関心をよせながら、その歴史・文化・社会に対する理解を深める取り組みをしていってください。なお、遅刻、中座、飲食、私語、携帯の使用は原則禁止します。積極的な授業参加を期待しています。

欧米文化論 山本 伸	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	ECF2006	後学期	選択

授業のねらい
本講義の狙いは、カリブ海地域の視点を軸にヨーロッパ世界の文化や哲学、宗教観などを批判的に紐解きながら、福沢諭吉の「脱亜入欧」論を基盤に構築された近代日本の歪みを浮き彫りにすることです。

到達目標
近代世界がヨーロッパ中心主義的な価値観のもとで構築されてきていることをまずは理解することが第一、そして、そのことを日本の我々自身が半ば無意識のうちに影響を受けて日常を過ごしていることを意識すること、それが大きな目標となります。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等）50%、レポート（期末試験）50%で総合的に判断します。なお、確認テストについては毎回授業の最後に行い、添削して翌週返却（受講者多数の場合はその限りではない）します。

事前・事後学習
前週に出された課題（テキストの熟読／わからない用語の検索等）に90分、学習した箇所の復習（前週の確認テストの誤答分析／テキストのおさらい／ノート整理等）に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。

文化論 a 前田 憲司	科目 ナンバリング	1年次	2単位
		前学期	選択

授業のねらい
文化とは人類がみずから手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体。それぞれの民族・地域・社会に固有の文化があり、学習によって伝習されるとともに、相互の交流によって発展してきました。文化の地域的特質を考えると、三重県と四日市市にもさまざまな文化的資源があります。その紹介を通じて、心豊かな社会生活を送るために、将来にわたって必ず役立つ基本的な教養と具体的な知識を身につけることを目的とします。さらには、自らの郷土が有する文化資産に対して再認識するきっかけづくりとし、地域社会に対する関心を高めることを目的とします。

到達目標
三重県および四日市市の多岐にわたる文化的特徴を学ぶことにより
1. この地域にある文化資源の概要が把握でき、特色が理解できる。
2. 自身の出身地に対してもどのような特色があるのか探究心を持つ。
3. 地域社会に対する関心が高まる。
4. 国の内外を問わず、地域外の人々がこの地域のどこに魅力を感じるのか客観的にわかる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回講義（1回目～15回目）ごとに提出させるミニレポート 35%
※1講義当たり0～2.5ポイントで評価し通算します。
試験（語句解説等と論述） 65%
以上を採点合計し、総合的に判断する。
なお、授業内容に関する質問は毎回提出するミニレポートに記入するものとし、質問に対する回答、レポート内容に誤りがある場合の指摘等は次の授業で行います。

事前・事後学習
日頃から新聞の地域面、タウン誌や広報などに目を通し、地域文化情報を察知する術を身につけておくこと（毎日30分程度）。授業資料を見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（30分）。機会があれば授業で取り上げた文化資源の所在地へ赴くこと。（最低1カ所）

授業の位置づけ
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる

授業計画
第1講 ガイダンス、導入「本講義で学べること」
第2講 カリブ海地域における異文化コミュニケーション
第3講 歴史と教育①
第4講 社会・人種・アイデンティティー①／アフリカ系とインド系
第5講 社会・人種・アイデンティティー②／インド系内比較
第6講 社会・人種・アイデンティティー③／中国系
第7講 台湾映画『セデック・バレ』（前半）
第8講 台湾映画『セデック・バレ』（後半）
第9講 文化とコミュニティー／カーニバルと精神文化
第10講 文化と宗教
第11講 クレオリズムとグローカリズム①／ハイチのクレオリズム
第12講 クレオリズムとグローカリズム②／ジャマイカのグローカリズム
第13講 平和
第14講 カリブ文学研究の現代的意義
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
山本 伸著 「カリブ文学研究入門」（世界思想社）2005年 定価：1,500円（税込）

担当者から一言
カリブ（およびアジア）の視点を通しての欧米文化について広く学ぶことになるので、これら三地域への関心を高め、さまざまなメディアツールを利用してバーチャルに異文化体験をしておくことが望まれます。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。

授業計画
1. ガイダンス
2. 文化とは
3. 三重が誇れるもの（「三重」の知名度は低いが誇れるものがいっぱい）
4. 伊勢神宮
5. 熊野古道（世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」）
6. 海女の習俗
7. 街道と交通（東海道を中心に）
8. 伝統工芸（松阪木綿・伊勢型紙・日永うちわ・鈴鹿墨・伊勢根付など）
9. スポーツ文化と伝統芸能
10. 食文化
11. 三重の人々
12. 三重のまつり（世界遺産「山・鉾・屋台行事」から）
13. 四日市が誇れるもの（四日市の日本一・近代産業遺産と夜景など）
14. 地域文化資源の活用（三重国体開会式典のとりまとめを例に）
15. 振り返り
※ 試験

テキスト・教材（参考文献含む）
参考図書 ・「新視点 三重県の歴史」（山川出版社）
・「続発見 三重の歴史」（新人物往来社）
・「伊勢神宮とはなにか」（集英社新書）
・「目で見る 鳥羽・志摩の海女」（海の博物館）
授業内容に応じて参考図書を紹介を行います。

担当者から一言
2021年に開催される三重とこわか国体の式典専門委員長を務めるなど、地域文化をもとにした事業企画や、メディア取材など、さまざま経験から得た、三重県や四日市市の文化的特長について、画像や映像を紹介しながら講義します。いわば「雑学」を得る感覚で受講してください。

健康科学 萩 典子・後藤由紀・伊藤 薫	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位	授業の位置づけ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
		後学期	選 択	
授業のねらい この講義では人間の健康に影響を及ぼす生活習慣や人間関係、ストレス対処等の傾向を理解することをめざします。健康は一日にして成るものではなく、毎日の積み重ねにより築かれます。自己の生活を振り返り、健康とは何かを考え、自分自身の生活につなげてもらいたいと考えています。		授業計画 1 ガイダンス 健康とは(萩) 2 人間の発達と健康(萩) 3 メンタルヘルス不調(萩) 4 人間関係と健康(萩) 5 生活習慣と健康① 食生活と健康(後藤) 6 生活習慣と健康② 運動と健康(後藤) 7 生活習慣と健康③ 睡眠と健康(後藤) 8 生活習慣と健康④ たばこ・アルコール(後藤) 9 セルフマネジメント① 怒りのコントロール(後藤) 10 セルフマネジメント② リラクゼーション(伊藤) 11 セルフマネジメント③ リラクゼーション(伊藤) 12 セルフマネジメント④ ストレス対処(伊藤) 13 セルフマネジメント⑤ 首尾一貫感覚(伊藤) 14 自分自身と健康(萩) 15 まとめ(萩)		
到達目標 人間のこころとからだの健康に関する基本知識を理解すると共に、自己の日常生活に生かし、健康の維持増進につなげる。		テキスト・教材(参考文献含む) プリントを配布します		
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 受講態度(20%) レポート(80%) 講義中、講義後に質問を受けつけ、タイムリーにコメントをフィードバックし、内容によっては次回講義で説明を追加する。		担当者から一言 人間の健康を生活していくうえで重要な要素となります。これからの人生を自分らしく豊かに生きていくための資源としてぜひ活用して下さい。		
事前・事後学習 書籍やインターネットなどで健康に関連する情報を得る(毎週2時間程度) 配布されたプリントを読み返し、学んだことを整理し、自分自身の生活に取り入れる目標を決め実践する(30分以上)				